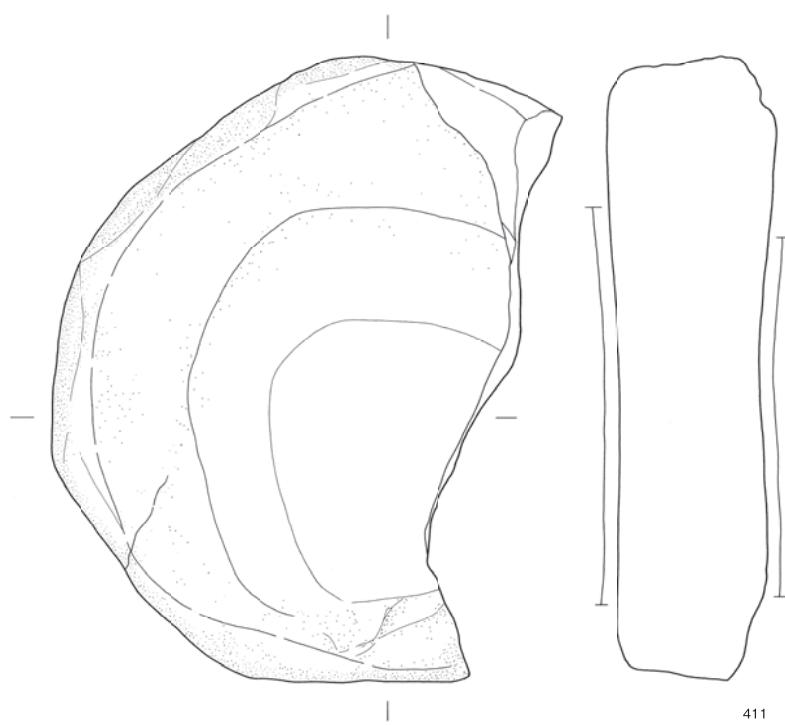
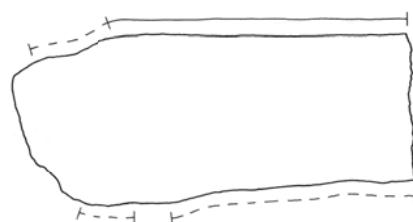
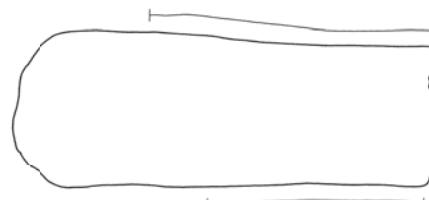


410



411



0 (1 : 4) 10cm

第73図 遺構外出土石器⑨



第74図 遺構外出土石器⑩

## 2 弥生時代・古墳時代の調査（第75図）

本遺跡では、弥生時代・古墳時代の遺構は検出されなかった。しかし、包含層及び表土から少數の土器が出土したため、小破片も含めて16点の報告を行う。

### (1) 壺 (415～422)

415は黒髪I式土器である。内外面に横ナデが施されている。口縁部は厚みがあり、上方に傾き口縁部内面が張り出している。張り出しがやや強いことから、黒髪I式土器の新段階である。口縁部外面には煤が付着している。

416は黒髪II式土器の丹塗土器である。外面は横ナデを施した後に丹が塗られている。内面は丹塗磨研である。内面は外面に比べ、厚く丹が塗られており、丁寧に磨かれている。

417は須久I式土器である。内外面に横ナデが施されている。口縁部の断面は方形に近く、上方へ弱く傾いている。口縁部外面には煤が付着している。

418は入来II式土器である。口縁部が下方へ垂れてい。口縁部にミガキが施されている。419は入来II式土器である。外面はハケ目が施されている。内面及び底面にはナデが施されている。底部はわずかに上げ底の中実脚台である。外面に薄く煤が付着しており、内面に薄くコゲが付着している。

420は型式不明である。弥生時代後期から古墳時代前半のものと考えられる。外面はナデが施されている。内面は、底が平坦である。底から胴部に移行する部分に変換点がある。工具によって、平滑に成形されており、丁寧にナデが施されている。高台部は大きく開いている。内面は丁寧にナデが施されている。上下が逆の可能性がある。

421は中津野式土器である。外面はナデ後に縦方向のハケ目が施されている。内面はナデが施されている。脚部内面はナデが施されている。脚部はやや外反しながら開く小さなもので、端部は外を向き丸くおさまっている。脚部内面の天井部は丸くなっている。脚部が小さいことから、小型の壺と考えられる。

422は型式不明の丹塗土器である。外面は丹が塗られており、横方向のミガキが施されている。断面方形の突帯が施されている。

### (2) 壺 (423～426)

423は黒髪II式土器である。外面には口縁部から頸部にかけて、ミガキ具による1セット4条の暗文が、等間隔に施されている。暗文の上から縦方向にハケ目が施されており、頸部にハケ目板の端部痕が残っている。最後に全体にナデを施すことでハケ目を磨り消している。内面には分割ミガキが施されている。横方向に3cm程度

の幅のミガキを上から下まで施し、下までミガキを施したら、右に同じようにミガキを繰り返し施している。

424・425は型式不明だが、弥生時代後期の土器と考えられる。外面全体に不規則なハケ目が施されており、胴部下半には成形に使用した工具板による縦方向の擦過痕が残っている。突帯部は貼り付け突帯である。貼り付けた後に、横ナデが施されているが、突帯下部に継ぎ目が観察できる。突帯は先端がやや丸みを帯びた断面三角形の突帯に刻目が施されている。425は、外面全面に不規則なハケ目が施されている。突帯部は貼り付け突帯である。突帯下部の貼り付け部分には、上から粘土を塗って突帯と胴部との貼り付け痕を隠している。突帯は先端がやや丸みを帯びた断面三角形の突帯に刻目が施されている。424と425は良く似た胎土である。

426は中津野式土器である。外面には全面に不規則なハケ目が施されている。内面には丁寧なナデが施されている。

### (3) 高坏 (427～430)

427は型式不明の丹塗土器である。内外面全体に丹塗りされているが、内面から口縁部外面にかけては厚く、口縁以外の外面は薄い。口縁部の下に断面三角形の二条突帯が施されている。突帯は貼り付けによって作られている。突帯上部は、丁寧なナデによる調整が施されている。突帯下部は、粗いナデが施されており、貼り付けの痕跡が観察できる。突帯の下には縦方向のハケ目による調整が施されているが、その後にケズリによって成形されている。

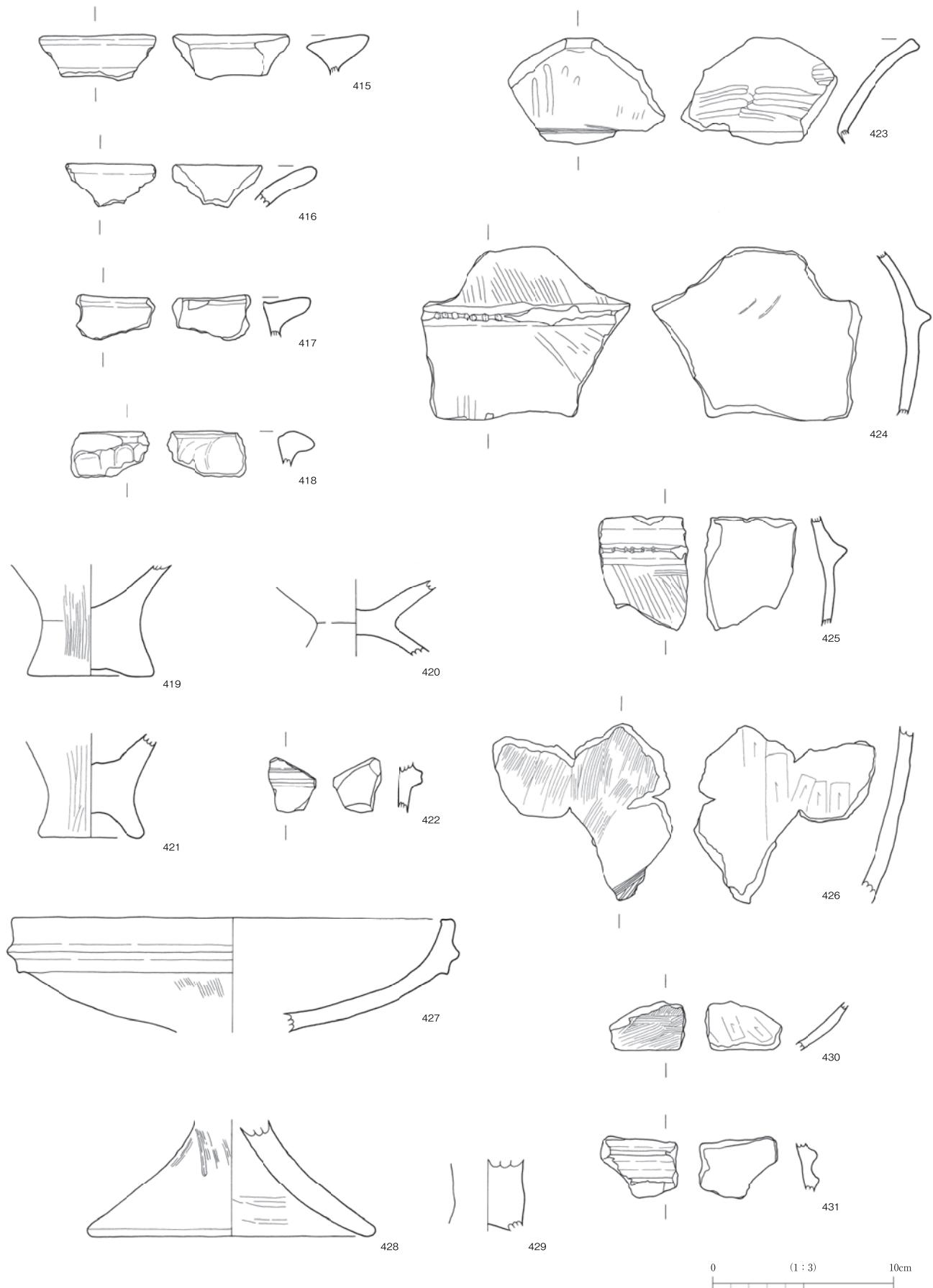
428は型式不明の丹塗土器である。外面は薄い丹塗りの後にハケ目を施し、最後にミガキが施されている。内面は工具による成形を行った後にナデが施されている。427と428は良く似た胎土である。

429は型式不明である。脚中部であると考えられるが、器壁が摩滅しており、坏部と脚部が残存していないため、詳細は不明である。

430は中津野式土器である。外面は全面に不規則なハケ目が施されている。内面は、丁寧にナデが施されている。坏部の形態は、途中で屈折し外反するものである。

### (4) 器種不明 (431)

431は黒髪II式土器の丹塗土器である。器種は不明である。外面は丹塗磨研が施されている。内面は、ナデが施されている。



第75図 弥生時代・古墳時代遺物

### 3 古代の調査

#### (1) 調査の概要 (第76図)

古代の調査はJ～L-18～20区、P・Q-31～34区の2地点で行った。

**J～L-18～20区** J～L-18～20区は、一部にⅢ層の残存が確認されたが、宅地造成や畠地としての利用の際に、大部分がIV層上面まで掘削を受けた状況であった。したがって、遺構は表土直下のIV層上面で検出されたが、当時の生活面より下層での検出と判断される。

J～L-18～20区では、土坑6基と掘立柱建物跡1棟、柱穴群が検出された。検出状況から、土坑が掘立柱建物跡及び柱穴群に切られることが確認された。

そこで、遺構の検出状況の記録写真を撮影した後、まず掘立柱建物跡と柱穴群の調査を行った。掘立柱建物跡を構成する柱穴は軸をそろえて半截し、柱痕跡の確認を行った。それ以外の柱穴は、調査期間の都合で、検出後に直ちに完掘した。

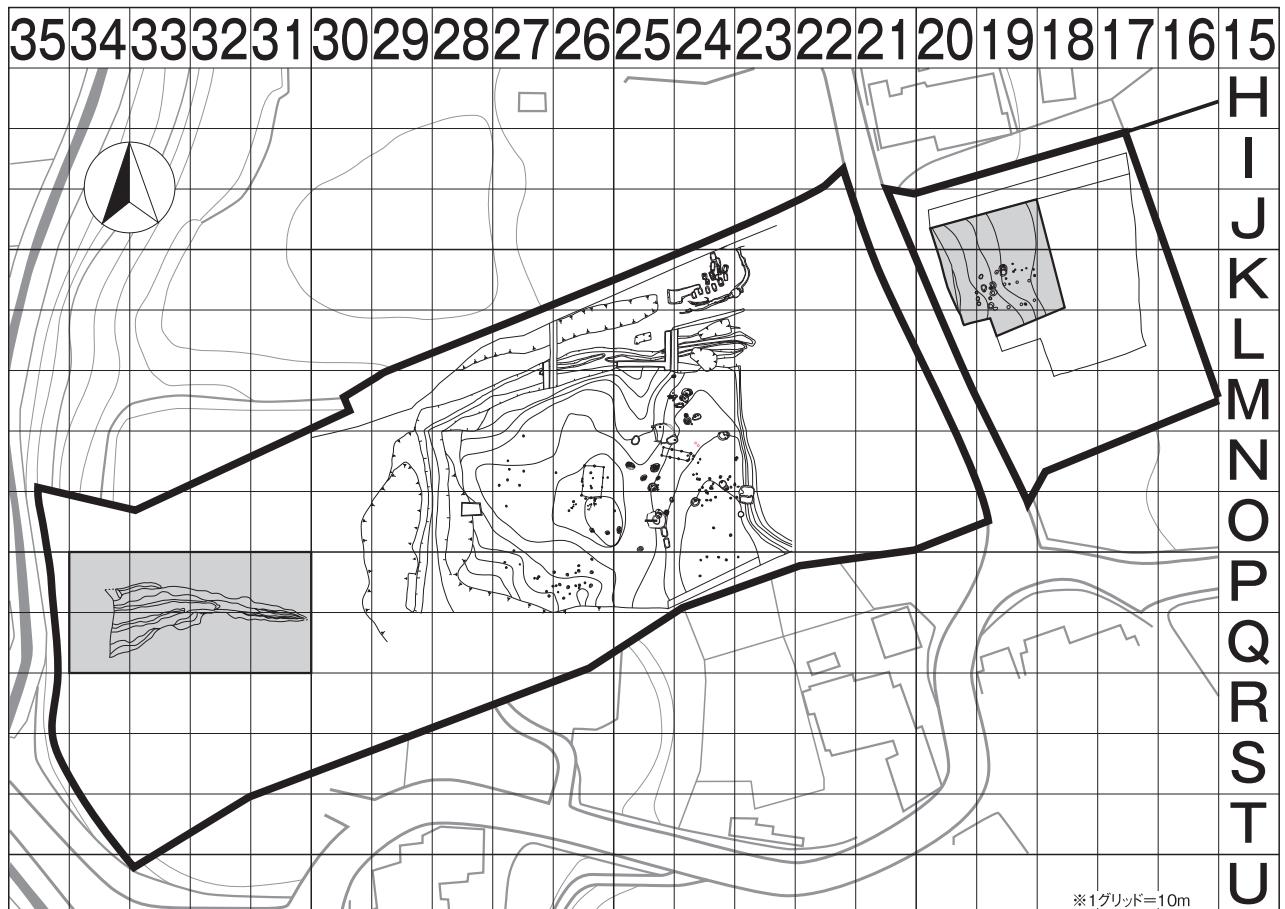
土坑は長軸に沿って半截し、土層堆積状況の観察を行い、必要な記録を作成した後、完掘した。床面の判断は、埋土堆積状況の変化や、炭化物の堆積、硬化面等の把握に依った。

遺物の取り上げは、土器・陶磁器類の小破片について

は、掘り下げ時にグリッドごとに一括で取り上げた。大型の破片については遺構検出後に、遺物出土状況を観察し、遺構に関係の無いと判断されるものについてはグリッドごとに一括で取り上げを行った。遺構に関係すると判断された遺物については、遺構内出土遺物と同様の取扱いをした。

**P・Q-31～34区** P・Q-31～34区はシラス(Ⅷ層)まで掘削を受けていた。さらに、表土は造成により堅く叩きしめられている状況であった。しかし、表土中から、古代から中世にかけての遺物が豊富に出土し、またトレンチ調査の際に、溝状遺構の可能性が想定される黒褐色土の堆積が確認された。そこで、調査区全面の表土を除去し、遺構の検出を試みた。その結果、東西に延びる溝状遺構(SD38)が検出された。

SD38の調査は、平面プランの検出と同時に南北方向のトレンチを2か所設定し、埋土堆積状況の確認を行った。その結果、上半には近年の造成の影響が及んでいることが確認されたが、埋土の下半に古代から中世の層堆積が良好な状態で残存していることが確認された。そこで、上半については重機を用いて掘り下げを行った。その後、人力により中世に該当する面での平面プランの検出を行い、そこで検出状況の記録写真を撮影した。



第76図 古代の調査範囲（アミの範囲）

埋土下半について、人力による分層発掘を行った。SD38 の埋土中から出土した遺物は、各層ごとにグリッド一括で取り上げを行ったが、床面付近の遺物については、トータルステーションを用いて出土地点を記録しながら取り上げた。

SD38 の遺物出土状況や埋土の堆積状況等から判断して、M・T - 30 ~ 34 区において旧地形からの大幅な改変があったことは確実であり、古代の遺構は、調査区西侧の全体に拡がっていた可能性が高い。

なお、縄文時代と中世の遺構が検出された M・P - 23 ~ 28 区からは、古代の遺構は検出されなかった。

## (2) 土師器の分類

外島遺跡では、SD38 の下層を中心に古代の遺物が豊富に出土した。中でも土師器の壺・塊の出土量が多く、それらとともに土師器の皿や甕、内黒土師器、須恵器などが出土した。そこで、底部外面の切り離し技法がヘラ切りのものを対象として、土師器の壺・塊・皿を第 77・78 図のとおり分類した。

内黒土師器は出土量が少なく、さらに大半が小破片であり器種・器形を判断できるものが少ない。よって、器種・器形の判断できるものについては土師器壺及び土師器塊の分類に準じる。

### ア 土師器壺（第 77 図）

法量及び器形、調整技法から 6 類に分類した。器形では底部の形状と体部から口縁部の形態に、調整技法では底部外面から体部下端の調整に特に注目した。

### イ 土師器塊（第 78 図）

高台のあるものを塊とした。法量及び器形、調整技法から 8 類に分類した。特に高台の形状と高さに注目した。

### ウ 土師器皿（第 77 図）

出土量は少ない。法量及び器形、調整技法から 4 類に分類した。

## (3) 遺構

### ア 土坑（第 79 図）

土坑は 6 基検出された。6 基は密集して分布していて、全て K - 19 区の IV 層上面で検出された。また、掘立柱建物跡（SB67）及び柱穴群と分布が重複しており、SK73 の一部は掘立柱建物跡の柱穴（SB67 - P1）に切られることから、土坑群が古く、SB67 及び柱穴群が新しいと判断できる。

### SK68（第 80 図）

**検出状況** SK68 は、SK77 の北に位置し、SK77 と一部

を切り合った状況で検出された。平面プランの検出状況と埋土の堆積状況から、SK68 が SK77 に切られていることが判断された。

**形状・規模** 想定される平面形は歪んだ円形で、規模は残存している箇所で約 130cm である。断面形は段掘り状になっていて、底面の中央付近が約 10cm 深くなる。検出面からの深さは 45cm である。

**埋土** 埋土は 4 層に分層した。埋土にアカホヤやシラスのブロックが含まれる。床面中央の一段深くなった箇所には、黒褐色で炭化物や焼土塊を含んだ埋土 4 が堆積していた。

**遺物** 遺物は土師器片 84 点、須恵器片 14 点が出土した。うち 10 点を図化した。

**土師器** 432 ~ 434 は壺もしくは塊である。432・433 は、体部が開き、口唇部は先細りする。体部外面下半に回転ヘラケズリの痕跡を明瞭に残す。体部内面はナデが施される。胎土は浅黄色を呈する。434 は、体部の外傾がきつい。体部の内外面にはナデが施される。胎土は浅黄橙色を呈する。435 は塊の底部である。底部の中央を非常に薄く仕上げる。

436 は内黒土師器の塊である。内面には非常に丁寧なミガキが施されていて光沢がある。外面には回転ナデの痕跡を残す。

437 は甕である。土坑の床面で検出された。胴部は薄く、口縁部は真っ直ぐに開きながら立ち上がる。外面は、底部から下半にはハケ目が施される。上半から口縁部は摩滅しているが、一部に横方向のハケ目を観察できる。内面は、底部付近はナデ、胴部は左上方向のケズリが施されるが、胴部上半はミガキ様のナデによりケズリの痕跡が消される。口縁内面はハケ目が施される。

**須恵器** 438 ~ 441 は須恵器である。438 は甕の頸部である。外面は格子目タタキによって成形されている。内面は、頸部付近に横ナデが施されており、胴部には青海波の当具痕が残る。439・441 は甕の胴部である。外面には格子目タタキ痕が、内面には青海波の当具痕が観察される。440 は甕の胴部である。外面には格子目タタキ痕が、内面には平行の当具痕がみられる。

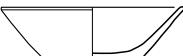
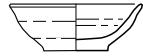
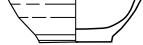
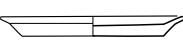
### SK70（第 81 図）

**検出状況** SK70 は、6 基の中で最も南で検出された。

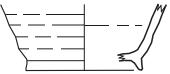
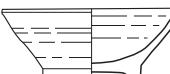
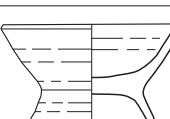
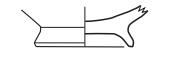
**形状・規模** 平面の形状は橢円形で、規模は長軸 111cm、短軸 90cm である。断面形は、床面はほぼ平坦で、壁面は開き気味に立ち上がる。検出面からの深さは 50cm である。

**埋土** 埋土は 3 層に分層した。埋土 1 と 3 には微細な炭化物が多く含まれる。

**遺物** 遺物は、土師器片 26 点、須恵器片 2 点、鉄製品 1 点が出土した。うち 4 点を図化した。

坏1類		<p><b>法量</b> 口径 12.5 ~ 14.2cm, 底径 5.0 ~ 7.3cm, 高さ 3.9 ~ 4.3cm  <b>器形</b> 底部は平坦で、底部から体部は内外面に稜をもって立ち上がる。体部は直線的で外傾する。  <b>調整</b> 内外面全体に丁寧なナデが施され、器面に凹凸はほとんど残らないが、外面下端に回転ヘラケズリの痕跡を残すものもある。底部外面は切り離し後にナデを施すが、ヘラ切りの痕跡が残る。</p>
坏2類		<p><b>法量</b> 口径 10.4 ~ 14.4cm, 底径 5.2 ~ 7.4cm, 高さ 3.3 ~ 3.9cm  <b>器形</b> 体部はやや丸味を帯び、口縁はわずかに外反する。器壁が厚めで、口唇部は丸味を帯びる。  <b>調整</b> 内外面に横ナデもしくは回転ナデを施し、外面には凹凸が残る。底部外面にもナデが施されるが、切り離しの痕跡が残るものが多い。見込みを押圧することで底部が薄くなるものが多い。</p>
坏3類		<p><b>法量</b> 口径 9.6 ~ 11.2, 底径 4.4 ~ 6.4, 高さ 3.5 ~ 4.7cm の高いものと、2.4 ~ 3.3cm の低いものがある。  <b>器形</b> 底部がやや厚みを持ち、円盤状を呈するものもある。体部はやや丸味を帯びるが、2類に比べ直線的である。器壁は2類と比較して薄手で、口唇部は先細りする。  <b>調整</b> 内外面に横ナデもしくは回転ナデを施し、外面に凹凸がわずかに残る。大部分のものが、底部外面の切り離し後に雑なナデが施される。</p>
坏4類		<p><b>法量</b> 口径 10.4 ~ 12.6cm, 底径 5.8 ~ 6.8cm, 高さ 3.8 ~ 5.1cm で、法量にはばらつきがある。  <b>器形</b> 円柱状の底部を持ついわゆる「充実高台」である。体部はやや内湾気味に立ち上がり、丸味を帯びる。高台下端が垂直のものと、やや開くものがある。  <b>調整</b> 内外面に回転ナデが施される。底部外面は切り離し後に丁寧なナデが施される。切り離しによって生じた余分な粘土をきれいにナデ消すものと、放置するものがある。</p>
坏5類		<p><b>法量</b> 口径 8.8 ~ 11.2cm, 底径 5.4 ~ 7.0cm, 高さ 3.7 ~ 5.1cm で、口径に対して器高が高い。  <b>器形</b> 外観は充実高台のように見えるが、底部を薄く仕上げるため円柱状の底部にはならない。体部は直線的で、わずかに内湾するものも存在する。  <b>調整</b> 内外面に回転ナデを施す。特に見込みに強いナデが施されるため、見込みは水平な面を持たず、底部は薄くなる。底部外面は切り離し後に丁寧なナデが施される。</p>
坏6類		<p><b>法量</b> 底径 5.4 ~ 7.0cm  <b>器形</b> 全体の器形がわかるものは無い。見込みに押圧と強いナデが施され、水平な面に仕上げられる。  <b>調整</b> 見込みのナデは強く、指頭の痕跡が残る。底部外面は、底部切り離し後にナデが施され、ヘラ切りの痕跡はあまり残らない。外面下端に、粘土が付着するものもある。焼成が良好で、硬質なものが多い。</p>
皿1類		<p><b>法量</b> 口径 12.9 ~ 14.6cm, 底径 9.0 ~ 11.0cm, 高さ 1.5cm  <b>器形</b> 器高が低く、底部は水平で大きい。底部から体部は稜をもって立ち上がり、口縁部は外反する。  <b>調整</b> 内外面にナデを施す。内面の底部から体部へ変化する箇所に強めのナデ施され、浅い凹みが作られる。底部外面は切り離し後に丁寧にナデを施す。</p>
皿2類		<p><b>法量</b> 口径 11.0cm, 底径 6.8cm, 高さ 3.3cm, 高台高 1.1cm  <b>器形</b> ハの字状に開く高台を持つ。体部は皿2類よりも外傾が弱い。  <b>調整</b> 内外面の全体に丁寧なナデが施される。</p>
皿3類		<p><b>法量</b> 口径 10.9 ~ 11.8cm, 底径 5.3 ~ 6.0cm, 高さ 2.5 ~ 2.8cm  <b>器形</b> 円柱状の高台を持つ。体部は直線的で、器壁が厚く口唇部は丸味を帯びる。  <b>調整</b> 内外面に横ナデが施される。底部外面は切り離し後にナデが施される高台外面下端は、切り離し時に生じた余分な粘土が付着する。</p>
皿4類		<p><b>法量</b> 口径 10.8cm, 底径 5.6 ~ 5.8cm, 高さ 2.5cm  <b>器形</b> 厚手の底部を持ち、口縁部付近がやや内湾する。坏3類を浅くしたような器形である。  <b>調整</b> 内外面にナデが施される。底部外面の切り離し後には雑なナデが施される。</p>

第77図 古代土師器 坯・皿 分類

塊1類		<b>法量</b> 底径 7.9~10.0cm, 高台高 0.7~0.8cm <b>器形</b> 高台は低く、端部は角張る。底部は水平で、体部はわずかに外傾し、箱形になる。 <b>須恵器の模倣品である。</b> <b>調整</b> 内外面に回転ナデが施され、外面には凹凸が明瞭に残る。内外面に赤色顔料が塗布される。
塊2類		<b>法量</b> 口径 11.8~14.2cm, 底径 6.0~8.4cm, 高さ 5.6~6.7cm, 高台高 0.4~1.1cm <b>器形</b> 高台は低く、端部は角張る。底部は水平で、高台内面と高台の境界には稜がつく。 <b>体部は1類よりも外傾する。</b> <b>調整</b> 内外面に回転ナデが施され、外面には回転ナデによる凹凸が明瞭に残る。
塊3類		<b>法量</b> 口径 12.4 ~ 14.0cm, 底径 6.5 ~ 8.7cm, 高さ 4.4 ~ 5.3cm, 高台高 0.8 ~ 1.5cm。 <b>器形</b> 高台はハの字状に開き、端部は丸味を帯びる。体部はわずかに内湾する。 <b>調整</b> 胎土中に 1 ~ 2 mm 程度の砂粒を含むものが多く、内外面にナデを施されるが、砂粒の移動の痕跡が明瞭に残る。
塊4類		<b>法量</b> 底径 6.2 ~ 8.6cm, 高台高 1.0 ~ 1.8cm <b>器形</b> 高台内面は水平な面となり、稜をもって高台となる。高台はほとんど開かず、高台端部は平坦に作り出される。 <b>調整</b> 内外面にナデが施される。見込みに押圧と強いナデが施されるものがある。胎土に砂粒を含む。
塊5類	 	<b>法量</b> 口径 13.0 ~ 15.2cm, 底径 5.5 ~ 9.8cm, 高さ 6.7 ~ 7.6cm, 高台高 1.1 ~ 2.2cm 。 <b>器形</b> 高台が高く、ハの字状に開く。Aの高台端部は平坦になるが、Bの高台端部は丸味を帯びる。 <b>体部はわずかに内湾する。口縁部がわずかに外反するものもある。高台内面と高台の境界が不明瞭なものが多いが、A類には高台内面を水平にし、高台との境界に稜を持つものもある。</b> <b>調整</b> 内外面に横ナデを施す。高台内面から高台外面には丁寧なナデが施される。体部外面の下端から口縁のナデは雑で、高台の接合痕を残すものが多い。体部から口縁部よりも高台付近に丁寧な調整が施される資料が多い。
塊6類		<b>法量</b> 底径 6.2 ~ 7.6cm, 高台高 1.0 ~ 1.1cm <b>器形</b> 高台は低く、塊3類よりも開く。体部の立ち上がりは開く。 <b>調整</b> 内外面の体部に回転ナデが施される。見込みにはナデが施されるが雑である。高台貼り付け後に、粘土の接合痕は丁寧にナデ消されるが、底外面の切り離し痕は未調整で痕跡を明瞭に残す。
塊7類		<b>法量</b> 口径 14.6cm, 底径 8.0cm, 高さ 5.2cm, 高台高 1.0cm <b>器形</b> 高台はハの字状に開き、薄手で端部は先細りする。体部の立ち上がりは開らく。 <b>全体的に器形が歪む。</b> <b>調整</b> 見込みには指頭による成形時の凹凸が明瞭に残る。内外面にナデを施すが雑であり、ケズリによる凹凸が残る。
塊8類		<b>法量</b> 不明 <b>器形</b> 全体の器形は不明である。 <b>調整</b> 高台を貼り付けた後に、高台内面と高台の境界に、何らかの工具で刺突を行う。

第 78 図 古代土師器 塊 分類

**鉄製品** 442 は鉄製の刀子である。埋土 2 から 4 片に分かれた状態で出土した。長さ 13.6cm, 厚さ 3.7mm である。断面形は、刃部は二等辺三角形状で、基部は長方形状になる。基部の一部には木片が付着している。

**土師器** 443 は甕である。検出時に一部が露出していたが、出土状況の観察から、埋土 2 に覆われていたと想定される。胎土はぶい黄橙色を呈する。胴部がやや張り出し丸みを持ち、口縁部は開く。器壁は薄く仕上げられる。胴部外面の下半にタタキの痕跡を明瞭に残す。胴部上半から口縁部内面にかけては、横方向のハケ目の後に、

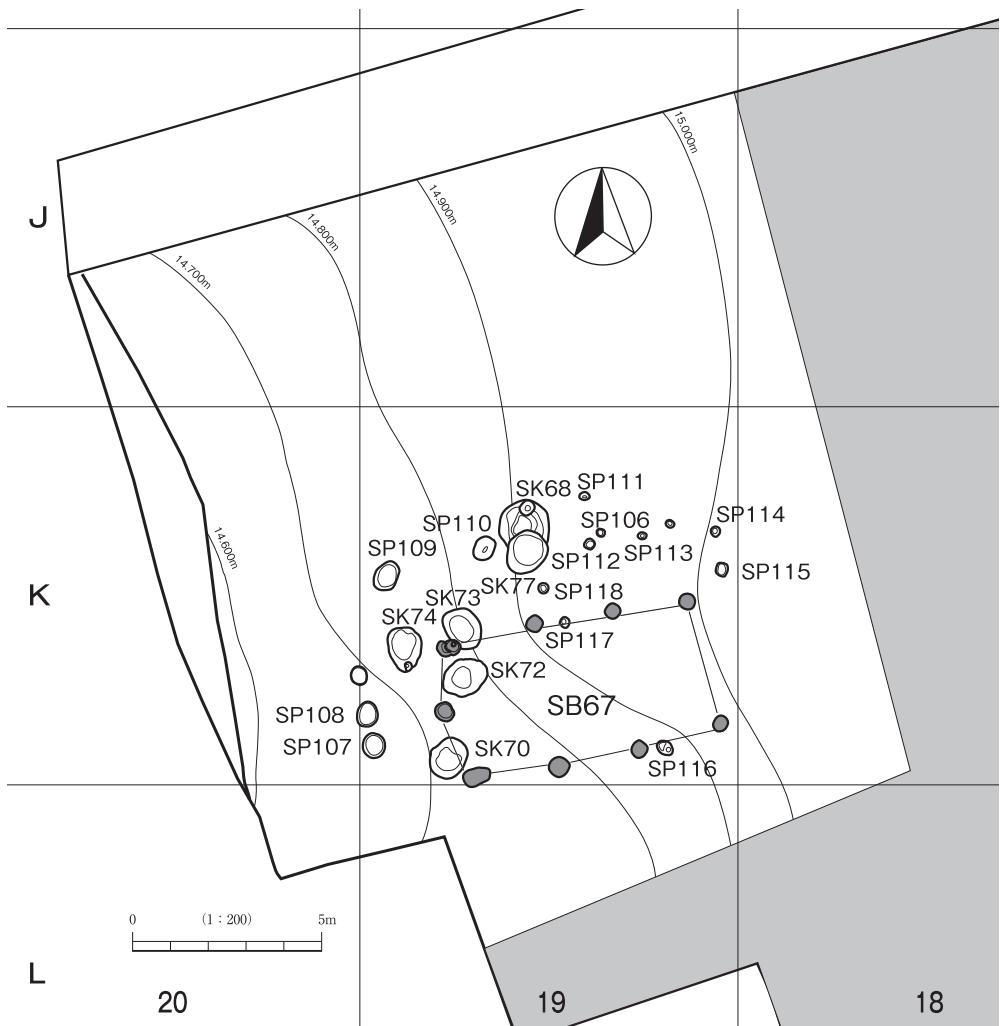
丁寧なナデが施される。胴部内面は、左上方向のケズリが施された後に、ミガキ様のナデが施される。

**須恵器** 444 は壺の胴部である。外面にナデが施される。445 は甕の胴部である。外面には格子目タタキ痕があり、内面には青海波の当具痕が残る。

#### SK72 (第 82・83 図)

**検出状況** SK72 は SK73 の南側で検出された。

**形状・規模** 平面形は橢円形で、規模は長軸 126cm, 短軸 95cm, 検出面からの深さは 61cm である。



第79図 古代の遺構配置図 (J ~ L - 18 ~ 20 区)

**埋土** 埋土は7層に分層した。土坑下部に堆積している埋土6・7には炭化物・炭化材・焼土塊が含まれる。土師器甕(455)は、埋土4まで埋め戻された後に、埋土3が堆積している部分が掘り込まれ、正位置で据えられたと考えられる。なお、455内の埋土は、黒褐色土で炭化物と焼土塊を含んでいた。

**遺物** 遺物は、土師器76点、須恵器6点、陶磁器類3点、青銅製品4点が出土した。土師器9点、須恵器1点を図化し、青銅製品の写真を掲載した。また、一部に植物による搅乱が入るため、中世の遺物が混入していた。

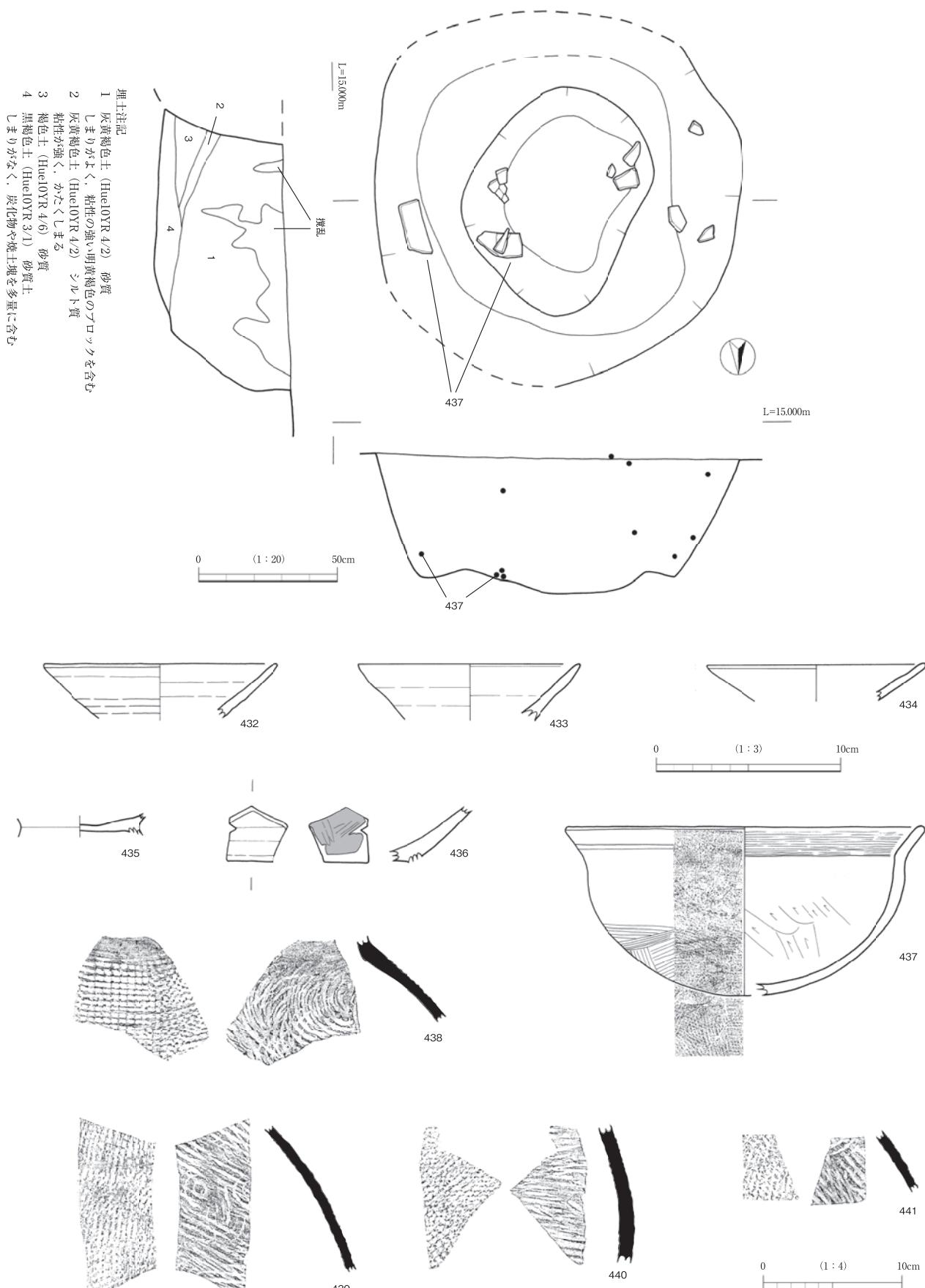
**土師器** 446～451は土師器である。446は墨書土器である。器種は不明である。447は碗である。体部は真っ直ぐに立ち上がり、口縁はやや外反する。448は碗で、体部の内外面に煤が付着している。450は碗の底部である。高台は低く、ややひらく。底部は薄く仕上げられる。体部は箱形になると思われる。碗1類に該当する。451は碗の底部である。底部は薄く、体部は外傾する。底部外面には、ヘラによる切り離し後にナデを施す。碗2類

に該当する。

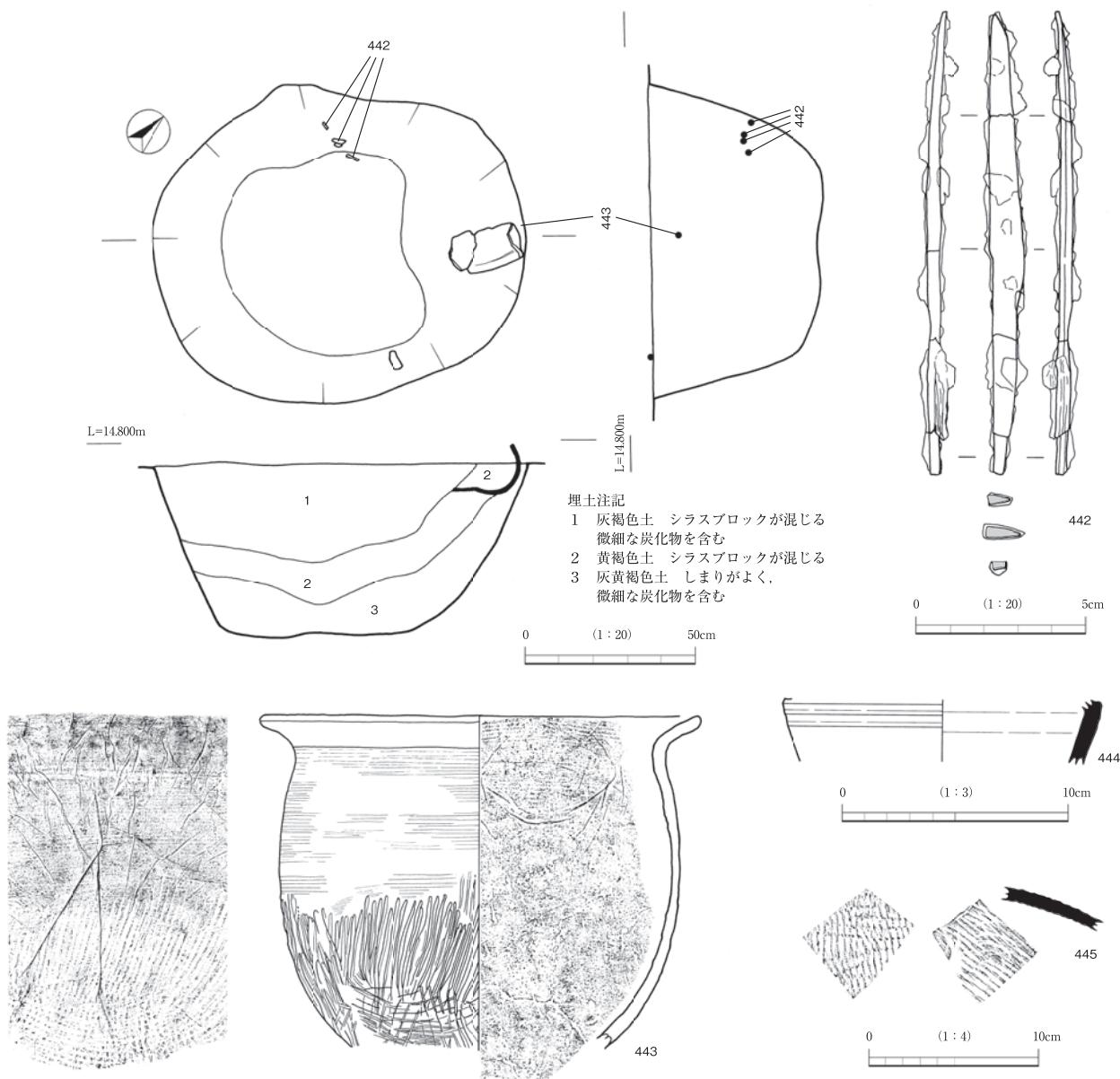
455は完形品の土師器の甕である。土坑内に正位置で据えられていた。体部は長胴で、体部上半がわずかに張り出す。口縁は短く、開く。外面の底部から胴部下半にはタタキ痕を明瞭に残し、上半から口縁にかけては横方向のハケ目調整の後に、丁寧なナデが施される。内面は、底部から口縁まで左上方向のケズリが施され、さらに上半にはミガキ様のナデが施される。口縁は横方向のハケ目調整が施され、一部にはナデも施される。

**須恵器** 454は二重口縁壺の口縁部である。器面全体に丁寧なナデが施されている。胎土は良質で、焼成も特に良好である。

**青銅製品** 456～458は青銅製の製品である。劣化しているため、図化することはできなかった。製品には全て銀の付着が確認された。456は長さ約8mm程度で、「へ」の字状に湾曲する。458はもともと一つであったが、劣化により破損した。458aは長さ約2.3cmで、458bは長さ約1.2cmで、「コ」の字状に曲がる。



第 80 図 SK68・出土遺物



第81図 SK70・出土遺物

### SK73(第84図)

**検出状況** SK73はSK72の北側、SK74の東側で検出された。南側の一部をSB67-P1に切られる。

**形状・規模** 平面形は楕円形で、長軸119cm、短軸90cmである。断面形は、床面はほぼ平坦で、壁面は開き気味に立ち上がる。検出面からの深さは33cmである。

**埋土** 埋土は、5層に分層した。明褐色土を基本として、床面付近の埋土4は微細な炭化物を含む。

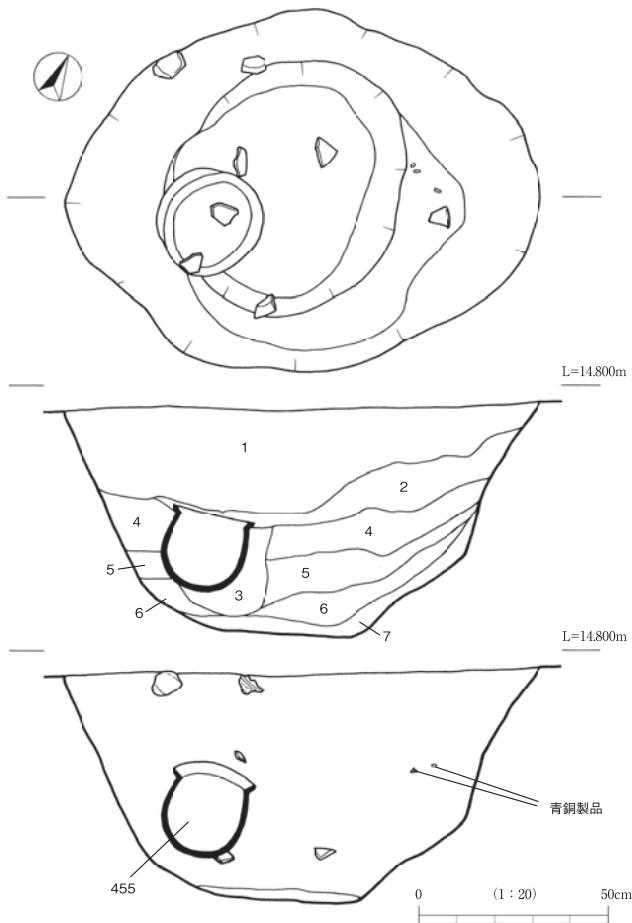
**遺物** 遺物は土師器片44点、須恵器6点が出土した。古代の土坑でこのSK73のみが大型の土師器の甕を伴わない。12点を図化した。

**内黒土師器** 459・460は内黒土師器の甕である。459は、高台は外れているが、ほぼ完形品である。高台の外れた箇所は、特に摩滅が著しい。体部は直線的でやや外傾す

る。内面にはミガキが施されるが、胴部は縦方向で、口縁部付近は横方向である。内面は摩滅しているが、光沢を残す部分もある。床面外面は、ヘラ切り後にナデが施されるが、雑である。器形は土師器甕2類に相当する。460は、器壁がやや厚い。内面には丁寧なミガキが施され、光沢がある。

**土師器** 461は、壊である。破片のため詳細は不明だが、内面は灰色を呈し、ミガキが施される。

462・463は甕である。同一個体の可能性も想定されるが、個別に図化した。胎土はにぶい橙色を呈する。内面には回転台の利用による砂粒の移動の痕跡が残るが、ナデは丁寧である。胴部の一部に横方向のケズリが施され、段がつけられる。464は甕である。体部は直線的で、口縁部は外反する。内外面にナデの痕跡を明瞭に残す。



#### 埋土注記

- 1 オリーブ褐色土 (Hue2.5Y 4/3)  
やや粘質があり、暗灰黄色と黄褐色のブロックが混じる。炭化物を含む
- 2 粘性の強い暗褐色土 (Hue10YR 3/3) と  
黄褐色土 (Hue10YR 5/6) がブロック状に混じる
- 3 黒褐色土 (Hue10YR 2/2)  
1 ~ 3cm 程度の炭化物のブロックを多く含む
- 4 にぶい黄褐色土 (Hue10YR 4/3)
- 5 暗褐色土 (Hue10YR 3/4)
- 6 褐色土 (Hue10YR 4/6)  
1 ~ 5cm 程度の炭化材や、1 ~ 1.5cm 程度の焼土塊を多く含む
- 7 灰白色土 (Hue10YR 3/4)  
粘性の強いブロックが混じる。炭化物や焼土を含む

第82図 SK72

465は、土師器で器種不明である。胴部の外傾がきついことから、皿の可能性がある。

466は壊の底部である。底部切り離し後に雑なナデが施される。胴部外面下端に回転ヘラケズリの痕跡を残し、そのため胴部下端から体部への変化点に段がつく。内面にはナデが丁寧に施される。底部は薄い。

467・468は甕である。467は破片資料だが、上辺の一部に焼成後の穿孔がみられる。

**須恵器** 469・470は甕の胴部である。外面は格子目タタキである。内面は、平行の当具痕の上から丁寧にナデが施されている。

#### SK74 (第85図)

**検出状況** SK74はSK73の南側で検出された。土坑の南側を中世の柱穴に切られる。

**形状・規模** 平面形は、南側が突き出た歪んだ橢円形で、規模は長軸 115cm、短軸 88cm である。断面形は、床面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは 35cm である。

**埋土** 埋土は5層に分層した。埋土のベースは灰黄褐色土で、床面付近の埋土5は微細な炭化物を含む。

**遺物** 遺物は、土師器片 31点、須恵器片 11点が出土した。11点を図化した。

**内黒土師器** 471は内黒土師器の破片で、器種不明である。内面には丁寧にミガキが施され、光沢がある。

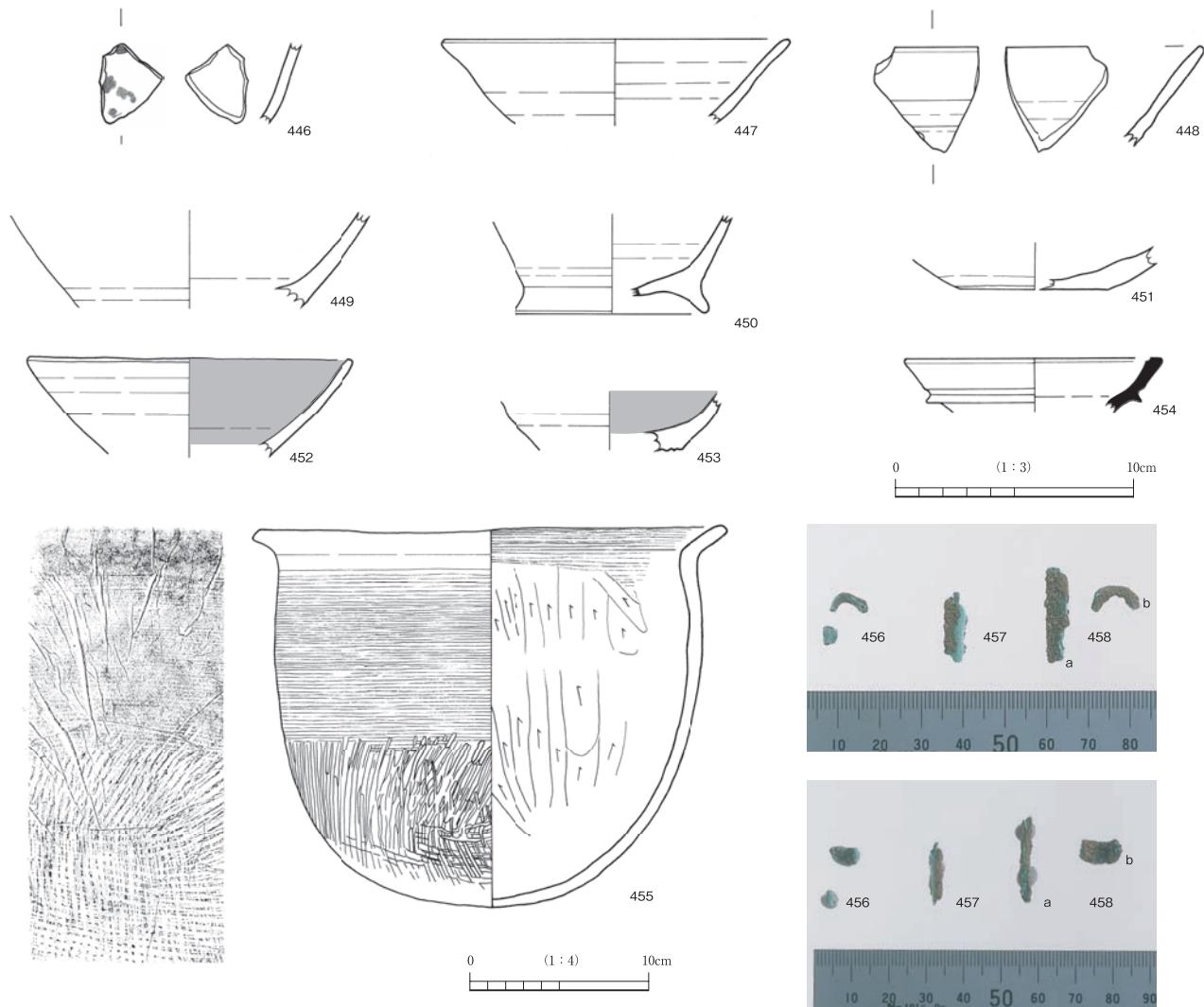
**土師器** 472は土師器甕4類である。搅乱付近から出土したため、混入の可能性がある。外面には、高台を貼り付けた後に丁寧なナデが施され、高台内面の中央は、粘土が盛り上がる。

474は甕である。土坑の床面付近から、外面を上に向かって状態で検出された。胴部は丸みを帯びて、やや張り出す。口縁部はやや開き、短い。胎土は明黄褐色を呈する。胴部外面下半には格子目状のタタキ痕を明瞭に残す。外面胴部上半には、ハケ目は施されず、横方向を基本としたナデが施される。ナデは丁寧ではなく、粘土の接合痕を残す箇所もある。胴部内面は、左上方向のケズリが施され、口縁部から胴部上半の一部には丁寧な横方向のナデが施される。

**須恵器** 475・476は甕の口縁部である。475は、外面には平行タタキ痕が、内面は青海波の当具痕が観察される。内面は、叩きの後に丁寧にナデが施されている。外面から内面口縁部にかけて、自然釉が付着している。476は、外面には平行タタキの痕跡が残る。内面にはやや小さい青海波の当具痕がみられる。頸部内面は、ケズリの後にナデが施されている。外面から口縁部内面にかけて、自然釉が付着している。

477は壺の頸部である。内外面にナデが施されており、全面に自然釉が施釉されている。

478・480は須恵器甕の胴部上半である。外面は平行タタキである。内面は青海波の当具痕である。外面全体に薄い自然釉が付着している。479は甕の胴部である。外面は平行タタキである。内面は青海波と平行の当具痕の上から、全体にナデが施される。非常に丁寧に作られている。481は須恵器甕の胴部である。外面は平行タタキである。内面は青海波と平行の当具痕の上から、全体にナデが施されている。非常に丁寧に作られている。



第83図 SK72出土遺物

#### SK77(第86図)

**検出状況** SK77は、SK68と南北に並んで位置する。SK77がSK68を切っている。

**形状・規模** 平面形は楕円形で、規模は長軸120cm、短軸103cmである。断面の形状は、床面はほぼ平坦で、壁面は、開き気味に立ち上がり、やや外傾する。検出面からの深さは40cmである。

**埋土・土師器甕出土状況** 調査時には分層していないが、土師器甕の482と483の出土状況及び接合状況から判断して、少なくとも2層に分層可能であったと考えられる。土師器甕の482と483は土坑の西側に偏って検出され、482の下部から483は出土した。エレベーションでは、とともに南から北方向に傾斜している。また、482は、土坑の北西に大型の破片がまとまって出土したが、焼土と炭化物を多く含んだ土が付着していた。

**遺物** 遺物は、土師器片73点、須恵器片3点が出土した。14点を図化した。

**土師器** 482は甕である。埋土から破片の状態で出土し

たが、接合の結果ほぼ完形品となった。胴部はやや張り出す。口縁部は短く、やや開く。器壁は厚い。底部から胴部外面下半にかけては不定方向のハケ目が施され、胴部外面上半から口縁付近にかけては、縦方向のハケ目が施される。口縁付近はハケ目の上から横方向に雜なナデも施される。胴部内面は、左上方向のケズリが施されるが、角度が一定しない。口縁部内面には横方向のハケ目の後に、ナデが施される。

483は甕である。胴部がやや張り出し、口縁部は開く。482と比較して器壁は薄い。胴部外面下半には不定方向のハケ目が施され、胴部上半には横方向のハケ目が施される。口縁部にはハケ目は施されず、丁寧なナデが施される。胴部内面には、左上方向のケズリが施され、口縁部には横方向のハケ目の後に、ナデが施される。ナデは胴部上半の一部まで及ぶ。

484は甕である。口縁部は開き、長い。胴部外面には横方向のハケ目が、口縁部にはナデが施される。口縁部内面にはハケ目が施される。胎土は黄橙色である。

487～489は土師器の壺2類である。体部は立ち、口縁部はわずかに外反する。

487には墨書きがみられるが、文字の判読には至らなかった。また、487は、SK77とSK70の埋土から出土したものが接合したものであるが、墨書きのある破片のみSK70から出土した。胎土は浅黄色で、粒子がやや粗い。胴部外面には回転ナデによる凹凸が残る。胴部内面にも回転ナデが施されるが、見込みの調整は雑である。

490・491は土師器の壺2類である。底部からの立ち上がりは外傾し、胴部は直線的である。490は、口縁部付近がやや内湾し、薄く仕上げられる。

492は土師器で、器種不明である。外面に焼成後に施された線刻がみられる。494は、土師器の壺2類である。高台を貼り付けた後にナデが施されるが、高台の接合痕が明瞭に残っている。

495は内黒土師器の壺である。内面は丁寧なミガキが施され、光沢がある。

**須恵器** 495は高台のある壺である。

#### イ 挖立柱建物跡

##### SB67（第87図）

**検出状況** SB67はK-18・19区で検出された。土坑と分布域が重複するが、柱穴P1がSK73を切っていることから、土坑よりも新しいものと判断される。

**規格・規模** 主軸はN10°Wで、規格は2間×3間である。柱間は、桁行が一間201～228cm、梁行が一間178～190cmである。P1及びP7には柱の立て替えの痕跡が確認された。SP71は、調査時には、SB67とは独立した土坑としていたが、SP71の形状・規模及びSB67の柱穴の並びから、SB67を構成する柱穴と判断した。

**遺物** 遺物は、SP71から土師器2点、須恵器1点が出土し、他のSB67の柱穴からは、土師器66点、須恵器14点が出土した。

**SP71（P9）出土遺物（497～499）** 497はSP71の埋土1から、一部が検出時に露出する状態で出土した。内面は、見込みが押圧されていることから水平ではなく、体部との境界が不明瞭である。底部外面は水平で、体部との境界はやや丸みを帯びるが明瞭である。体部は直線的で、外観は箱形となる。調整は、内面の体部から口縁部には横ナデが施され、底部外面には切り離し後にナデが施されるが、外面下端には切り離し時に生じた粘土が付着している。外面には回転ナデによる凹凸が認められる。土師器壺1類である。

499は須恵器の甕の肩部である。外面は格子目タタキである。内面は青海波の当具痕である。

**P1出土遺物（500）** 500はP1から出土した。土師器の壺の底部である。壺1類もしくは2類である。

**P7出土遺物（501～503）** 501～503はP7から出

土した。501は土師器の甕の底部である。高台は外れている。502は内黒土師器である。内面には丁寧なミガキが施されている。503は土師器の甕である。胎土はにぶい黄橙色を呈する。胴部外面には縦方向のハケ目が施される。ハケの目が細かく、櫛状の工具が想定される。口縁は丁寧にナデられる。胴部内面にはケズリが施され、口縁部内面はハケ目の上から、ナデが施される。

**P8出土遺物（504～508）** 504～508はP8から出土した須恵器である。504は甕の口縁部である。外面に横ナデが施される。内面には斑点状の自然釉が付着している。505は甕の頸部である。外面は格子目タタキである。内面は、ケズリの後にナデが施されている。肩部は青海波の当具痕である。外面全体に自然釉が付着している。

506は甕の胴部下半である。外面は平行タタキで、内面は平行の当具痕である。内面にはナデが施されている。507は甕の胴部上半である。外面は格子目タタキである。内面は青海波の当具痕である。508は甕の胴部下半である。外面は平行タタキで、内面は平行の当具痕である。

#### ウ 柱穴（第88図）

柱穴はK-19区を中心に、16基が検出された。そのうち、当該期の遺物が良好な状態で出土した3基を報告する。

##### SP106

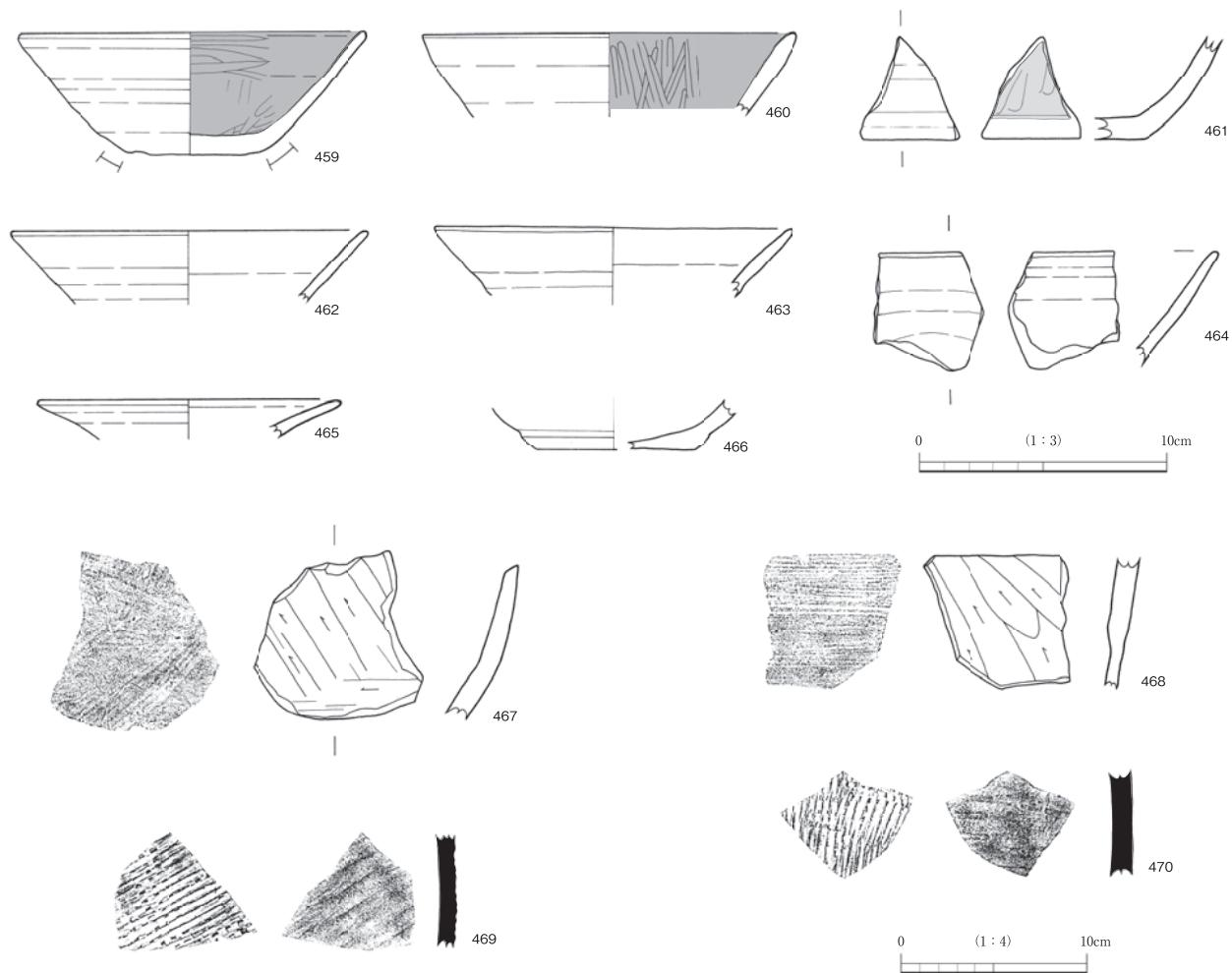
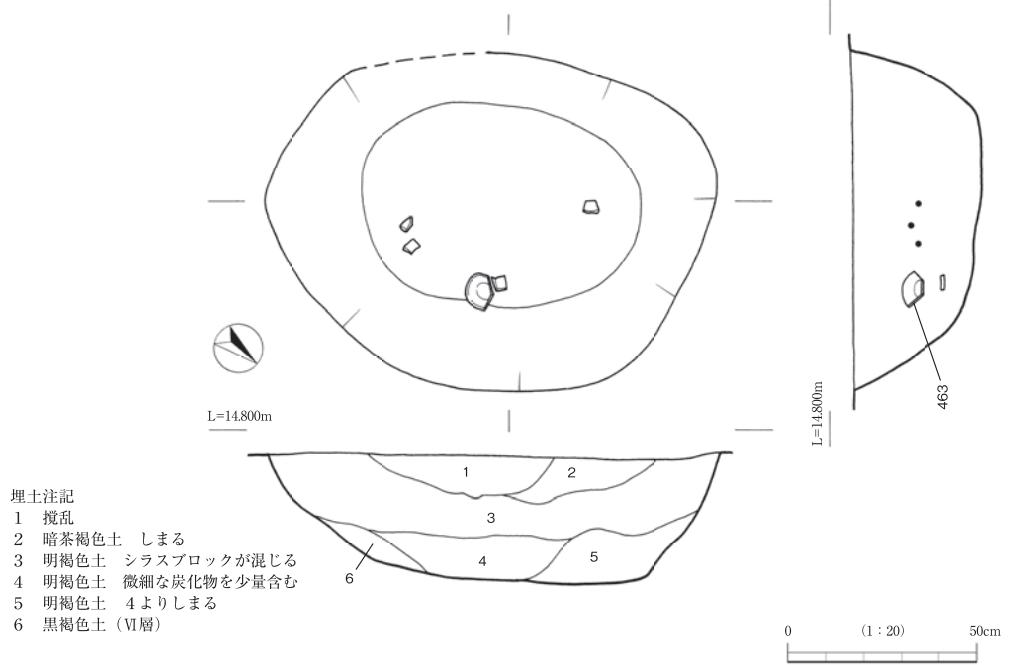
**検出状況・規模** SP106はK-18区のIV層上面で検出された。平面形は円形で、規模は23×21cm、検出面からの深さは50cmである。埋土は灰褐色砂質土である。

**遺物（509）** 検出面直下で509が伏せられた状態で出土した。509は土師器壺2類である。高台は低く、ほぼ垂直である。高台端部は丁寧に成形され、断面は台形になる。体部は直線的で、体部外面下半には回転ヘラケズリの痕跡を残す。内面は、見込みには指頭による不定方向のナデ、体部には回転ナデが施される。

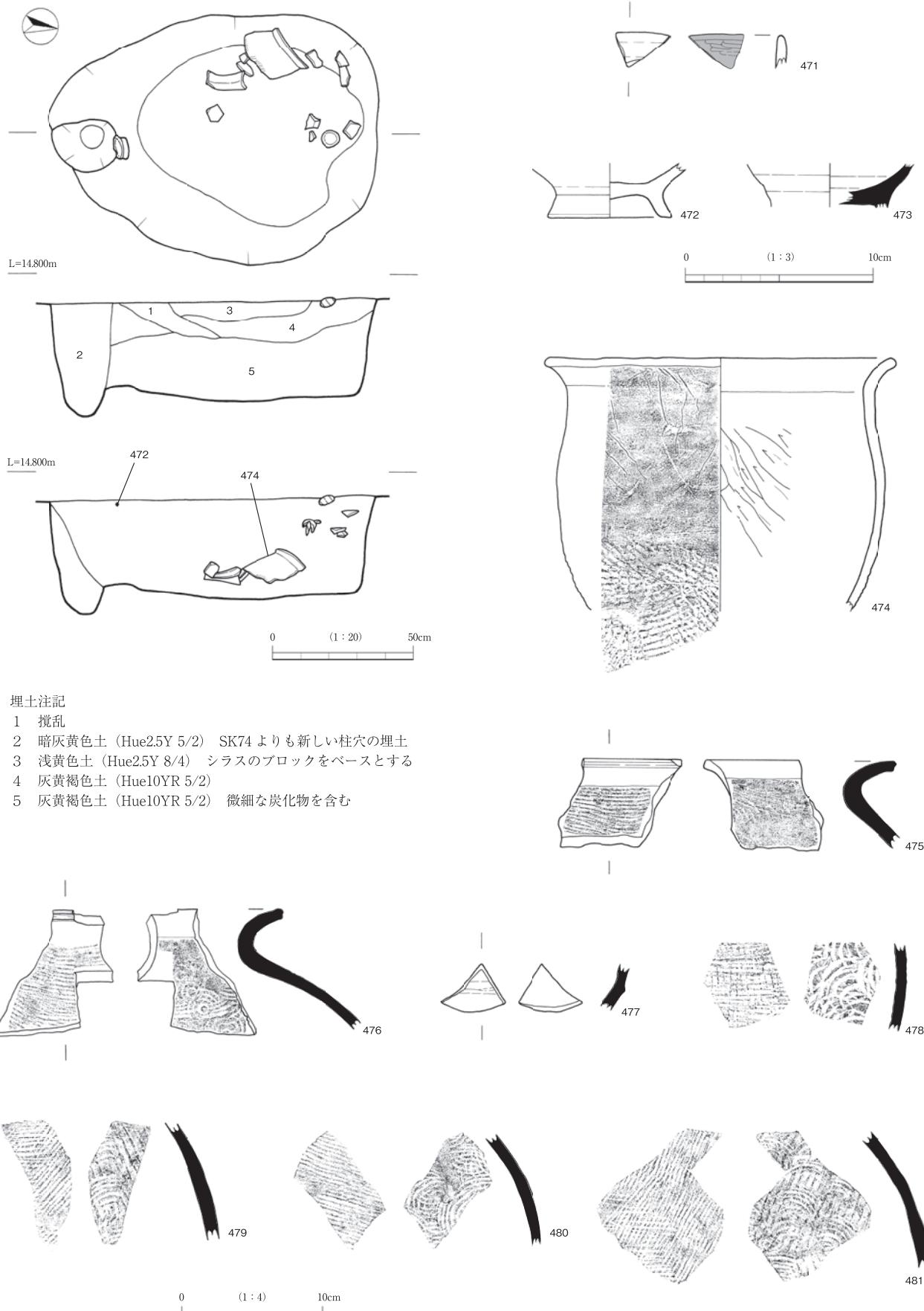
##### SP107

**検出状況・規模** SP107はK-19区のIV層上面で検出された。平面形は円形で、規模は66×59cm、検出面からの深さは18cmである。他の柱穴と比較して大型で深い。土坑の可能性がある。埋土は不明である。

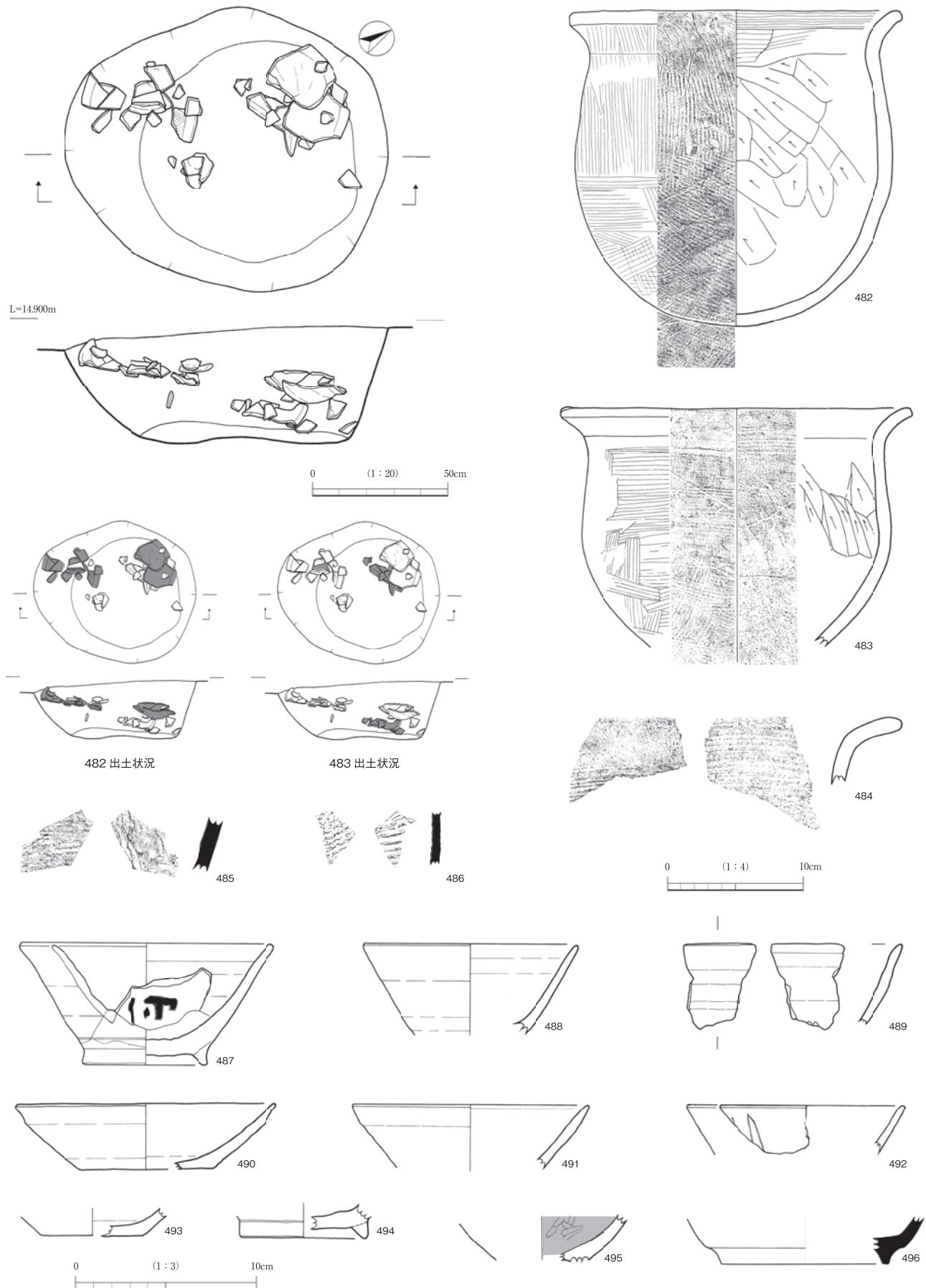
**遺物（510～512）** 511・512は土師器の甕である。色調及び胎土が同一であり、同一個体の可能性がある。体部外面の高台から胴部下半は赤色系の色調をしていて、体部上半から口縁部、さらに内面は黒色系の色調を呈する。また、512は高台を貼り付ける箇所に刻みが入れられている。



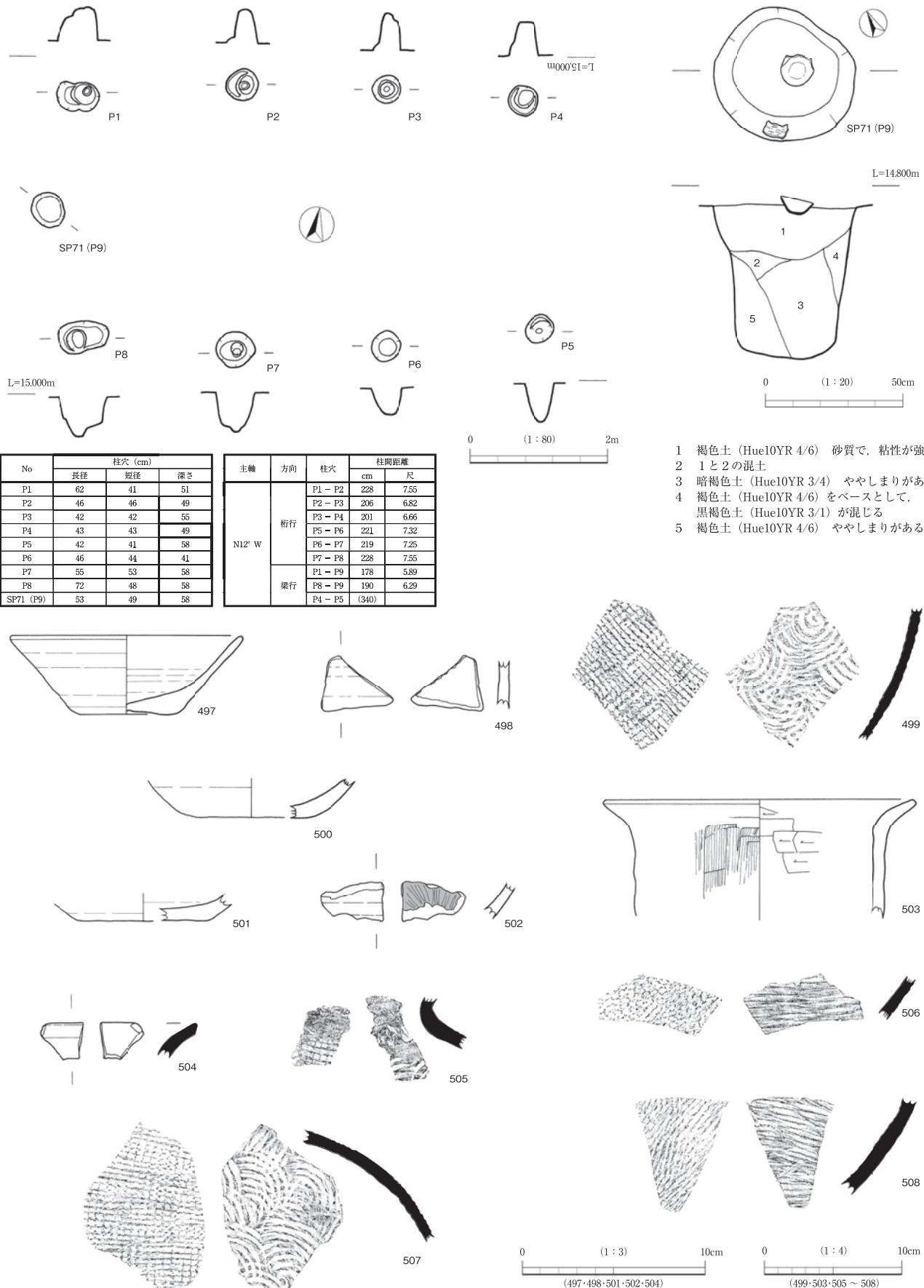
第 84 図 SK73・出土遺物



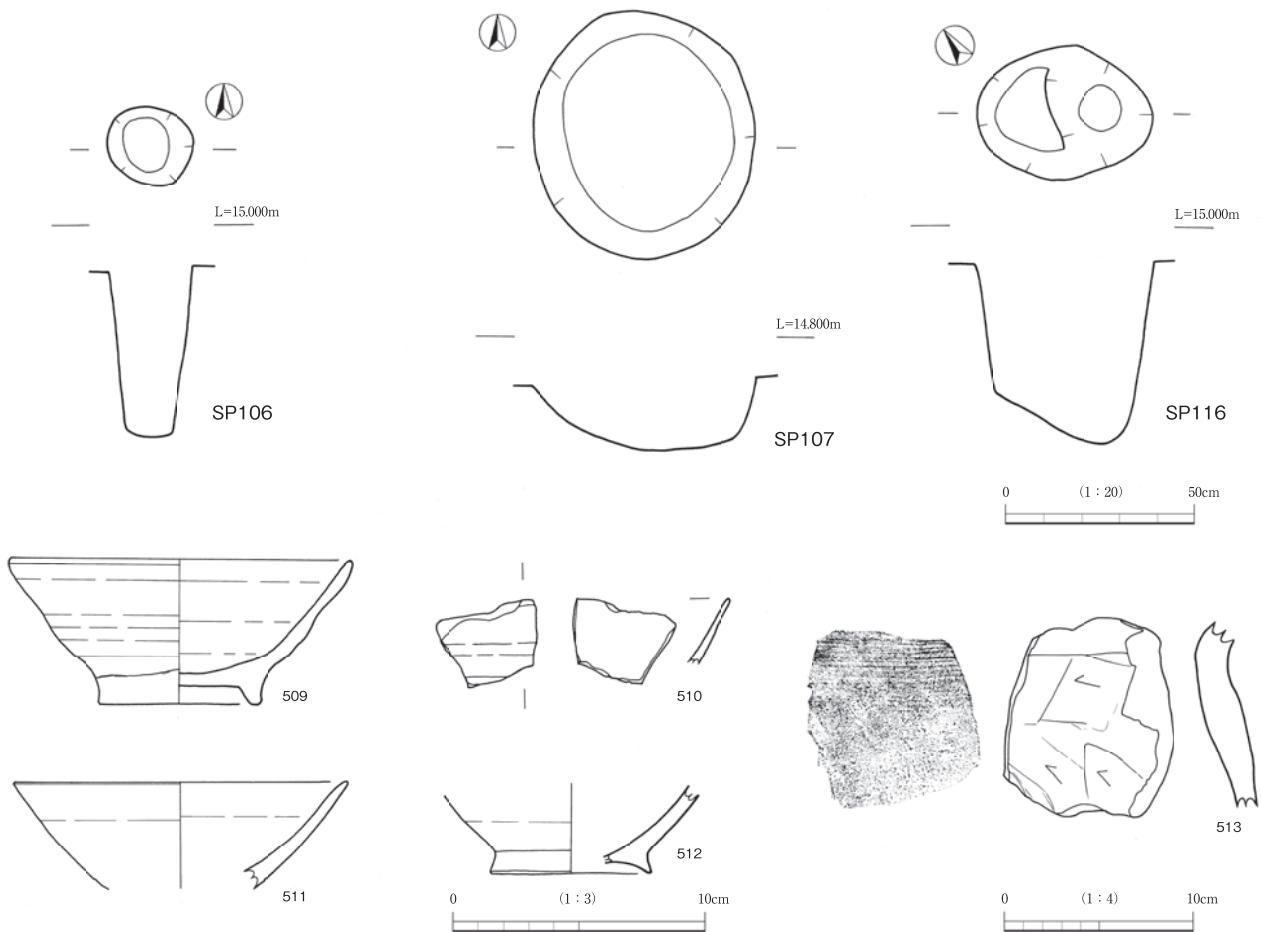
第85図 SK74・出土遺物



第86図 SK77・出土遺物



第87図 SB67・出土遺物



第88図 SP106, SP107, SP117・出土遺物

### SP116

**検出状況・規模** SP116はK-18区のIV層上面で検出された。平面形は橢円形で、規模は48×36cm、検出面からの深さ49cmである。埋土の詳細は不明である。

**遺物(513)** 513は土師器の甕である。器壁が厚く、胴部外面の下半はナデられ、上半は横方向のハケ目が施される。内面は左上方向のケズリが施される。

### 工 溝状遺構

#### SD38

##### (ア) 遺構の形状及び埋土の状況

**検出状況** SD38はP・Q-31～34区で検出された。上述のように、調査区の西側はシラス(VII層)まで削平を受けている状況であり、遺構の上部は消失している。また、埋土の上半(第90図 土層B-B'の埋土①～⑦)には、近年の造成の影響が及んでいた。

**形状・規模** 現状での平面形は、ほぼ真東から真西に長軸を持ち、南に向かって緩やかな弧を描き、東から西に向かって「V」の字状に広がる。床面は東から西に向かって傾斜し、東西の高低差が約2mある。短軸(南北方向)での断面の形状は、床面は平坦で箱形となる。現状での

規模は、東西32.3m、南北0.6～10.8m、検出面からの深さ約30～250cmである。

**埋土** 埋土の上半はII層と類似する砂質の黒褐色土が堆積していた。埋土の下半については、以下のように3層に分層して発掘を行った。なお、埋土の番号は第90図の土層B-B'の埋土注記と対応する。

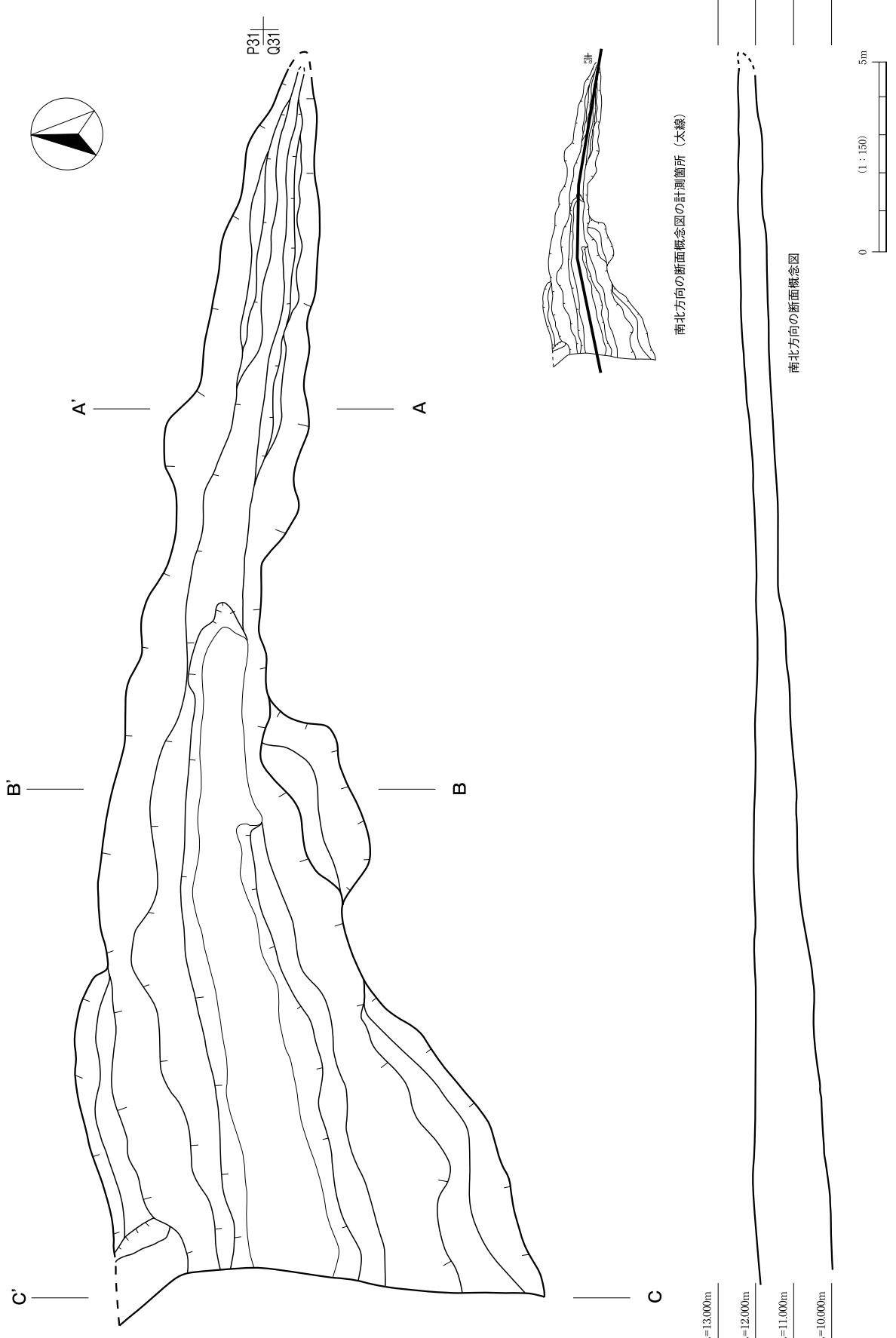
上層：埋土⑧～⑩

中層：埋土⑪～⑫

下層：埋土⑬～⑮

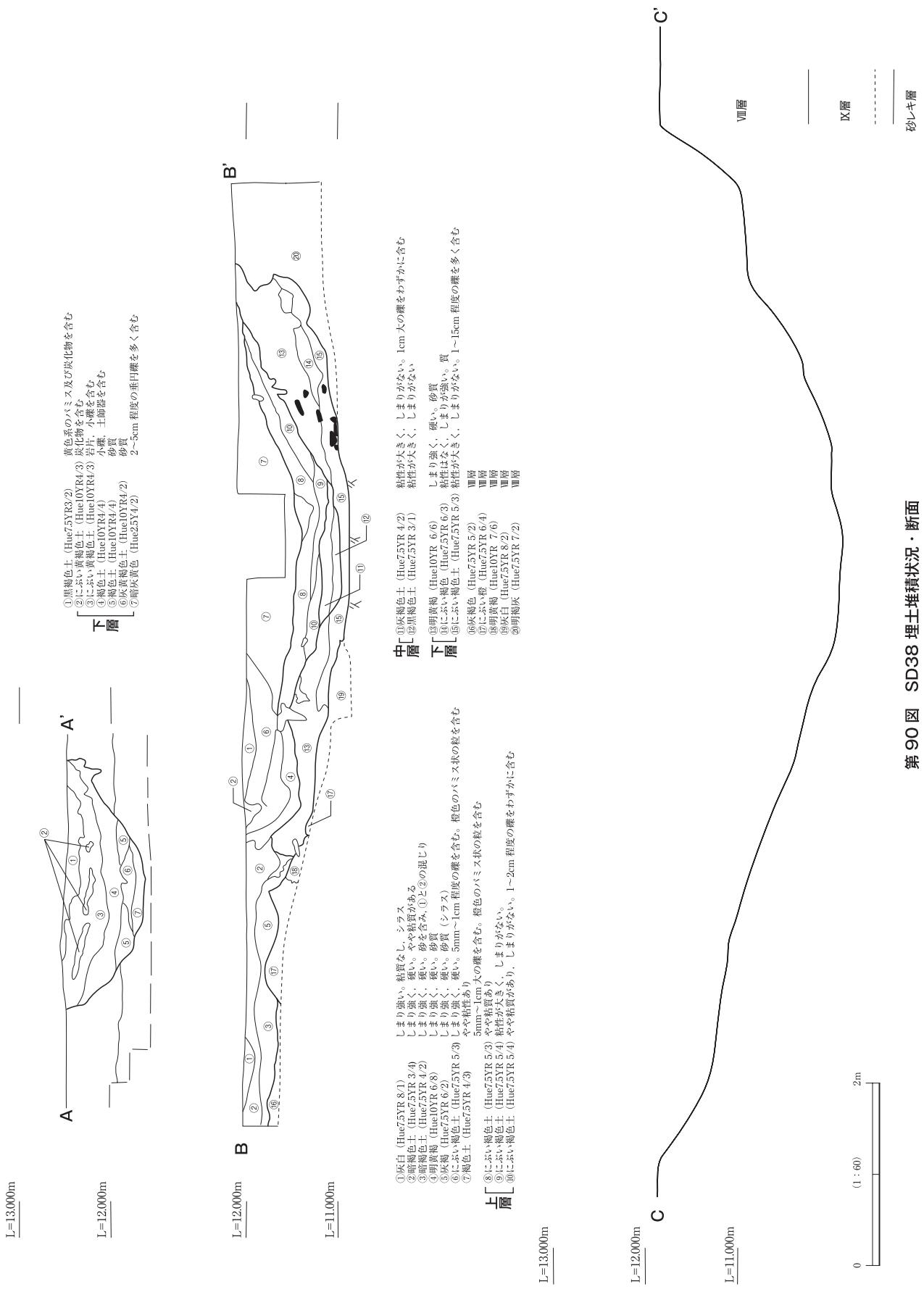
**遺物出土状況** 上層及び中層には、貿易陶磁器類や糸切り底の土師器など中世に該当する遺物が含まれる。下層の出土遺物は、土師器は、底部の切り離しがヘラ切りによる壊・塊が大半を占めた。

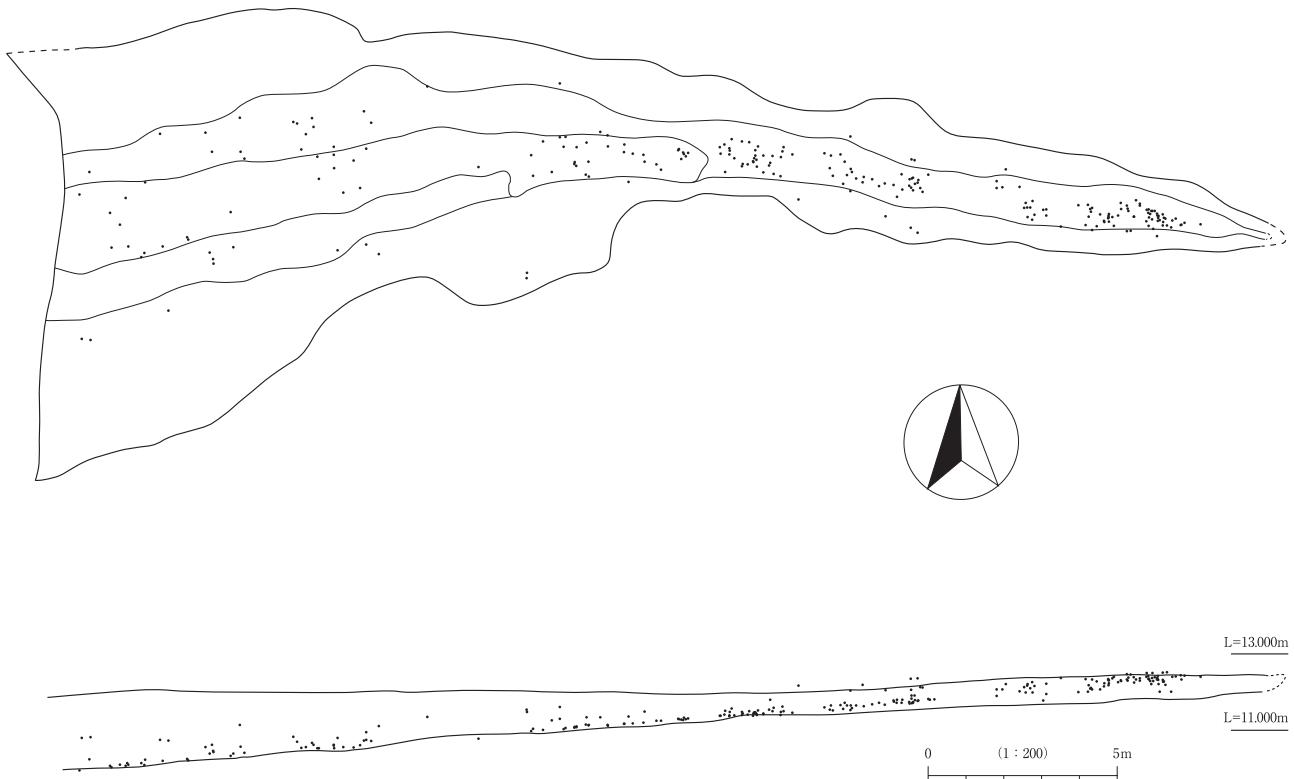
また、上層上面からは、縄文時代の石器を含んだ礫が大量に検出された。SD38の埋没過程で、投棄されたものであると想定される。



第89図 SD38

第90図 SD38埋土堆積状況・断面





第91図 SD38下層遺物出土状況

#### (イ) 下層出土遺物

下層からは、土師器1,143点、須恵器18点、陶磁器類1点が出土した。土師器が98%を占める。土師器の器種は、壺と塊が大半を占め、皿や甕などは少ない。

残存状況が良好なもの172点を図化した。法量については観察表を参照されたい。

#### 土師器壺(第92～93図)

**土師器壺1類(514～518)** 514は、底部外面には切り離し後にナデが施されるが、ヘラ切りによる渦巻き状の痕跡を明瞭に残す。515・516は、胎土が橙色を呈する。515は、底部外面の切り離し痕がナデによって消される。516は、体部の立ち上がりの外傾がきつい。見込みを押圧することにより底部を薄くする。515は、底部から体部は稜をもって立ち上がる。底径に対して見込みが小さい。

**土師器壺2類(519～522)** 519は、見込みが押圧され、底部が薄くなる。520は、胴部外面の上半は、丁寧にナデが施されるが、下半には回転ヘラケズリの痕跡を明瞭に残す。底部外面はヘラ切り後にナデを施す。

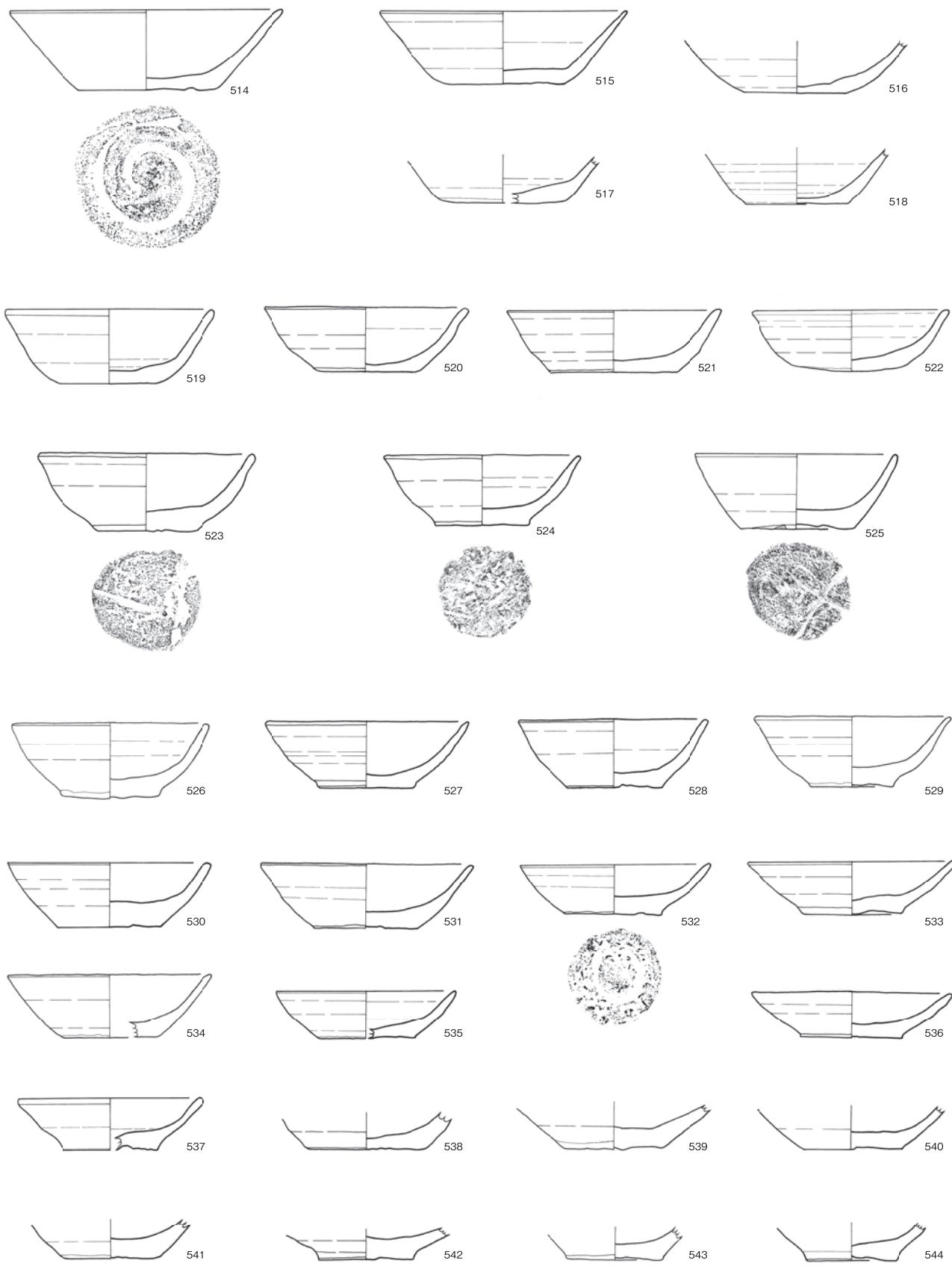
521は口径11.4cm、底径6.7cmで、口径に対し底径が大きく、見込みを押圧しないため他の2類と比較して底部が厚い。外面に回転ナデによる凹凸を明瞭に残す。

522は、器壁がやや厚手で、口縁部がわずかに外反する。外面下端にはケズリの痕跡が残る。

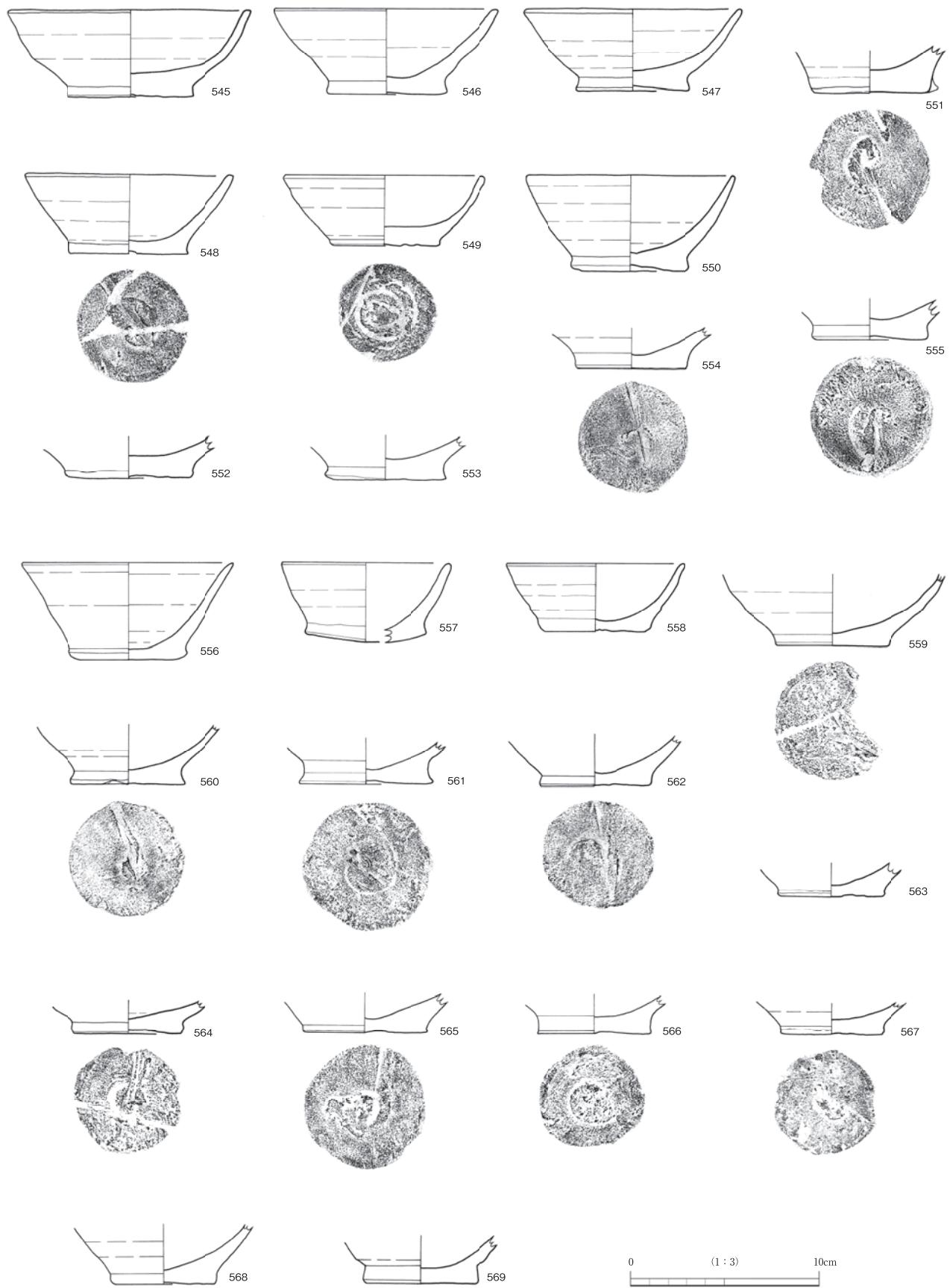
**土師器壺3類(523～544)** 523～531・534は土師器壺3類で、器高が高いものである。523・525は外面の口縁部の下に強いナデが施されることによって凹みが作られる。523の底部外面には、切り離し後に体部を起こす際に用いたと想定される棒状の工具痕を確認できる。524は、底部が厚く、円盤状になる。525は、他の3類と比較して体部が直線的である。器形が歪み、底部を外面から押圧することでやや上げ底状になる。

526は、底部が厚く円盤状になる。527は、内外面に丁寧な横ナデが施される。外観は円盤状の底部にみえるが、見込みに強いナデが施されていて、底部は薄くなる。外面の下半には回転ヘラケズリによる凹凸が残る。

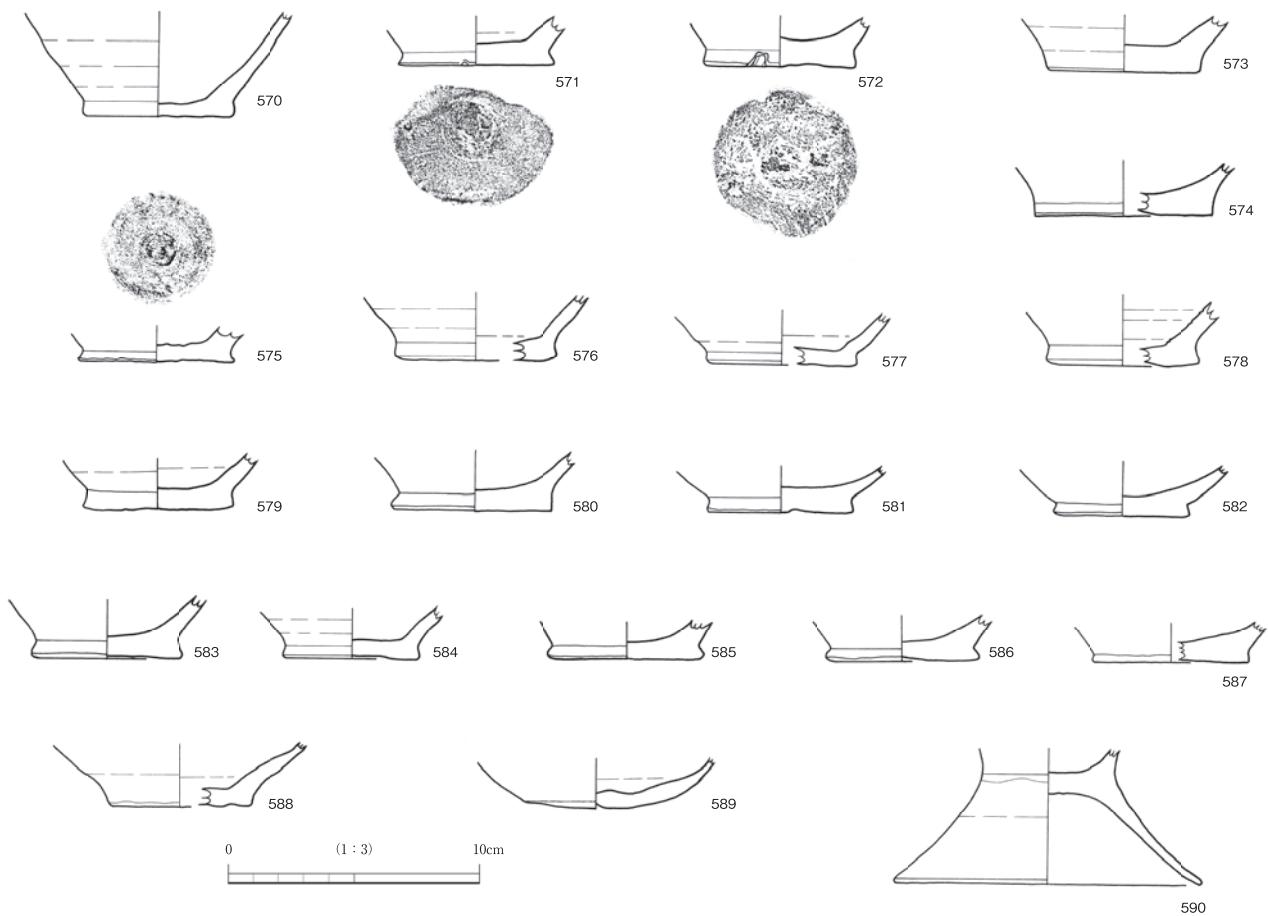
528は、体部が直線的で、立ち上がりは外傾する。529は他の3類と比較すると、口径に対する底径の割合が小さい。体部はやや丸みを帯び、口縁部は外反する。530は、体部の立ち上がりは立ち気味で、体部はわずかに内湾する。内外面にナデを施すが、見込みの中央付近は未調整で、粘土が盛り上がる。531は、体部の立ち上がりは立ち気味で、体部上半はやや外傾する。内面には反時計回りの回転ナデが施される。534は直線的な体部である。



第92図 SD38下層出土 土師器坏①



第93図 SD38下層出土 土師器坏②



第94図 SD38下層出土 土師器坏③

532・533、535～537は土師器坏3類で器高が低いものである。532は、器壁が厚めで、口唇部は丸みを帯びる。533は、体部の外傾がきつい。内面は、見込みを一度押し、そこから一連の流れで左回りにナデが施される。535は体部が丸みを帯びる。

536は、見込みに2か所押圧された痕跡がみられる。底部外面には切り離し後に丁寧なナデが施され、体部を起こす際の工具痕が確認される。537は、見込み中央附近が凹む。器壁が厚く、口唇部は丸みを帯びる。体部はやや立ち気味で、口縁部はわずかに外反する。

538～544は土師器坏3類の底部である。538は底径6.4cmで大型である。外面下端にケズリの痕跡を残す。539は、外面下端に強いナデが施され凹む。540は、胎土が黄橙色を呈し、硬質である。内外面に丁寧なナデが施され、底部外面の切り離し痕が残らない。541は、外面の下端に底部切り離しによる粘土の付着が確認される。542は、見込みの外縁に同心円状に強いナデが施され、体部との境界が凹む。544は見込みと底部外面に押圧の痕跡がある。

**土師器坏4類(545～555)** 545は、胎土が灰白色を呈し、粒子が非常に小さい。体部は丸みを帯び、口縁部

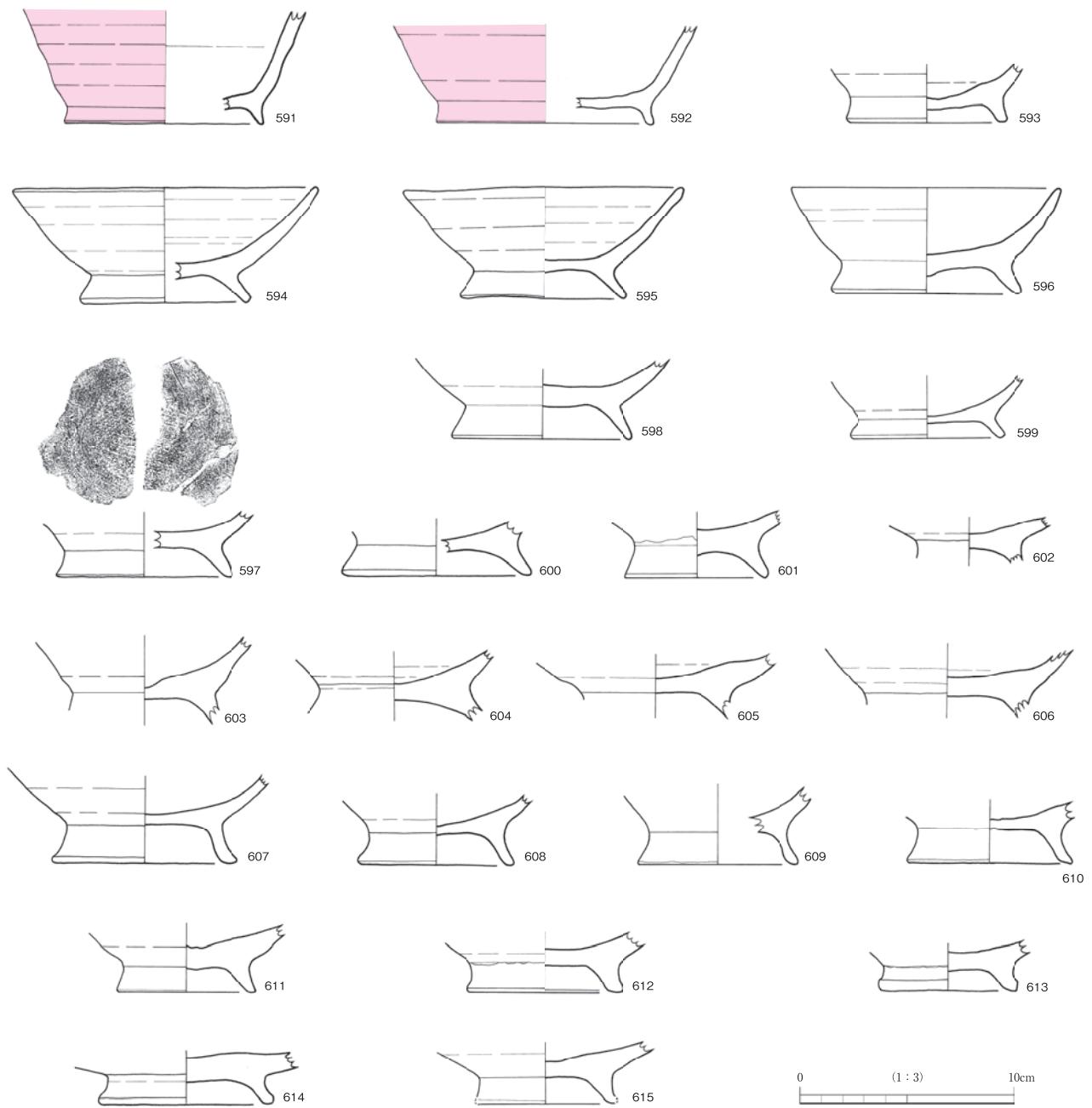
はわずかに外反する。546は、体部は直線的でわずかに内湾する。内面は、見込みに強いナデが施され、そこから一連の流れで内面全体に横ナデが施される。底部外面の切り離し痕は丁寧にナデ消される。

547は、器面全体に丁寧なナデが施される。底部切り離しの痕跡は完全に消される。548は、胎土がぶい橙色で、黒雲母を含む。器面全体に丁寧なナデが施される。底部外面から高台の下端に、棒状の工具痕がみられる。

549は、胎土が橙色を呈する。器面全体に丁寧なナデが施される。外面の口縁部の直下に強いナデが施され、凹む。550は、胎土が浅黄色を呈し、黒雲母を含む。体部がやや深めで、口唇部は先細りする。551は、底部外面と高台下端に棒状の工具痕がみられる。高台下端は未調整で、底部切り離しによって生じた粘土が付着する。

552は底径6.8cmと大型で、体部の立ち上がりが外傾する。外面下端の調整は雑で、一部に粘土が付着する。553は、器面全体に丁寧なナデが施される。554は、内面のナデはやや雑で、砂粒の痕跡が残る。底部外面に棒状の工具痕がみられる。555は、胎土がぶい橙色を呈し、黒雲母を含む。

**土師器坏5類(556～569)** 556は、体部は直線的で、



第95図 SD38下層出土 土師器塊①

器壁が薄い。見込みが押圧されることにより、底部は薄くなる。外面は、底部から口縁部まで丁寧にナデが施される。557・558は小型のタイプである。557は、器面全体に丁寧なナデが施されるが、底部は水平ではなく、安定しない。558は、体部が内湾する。外面には回転ナデによる凹凸が残る。

559は底径6.3cmで、大型である。胎土は浅黄色を呈し、黒雲母を含む。見込み中央を押圧し、反時計回りのナデを施す。外面下端は未調整である。

560～569は壊5類の底部である。底部付近だけでは

壊5類と壊4類との区別が困難なため、一部に壊4類が含まれることも考えられる。

560は器面全体に丁寧な横ナデが施されるが、砂粒の痕跡が残る。底部外面と体部下端に棒状の工具痕が観察される。561は底径7.0cmで大型である。胎土に1mm程度の砂粒が含まれ、やや粗粒である。562は、見込みから体部内面下半に強いナデが施される。

563は、胎土が橙色を呈する。焼成が良好で、硬質である。内外面には丁寧なナデが施される。564は、見込みに強い押圧が加えられる。外面下端の調整は雑で、切

り離しによって生じた粘土が付着している。

564・566は、胎土に黒雲母を含む。焼成が良好で、硬質である。565は、見込み中央から反時計回りの強いナデが施され、渦巻状の痕跡がみられる。567は、胎土がにぶい黄橙色を呈し、粒子が小さい。内外面には、丁寧なナデが施されるが、体部下端から底部外面にかけては未調整で、切り離しによって生じた余分な粘土が付着している。568・569は体部の立ち上がりが内湾気味である。568は内外面に丁寧なナデが施されるが、外面下端は未調整である。

**土師器壺 6類 (570～587)** 土師器壺6類の資料は全て底部付近の破片資料で、全体の器形が判明するものは出土していない。

570は、最も残存状況がよい。見込みの中心から反時計回りの強いナデが施され、見込みと体部の境界が凹む。底部外面から外面下端には丁寧なナデが施され、底部切り離しの痕跡は残らない。体部外面には回転ナデの凹凸が残る。572は外面下端から底部にかけての一部に、底部切り離し後に体部を起こす際に用いられたと考えられる棒状の工具の痕跡が残る。

571・574～576・579・583～585は、見込みに強いナデが施され、指頭の痕跡がみられる。580は胎土が橙色を呈し、粒子が小さい。焼成が良好で、硬質である。内外面には丁寧なナデが施される。583・585は体部下端に粘土が付着する。581・587は胎土に黒雲母を含み、硬質である。見込みのナデがやや弱く、体部の立ち上がりは開く。

577は、見込み外縁のナデが強く、凹む。外面には回転ナデによる凹凸が残る。578は、胎土はにぶい黄橙色を呈し、焼成がかなりよく、硬質である。見込みの中心から回転ナデが施され、胎土中の砂粒の痕跡を観察できる。582は、内外面に丁寧なナデが施される。

586は、胎土が灰黄色を呈し、胎土中に1～2mm程度の砂粒が含まれ、粗粒である。見込み中央付近にナデが施される。

**その他 (588～590)** 588～590は他に類例がみられなかった資料である。588は、体部の立ち上がりは垂直に近いが、急激に開く。底部は薄く水平な面を作り出しているが、それが押圧と強いナデによるものか判断できなかった。底部外面には、ヘラ切り痕が明瞭に残る。

589は底部付近のみ残存している。底部を水平に作り出さない。見込みを押圧し、そこから一連の流れで内面にナデを施す。

590は高台内面の粘土の盛り上がりから、脚台付き壺の脚部と判断した。1点のみの出土である。

### 土師器壺 (第95～97図)

**土師器壺 1類 (591・592)** 591・592ともに上層から下層にかけて出土した破片資料が接合したものである。内外面に赤色顔料が塗布される。

**土師器壺 2類 (593)** SD38下層からは、593が1点のみ出土した。高台が低く、端部は角張る。見込みを押圧し、底部を薄くする。内外面で色調が異なり、内面は灰黄色、外面は浅黄色を呈する。

**土師器壺 3類 (594～606)** 594・595は胎土中に1～2mm程度の砂粒を含み、粗粒である。595は、焼成がやや不良で、見込みに亀裂が入る。596は胎土に黒雲母を含む。口縁部直下が強い横ナデによって凹む。

597は、胎土がにぶい黄橙色を呈し、粒子が小さい。焼成が特に良好で、硬質である。見込みに布目压痕がみられる。598は底径8.3cmとやや大型である。器壁が厚く、胎土に1mm程度の砂粒を含み、粗粒である。599は、胎土が橙色で、黒雲母を含む。高台は大きく開き、高台内面には高台の貼り付け痕が残る。体部はやや丸みを帯びる。

600は底径8.7cmで、やや大型である。胎土に黒雲母を含む。601は底径6.5cmでやや小型だが、底部が厚さ1.2cmと厚い。高台外面に横方向のハケ目のような痕跡がみられる。

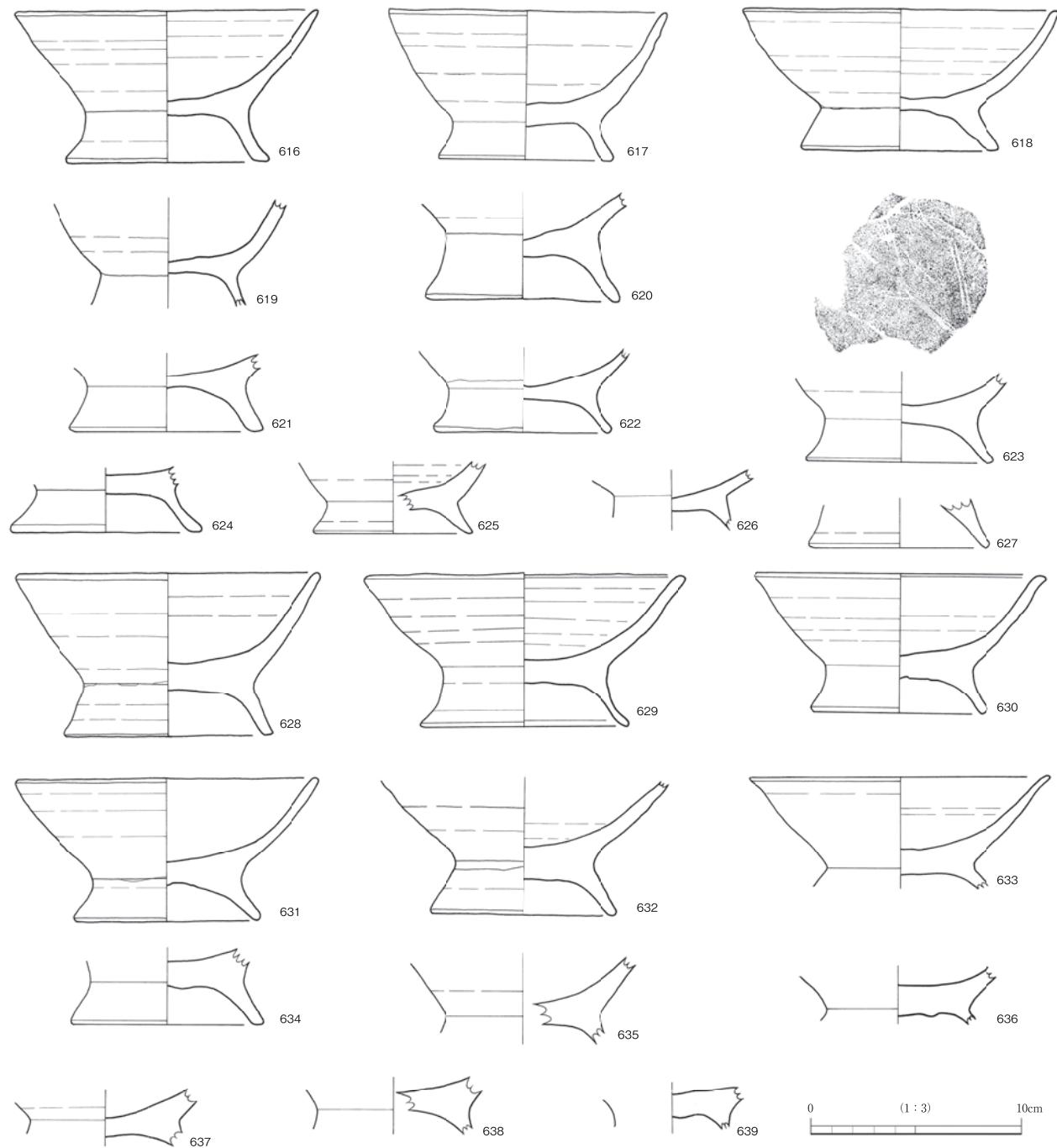
602～606は底部付近の資料である。体部と高台の開き具合から壺3類に含めたが、法量にばらつきがある。603・605は、見込みが押圧され凹む。体部の立ち上がりは外傾する。606は、高台内面の径が5.0cmあり大型である。

**土師器壺 4類 (607～615)** 資料は全て底部から体部の下半にかけての破片資料であり、全体の器形がわかるものはない。

609は、胎土に1～2mm程度の砂粒を含み、粗粒である。外面に高台の接合痕を残す。608・610は、高台がやや高い。高台は床に向かって徐々に開き、端部は平坦になる。見込みの中心を押圧し、その周囲に同心円状に強いナデが施される。610は胎土に1～3mm程度の砂粒を含む。

612は、胎土に砂粒や鉱物を多く含み、器面が粗い。高台の器壁が厚く、端部は幅6mm程度の平坦面となる。611・615は胎土中に鉱物・砂粒を多く含む。底部は厚く、体部はやや外傾する。

607～610は、胎土中に砂粒を含まず、器面が滑らかである。器面全体に丁寧なナデが施されるが、外面の高台の接合痕は明瞭に残る。見込みには不定方向のナデも施される。607は底径8.8cmと大型である。体部はやや



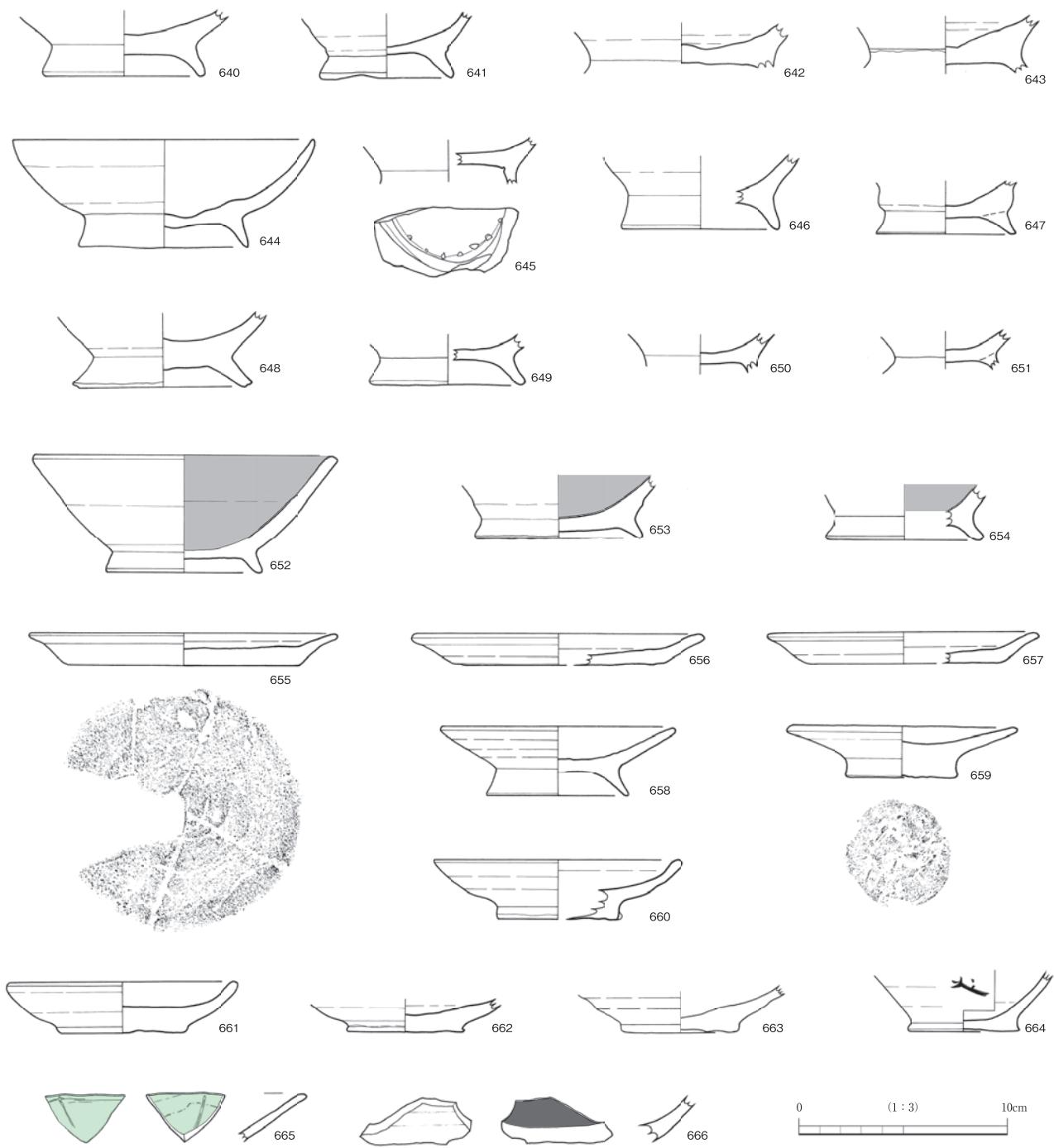
第96図 SD38下層出土 土師器塊②

丸みをもって立ち上がる。613は底径6.1cmと小型である。高台の器壁が厚い。高台端部は幅7mm程度の平坦面となる。614は底径8.0cmと大型だが、高台高は1.0cmと低い。底部は厚く、体部の立ち上がりは、外傾がきつい。615は底径6.8cmで大型であり、底部の厚さは1.1cmと厚い。体部の立ち上がりはかなり外傾すると想定される。高台内面と高台の境界に同心円状に強いナデが施され、ナデの痕跡が明瞭に残る。

**土師器塊5類 (616~639)** 616~627は、底部の厚

さが1.0cm未満の土師器塊5A類である。616は胎土中に鉱物と砂粒を豊富に含み、器面はやや粗い。高台内面は水平な面となり、高台の開きは他の5類よりも弱い。617は、胎土が橙色を呈する。体部外面から口縁部のナデは雑で器面に凹凸が残る。高台はあまり開かず、高台端部は平坦になる。

618は、胎土が浅黄色を呈し、胎土に含まれる砂粒と鉱物の粒子が大きい。高台は開き気味で、器壁が厚く、端部は丸みを帯びる。高台内面の中心に強いナデを施し凹ませ、さらにその外に同心円状に強いナデを施す。



第97図 SD38下層出土 土師器塊③・皿ほか

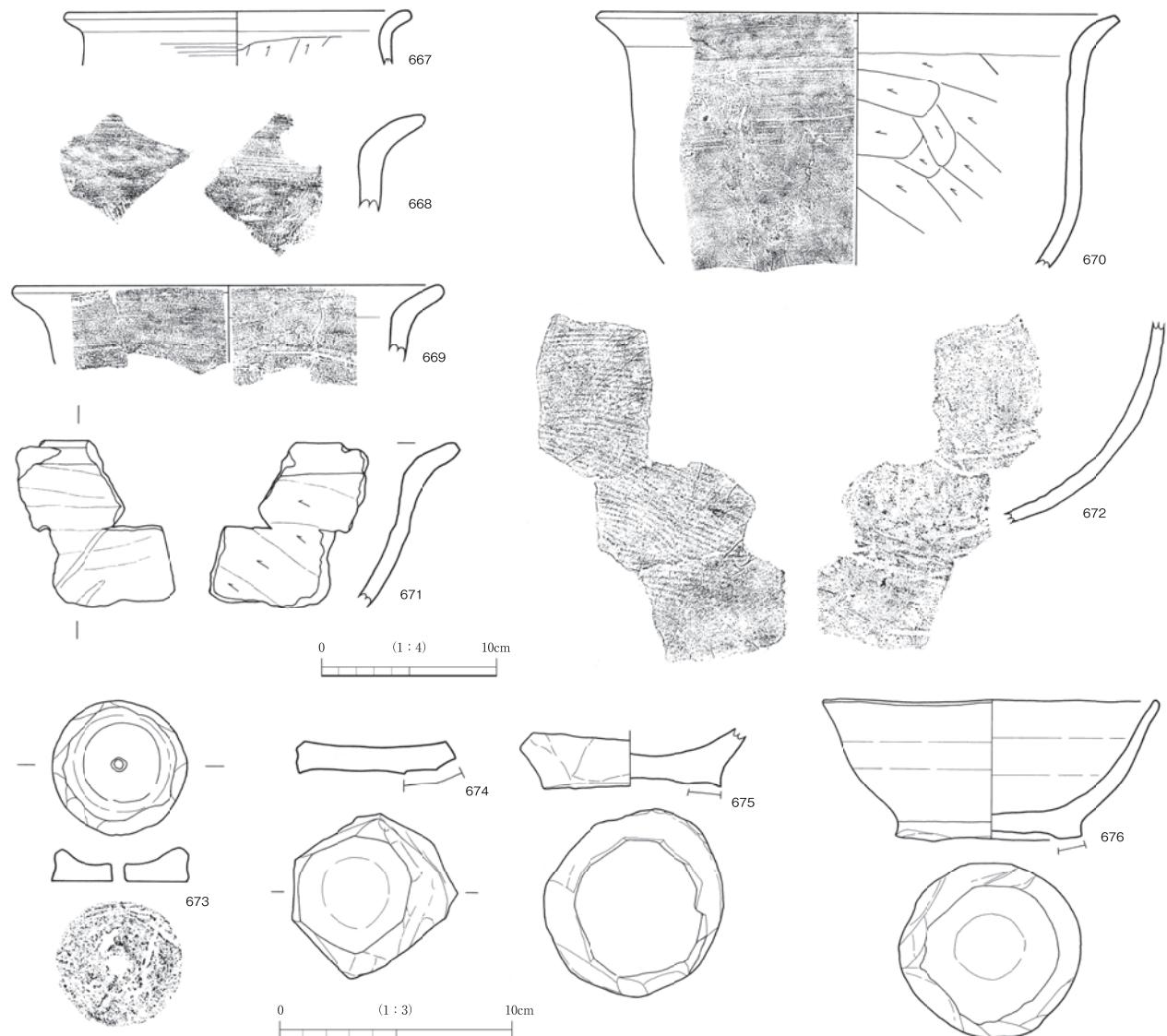
619は、胎土の粒子が小さく、表面が滑らかである。体部下端にケズリの痕跡が残る。

620・622・623は、胎土中に鉱物を多く含む。高台内面は水平な面ではなく、高台との境界は不明瞭で、高台の開きが大きい。623は、内面に木葉痕がみられる。622の内面と620の高台の一部の表面が赤色を呈することから、赤色顔料が塗布されていた可能性がある。

621～627は、高台の形状及び底部の厚さから塊5A

類とした。621は橙色を呈する。高台内面と高台の境界付近に工具による刺突の痕跡がみられる。625は、外表面及び高台内面が赤色を呈する。赤色顔料を塗布された可能性がある。

628～639は土師器塊5B類である。底部の厚さが1.5cm程度と厚い。628は、体部の立ち上がりが内湾気味で、口縁部はわずかに外反する。629は、胎土に含まれる鉱物の粒子が大きい。628よりも器壁が厚く、体部



第98図 SD38下層出土 土師器壺・二次加工品

はやや丸みを帶び、口縁部の外反も大きい。630は、胎土が橙色を呈し、胎土中に1~3mm程度の砂粒を含む。体部はやや丸みを帶びて、口縁部は外反する。631は、高台が「ハ」の字状に開き、高台内面と高台の境界は不明瞭である。見込みに強いナデを施し、そこから反時計回りの横ナデを内面全体に施す。

632は、他の壺5B類と比較して胎土の粒子が小さく、器面が滑らかである。高台が「ハ」の字状に開き、器壁が厚く、端部は丸みを帶びる。633は、体部が外傾する。口縁部は外反し、口唇部は先細りする。634は、胎土の粒子が小さく、器面は滑らかである。見込みから反時計回りのナデが施される。635~639は底部の厚さから5B類とした。638は胎土に黒雲母を含む。

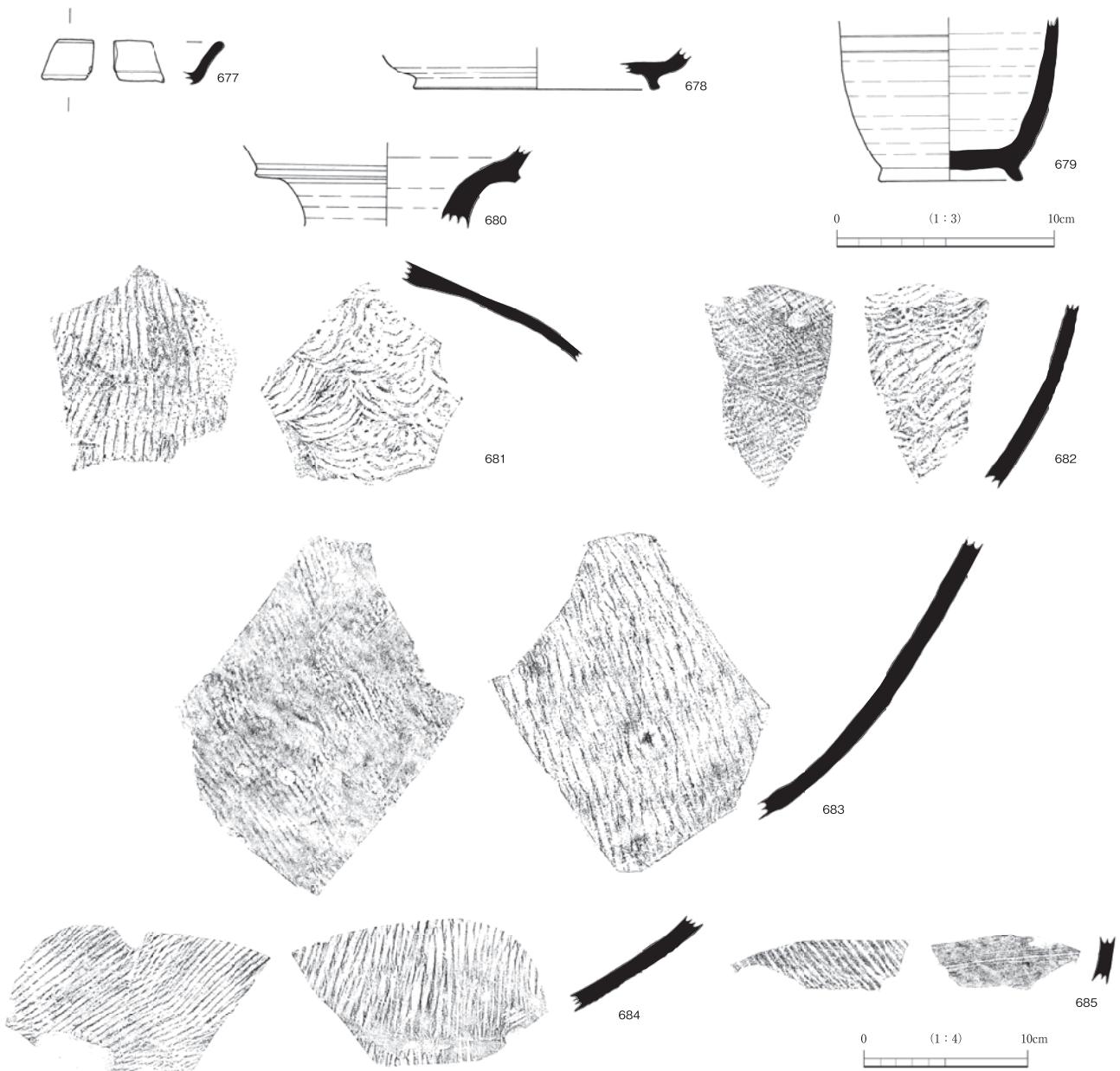
**土師器壺6類(640~643)** 壺6類は、器面は浅黄橙色を呈するが、胎土は黒褐色のものである。壺6類は胎

土を主体とした分類であり、器形は壺3類に近い。見込みに凹凸が認められるのも特徴の一つである。640は、高台が低く、開きが大きい。見込みにナデを施すが、方向に規則性はみられない。高台内面にヘラによる切り離しの痕跡が残る。

641は、見込みが押圧され、底部は薄くなる。642は、見込みにケズリによる凹凸が残る。643は、見込みに強いナデが施され、連続して横ナデが行われる。底部外面にヘラによる切り離しの痕跡が残る。

**土師器壺7類(644)** 土師器壺7類は、644が1点のみ出土した。胎土は灰白色を呈し、粒子が非常に小さい。壺4類の545に胎土が類似する。体部は一度開き、丸みをもって立ち上がる。

**土師器壺8類(645・646)** 破片資料のみで、全体の



第99図 SD38下層出土 須恵器

器形がわかるものはない。高台を貼り付けた後に、高台と高台内面の境界に棒状の工具により刺突された痕跡が認められる。

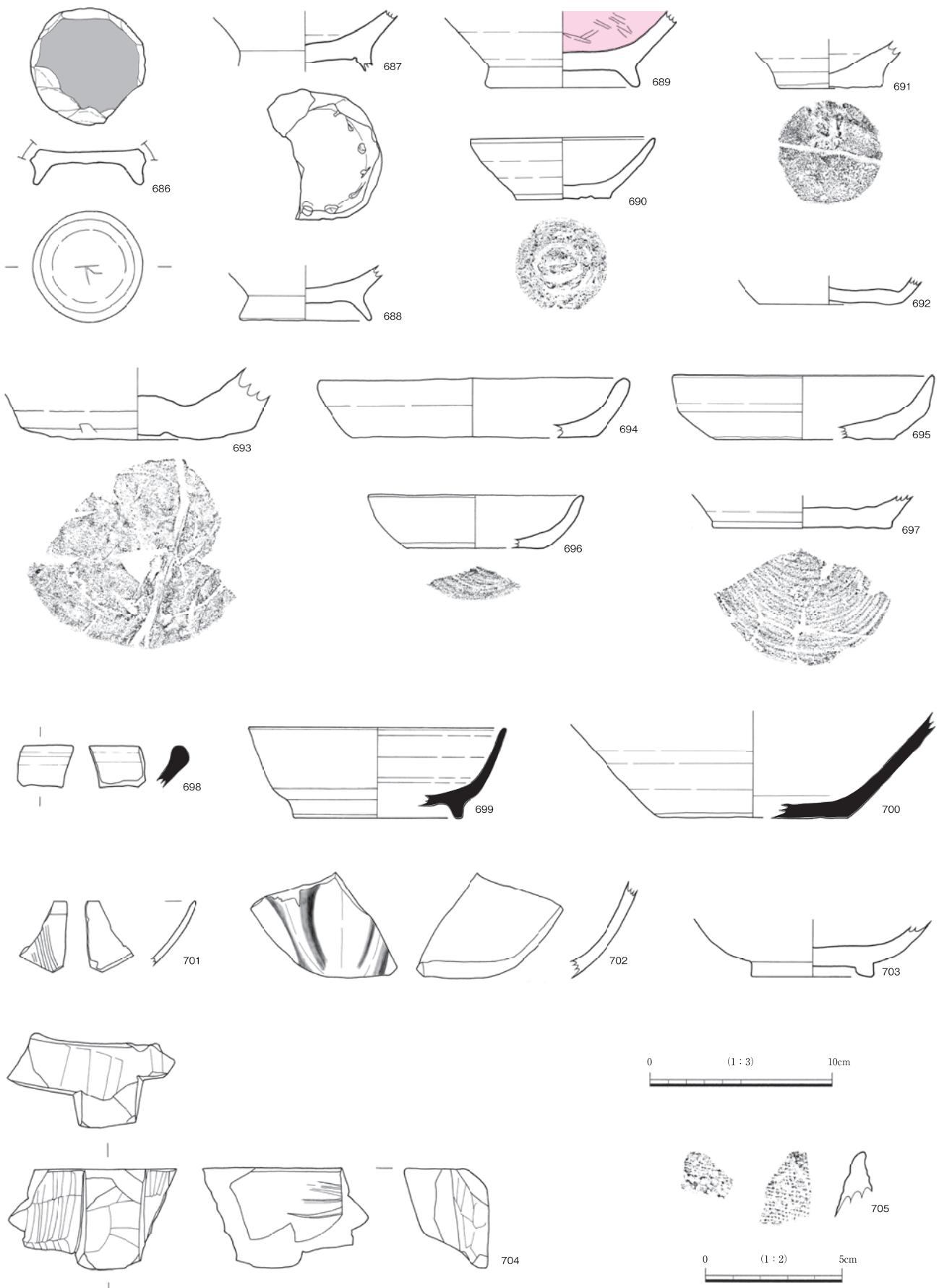
**その他（647～651）** 器形が不明で、残存箇所に他のものにはみられない特徴がみられるものを、その他として報告する。

647は、見込みが強く押圧され、底部は薄くなる。高台と体部の境界が一度凹み、そこから盛り上がって体部となる。高台は「ハ」の字状に開く。648は、高台は低く、大きく開く。高台の器壁は厚く、端部は角張るようにならんが成形される。高台の端部には、調整によるものと考え

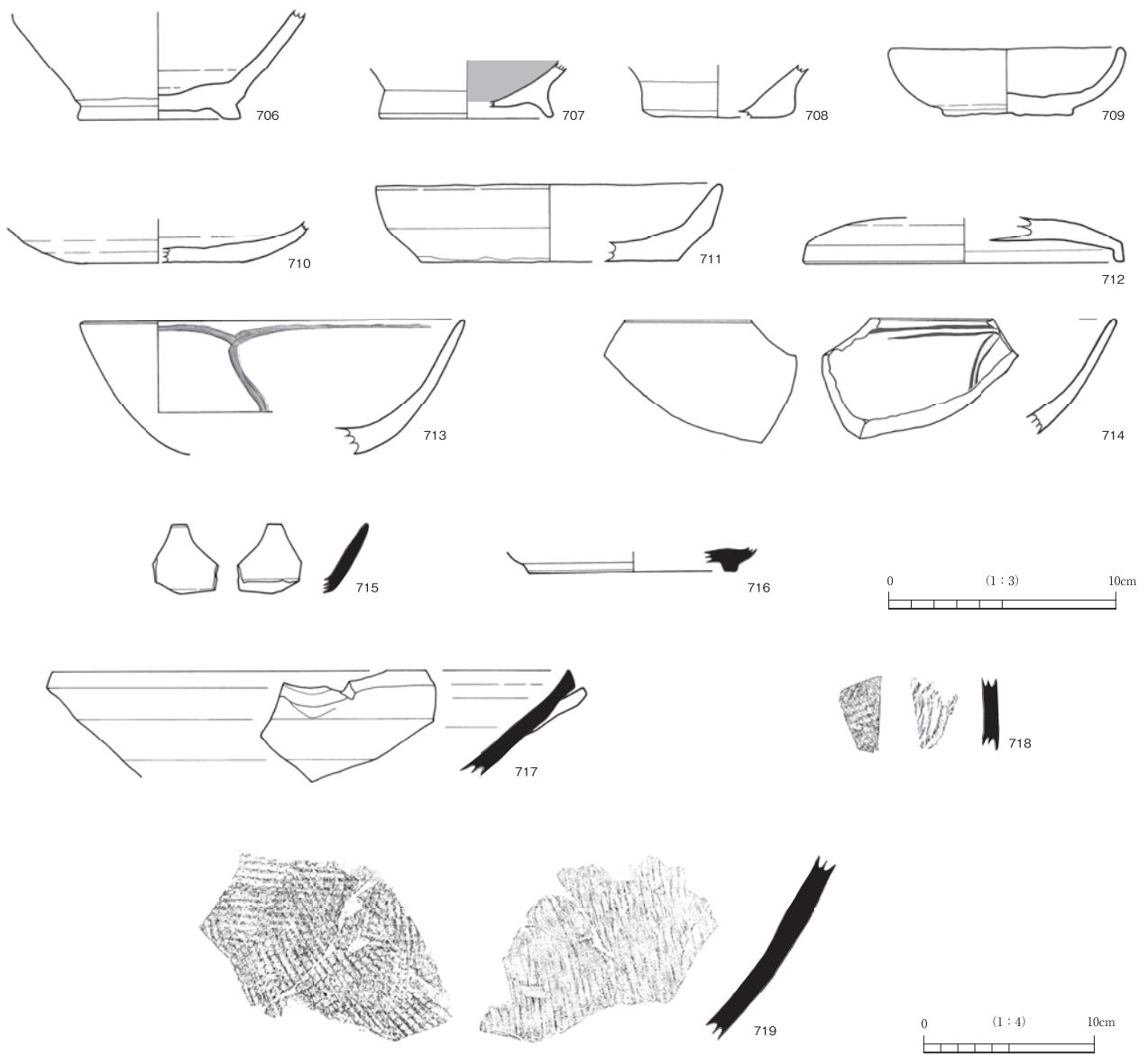
られる沈線状の凹みが巡る。底部は厚さ1.5cmと厚い。器形は壺2類に類似する。650・651は、見込みが押圧され薄くなる。土坑群から出土したものと類似する。

#### 内黒土師器（第97図652～654）

652～654は内黒土師器である。内面には、丁寧なミガキが施され、光沢がある。652は、唯一全体がわかる資料である。高台は低く、端部は角張る。体部は外傾し直線的である。器形は土師器壺2類に相当する。653は底部である。高台の形状から土師器壺2類に相当するとと思われる。底部は薄い。654は、壺の高台のみの出土で、652・653と比較して高台が高い。



第 100 図 SD38 上層・中層出土遺物



第101図 SD38 II層・撹乱ほか出土遺物

#### 土師器皿（第97図 655～663）

**土師器皿 1類** 655～657は土師器皿1類である。器高が平均1.5cmと扁平である。655は、見込みに反時計回りの強いナデが施され、わずかに凹凸が残る。

**土師器皿 2類** 658は高台を持つ土師器皿2類である。1点のみの出土である。器面全体に反時計回りのナデが施される。

**土師器皿 3類** 659・660は土師器皿3類である。659は、体部が直線的である。660は、体部がやや丸みを帯び、口縁部は内湾気味である。

**土師器皿 4類** 661～663は土師器皿4類である。坏3類の器高が低いタイプをさらに扁平にしたような器形である。

661は、体部がわずかに内湾し、口縁部は丸みを帯び

る。662は、内面に反時計回りの強いナデが施され、凹凸が残る。底部外面は黒色を呈する。663は胎土の粒子が小さく、表面が滑らかである。見込みは、押圧と強いナデが施され凹む。

#### 墨書土器（第97図 664）

664は墨書土器である。SD38下層出土のもので墨書を確認できたものは1点のみである。文字の判読には至らなかった。土師器坏6類である。

#### 緑釉陶器（第97図 665）

665は緑釉陶器の皿である。1点のみの出土である。内外面に劃花文がみられる。山元信夫氏によると、越州窯系青磁の模倣品で、5～6の輪花を有すると想定され

る。内外面にミガキが施されることから、京都産の可能性が高いということである。

#### 不明土器（第 97 図 666）

666 は、内面が黒色を呈する。鉄釉の可能性がある。

#### 土師器甕（第 98 図 667 ~ 672）

土師器の甕は、壺・塊を主体とする供献具と比較して出土量が圧倒的に少なく、全体の器形がわかるものも出土しなかった。

667 は、器壁が薄く、口径が 19.8cm と小型である。口縁部は開き、ナデが施される。体部外面には横方向のハケ目が、体部内面には右上方向のケズリが施される。668 は、器壁が厚く、口縁部は開く。口縁から体部上半にはナデが施される。体部の一部にはケズリの痕跡が認められる。

670 は、胎土に 3 ~ 10mm 程度の小礫を含む。胴部は直線的である。口縁部は短く、やや開く。胴部内面には左上方向のケズリが施され、器壁は薄い。胴部外面から口縁部内面には横方向のナデが施される。また、外面には煤が付着する。

671 は、体部が外傾することから、胴部の短い鉢状の器形になると想定される。胎土に 5mm 程度の小礫が含まれる。胴部外面上半には左上方向のナデが施され、器面に凹凸が認められる。胴部内面には、左上方向のケズリが施される。

672 は胴部下半である。胎土に 1 ~ 7 mm 程度の砂粒・小礫を含む。外面には横方向を基本としたハケ目が、内面にはケズリが施される。

#### 紡錘車・土師器二次加工品（第 98 図 673 ~ 676）

673 は土師器壺の底部を用いた紡錘車である。中央に直径 5 mm の穴が穿孔される。

674・675 は、高台の剥がれた箇所と体部に剥離が加えられている。676 は土師器塊 5 A 類である。高台が破損した後に、剥離が加えられている。

#### 須恵器（第 99 図 677 ~ 685）

677 は壺の口縁部である。内外面にナデが施される。678 は壺の底部である。内外面にナデが施される。679 は壺の底部である。調整は、内外面共に回転ナデが施される。

680 は備前系の壺の口縁部付近である。内外面は回転ナデが施され、外面には褐色の釉薬が施釉されている。内面は、口の広がった部分に自然釉が付着している。

681 は甕の頸部である。外面は格子目タタキで、内面は青海波の当具痕がある。外面には自然釉が付着している。683 は備前系の甕の胴部である。外面は格子目タタ

キで、内面には平行の当具痕がある。外面に茶褐色の釉薬が施釉されている。684 は甕の胴部である。外面は平行タタキで、内面は平行の当具痕である。

685 は器種不明である。外面は平行タタキ、内面は回転ナデが施される。

#### (ウ) 上層及び中層出土遺物（第 100 図）

中央層上層からの出土遺物は、糸切り底の土師器や、龍泉窯系青磁碗 1 類などが出土した。まとめて報告する。

#### 内黒土師器・二次加工品（第 100 図 686）

686 は内黒土師器の塊である。高台の形状から土師器塊 2 類に比定される。高台内面に「下」の字のような線刻が焼成後に行われる。また、見込みの外縁を意図的に剝離している。

#### 土師器（第 100 図 687 ~ 697）

687 は土師器塊 8 類である。高台を貼り付けナデ調整を施した後に、高台内面と高台の境界に刺突が施される。689 は、内面にミガキが施され、さらに赤色顔料が塗布される。高台の形状から土師器塊 2 類に比定される。688 は土師器塊 3 類である。胎土に軽石が混入されている。

690 は土師器壺 3 類である。692 は壺もしくは皿である。胎土に 1 ~ 3 mm 程度の小礫が含まれる。見込みと体部の境界に同心円状に強いナデを施し凹ませる。

693 は大塊もしくは鉢である。底部外面に棒状の圧痕が認められる。

694 ~ 697 は、底部切り離しが糸切りの土師器である。

#### 須恵器（第 100 図 698 ~ 700）

698 は口縁が肥厚し、丸みを帯びる。山元信夫氏によると、東播系の須恵器で、篠産で確実であるということであった。

699 は、壺の口縁部から胴部である。700 は鉢の底部である。外面には回転ナデが施される。

#### 青磁（第 100 図 701 ~ 703）

701 は同安窯系青磁の碗である。外面に縦方向の櫛目文がみられる。702・703 は龍泉窯系青磁碗 1 類である。702 には連弁文がみられる。703 は、見込みに目跡が認められる。

#### 滑石製品（第 100 図 704）

704 は滑石製石鍋で、縦方向の把手がつくタイプである。口唇部の把手の左右で器壁の厚さが異なるが、外面に煤が付着することや調整痕から判断して、二次加工・再利用によるものではない。外面は、鑿による調整の痕跡が明瞭に確認される。

### 焼塙土器（第 100 図 705）

焼塙土器は 705 の 1 点のみが出土した。内面から外面の口縁部付近まで布目の圧痕がみられる。体部上半から口縁に向けて鋭く先細りする。

### (工) 埋土上半(Ⅱ層相当層)及び攪乱出土遺物(第 101 図)

SD38 の埋土上半及び攪乱から出土した資料を一括して報告する。

### 土師器・内黒土師器（第 101 図 706～712）

706 は土師器塊 2 類である。黄橙色を呈し、胎土には 1～3 mm 程度の砂粒が含まれる。

707 は内黒土師器の塊である。残存している範囲での底部の厚さが 2.5mm と非常に薄い。高台内面と高台の境界には強いナデが施され、凹む。高台の器壁は薄いが、端部は丁寧に成形され、平坦面が作り出される。

708 は土師器の塊である。底部の厚さが 3.5mm と薄い。内外面に丁寧なナデが施される。塊 6 類に該当する。

709 は土師器塊 3 類である。底部が厚く、円盤状になる。体部は丸みを帯び、外面下端にケズリの痕跡が認められる。

710 は土師器皿で、胎土の粒子が小さく、表面は滑らかである。内外面の調整が非常に丁寧であり、外面にはヘラミガキが施される。

711 は塊で、底部切り離しは糸切りである。底部外面と体部の立ち上がりには明確な稜がつく。体部下半は外傾するが、中程で稜をもって立ち上がり口縁部となる。

712 は土師器の蓋である。

### 青磁（第 101 図 713・714）

713・714 は龍泉窯系青磁碗 1 類である。713 は口縁部に輪花は認められず、内面には方彫りで 4～5 分割されるが、飛雲文・花文は認められない。

### 須恵器（第 101 図 715～719）

715 は塊の口縁部から底部である。内外面共にナデが施される。716 は塊の底部である。内外面共にナデが施される。外面には全面に自然釉が付着している。717 はこね鉢の口縁部注口である。内外面共に回転ナデが施される。718 は壺の胴部である。外面は平行タタキの後に、回転カキメが施される。719 は甕の胴部である。外面は格子目タタキで、内面には平行な當具痕がみられる。外面全体に薄い釉薬が施釉されている。

### (4) 遺構外出土遺物（第 102・103 図）

古代の遺構外における出土遺物は、包含層及び表土、攪乱のものがあるが、出土量が少ないと一括して報告する。

#### ア 土師器（第 102 図 720～734）

720 は土師器の蓋である。外面にはヘラケズリとナデが施され、わずかに凹凸が残る。

721・722 は土師器塊 5 類に該当する。722 は底部外面に「一」の字状の線刻が施される。723 は土師器塊 6 類である。底部外面には、丁寧にナデが施され、ナデ調整後に「一」の字状の線刻が施される。

724～726 は皿である。724 は、体部の器壁は厚めで、体部は丸みを帯びる。内面は見込みの中心から反時計回りにやや強めのナデが施される。外面の口縁部と体部には丁寧なナデが施される。725 は、見込みの中央付近が凹み、内外面ともに底部と体部との境界が不明瞭である。器面の調整が丁寧で、内面にはヘラミガキが、外面にはヘラケズリの後にミガキが施される。726 は皿の底部である。

727 は土師器塊 1 類である。焼成が非常に良好で、硬質である。高台は低く、断面が台形状になる。728 は塊 3 類で、高台は低く、「ハ」の字状に開くが、わずかに内湾する。底部の厚さが 3.5mm と非常に薄い。

729・730 は甕である。729 は口径 15.6cm で、やや小型の甕である。内面には煤が付着する。口縁部は開き、胴部は張り出すと想定される。外面から口縁部内面には丁寧なナデが施される。胴部には左上方向のケズリが施されるが、胴部と口縁部の境界には横方向のケズリが施される。

730 は、口縁部は短く、やや開く。口唇部は先細りし、先端は丸くなる。外面から口縁部内面には丁寧なナデが施される。胴部内面には右上方向のケズリが認められる。731 は、器壁が薄い。口縁部は開き、口唇部は角張る。外面は横方向のハケ目を施した後に、ナデが施される。732 は、口縁部は短く、わずかに開く。外面には丁寧なナデが施される。口縁部内面には目の小さなハケ目がみられる。胴部内面にはほぼ真横に近い左上方向のケズリが認められる。

733 は頸部の破片資料である。胎土が赤褐色を呈し、胎土に滑石の混入が認められる。胴部外面には縦方向のハケ目が、胴部内面には左上方向のケズリがみられる。

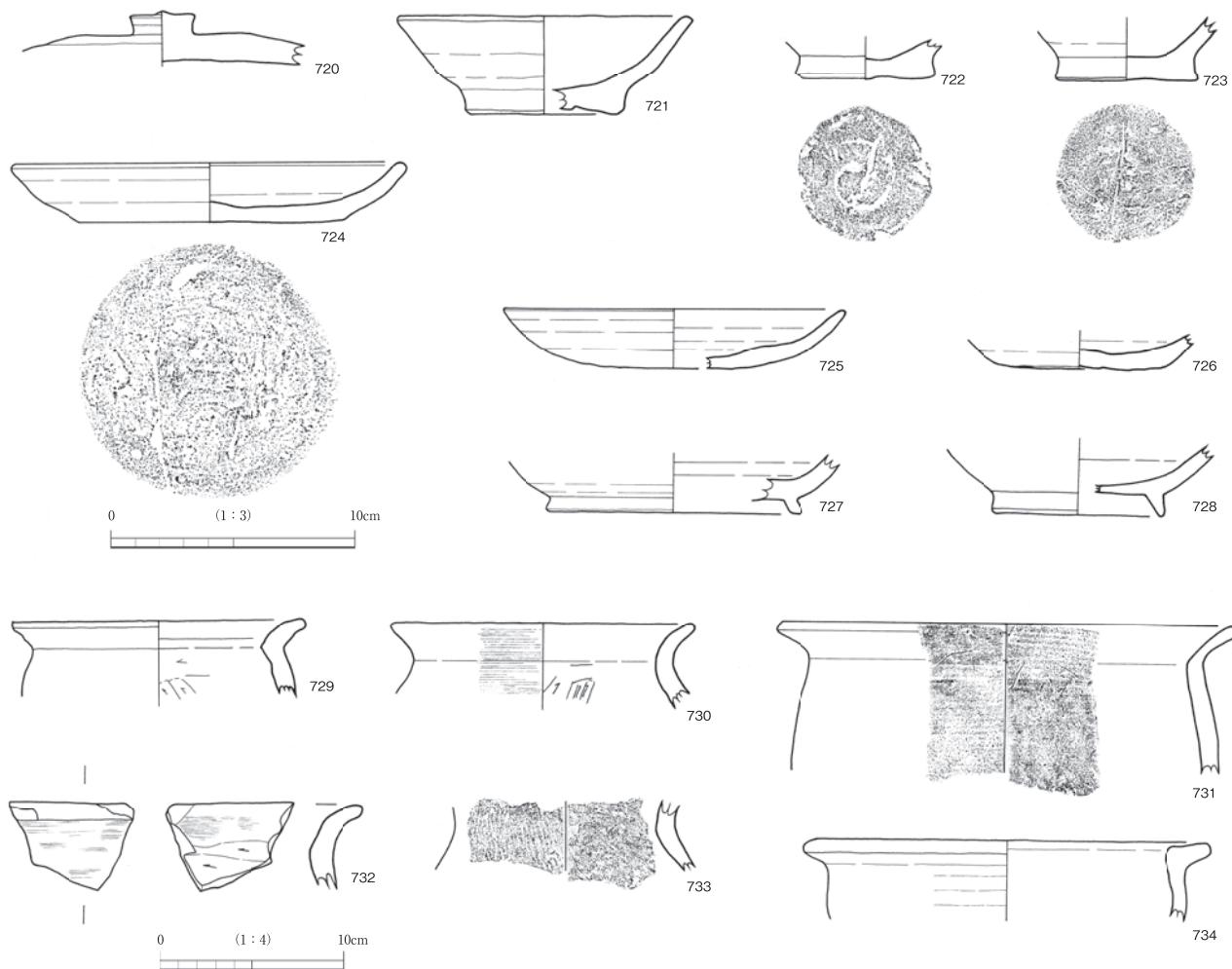
734 は口径 22cm である。口縁部は短く、開く。口唇部は角張る。胴部の短い鉢状になると想定される。

#### イ 須恵器（第 103 図 735～753）

735・736 は蓋である。735 は、天井部が低く扁平である。内外面共に回転ナデが施されている。外面には自然釉が付着している。また、内面には、重ね焼きによる付着物が見られる。736 は、天井部が高く全体的にやや丸みを帯びている。外面はケズリの後にナデが施されている。外面には重ね焼きによる付着物がみられる。

737 は高台付塊である。高台の幅は狭く、高さが低い。

738～740 は塊で、全て底部の切り離しはヘラ切りで



第 102 図 遺構外出土遺物①

ある。738 は、口縁部から受け部が消失している。外面全体に自然釉が付着している。739 は、外面はヘラケズリによる成形の後に、ナデによる調整が施される。外面全体に自然釉が付着している。740 の外面は、ヘラケズリによる調整が施される。成形時の轆轤回転は、738・740 は右回転で、739 は左回転である。

742～745・750 は壺である。742 ナデの方向が上下で異なり、その境目に接合痕が見られることから、上下を別々に製作し、最後に接合して製作していると考えられる。743 は壺としているが、底部にタタキが施されていることから、壺ではない可能性もある。

744 は、胴部に丸みが無く、高台は外傾する。胴部下半の内外面はケズリにより成形され、胴部外面は平行タタキにより成形されている。内面には、板状の当具による痕跡が観察できるが、全面に丁寧なナデが施されている。

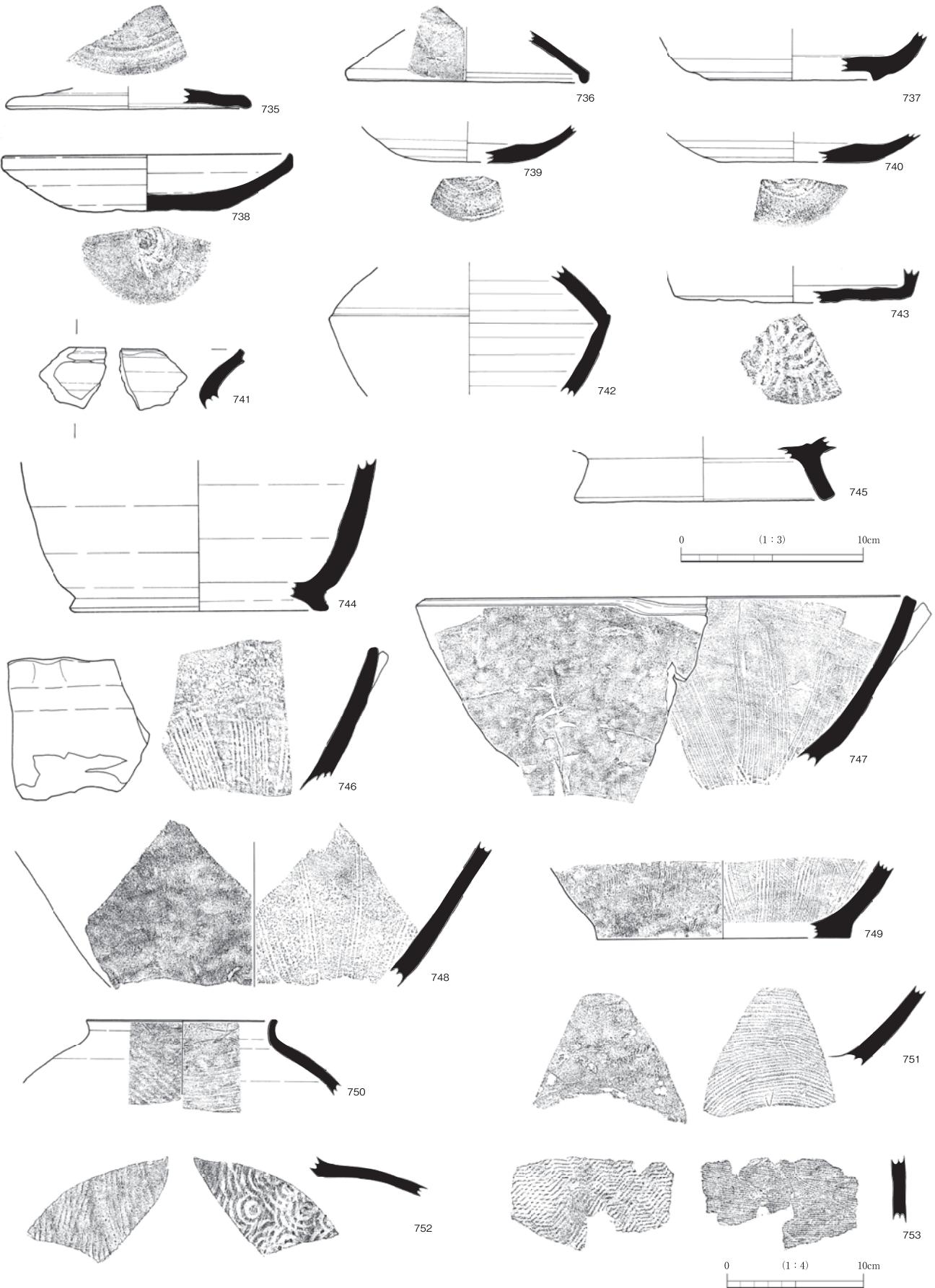
745 は壺の底部で、底部内面は絞った様な皺がある。

750 は口縁部である。外面に刺突文を施文した後に、丁寧な回転ナデが施されている。

741・752 は甕である。741 は内外面に回転ナデが施されている。752 は、外面が平行タタキにより成形されている。外面全体には透明度の高い自然釉が付着している。

751・753 はこね鉢である。753 は外面に「ハ」の字状のタタキによって成形されている。内面はヘラによる調整が施されている。751 は、外面にナデが施されているが、全体的に摩滅している。内面には、ヘラによる調整が施されている。

746～749 は擂鉢である。747 は内面に 11 本で 1 セットのすり溝がみられる。749 は、内面に木製工具によるナデが施されており、10 本で 1 セットのすり溝が施されている。748 は、7 本で 1 セットのすり溝が施されている。746 は 10 本で 1 セットのすり溝が施されている。



第103図 遺構外出土遺物②

## 4 中世の調査

### (1) 調査の概要

中世の調査は、主に M ~ P - 23 ~ 28 区で行った。遺構の分布域は縄文時代のものと重複する。縄文時代の調査と同様に、Ⅲ層が残存している地点ではⅢ層直下で、それ以外の地点では表土直下で遺構の検出を行った。遺構検出面はⅣ層、V層、VI層のいずれかであり、当該時代の生活面から下層で遺構を捉えていることになる。なお、黒～灰褐色を呈する遺構埋土を中世に該当するものと判断し、縄文時代の遺構と区別した。

中世の遺構は、掘立柱建物跡 4 棟、方形堅穴建物 1 基、堅穴状遺構 3 基、土師器埋納柱穴 1 基、土壙墓 2 基、土坑 3 基、炭化物集中箇所 1 基、焼土 2 基、柱穴 64 基を検出した。また、3 古代の調査で述べたとおり、SD38 の中層及び上層からは、中世の遺物が出土している。

遺構の調査は、まず検出状況の記録写真を撮影し、必要に応じて検出状況の実測を行った。その後、方形堅穴建物と堅穴状遺構については、十字に土層観察用のベルトを設定し、4 分の 1 ずつ掘り下げを行った。それ以外の遺構については、半截し、堆積状況を観察しながら掘り下げを行った。土坑の床面の判断は、埋土堆積状況の

変化や埋土に含まれる炭化物の有無、硬化面等の把握に依った。

遺物の取り上げは、土器・陶磁器類の小破片については、掘り下げ時にグリッドごとに一括で取り上げた。大型の破片については、遺構検出後に、遺構との関係の有無を判断し、遺構と関係がないものはグリッド一括で取り上げ、遺構との関係があるものは遺構内出土遺物と同様の取扱いをした。

### (2) 遺構

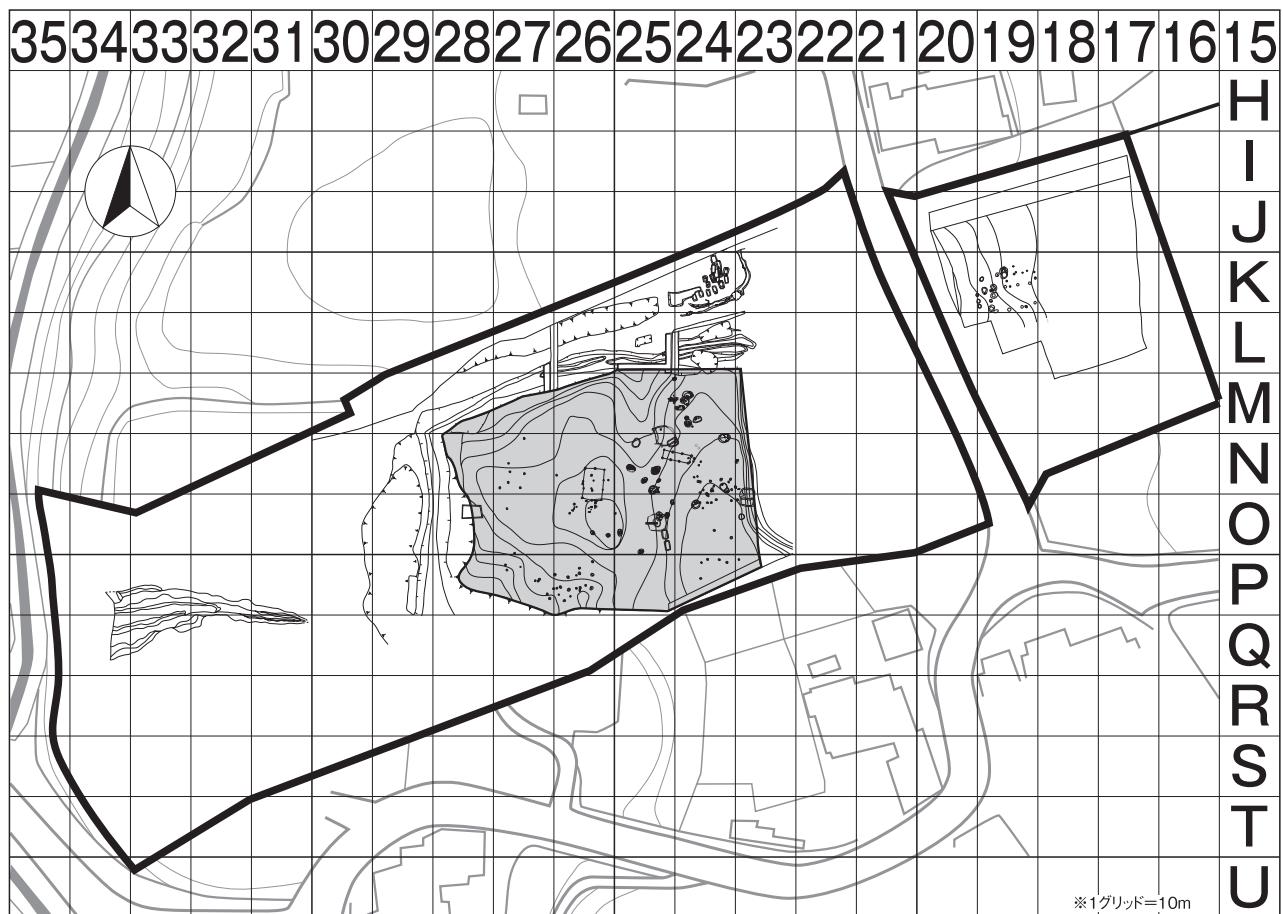
#### ア 掘立柱建物跡（第 107・108・110 図）

掘立柱建物跡は 4 棟検出された。規格や柱穴の形状等に共通性はみられない。

#### SB16（第 107 図）

**検出状況** N・O - 26 区、VI 層上面で検出された。

**規格・規模** 規格は 2 間 × 3 間で、総柱である。主軸は N 5° E を示す。柱間は、桁行が一間 120 ~ 220cm、梁行が一間 156 ~ 176cm である。P 8 及び P12 は、並列して 2 基の柱穴が検出されていて、柱を立て替えた可能性がある。



第 104 図 中世の調査範囲（アミの範囲）

**柱穴の形状・埋土** 柱穴の平面形は円形もしくは橢円形を基本とする。規模は直径 20 ~ 37cm, 檜出面からの深さ 33 ~ 76cm とややばらつきがある。埋土は黒褐色土で、床面付近のしまりが強い。埋土から土器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

#### SB41 (第 107 図)

**検出状況** N - 24・25 区, VI 層上面で検出された。

**規格・規模** 規格は 1 間 × 3 間で、主軸は N12° W を示す。柱間は、桁行が一間 136 ~ 160cm, 梁行が一間 128 ~ 146cm である。

**柱穴の形状・埋土** 柱穴の平面形は、円形もしくは橢円形である。規模は直径 21 ~ 40cm, 檜出面からの深さ 30 ~ 56cm で、規模にばらつきがある。埋土は黒褐色土で、床面付近のしまりが強い。埋土から土器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

#### SB119 (第 107・108 図)

**検出状況** N・O - 24 区, V 層上面で検出された。分布が SI11 と重複していて、P5 (SP87) が SI11 を切っている。

**規格・規模** 規格は 2 間 × 3 間で、主軸は N 3° W を示す。柱間は、桁行が一間 166 ~ 196cm, 梁行が一間 168 ~ 189cm である。

**柱穴の形状・埋土** 柱穴の平面形は、円形もしくは橢円形である。規模は直径 33 ~ 44cm, 檜出面からの深さ 29 ~ 52cm で、規模にばらつきがみられる。埋土は黒褐色土で、床面付近のしまりが強い。

**P5・出土遺物** P5 は SB119 を形成する柱穴のひとつで、平面形が橢円形を呈する。規模は 41 × 29cm で、検出面からの深さは 52cm である。P5 の検出面付近で滑石製石鍋 (757) が出土した。一部欠損するが、ほぼ全体が残存している。757 は、鍔が巡るタイプの石鍋で、外面には器面を整形する際の鑿痕が明瞭に観察できる。

また、特筆すべき点として、SP79 の埋土から出土した破片と接合したことを挙げられる。ただし、意図的に異なる柱穴に納められたのか否かは不明である。

#### SB120 (第 110 図)

**検出状況** SB120 は P - 26 区, VI 層上面で検出された。

**規格・規模** 規格は 2 間 × 3 間で、主軸は N 7° W を示す。柱間は、桁行が 188 ~ 218cm, 梁行が 211 ~ 224cm である。

**柱穴の形状・埋土** 平面形は橢円形で、規模は長径 34 ~ 64cm, 檜出面からの深さ 30 ~ 60cm である。埋土は褐色土で、他の掘立柱建物跡の埋土と比較して粘性が弱く、しまりもない。

**P1 (SP81)・出土遺物** SB120 を構成する柱穴では、P1 (SP81) から瓦質土器と青磁碗が出土した。瓦質

土器 3 点を図化した。758 は、釜の口縁部で、口縁部はやや肥厚する。759・760 は擂鉢で、体部の外傾が弱い。口縁部は断面三角形状に成形され稜を持つが、全体的に歪む。

また、図化には至らなかったが、青磁碗は高台付近が出土したが、線描の連弁文を持つものである。

#### イ 土師器埋納柱穴 (第 109 図)

##### SP79 (第 109 図)

**検出状況** N - 24 区, V 層上面で、土師器が一部露出する状態で検出された。

**形状・規模** 平面形は橢円形で、規模は長軸 28cm, 短軸 24cm, 檜出面からの深さ 36cm である。床面は平坦で、断面形は円筒形になる。

**埋土** 埋土はにぶい黄褐色土で、上部は、しまりがなく粘性も弱いが、下部は、やや粘性があり、しまりが強くなる。

**遺物・礫出土状況** SP79 からは、土師器坏 2 点、青磁碗 1 点、滑石製石鍋の破片 2 点、礫 14 点が出土した。

土師器の坏は、大小を入れ子状にし、伏せられた状態で検出された。土師器坏の直下からは、扁平な安山岩が横位で検出された。さらに、その安山岩の下部から、他の礫と青磁碗、滑石製石鍋が検出された。

ほとんどの礫には被熱や整形等の痕跡は確認されなかつたが、最上部から検出された安山岩には被熱の痕跡がみられ、被熱後に一部を打ち欠いて扁平になるように整形した痕跡が観察される。

以上のことから、柱穴の機能喪失後に、根石を再利用もしくは新たに礫を配し、その上に扁平に整形された安山岩を水平に据え台状にし、土師器の坏 2 点を配したものであると想定される。

**遺物** 755・756 は土師器の坏である。755 は口径 13.2 cm, 756 は口径 9.0cm で、大小のセットである。底部の切り離しは糸切りによる。底部外面は水平だが、立ち上がりは丸みを帯びる。内面には雑なナデが施される。

757 は、龍泉窯系の青磁碗である。見込みに方彫りによる草花文がみられる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 I 類である。754 は上述のとおりである。

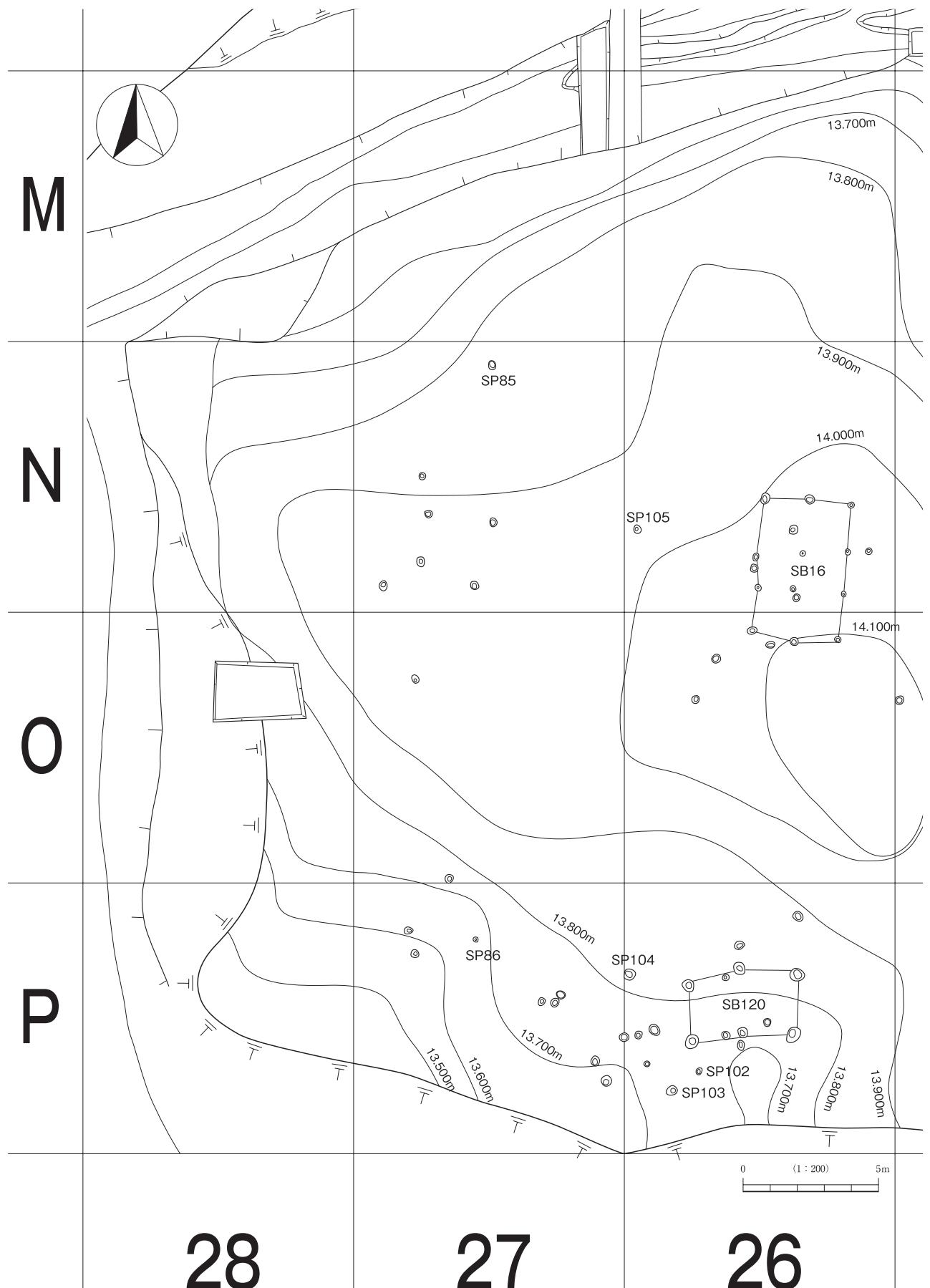
#### ウ 方形豎穴建物・豎穴状遺構

平面形が方形で、一辺が 2m を超えるものを方形豎穴建物・豎穴状遺構とした。確実に建物跡と判断できたものを方形豎穴建物、それ以外のものを豎穴状遺構とした。

#### (ア) 方形豎穴建物 (第 111・112 図)

##### SI7 (第 111・112 図)

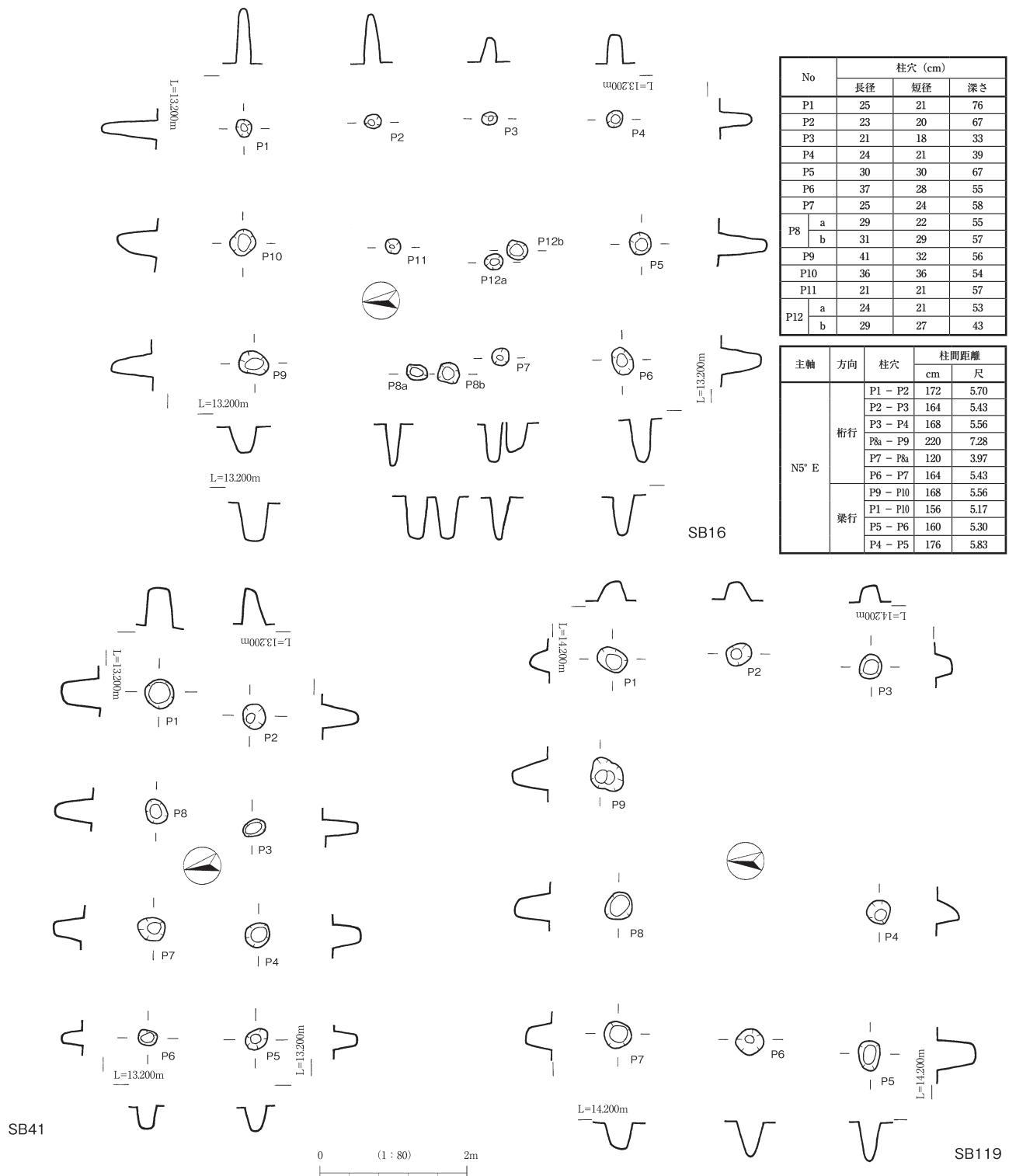
**検出状況** N・O - 23 区, V・VI 層上面で検出された。後世の削平により、遺構の東側の上部は残存していない。



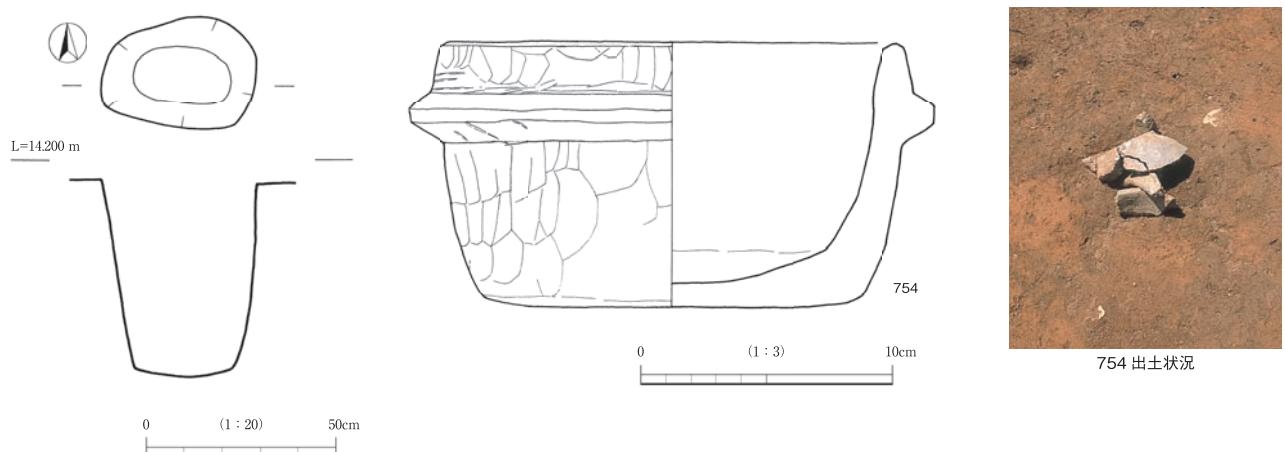
第105図 中世の遺構配置図(1)



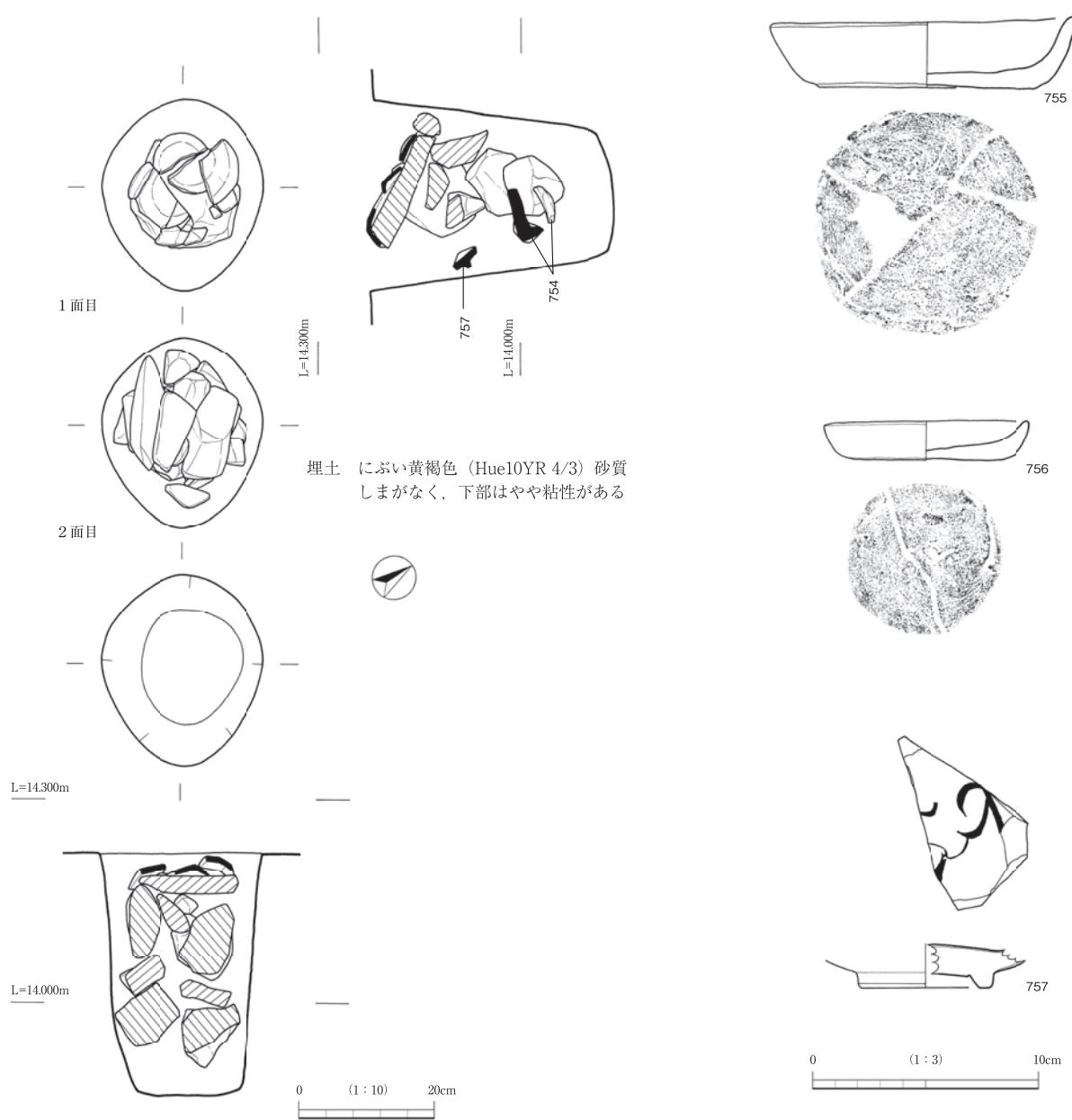
第 106 図 中世の遺構配置図 (2)



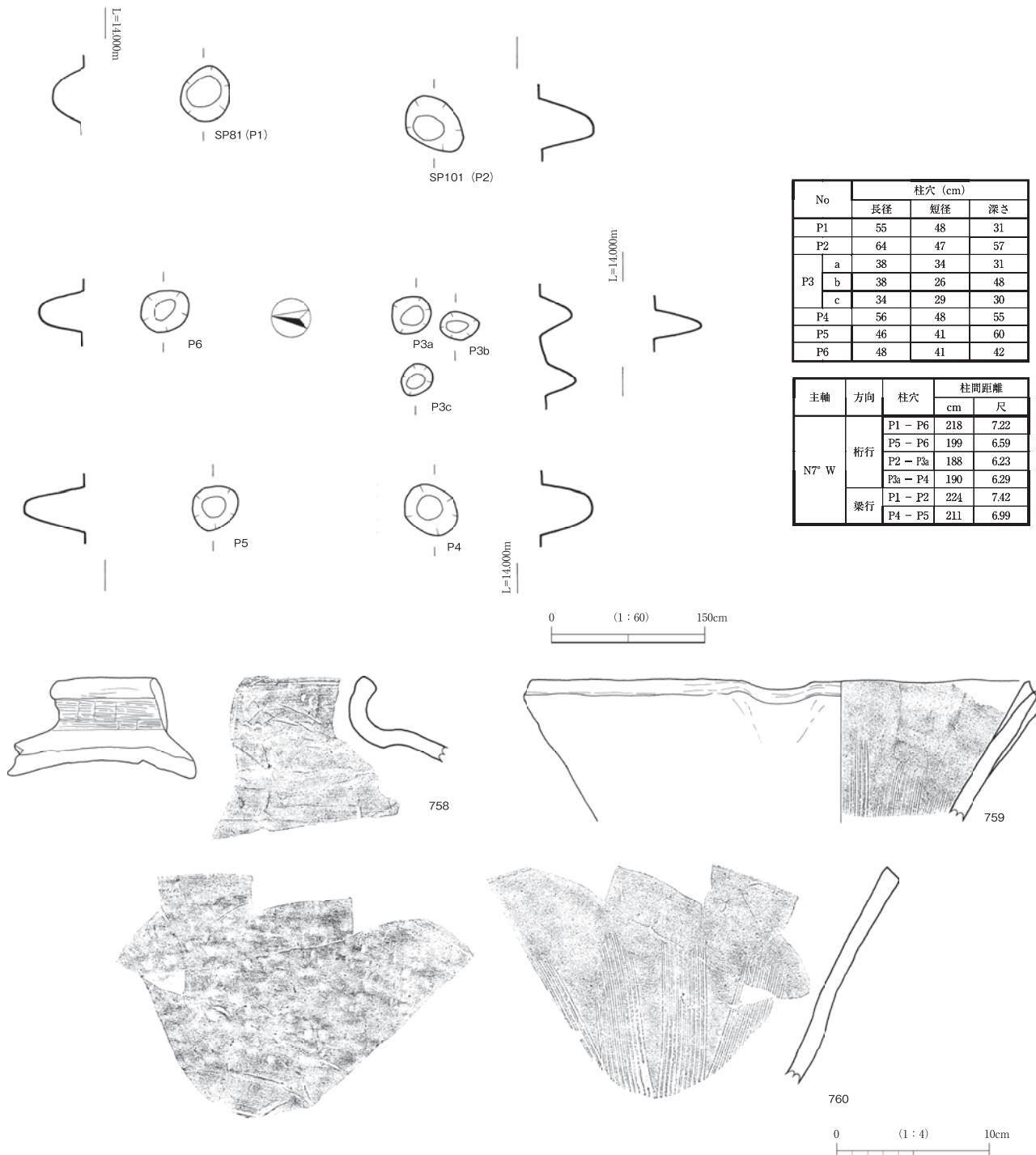
第 107 図 SB16, SB41, SB119



第 108 図 SB119 – P5・出土遺物



第 109 図 SP79・出土遺物



第110図 SB120・出土遺物

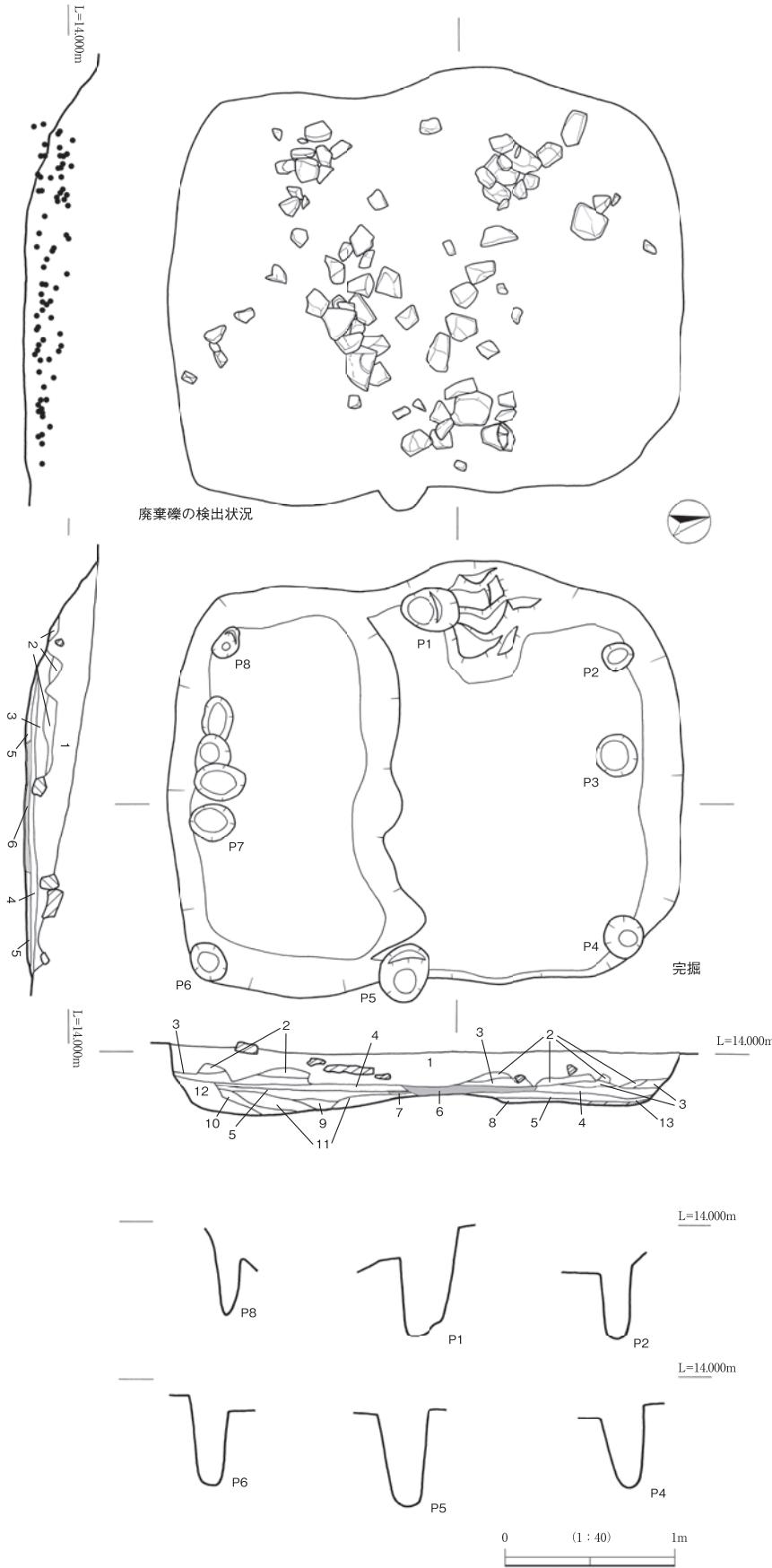
**形状・規模** 平面形は南北に長い長方形で、規模は南北304cm、東西247cmである。床面は平坦でなく、南側が10～15cm程度深く掘り下げられていて、段掘り状になる。壁面は、床面からほぼ垂直に立ち上がるが、西側中央部は、地山がスロープ状に掘り残されている。

**埋土** 埋土は13層に分層した。埋土2・4・5及び8は、粘性が強くしまりもよいことから、床面と判断した。床面は貼り床ではなく、床面として利用する際に、叩きしめられたような状況であった。また、埋土6・7は遺

構の中央付近で確認されたが、しまりがなく炭化物を多く含む。堆積状況から、埋土4・5が床面として機能していた際の地床炉と想定される。

南側の段掘り部分には、粘性のあるややしまる埋土が堆積していたが、床として機能していたものか否かは判断できなかった。また、埋土12はP7の埋土である。

**柱穴** 柱穴は8基確認された。P1・P2、P4～P6、P8は、平面形が円形ないし橢円形で、規模は長径20～30cmである。床面からの深さは40～55cmで、しっ



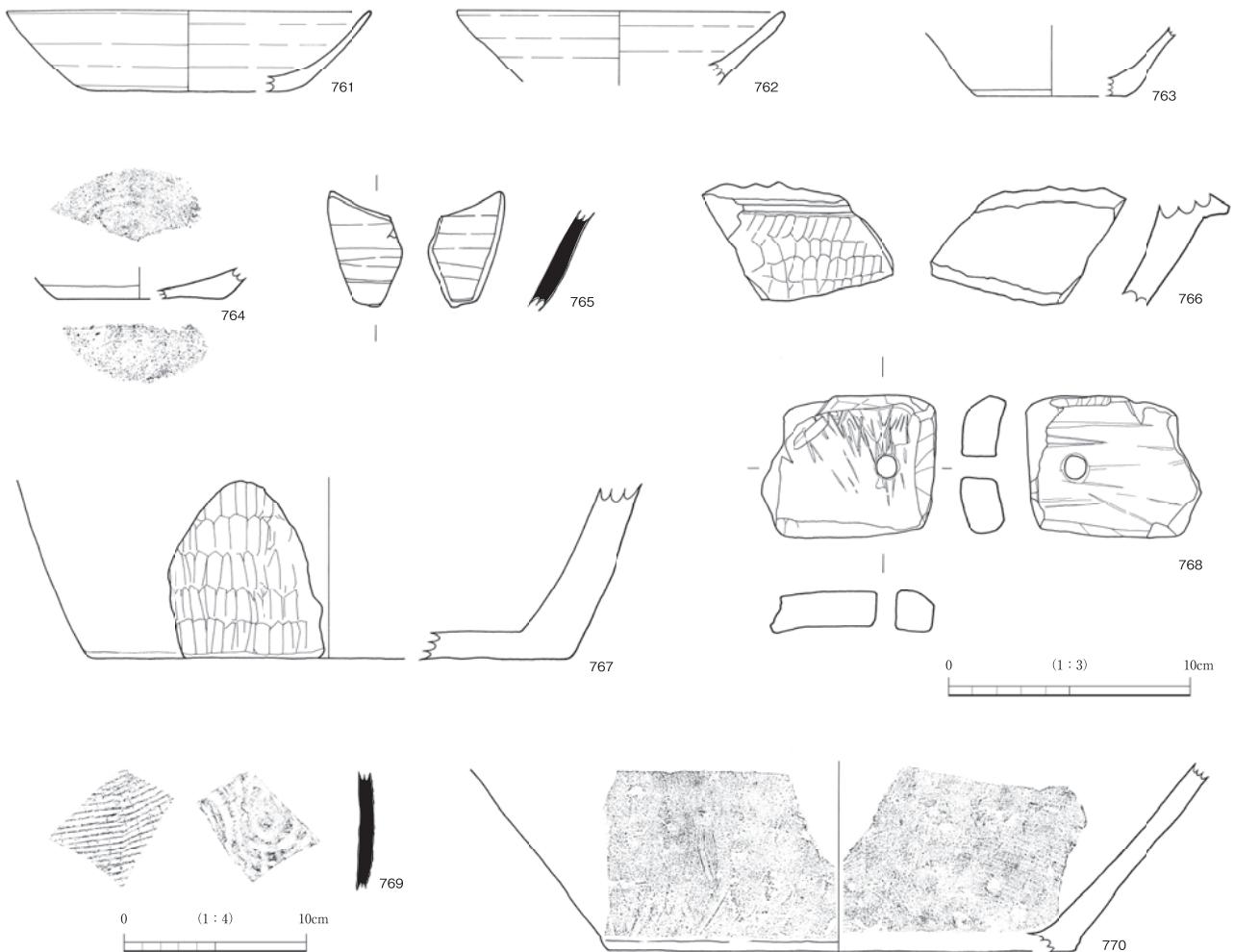
#### 埋土注記

- 1 黒褐色土 (Hue10YR 2/2)  
やや粘性があるが、しまりはない
- 2 床面 1  
黒褐色～褐色土 (Hue10YR 2/2 ~ Hue7.5YR 4/4)  
粘性があり、固くしまる
- 3 暗褐色土 (Hue10YR 3/4)  
とても粘性が強くよくしまる
- 4 床面 2  
褐色土 (Hue10YR 4/4) 砂質  
水分を含むと粘性が強くなる  
固くしまる。10mm程度の軽石が混じる  
上面は上から 2段目の床面
- 5 床面 3  
灰黄褐色土 (Hue10YR 4/2)  
かなり粘性が強く、固くしまる
- 6 暗赤褐色土 (Hue2.5Y3/2)  
粘性は弱く、しまりもない  
多量のカーボンを含む。床面 2・3 の地床炉
- 7 埋土 5 にカーボンも多量に含む
- 8 床面 4 ?  
褐色土 (Hue10YR4/6) 粘性が強く、しまる
- 9 にぶい黄褐色土 (Hue10YR 5/4) 砂質
- 10 暗褐色土 (Hue10YR 3/4)  
砂質でやや粘性がある。1 ~ 10mm程度の礫含む
- 11 暗赤褐色土 (Hue2.5Y 3/3)  
粘質があり、しまる
- 12 暗赤褐色土 (Hue2.5Y 3/3) P7 の埋土  
粘質性があり、固くしまる
- 13 にぶい黄褐色土 (Hue10YR 5/4)  
砂質 やや粘性がある

No	柱穴 (cm)		
	長径	短径	深さ
P1	32	25	48
P2	20	16	40
P4	25	24	43
P5	30	22	55
P6	24	20	48
P8	20	16	40

主軸	方向	柱穴	柱間距離	
			cm	尺
N9° E	桁行	P1 - P2	120	3.97
		P1 - P8	116	3.84
		P4 - P5	136	4.50
	梁行	P5 - P6	117	3.87
	梁行	P2 - P4	168	5.56
		P6 - P8	188	6.23

第 111 図 SI 7



第 112 図 SI 7 出土遺物

かりと掘り込まれている。埋土はにぶい黄褐色を呈し、やや粘性がある。P 1 と P 5 は埋土 3 の直下で、P 2・P 4・P 6・P 8 は埋土 4 の直下で検出された。なお、P 6 と P 8 は段掘り部分に掘り込まれているが、柱穴に沿って地山が盛り上がったような状況である。そのことから、まず柱穴を掘り込み、その後に、段掘り部分が掘削された可能性が高い。

P 7 は埋土 3 の直下で、4 つの柱穴が切り合ったような状況で検出された。掘り込みは浅く、地山までは及んでいない。P 8 は完掘後に、深さ 2~3 cm 程度の凹みとして検出された。

**礫** 埋土 1 に含まれる形で、礫が多数検出された。礫には縄文時代の石器も含まれる。方形堅穴建物としての機能喪失後に、西側から廃棄あるいは流れ込んだものと想定される。

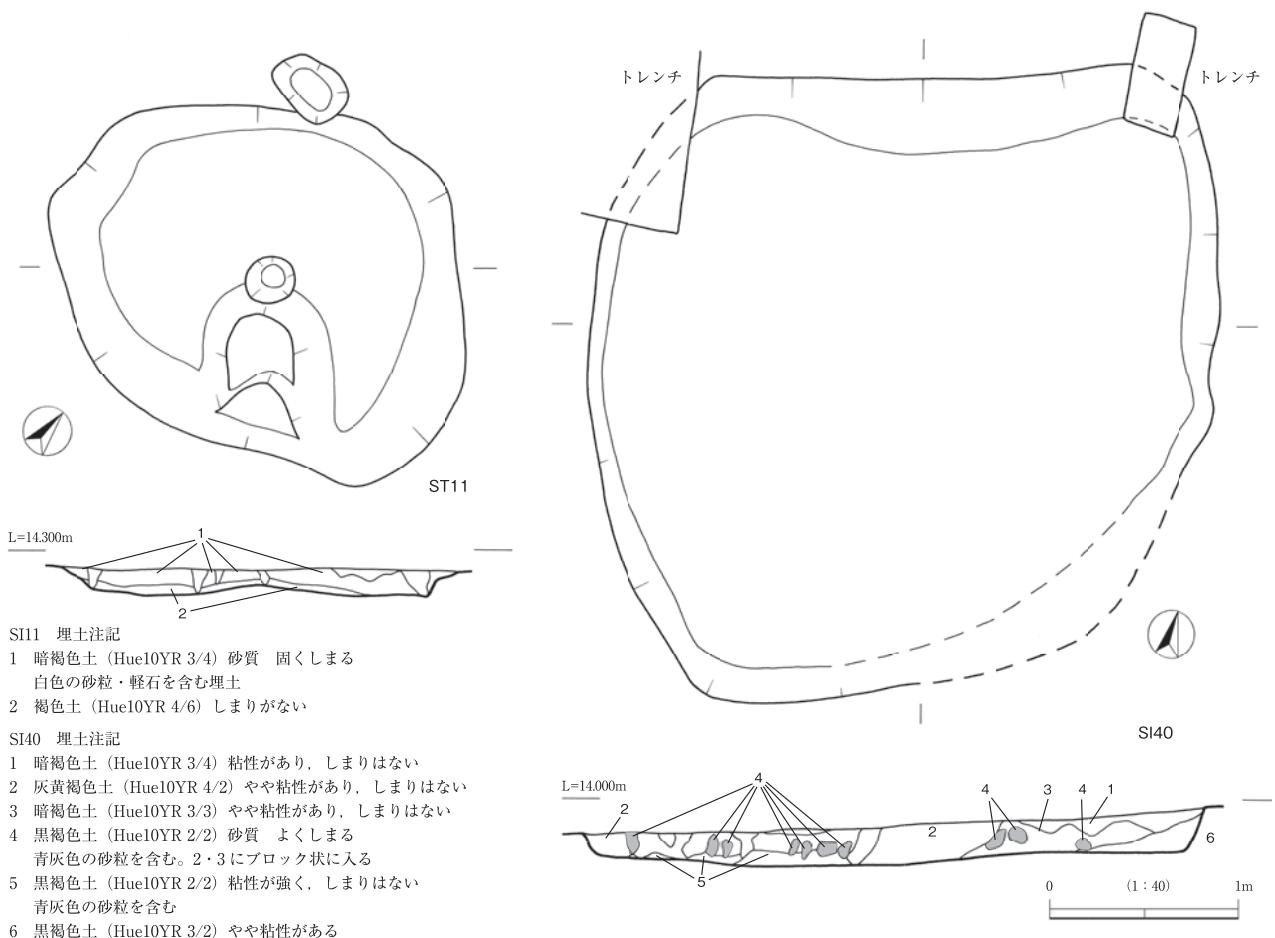
**遺物** SI 7 の埋土からは、土器 108 点、須恵器 3 点、陶器 1 点、滑石製品 3 点が出土した。遺物はいずれも破片である。土器 4 点、須恵器 2 点、陶器 1 点、滑石製品 3 点を図化した。

761 は土師器の坏で、段掘り部分から出土した。胎土に 1~3 mm 程度の砂礫を含む。器面は摩滅していて、底部の切り離し技法は不明である。底部から体部の立ち上がりは丸みを帯び、口縁部に向かって先細りする。

762~764 は土師器で、埋土 1 から出土した。色調は橙色を呈し、胎土に 1~2 mm 程度の白色の鉱物を含む。762・763 は坏で、底部から体部の立ち上がりは丸みを帯びて、体部は外傾する。764 は底部で、切り離しは糸切りによってなされる。

765 は須恵器の塊である。769 は須恵器の甕で、傾きは不明である。770 は陶器の甕である。

766・767 は滑石製の石鍋である。766 は鍔が巡るタイプである。外面には鑿による加工痕が明瞭に残り、全体に煤が付着する。767 も外面に煤が付着する。また、割れ口が研磨されていて、再利用が試みられている。768 は滑石製石鍋の底部付近を温石として再利用したもので、左側は欠損する。穿孔され、裏面にはその上部に紐擦れ痕と想定される擦痕が認められる。表面には線刻状の加工痕がみられる。



第 113 図 SI11, SI40

#### (イ) 穴状遺構 (第 113・114 図)

##### SI11 (第 113 図)

**検出状況** O - 24 区, V 層上面で検出された。黒くシミ状に検出され、平面形が不明瞭であった。そこで、検出後にトレンチを設定し埋土の堆積を観察し、平面形を決定した。また、SB119 - P 5 や他の柱穴に切られる。

**形状・規模** 平面形は歪んだ円形で、規模は長軸 208cm、短軸 194cm である。検出面からの深さは 14cm で、床面は凹凸を残し、特に南側は地山が掘り残されていて盛り上がる。壁面は緩やかに立ち上がり、外傾する。

**埋土** 埋土は暗褐色土で、砂質で固くしまっている。埋土は樹痕により汚染されている。

**遺物** 遺物は青磁の小破片が 1 点のみ出土したが、詳細は不明である。

##### SI40 (第 113 図)

**検出状況** M・N - 25 区, VI 層上面で検出された。南東側は SK39 に切られる。

**形状・規模** 平面形は隅丸方形で、規模は長軸 328cm、短軸 320cm である。検出面からの深さは 22cm で、断面形は、床面はほぼ水平で、壁面の立ち上がりは垂直に近い。

**埋土** 埋土は粘性のある灰～黒褐色土を基本とする。

埋土 2 及び埋土 3 に、埋土 4 がブロック状に入る。小林哲夫氏によると、埋土 4 にはアカホヤ火山灰とシラスに由来する高温石英や小岩片、結晶片が含まれることから、アカホヤ火山灰とシラス物質が泥水のように流入し、その後土壤化したものと想定されるという。なお、埋土から遺物は出土しなかった。

##### SI19 (第 114 図)

**検出状況** O - 25 区, VI 層上面で検出された。以下で述べるように、残存状況や、調査時の所見から複数の土坑が切り合ったものである可能性も捨てきれない。東側 2 分の 1 は、II 層が堆積していた凹地の直下から検出されたため、ほとんど残存していない。また、縄文時代の土坑 SK60 と中世の土壙墓 ST62 を切っている。

**形状・規模** 平面形は隅丸方形を呈し、現状での規模は、長軸 305cm、短軸 275cm である。検出面からの深さは 22cm である。断面形は、床面はほぼ水平だが、中央付近に土坑状の凹みがある。壁面は緩やかに立ち上がる。ただし、埋土と地山の区別が困難であったため、床面を把握できたのは土層観察用ベルトと西側の一部のみである。

床面の中央の土坑状の凹みは、規模は長軸 156cm、短軸 122cm、深さは床面から 13cm である。

**埋土** 埋土は 2 層に分層した。埋土 1 を基本とし、中央の土坑状の凹みには埋土 2 が堆積している。床面付近でも硬化面は認められなかった。

**柱穴** 柱穴が埋土 1 の直下で 1 基検出された。規模は長軸 30cm、短軸 26cm で、床面からの深さは 26cm である。埋土は黒褐色で、粘性が強くよくしまる。

**遺物** 土器が 61 点、鉄釘が 12 点出土した。SK60 を切っていることから、縄文土器も多数出土した。土師器 7 点と鉄釘 2 点を図化した。

土師器は柱穴の北で、床面からやや浮いた状態でまとまって検出された。底部の切り離し技法は全て糸切りである。771～773 は壊で、底径に対して口径が大きく、体部は外傾する。器面には内外面ともにナデが施されるが、外面下端は雑である。774～777 は小皿である。774 は、他の小皿と比較して器高が高い。

鉄釘は埋土 1 から出土した。全て和釘で、779 のように木材が付着するものもある。

## 工 土壙墓・土坑（第 115・116 図）

土壙墓は 2 基、土坑は 3 基検出された。

### ST62（第 115 図）

**検出状況** O - 25 区で、VI 層をやや掘り下げた段階で検出された。南側 25cm には ST63 が隣接する。また、検出状況では SI19 に切られるが、検出面が異なるため本来の新旧関係は不明である。

人骨は出土していないが、形状及び隣接する ST63 との比較から土壙墓と判断した。

**形状・規模** 平面形は南北方向に長い隅丸長方形を呈し、長軸は N12° W を示す。規模は、長軸 156cm、短軸 98cm であり、検出面からの深さは 32cm である。断面形は、床面はほぼ水平で、壁面はやや外傾する。

**埋土** 埋土は褐色土をベースとして、アカホヤ火山灰やシラスのブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は、土師器 3 点と洪武通宝 1 点が出土した。遺物は全て床面から浮いた状態で検出されたが、ほぼ同じレベルである。出土状況から、供献品と判断される。

**土師器** 土師器は、全て底部切り離し技法が糸切りである。780・781 は壊である。780 は外面にヘラケズリの痕跡を明瞭に残す。781 は、器形が歪む。782 は小皿である。

**洪武通宝** 783 は洪武通宝である。

### ST63（第 115 図）

**検出状況** O - 25 区で、VI 層をやや掘り下げた段階で検出された。平面形はやや角のとれた長方形を呈し、長

軸は N10° W を示す。規模は、長軸 154cm、短軸 83cm、検出面からの深さ 34cm である。断面形は、床面はほぼ水平で、床面から壁面にかけて稜を持って立ち上がる。

**埋土** 褐色土をベースとし、アカホヤ火山灰やシラスのブロックを含む。

**遺物** ST63 では、床面付近で骨片が検出された。また、鉄製の釘が 19 点出土した。実測図では、遺構の西側だけ出土地点を図示しているが、東側から出土したものは、出土地点を記録していないためである。また、供献品・副葬品と考えられる遺物は出土していない。784 は釜で、埋土中から出土したが、混入物と判断した。

鉄釘の出土状況から ST63 は木棺を伴う土壙墓であったと判断される。

### SK15（第 116 図）

**検出状況** M - 24 区、V 層上面で検出された。複数の遺構との切り合いが認められ、SP80 に切られ、SK 4 を切る。

**形状・規模** 平面形は東側がやや突き出していて、五角形状になる。規模は、長軸 114cm、短軸 89cm、検出面からの深さ 24cm である。床面はほぼ水平で、壁面はほぼ垂直である。

**埋土** 埋土は 3 層に分層した。いずれも粘性が強い。なお、遺物は含まれなかった。

### SK18（第 116 図）

**検出状況** N - 25 区、VI 層上面で検出された。

**形状・規模** 平面形は橢円形を呈する。規模は、長軸 156cm、短軸 118cm、検出面からの深さ 30cm である。断面形は、床面は一部凹んでいるがほぼ水平で、壁面はやや外傾する。

**埋土** 埋土は 2 層に分層した。遺物は含まれなかった。

### SK39（第 116 図）

**検出状況** N - 24・25 区、VI 層上面で検出された。SI40 と隣接していて、北側の一部は SI40 を切っている。

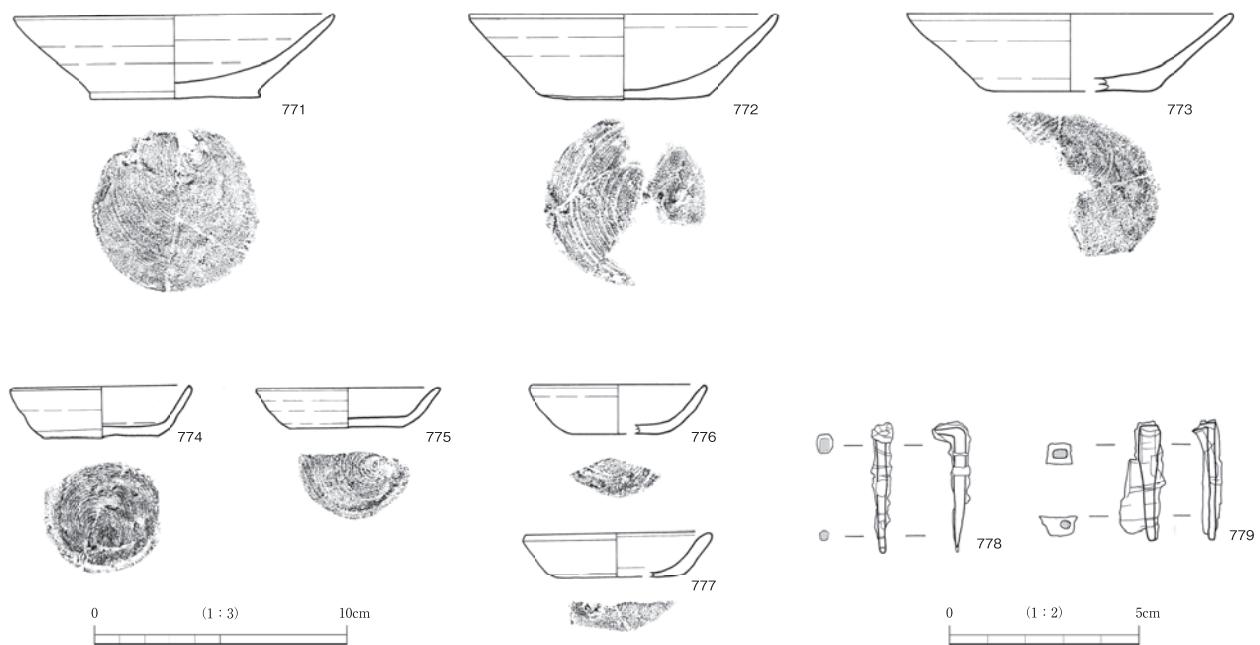
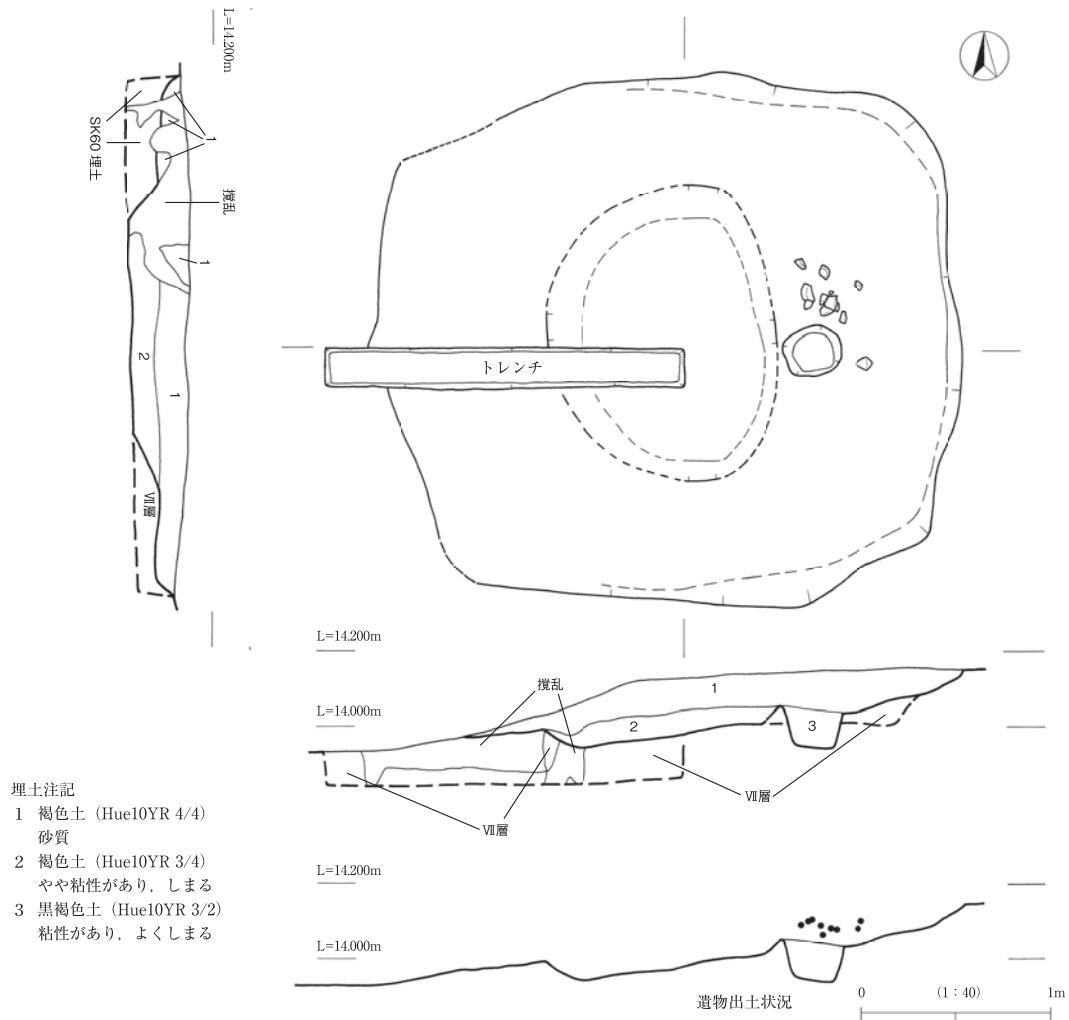
**形状・規模** 平面形は、北東側が突き出る歪んだ長方形を呈する。規模は長軸 187cm、短軸 137cm、検出面からの深さ 34cm である。断面形は、床面はほぼ水平で、壁面はやや外傾する。

**埋土** 埋土は暗褐色の砂質土を基本とする。埋土 2 は SI40 の埋土 4 と類似し、アカホヤ火山灰とシラスに由来する高温石英や小岩片、結晶片が含まれる。

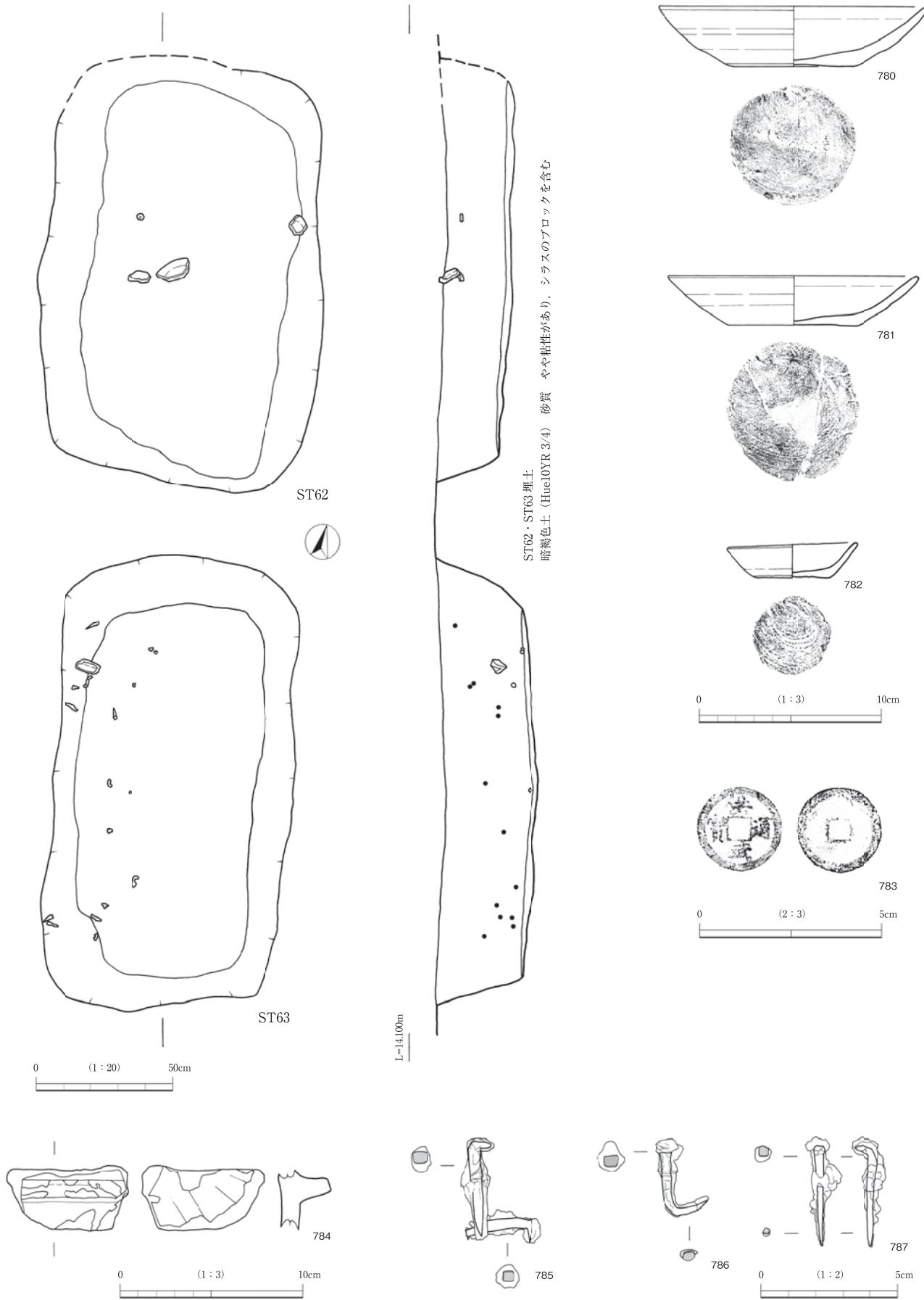
### オ 燃土遺構（第 116 図）

#### SX1・SX3（第 116 図）

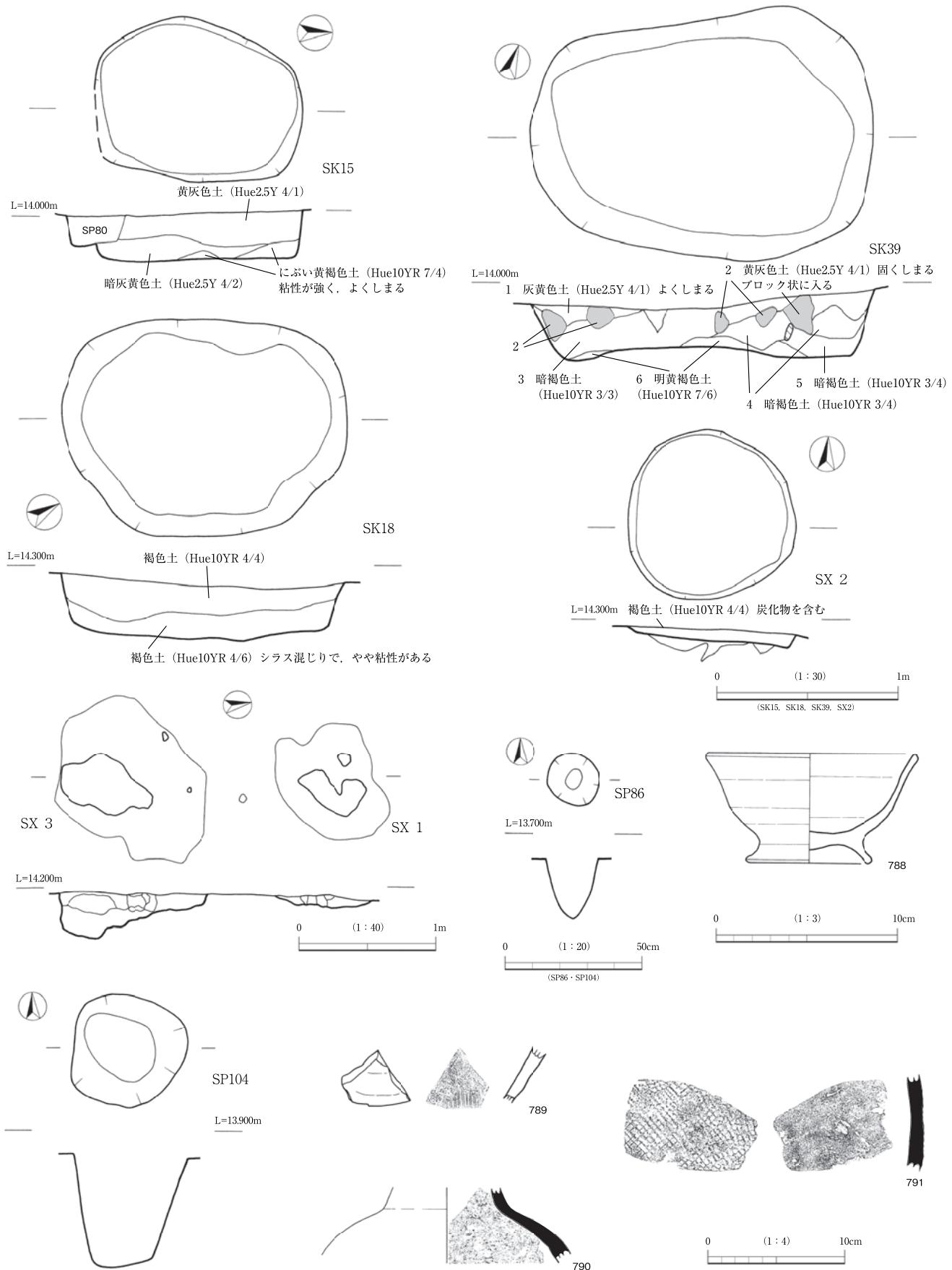
**検出状況** N - 23 区、V 層上面で、被熱により赤褐色に変色し、硬化した状態で検出された。周辺から土師器が出土していることから、中世のものであると判断した。



第 114 図 SI19・出土遺物



第 115 図 ST62, ST63・出土遺物



第 116 図 土坑・柱穴ほか

**赤色化の範囲** SX1 は長軸 84cm, 短軸 70cm, 檜出面からの深さ 9cm で赤色化する。SX 3 は長軸 120cm, 短軸 106cm, 檜出面からの深さ 34cm で赤色化が認められた。

#### カ 炭化物集中箇所 (第 116 図)

##### SX2 (第 116 図)

**検出状況** N - 23 区, V 層上面で検出された。

**形状・規模** 平面形は円形を呈し、直径約 90cm である。

**埋土** 埋土は褐色で、炭化物を含む。

**遺物** 埋土から土師器の小破片が 4 点出土したが、図化には至らなかった。

#### キ 柱穴 (第 116 図)

中世に該当する柱穴は 60 基検出された。埋土は黒褐色を基本とするが、調査区の東から西に向かってしまりがなくなる。また、P - 26・27 区の柱穴は、埋土がやや明るい。当該期の遺物が出土した 3 基を報告する。

#### SP86 (第 116 図)

**検出状況** P - 27 区, VI 層と VII 層の境界付近で検出された。層堆積が不安定な地点で検出されたため、本来の掘り込み面は不明である。

**形状・規模** 平面形は円形で、直径 20cm である。検出面からの深さは 23cm である。

**遺物** 検出面直下で、土師器の塊が検出された。788 は、高台が「ハ」の字状に開き、体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。体部の下半にはヘラによるケズリの痕跡がみられる。底部の切り離し技法は不明だが、高台内面の中央の粘土が盛り上がる。

#### SP104 (第 116 図)

**検出状況** P - 26 区, VI 層上面で検出された。

**形状・規模** 平面形は角の取れた方形状となる。規模は一辺が 43cm 程度で、検出面からの深さ 42cm である。断面形は、床面はほぼ平坦で、壁面はやや外傾する。

**遺物** 789 は瓦質の擂鉢である。

#### SP99 (第 116 図)

**検出状況** SP99 は N - 24 区, V 層上面で検出された。遺構の実測図に不備があったため、遺物のみ報告する。

**遺物** 790 は須恵器の壺の頸部である。791 は須恵器の甕で、外面に格子目のタタキが施されている。

### (3) 遺構外出土遺物 (第 117 ~ 119 図)

中世の遺構外における遺物は、包含層及び表土のものがあるが、出土量が少ないので一括して報告する。

#### ア 土師器 (第 117 図 792 ~ 808)

792 ~ 807 は土師器である。底部の切り離し技法はいずれも糸切りである。

792 ~ 796 は壺である。器壁が厚めで、底部から体部の立ち上がりは丸みを帯びる。792 は、体部がわずかに内湾しながら口縁部へと至る。793 は口縁部は欠損している。底部内面の外縁に同心円状にナデが施され、底部内面中央が盛り上がる。794 は、体部は直線的で外傾する。口縁部内面に強めのナデが施され、口縁部は先細りする。

795・796 は底部から、体部にかけての破片である。795 は、体部が外傾するが、796 は、体部が直線的である。

797 ~ 801 は、口径が 8 ~ 10cm の小皿である。798 ~ 801 は、底部から体部の立ち上がりは丸みを帯び、器形は 792 ~ 796 の壺に類似する。798・799 は、底部内面の外縁に同心円状に強いナデが施される。体部外面の中程に稜をもって内湾する。800・801 は、器壁が厚く、口唇部は丸みを帯びる。797 は、底部から体部は稜をもって立ち上がり、体部から口縁部に向かって先細りする。

802 は、色調が暗灰黄色を呈する。底部から体部の立ち上がりに稜を伴い、体部は直線的で、792 と比較して壺部が深い。外面にはヘラケズリの痕跡が明瞭に残る。

803 ~ 805 は、口径が約 7cm の皿である。底部から体部の立ち上がりは稜を伴い、体部は直線的で外傾する。804・805 は、体部外面の下端に強いナデが施される。805 は近世以降のものの可能性もある。

806 は、やや大型の壺である。体部が外傾する。807 は大型で、鉢か盤になるものと思われる。胎土に角閃石を多く含む。他の土師器と比較して焼成が堅緻である。

808 はこね鉢である。口縁が玉縁状を呈し、体部はやや内湾する。底部が欠損しているため全体の形状は不明だが、東播系の須恵器を模倣したものとの可能性がある。

#### イ 滑石製品 (第 117 図 809)

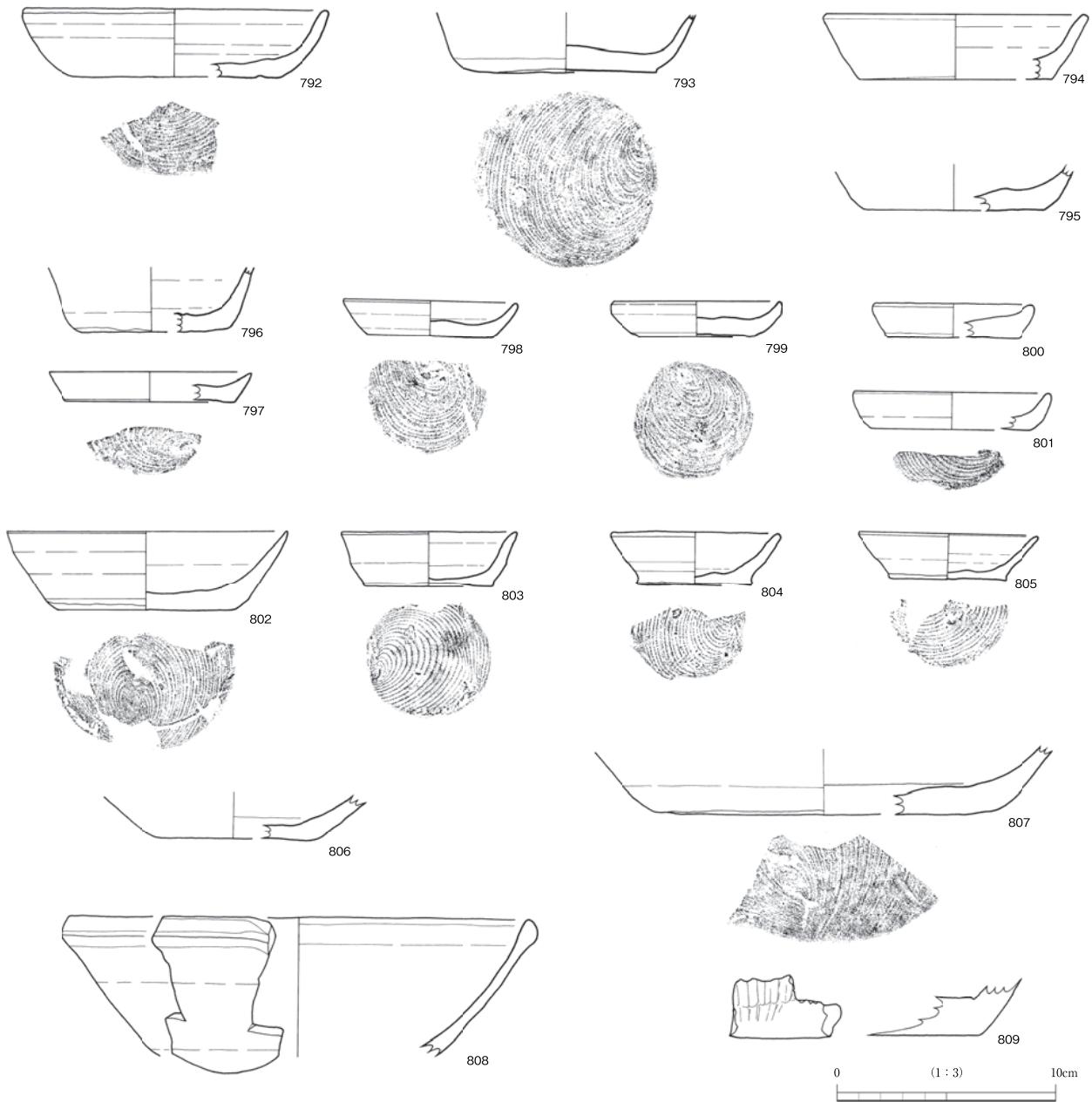
809 は、滑石製石鍋の底部である。外面に製作時の工具の痕跡が観察される。

#### ウ 瓦質土器 (第 117 図 810)

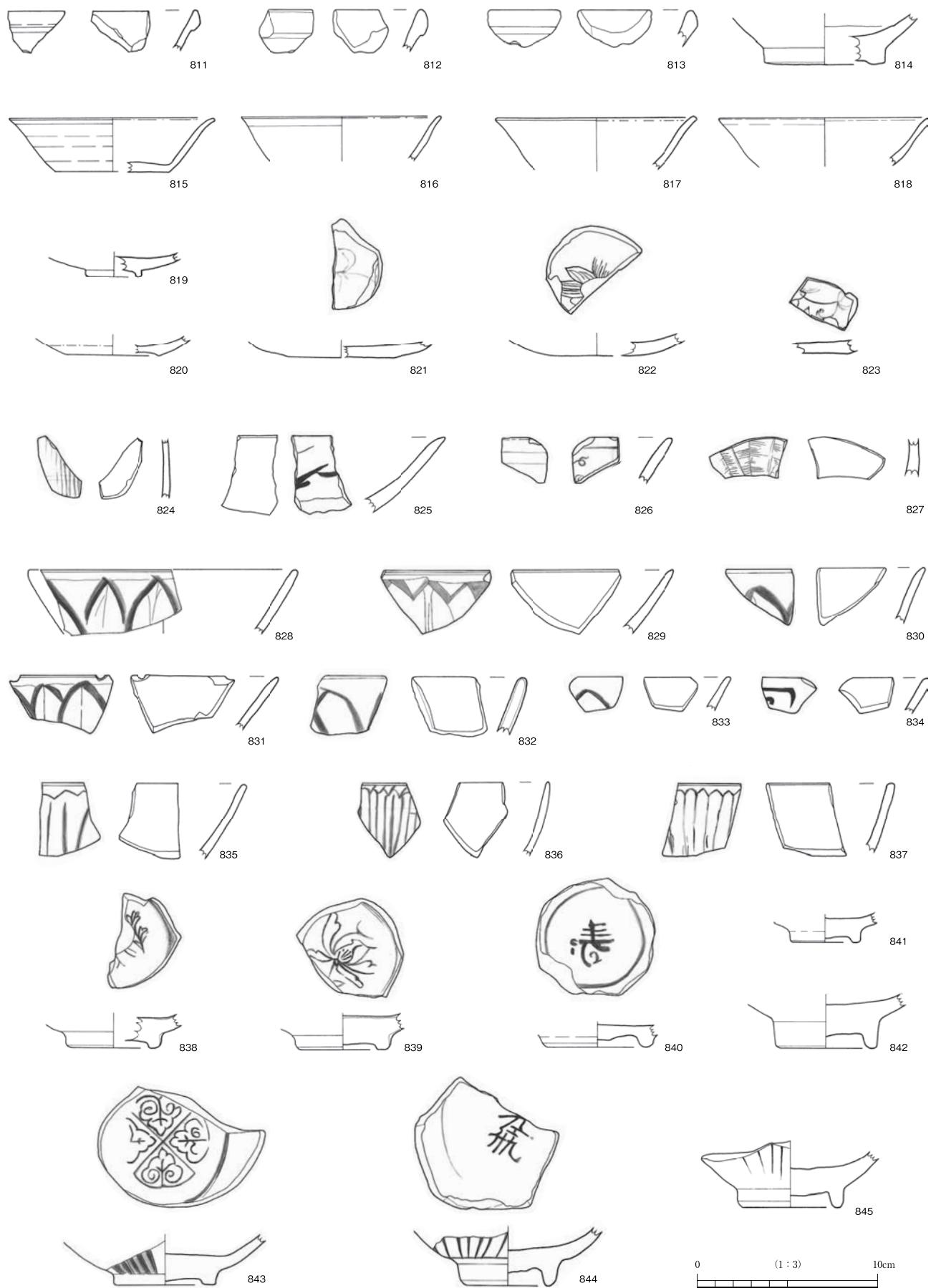
810 は口径約 40cm で、火鉢である。口唇部は平坦に成形され、口縁部はやや肥厚し、断面形は台形となる。口縁部外面の口唇から下 4cm と胴部中程には突帶が巡る。また、口唇部と口縁部の突帶の間には、2つ1組の花弁状のスタンプが施される。

#### エ 白磁 (第 118 図 811 ~ 823)

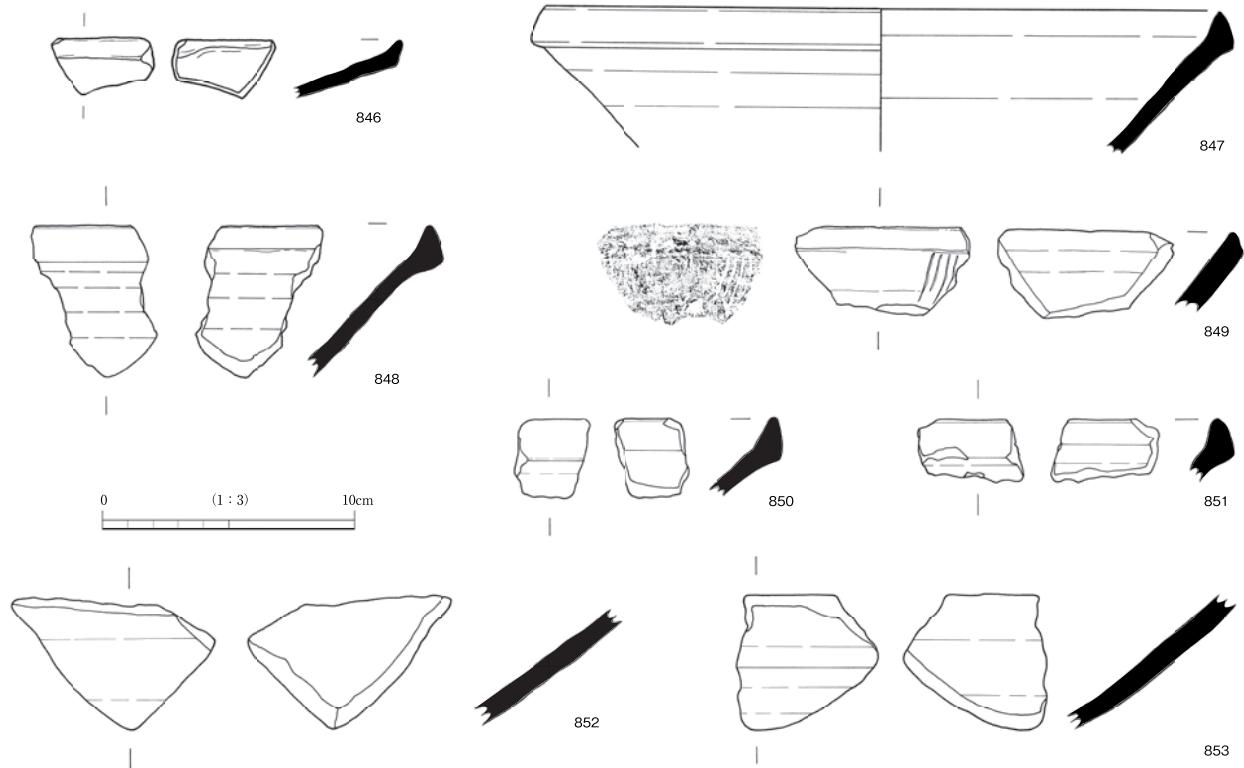
811 ~ 813 は、口縁が玉縁状を呈する白磁の碗で、大宰府編年の白磁碗IV類である。814 は、白磁碗IV類の底部である。高台が幅広で、削り出しが浅い。施釉は内面のみに認められ、体部外面と底部には施釉されていない。



第 117 図 遺構外出土遺物①



第 118 図 遺構外出土遺物②



第119図 遺構外出土遺物③

見込みには、沈線が巡る。

815～818は、法量から皿と判断した。口縁部先端が口禿げとなり、口縁部は外反する。大宰府編年白磁皿Ⅸ類に該当する。815は、外反が大きい。全面に施釉されるが、底部外面は釉薬を工具でのばしている。

819～823は、皿の底部である。819は、高台を持ち、外面には施釉されない。820は、上げ底状になる。

821・822は平底で、底部外面は施釉後に削り取られている。見込みにはヘラ描きで草木文が描かれている。大宰府編年白磁皿Ⅷ類に相当する。

#### 才 青磁（第118図 824～845）

生産地により分類を行ったが、龍泉窯系に比べて同安窯系のものは極めて少ない。

824は、同安窯系の青磁である。小片のため傾きは不明である。外面にはやや目の粗い縦の櫛目文が施される。

825・826は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である。外面は無文で、内面には方彫りで劃花文が描かれる。

827～837は、龍泉窯系青磁の碗で、外面には蓮弁文を有するが、内面は無文のものである。827は胴部の小破片で、傾きは不明だが、外面に櫛描状の蓮弁文を有する。

828～831は幅広の蓮弁文で中央に稜を持ち、体部は直線的で口縁部へと至る。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類に該当する。832・833は蓮弁の中央に稜はみられない。

835～837は、外面に線描きの蓮弁文が施される。施文が簡略化していて、縦線と波状文を組み合わせて蓮弁

状の文様が構成される。上田秀夫氏による青磁碗B類に該当する。835はやや幅広の蓮弁文が施される。836・837はヘラ先による線描蓮弁文である。836は細線と剣頭が蓮弁としての単位を意識していない。834は、外面にやや崩れた雷文が施される。

838～845は底部である。838・839・843は、高台は断面四角形で、削り出しが浅く、底部は肉厚になる。大宰府編年青磁碗Ⅱ類である。見込みには、838・839には草花文が、843には幾何学文が刻印される。

840は、施釉が内部にまで及ぶ。見込みには「寿」の印刻が見られる。841は、小型で皿の可能性もある。

844・845は、線描の蓮弁文が施される。844は見込みに文字状の刻印が施される。845は、見込みの釉が削り取られる。

#### 力 須恵器（第119図 846～853）

846～853はこね鉢で、産地は全て東播系のものである。846は、外傾が強いため、口縁部付近で口が開くタイプであると考えられる。847・848は外面と口縁部内面にナデによる調整が施されている。

849は外面と口縁部内面にナデによる調整が施されている。外面の一部には櫛状の工具によるヘラ記号がみられる。850は、外面と口縁部内面にナデによる調整が施されている。851は、外面と口縁部内面にナデによる調整が施されており、全体的に丁寧に作られている。852・853は胴部である。内面は使用により摩滅する。

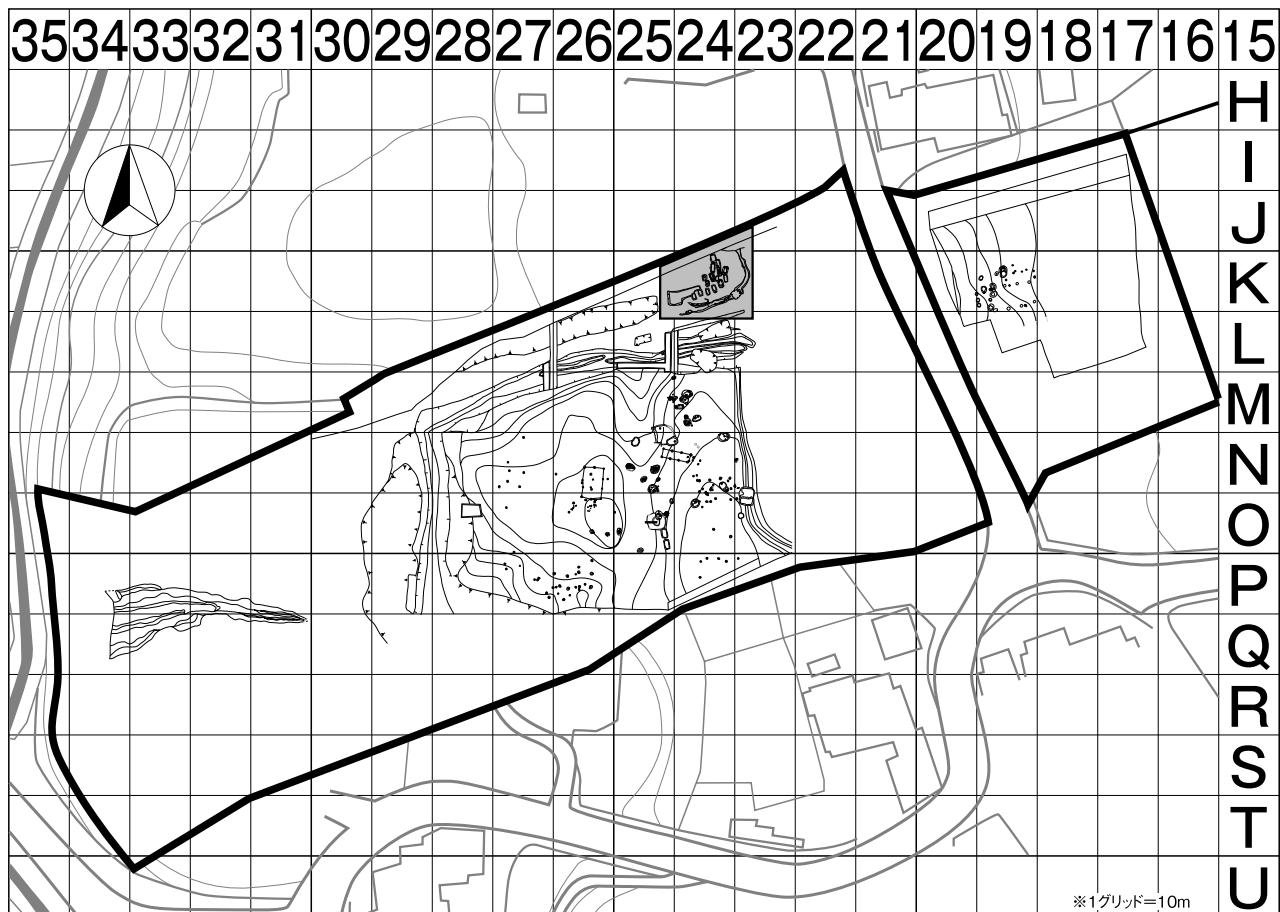
## 5 近世ほかの調査

### (1) 調査の概要 (第 120 図)

近世の遺構は、K・L - 23・24 区で土壙墓 15 基と、溝状遺構 1 条が検出された。遺構は全て、表土直下のシラス上面 (VII 層) で検出された。K・L - 23・24 区周辺は、調査直前まで畠地として利用されていた。また、近隣の住民の方によると、平成以降に大規模な造成が行われたということである。したがって、本来の遺構掘り込み面は、遺構検出面よりも数十 cm から数 m 上である。

遺構の調査は、他の時代の調査と同様に、平面プランの確定後に検出状況の記録写真を撮影した。ただし、土壙墓の数基と、溝状遺構の一部については、調査の当初、搅乱と判断し平面プランを確定せずに掘り下げを行ったため、検出状況の記録写真を撮影していない。

土壙墓からは、人骨、銭、釘が出土した。人骨と銭については、検出状況の写真撮影と実測を行った後に取り上げを行った。釘については、埋土から多数出土したため、一定の本数を検出した段階で検出状況の写真を撮影し、その後は釘の取り上げと掘り下げを併行して行った。なお、釘の取り上げげはトータルステーションを用いて出土地点を記録しながら行ったが、木棺の構造を想定させるような出土状況ではなかったため、図示していない。なお、出土人骨の鑑定は鹿児島女子短期大学竹中正巳氏に依頼した。



第 120 図 近世の調査範囲 (アミの範囲)

溝状遺構 (SD36) については、土層観察用のベルトを 2 か所設定し、掘り下げを行った。

土壙墓群と SD36 は、南西から北東へ向かって弧を描くように配置されていて、SD36 は土壙墓群を区画するための何らかの施設であったと想定される。また、土壙墓群及び SD36 は、北に向かって調査区外へ拡がる可能性が高い。

### (2) 遺構

#### ア 溝状遺構 (第 121 図)

#### SD36 (第 121 図)

**検出状況・形状** SD36 は、K・L - 23・24 区、VII 層上面で検出された。南西から北西に向かって弧状に形成されている。遺構の南西端は自然に消滅し、北端は調査区境界付近で搅乱を受ける。

**埋土** 大部分は削平により消滅していて、検出面からの深さは最大でも 30cm 程度である。埋土は暗褐色で II 層に類似する。なお埋土中から遺物は出土しなかった。

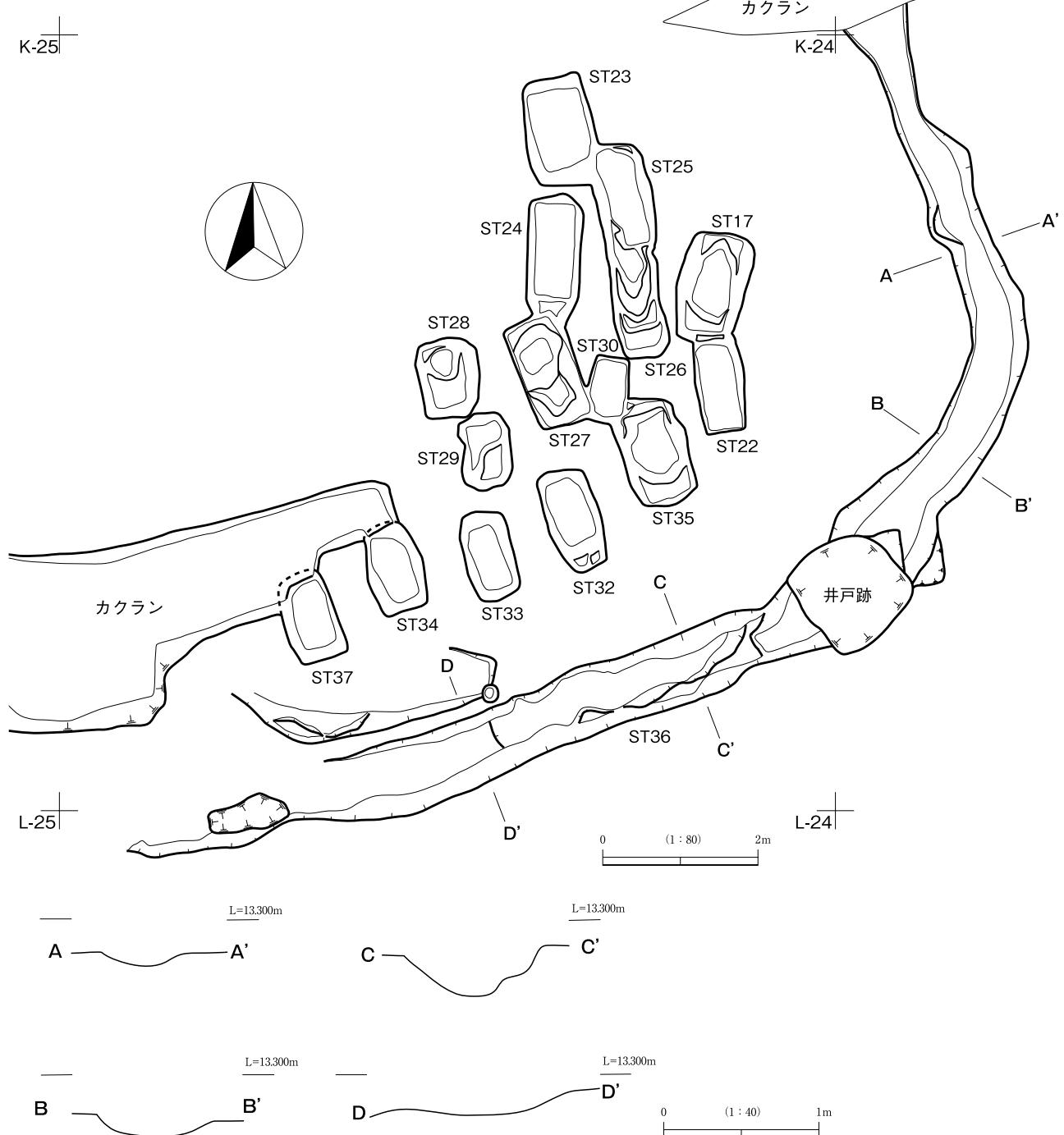
### イ 土壙墓（第 122～130 図）

土壙墓は 15 基検出された。その内 9 基から埋葬人骨や骨片、歯が検出された。人骨が検出された 9 基を中心紹介する。

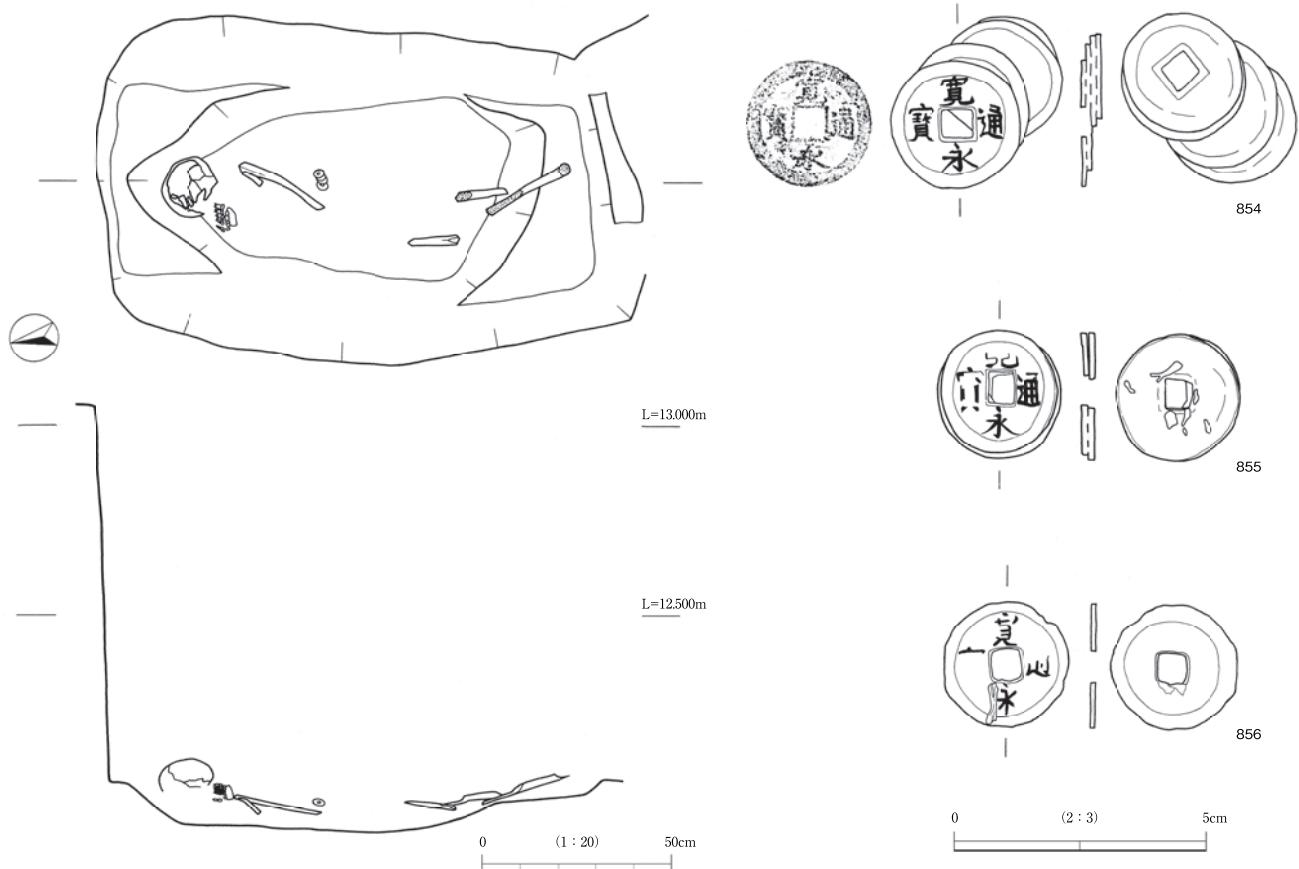
平面形態は全て長方形であり、長軸方向は全て北方向である。検出面からの深さが約 80～120cm 程度の深いもの (ST17, 22～27, 35) と、30～60cm 程度の浅いもの (ST28～30, 32～34, 37) の 2 パターンがみられる。

墓壙は、深いものと浅いものの一部はⅧ層まで掘り込んでいる。断面形は、床面がやや凹むものが多い。それは人体の腐食によって汚染された地山を、調査時に掘り下げてしまったためであると考えられる。したがって、本来の床面は平坦であったと考えられる。

墓壙埋土からは合計 159 点の釘が出土した。釘は全て鉄製の和釘であり、木材が付着しているものがみられる。さらに、墓壙の平面形態が全て長方形であることを考慮



第 121 図 土壙墓群・SD36



第 122 図 ST17・出土遺物

すると木棺であった可能性が高い。

土壙墓からは、六道銭と考えられる銭が出土している。銭はほとんどが銅銭で、鉄銭はわずかに含まれる。銅銭については、判読できたものは全て「寛永通寶」である。「寛」と「寶」の書体によりいわゆる「古寛永」と「新寛永」に分類し、「新寛永」はさらに背面に「文」の文字があるものを「文銭」とした。

人骨が出土しなかった土壙墓で、ST29, ST32, ST33, ST37 からも寛永通寶が出土した。土壙墓群から出土した釘と、ST29, ST32, ST33, ST37 から出土した寛永通寶は、第 130 図に一括で掲載した。

#### ST17 (第 122 図)

**検出状況・形状・規模** K - 24 区、VII 層上面で検出された。平面形態は長軸 140cm × 短軸 88cm の長方形を呈する。長軸方向は N10° E である。床面の中央付近はやや凹むが、上述のような理由で本来は平坦であったと考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは 112cm である。なお、墓壙の南側は隣接する ST22 に切られている。

**遺物** 墓壙からは人骨 1 体分、寛永通寶 7 枚、釘 17 点が出土した。人骨は成人で、性別は男性である。埋葬形態は

頭位を北にした横臥屈葬であり、顔は西に向けられていた。寛永通寶は墓壙の中央付近の、埋葬人骨の胸付近から出土した。記銘を確認できたものは全て「新寛永」である。

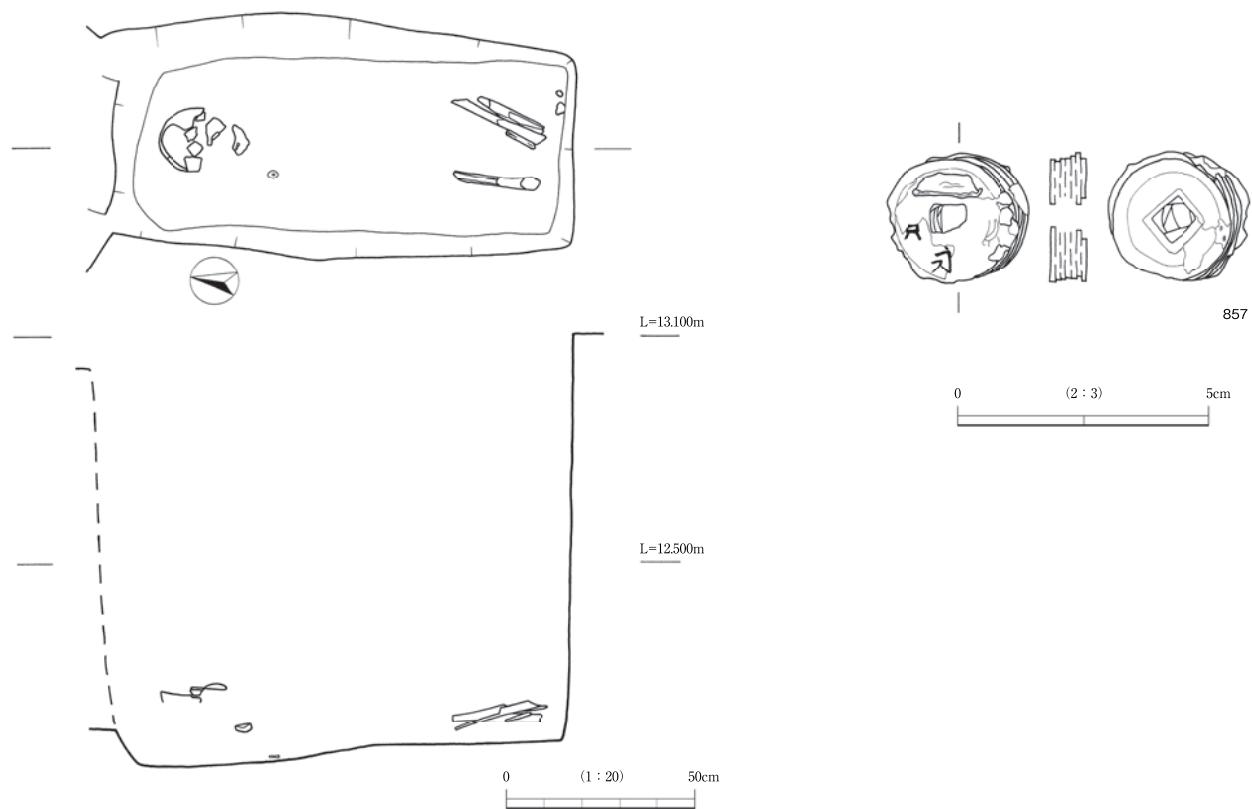
#### ST22 (第 123 図)

**検出状況・形状・規模** K - 24 区、VII 層上面で検出された。平面形態は長軸 135cm × 短軸 65cm の長方形を呈する。長軸方向は N10° W である。断面形態は、床面の北側がやや凹み、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは 109cm である。

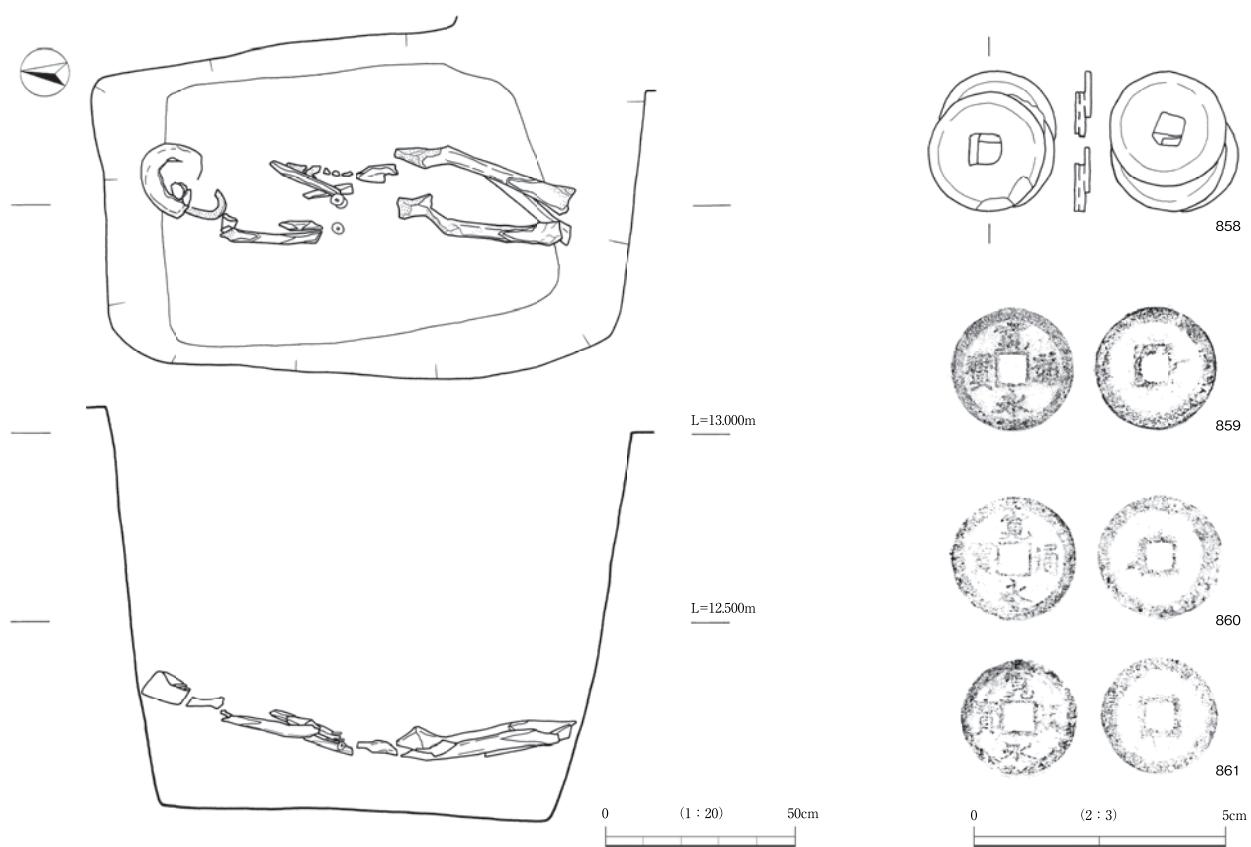
**遺物** 墓壙からは人骨 1 体分、寛永通寶 7 枚、釘 21 点が出土した。人骨は成人で、性別は女性である。埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬である。寛永通寶は、7 枚が密着した状態で胸付近から出土した。857 の一番上のものは「新寛永」である。

#### ST23 (第 124 図)

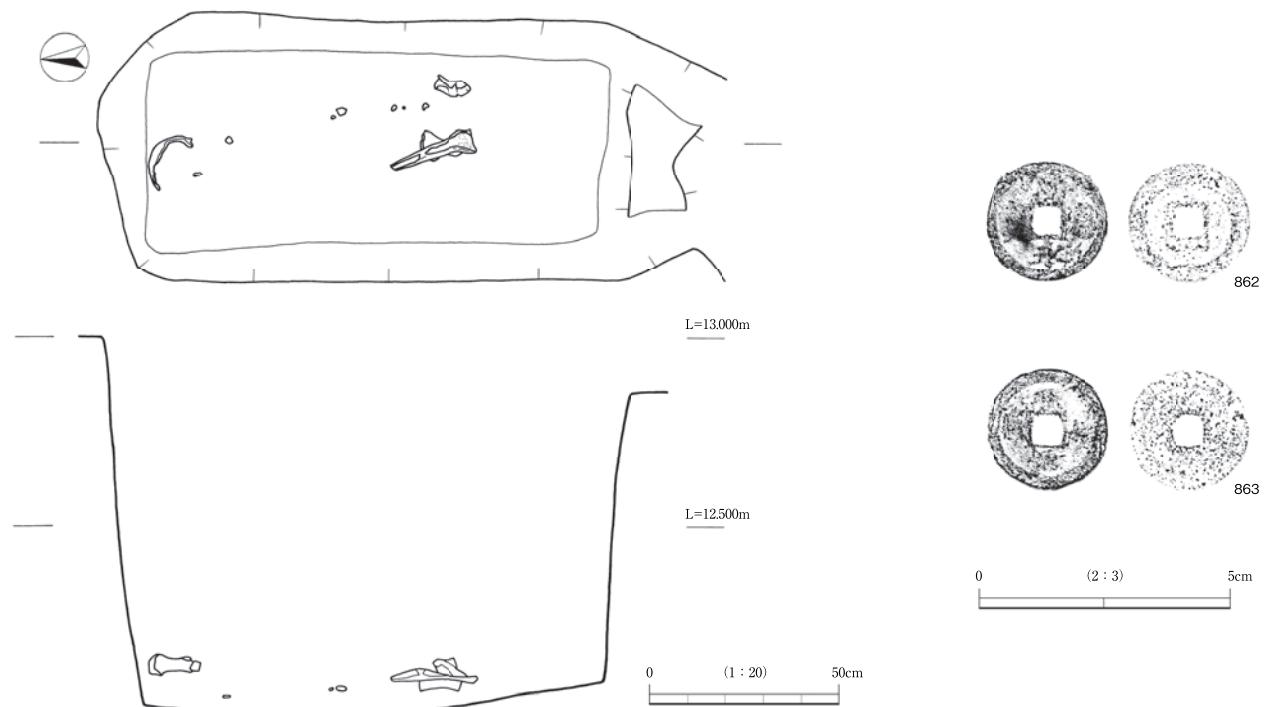
**検出状況・形状・規模** K - 24 区、VII 層上面で検出された。平面形態は長軸 140cm × 短軸 88cm の長方形を呈する。長軸方向は N 8° W である。断面形態は、床面はほぼ平坦であり、壁面はやや開き気味に立ち上がる。検出面からの深さは 109cm である。人骨の検出状況か



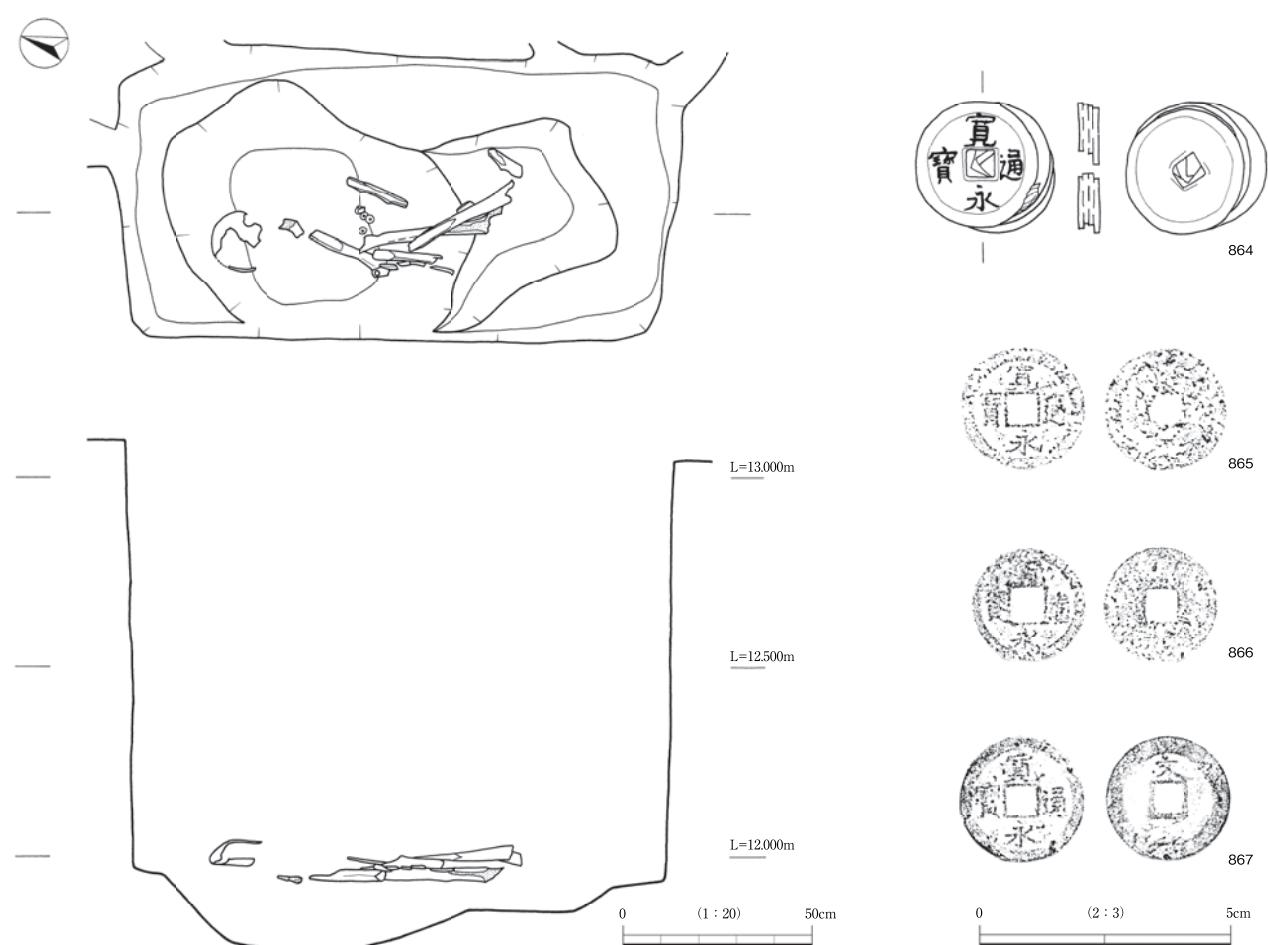
第123図 ST22・出土遺物



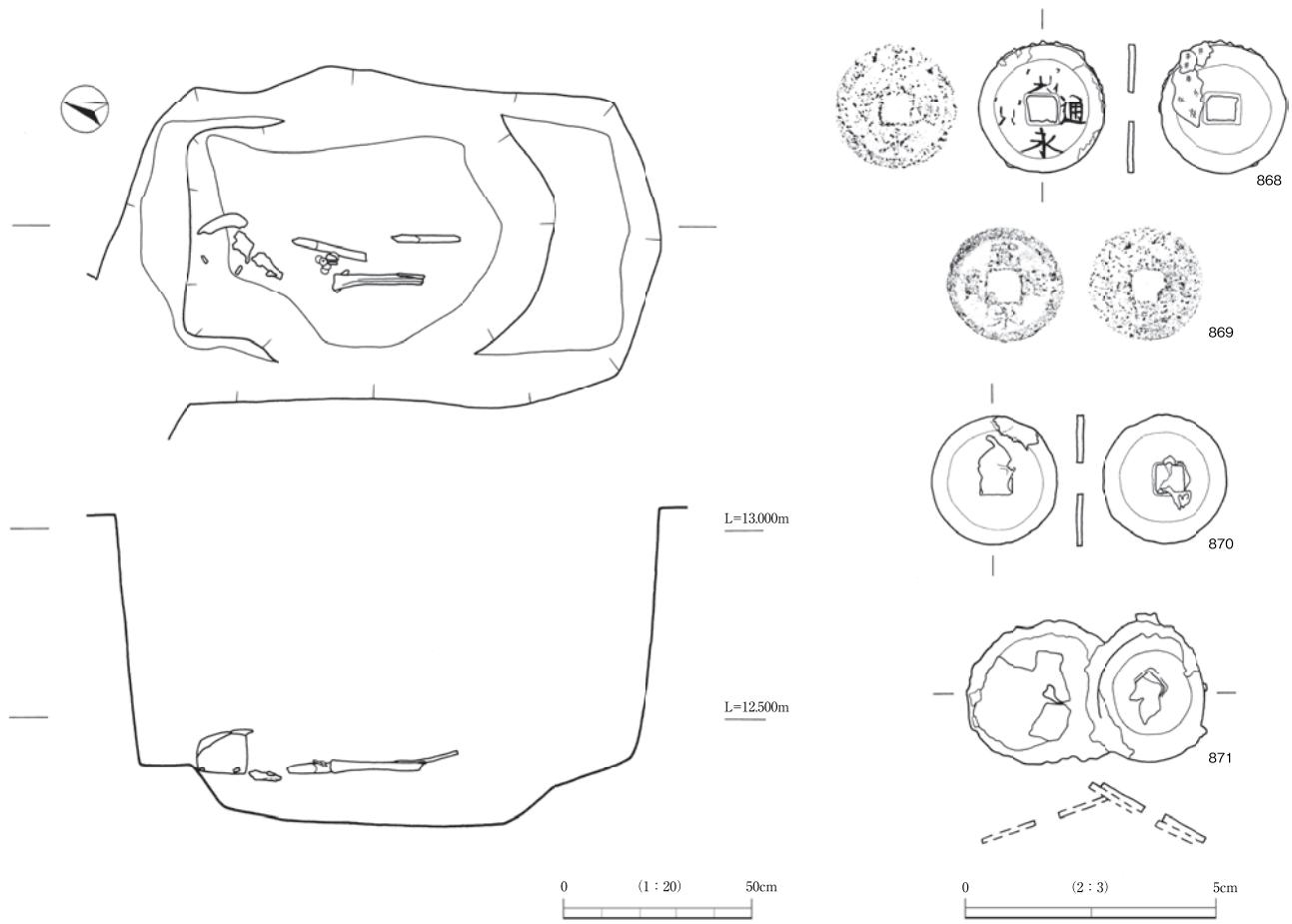
第124図 ST23・出土遺物



第 125 図 ST24・出土遺物



第 126 図 ST27・出土遺物



第 127 図 ST35・出土遺物

ら、本来の床面は、検出面から 80 ~ 85cm 程度の深さで、ほぼ水平な面であったと想定される。

**遺物** 墓壙からは人骨 1 体分、寛永通寶 6 枚、釘 14 点が出土した。人骨は老年の女性で、埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬である。寛永通寶は墓壙の中央で、埋葬人骨の腹部付近から出土した。確認できたものは全て「新寛永」である。

#### ST24（第 125 図）

**検出状況・形状・規模** K - 24 区、VII 層上面で検出された。平面形態は長軸 150cm × 短軸 66cm の長方形を呈する。長軸方向は N 3° E である。断面形態は、床面がほぼ平坦であり、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは 101cm である。

**遺物** 墓壙からは人骨 1 体分、寛永通寶 2 枚、釘 10 点が出土した。人骨は男性で、頭位を北に埋葬されている。年齢及び埋葬形態は不明である。寛永通寶は墓壙から出土したが、出土地点は不明である。862 は「古寛永」で、863 は「新寛永」である。

#### ST27（第 126 図）

**検出状況・形状・規模** K - 24 区、VII 層上面で検出さ

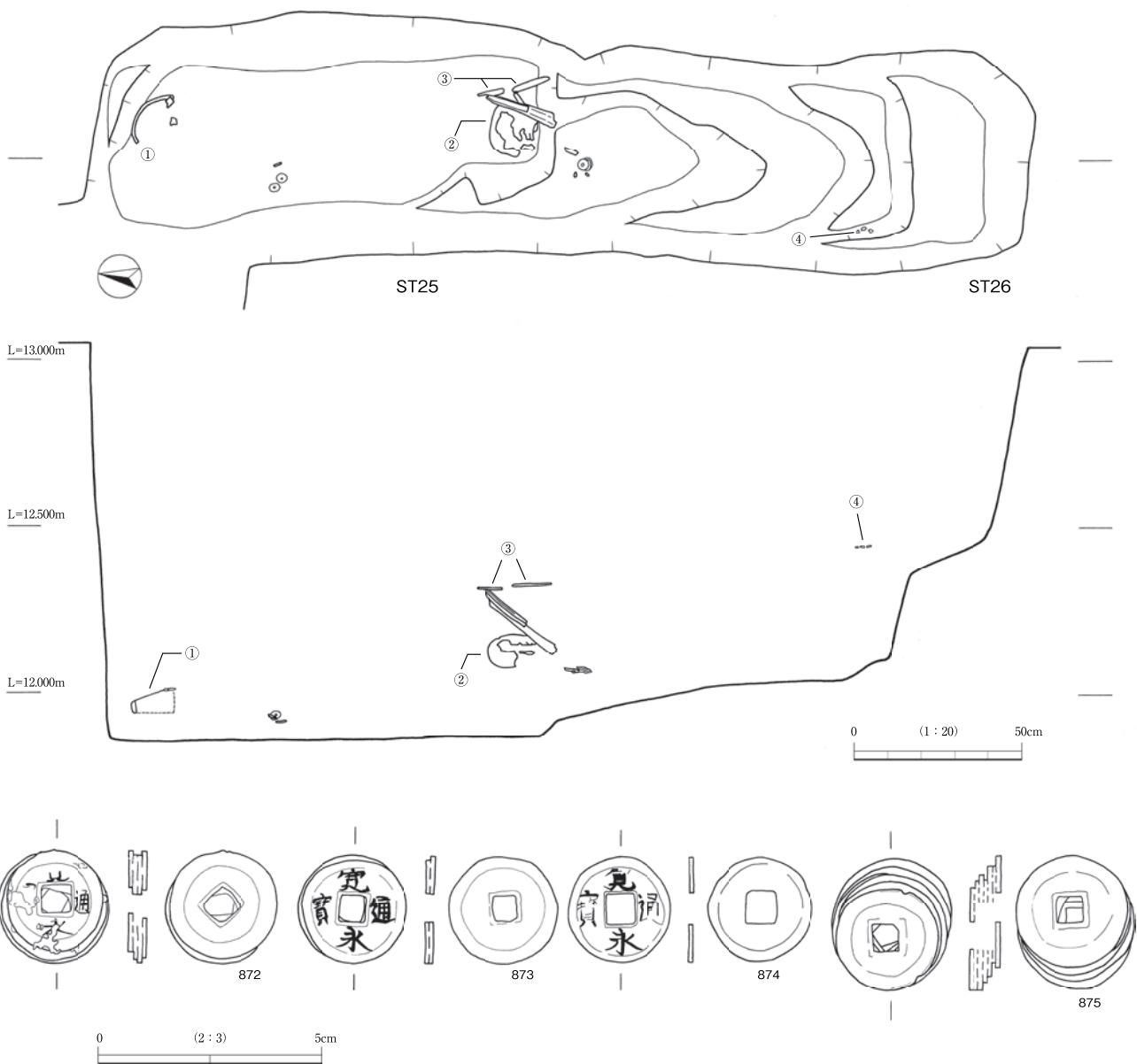
れた。平面形態は長軸 146cm × 短軸 75cm の長方形を呈する。長軸方向は N25° W である。断面形態は、中央が 2 段に凹み、壁面の立ち上がりはほぼ垂直である。検出面からの深さは 128cm である。

**遺物** 墓壙からは人骨 1 体分、寛永通寶 7 枚、釘 9 点が出土した。人骨は熟年の男性と考えられる。埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬で、顔は西に向かっていた。検出状況では右肘の上に右膝が重なり、さらに右膝の上に左膝が重なっていた。寛永通寶は墓壙の中央付近から出土した。確認できたものは全て「新寛永」であり、867 は「文銭」である。

#### ST30（第 129 図）

**検出状況・形状・規模** K - 24 区、VII 層上面で検出された。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸 75cm、短軸 53cm で、検出面からの深さ 60cm である。他の土壌墓と比較して小型である。

**遺物** 歯が 1 点と寛永通寶 7 枚が墓壙の中央付近から出土した。歯は 4 歳程度の幼児のものである。寛永通寶は、7 枚が付着した状態で出土した。確認出来たものは全て「新寛永」である。また、埋土から鉄釘が 10 点出土した。



第 128 図 ST25, ST26・出土遺物

#### ST35 (第 127 図)

**検出状況・形状・規模** K - 24 区, VII 層上面で検出された。平面形態は長軸 145cm × 短軸 75cm で、やや不整形な長方形を呈する。長軸方向は N19° W である。断面形態は、中央がやや凹み、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは 78cm である。

**遺物** 墓壙からは人骨 1 体分、寛永通寶 6 枚が出土した。人骨は成人的男性である。埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬であり、顔は西に向かっていた。寛永通寶は墓壙の中央付近からやや北よりの地点から出土した。871 の内 1 枚は鉄錢で、それ以外はすべて「新寛永」である。868 には布と考えられる纖維が付着している。なお、ST35 から釘は出土しなかった。

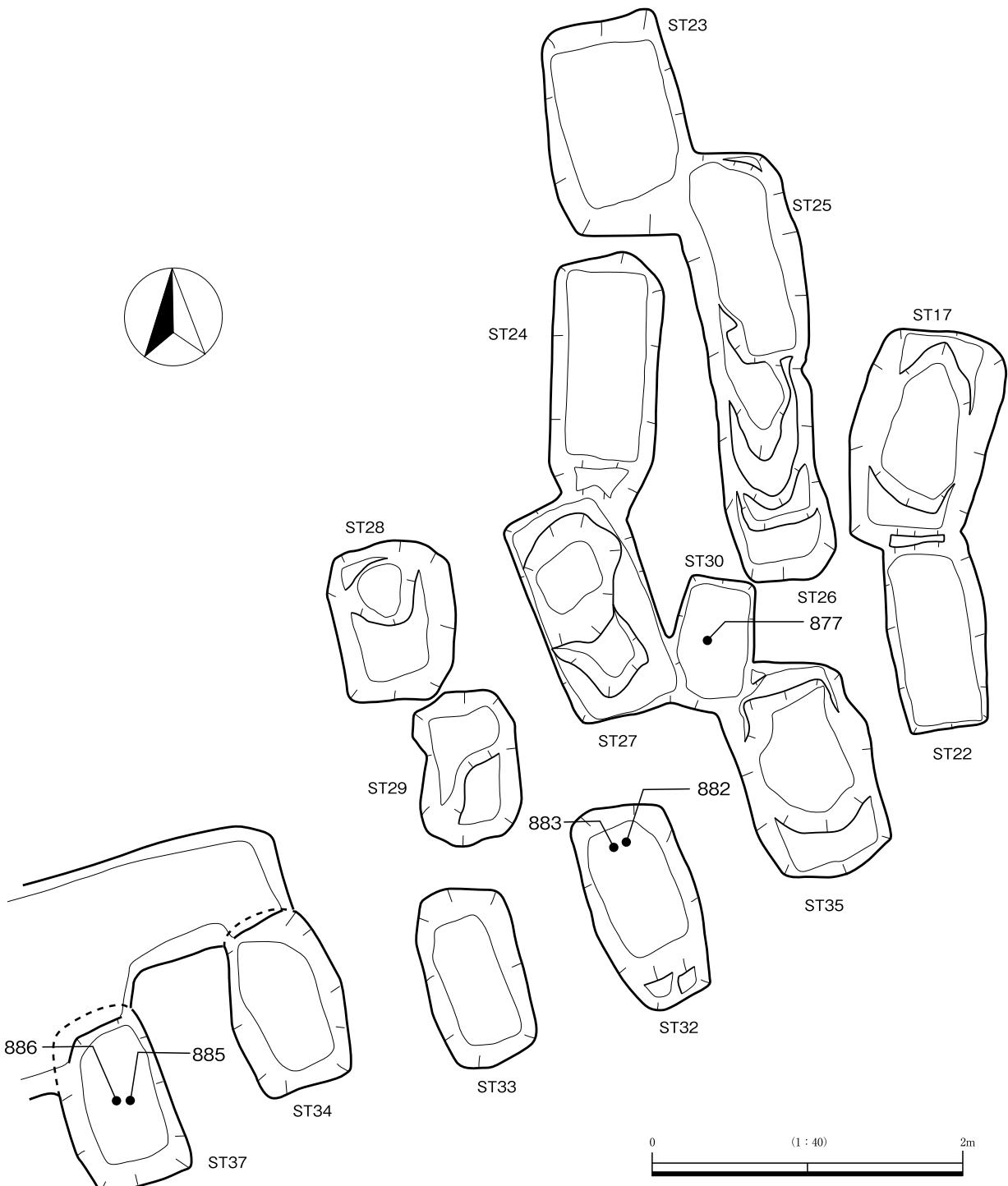
#### ST25・ST26 (第 128 図)

**検出状況・形状・規模** K - 24 区, VII 層上面で検出された。ST25 の南側の墓壙を ST26 が切っていて、二つの墓壙が連結し一つの墓壙のようになっている。二つの墓壙をあわせた長軸は 280cm である。

それぞれの想定される規模は、ST25 が長軸約 140cm × 短軸 74cm で、長軸方向は N 9° W である。ST26 は長軸 160cm × 短軸 65cm で、長軸方向は N 8° W である。

断面形態は、ST25 の床面が最も深く、ST26 の南側が段掘り状になる。検出面からの深さは、ST25 は 118cm、ST26 は 100cm である。

**ST25 出土遺物** ST25 からは、人骨が 1 体分 (第 128 図①)、寛永通寶が 7 枚出土した。人骨の残存状況は悪いが、成人的女性と判断される。頭位を北に向けて埋葬



第129図 土坑墓群・遺物出土地点

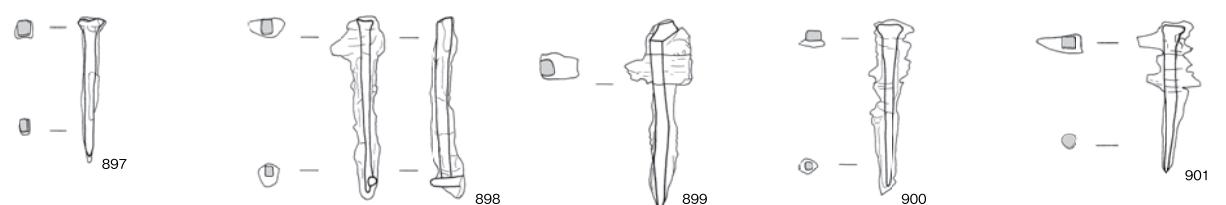
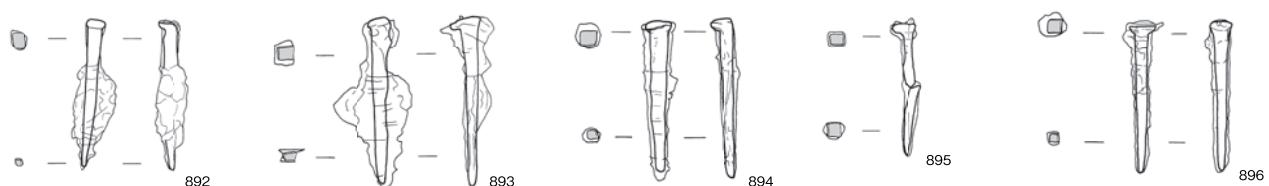
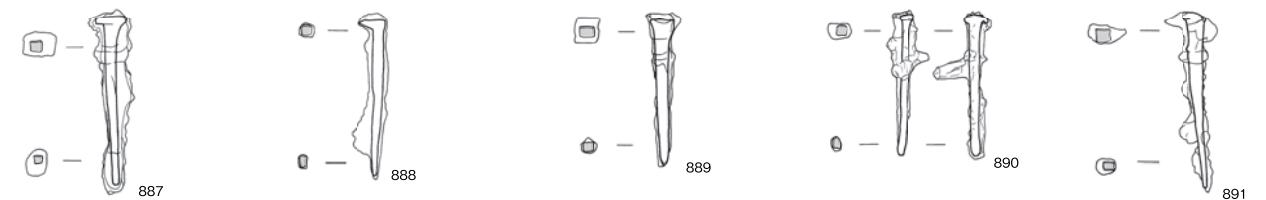
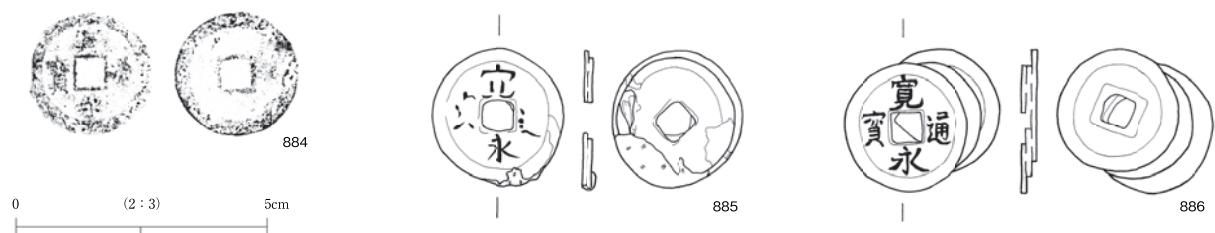
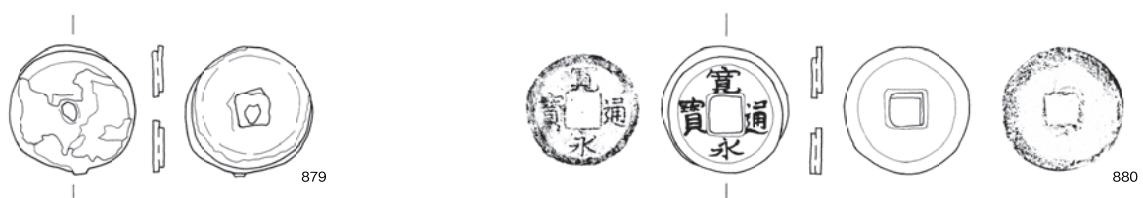
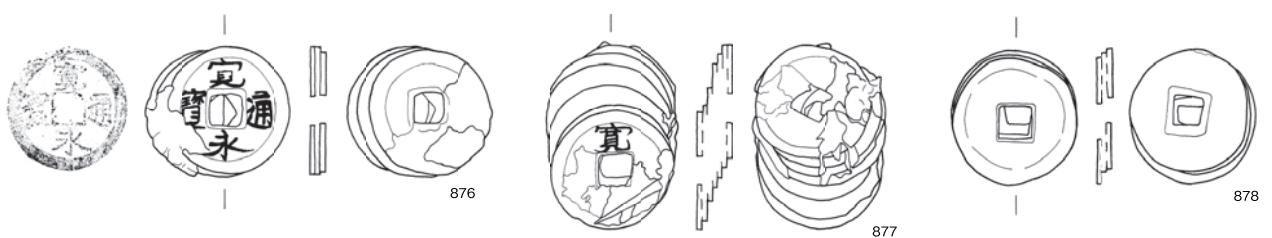
されている。寛永通寶は墓壙の中央からやや北東の地点で出土した。確認できたものは全て「新寛永」である。

**ST26出土遺物** ST26からは、2体分以上の人骨が出土している。人骨②は、熟年の男性で、頭位を北に、顔を西に向かって埋葬されていた。これに伴う銅錢は7枚出土している。7枚は全て付着している。また、最上面の銅錢の文字は摩滅しており、錢種を特定することはできなかった。出土状況から判断して、この人骨②が

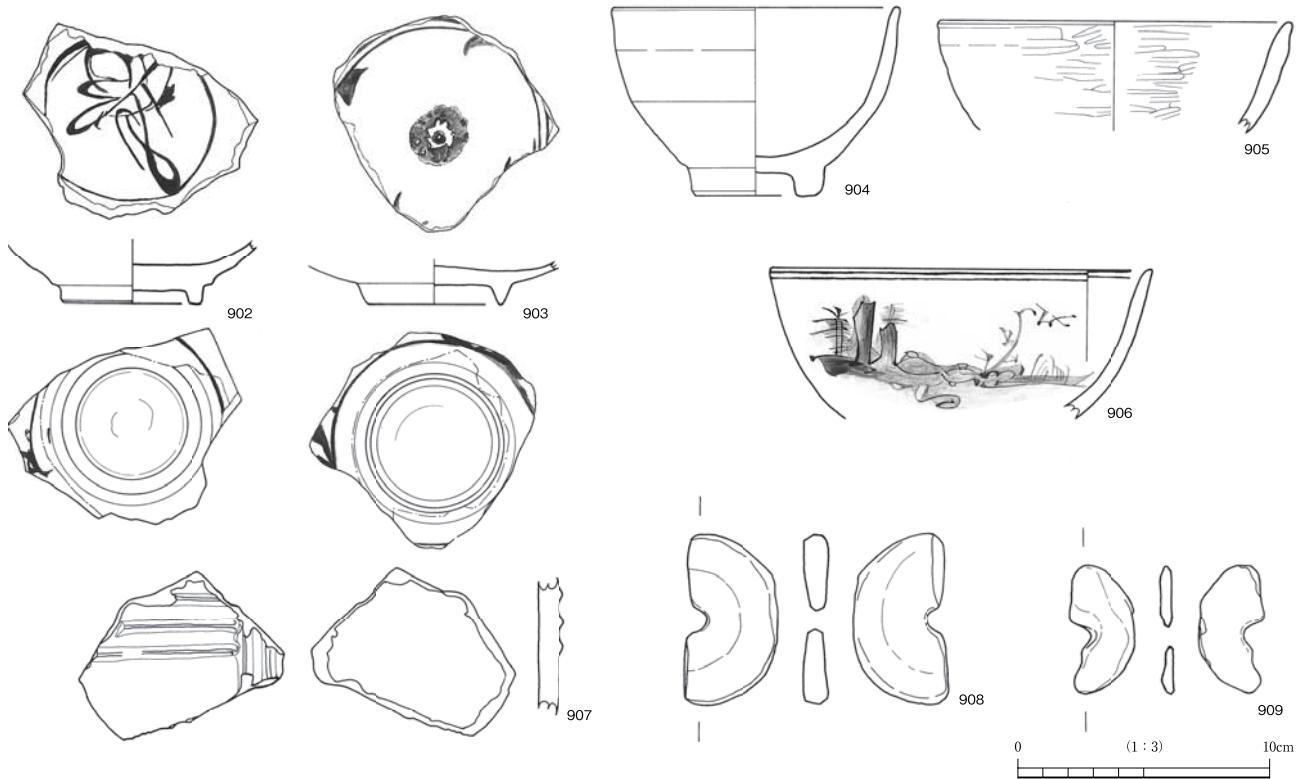
ST26に埋葬されたものである。

**不明遺物** 人骨③と人骨④は、人骨②とは別人のものである可能性が高いが、詳細は不明である。ただし、人骨④の付近からビニールが出土して、さらに、人骨③及び④の出土したレベルと、ST26墓壙の南側の段掘り部分の立ち上がりがほぼ一致する。以上のことから、ST26については、改葬が行われた可能性が高い。

なお、二つの墓壙からは、合計68点の釘が出土した。



第130図 土壌墓出土遺物



第 131 図 遺構外出土遺物①

### (3) 遺物 (第 131・132 図)

遺構外から出土した近世及び近代、時代が不明の遺物を一括で紹介する。

902・903 は、漳州窯の碗または皿である。ともに施釉は一部高台外面にまで及ぶ。

904・906 は肥前系の陶器類である。904 は碗である。畳付きを除く全面に施釉されている陶器である。色調は深緑色で、畳付には砂目が残る。906 は、外面に山水文を描く鉢である。905 は土師質の土器で、器形は天目碗に似る。

908・909 は、土師器の底部を加工した土製の紡錘車状のものである。いずれも半欠品であり、風化が著しい。

910～914 は、T-34 区の近代墓群周辺で出土した遺物である。910・911 は、仏具である。土師質で無釉、底部の切り離しは糸切りで、腰部から内湾し、体部から大きく外反して口縁部へ至る。912 は、糸切り底でやや開きながら口縁部へと至るものである。土師質で無釉である。913 は、肥前系の碗である。2 次焼成を受けたために、色調は青白色に近い色に変色している。914 は、灰白色を呈し、体部は緩やかに内湾して口縁部で外反する白天目茶碗である。

916 は、中国あるいは朝鮮半島産の徳利と思われる。平坦な底部からやや内湾しながら立ち上がるもので、色調は暗褐色である。

917 は、断面三角形の細い突帯を貼り付け、その 1 cm

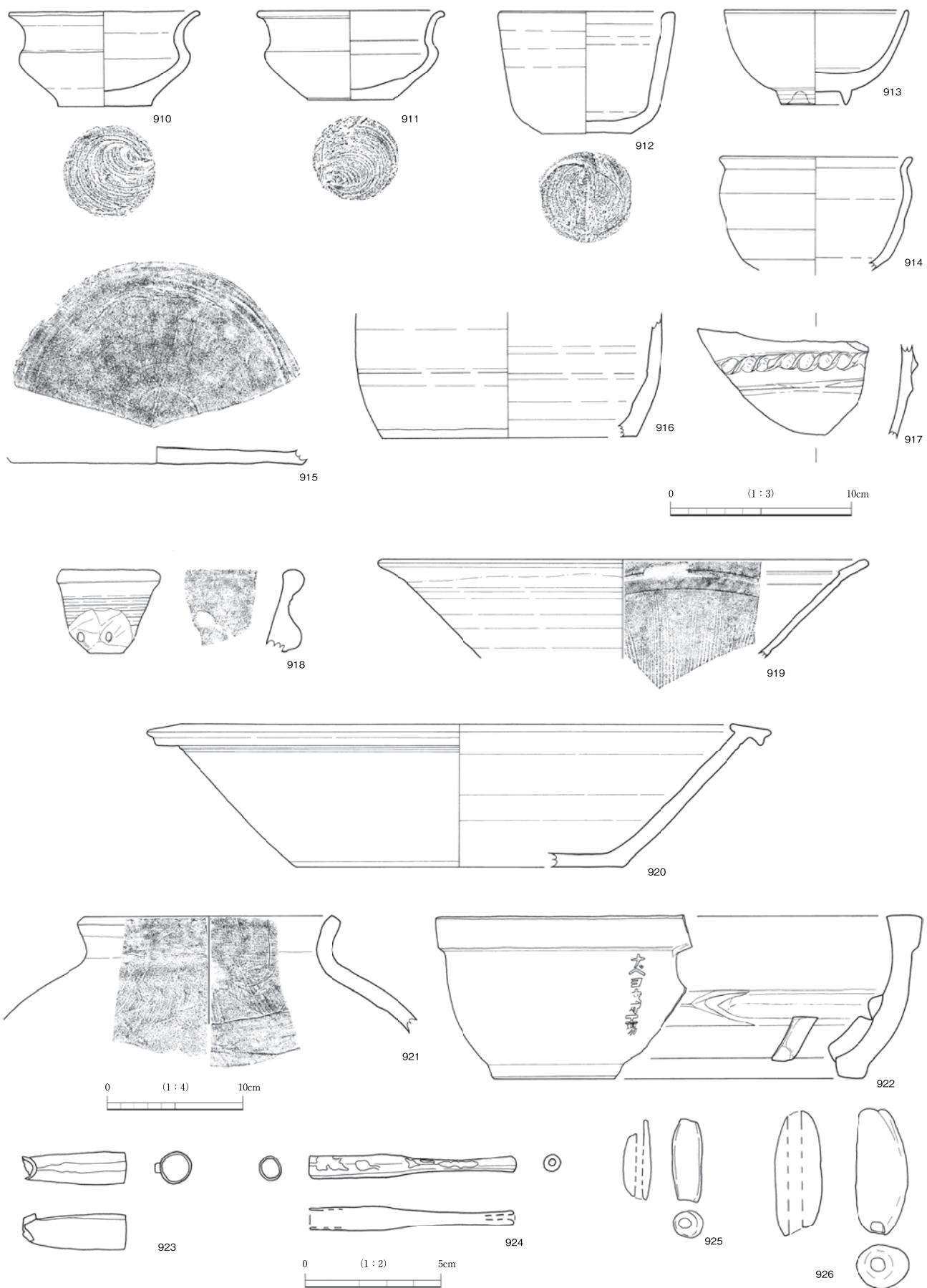
ほど上位に棒状工具による刻目突帯を施す苗代川系の甕の胴部である。915 は明茶褐色を呈する陶器の円盤状の底部であり、丁寧なナデ調整が施されている。

919 は肥前系の陶器の擂鉢である。胴部から口縁部は大きく開き、口縁内部が肥厚するものである。

922 は、レンガあるいは瓦質の材質で、内面の煤の付着が著しいことから、竈または五徳状に用いられたと考えられる。近代以降のもので底部径 27cm、口縁径 37cm、高さ 12cm である。内面の下位に約 4 cm の縦位の突帯が現存で 2 か所観察できる。間隔からするとこの突帯が 4 か所あったものと思われる。また、この縦位の突帯上部には、横位の突帯も施されている。外面には「ナベヨ□□工場」のスタンプがある。

**煙管** 923・924 は、煙管である。923 の雁首は材質に銅が含まれるために暗緑色に変色している。

**土製品** 925・926 は、筒状の土製品に穴を貫通させたものである。これら 2 点の土製品については、古代から近世までの広い時期の可能性がある。



第 132 図 遺構外出土遺物②

第7表 縄文時代の遺物観察表(1)

插図番号	掲載番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土		焼成	備考	
							外面	内面	石英	長石			
10	1	SK4		壺形土器	完形	外 内 未調整	ナデ→沈線文、擬似縄文、刺突文	黄褐色 Hue2.5Y5/4	黄褐色 Hue2.5Y5/4	○ ○ ○	白色鉱物	良	口径 4.7cm、器高 9.3cm 胴部 10.6cm
11	2	SK4	埋土 2 一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→刻目状の沈線文、刺突文	黒褐色 Hue2.5Y3/2	にぶい 黃褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○	黒雲母 白色鉱物	良	市来式土器系
	3	SK4	埋土 2 一括	深鉢	底部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文	にぶい 黄褐色 Hue7.5YR5/4	橙色 Hue7.5YR6/6	○ ○ ○	白色鉱物	良	平底
13	9	SK6	一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文、刺突文	明赤褐色 Hue5YR5/8	明赤褐色 Hue5YR5/8	○ ○ ○		良	市来式土器系
	10	SK6	埋土 1 一括	深鉢?	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→刻目状の刺突文、横位の沈線文	にぶい 橙色 Hue5YR6/4	にぶい 黄橙色 Hue10YR6/4	○ ○ ○		良	
	11	SK6	埋土 1 一括	不明	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→刻目状の沈線文	にぶい 黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい 黄橙色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	白色鉱物	良	
	12	SK6	埋土 2 一括	深鉢	胴部	外 内 ナデ	ナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	褐色 Hue7.5YR4/6	○ ○ ○		良	
16	16	SK8	一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→刻目状の沈線文、横位の沈線文	褐色 Hue7.5YR4/4	にぶい 黄褐色 Hue7.5YR5/4	○ ○ ○		良	
	17	SK8	一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→刺突文?	赤褐色 Hue5YR4/8	赤褐色 Hue5YR4/8	○ ○ ○		良	
	18	SK8	40	鉢?	口縁部	外 内 ナデ	ナデ・ミガキ→磨消縄文	明黄褐色 Hue10YR7/4	橙色 Hue7.5YR6/6	○ ○ ○	白色鉱物	良	
	19	SK8	一括	台付皿形土器	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文、刺突文?	明赤褐色 Hue5YR5/6	黒褐色 Hue5YR2/1	○ ○ ○		良	市来式土器系
	20	SK8	26. 一括	不明	胴部	外 内 ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色 Hue10YR5/4	にぶい 黄橙色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	茶色鉱物	良	
	21	SK8	22, 24, 25, 29 36, 37, 38	深鉢	胴部	外 内 ナデ	ナデ	橙色 Hue7.5YR6/8	明黄褐色 Hue10YR6/6	○ ○ ○		良	摩滅が著しい
	22	SK8	25	深鉢	胴部	外 内 ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色 Hue10YR4/3	にぶい 黄褐色 Hue10YR4/3	○ ○ ○	白色鉱物	良	23 と同一個体か?
	23	SK8	10, 13, 18, 20	深鉢	口縁部～胴部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文	にぶい 黄褐色 Hue7.5YR5/4	にぶい 黄褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○	白色鉱物	良	松山式土器? 22 と同一個体か?
	24	SK8	1,2,3,4,5,6,7 8,14,23,27	鉢	胴部～底部	外 内 ナデ	ナデ・ミガキ→ 沈線文、磨消縄文、渦巻文	にぶい 黄色 Hue2.5Y6/4	黒色 Hue10YR2/1	○ ○ ○		良	鐘崎式土器?
19	26	SK55	10	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○ ○ ○		良	市来式土器
	27	SK55	11	深鉢	胴部	外 内 ミガキ	ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue10YR3/1	○ ○ ○	白色鉱物	良	
	28	SK55	一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ミガキ様のナデ	にぶい 赤褐色 Hue2.5Y4/3	暗赤褐色 Hue2.5Y3/3	○ ○ ○	砂礫	良	検出面出土
	29	SK55	5	深鉢	胴部	外 内 ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色 Hue10YR5/4	にぶい 赤褐色 Hue2.5Y5/3	○ ○ ○		良	内面に煤付着
	30	SK55	2	鉢	底部	外 内 ナデ	一	明赤褐色 Hue5YR5/6	橙色 Hue5YR6/6	○ ○ ○	黒雲母	良	平底で、やや上げ底状の 底部爪状の圧痕あり
	31	SK55	一括	深鉢	口縁部	外 内 ミガキ	条痕 ミガキ	にぶい 橙色 Hue2.5Y6/4	にぶい 黄橙色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	白色鉱物	良	晩期相当の深鉢 検出面出土
	32	SK55	一括	深鉢	胴部	外 内 ミガキ	条痕 ミガキ	にぶい 黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい 黄橙色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	白色鉱物	良	晩期相当の深鉢 検出面出土
23	41	SK53	1	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文、刻目状の沈線文	褐色 Hue7.5YR4/4	橙色 Hue7.5YR7/6	○ ○ ○ ○		良	市来式土器
24	42	SK54	一括	深鉢?	胴部	外 内 ナデ	ナデ	にぶい 黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい 黄橙色 Hue10YR7/4	○ ○ ○ ○		良	
25	43	SK57	1	深鉢?	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文	黒色 Hue2.5Y2/1	黒褐色 Hue2.5Y3/2	○ ○ ○ ○		良	
	44	SK57	2	深鉢	胴部	外 内 ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色 Hue7.5YR5/4	にぶい 橙色 Hue7.5YR7/4	○ ○ ○ ○		良	内面に煤付着
	45	SK57	6, 7	深鉢	胴部	外 内 ナデ	ナデ→沈線文、貼付文	オリーブ褐色 Hue2.5Y4/4	オリーブ褐色 Hue2.5Y4/4	○ ○ ○ ○	白色鉱物	良	北久根山式土器
28	49	SK13	10	台付皿形土器	脚部	外 内 ミガキ	ミガキ→ 刻目状の沈線文、横位の沈線文	褐赤色 Hue5YR4/6	橙色 Hue7.5YR6/6	○ ○ ○ ○	黒雲母 白色鉱物	良	底径 13.0cm 透かし孔あり 北久根山式土器
	50	SK13	一括	脚台付深鉢	脚部	外 内 ナデ	ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○ ○ ○ ○	白色鉱物	良	
	51	SK13	28	脚台付深鉢	底部	外 内 ナデ	ナデ 指オサエ→ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	灰色 Hue5Y4/1	○ ○ ○ ○	白色鉱物 茶色鉱物	良	底径 7.7cm
	52	SK13	9	深鉢	底部	外 内 ナデ	ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/8	明褐色 Hue7.5YR5/6	○ ○ ○ ○	白色鉱物	良	摩滅が著しい
	53	SK13	14, 23, 24	深鉢	底部	外 内 ミガキ	ミガキ→ ミガキ様のナデ	にぶい 黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい 黄橙色 Hue10YR6/4	○ ○ ○ ○		良	

第8表 縄文時代の遺物観察表(2)

掲番号	掲載番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考
							外面	内面	石英	長石	カセン		
29	54	SK13	1. 8. 16 17. 18	浅鉢	口縁部～底部	外 ナデ→沈線文、刻目、穿孔(口唇部) 磨消繩文(胴部) 内 ナデ	黒褐色 Hue2.5Y3/1	黄灰色 Hue2.5Y4/1	○	○	○		良 口径 27.6cm、底径 6.0cm 器高 8.5cm 市来式土器併行期の 磨消繩文系土器
	55	SK13	12	鉢	口縁部	外 内 ナデ→沈線文、磨消繩文 ミガキ	黒褐色 Hue2.5Y3/2	黒褐色 Hue2.5Y3/2	○	○	○		良 外面に赤色顔料塗布
	56	SK13	一括	浅鉢	胴部	外 内 ミガキ→沈線文、刺突文 ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	○		○	輝石 白色鉱物 黒色鉱物	良
	57	SK13	5	鉢	胴部	外 内 ナデ→磨消繩文、横位の沈線文 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい赤褐色 Hue5YR4/4	○	○	○	白色鉱物	良 縄文の原体が幅広
	58	SK13	22	鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○	○	黑色鉱物	良
	59	SK13	6. 29	浅鉢	胴部	外 内 ミガキ→刺突文 ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue10YR3/1	○	○	○	白色鉱物	良 胴部が屈曲する
	60	SK13	2	鉢	胴部	外 内 ナデ、ミガキ→磨消繩文、沈線文 ミガキ	明黄褐色 Hue2.5Y7/6	暗オーリーブ褐色 Hue2.5Y3/3	○	○	○	白色鉱物	良
30	61	SK13	36. 11	深鉢	口縁部	外 内 ナデ→沈線文 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/8	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○			良 市来式土器
	62	SK13	37	深鉢	口縁部	外 内 ナデ→押引文? ナデ	灰黄褐色 Hue10YR4/2	灰黄褐色 Hue10YR4/2	○	○	○	白色鉱物	良 63と同一個体か?
	63	SK13	21	深鉢	口縁部	外 内 ナデ→押引文? ナデ	灰黄褐色 Hue10YR4/2	にぶい黄褐色 Hue10YR4/3	○	○	○	白色鉱物	良 62と同一個体か?
	64	SK13	32	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	褐色 Hue7.5Y4/4	灰黄褐色 Hue10YR5/2	○	○			良
	65	SK13	25. 28	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	赤褐色 Hue5YR4/8	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○			良
	66	SK13	30	深鉢?	胴部	外 内 ミガキ ミガキ	明黄褐色 Hue10YR6/6	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○			良 鉢の可能性がある
	67	SK13	34	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	褐色 Hue10YR4/4	褐色 Hue10YR4/4	○	○	○	白色鉱物	良
	68	SK13	19. 26	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/8	暗褐色 Hue10YR3/3	○	○	○	白色鉱物	良
32	69	SK20	4	深鉢	口縁部～胴部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR4/4	にぶい橙色 Hue7.5YR5/4	○	○	○		良 市来式土器系
	70	SK20	一括	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR6/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	○	○	○	白色鉱物	良 摩滅が著しい
	71	SK20	一括	鉢	口縁部	外 内 ナデ ミガキ様のナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3		○			良 18・23と胎土が類似 磨消繩文土器系
	72	SK20	8	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	にぶい赤褐色 Hue5YR6/4	○	○	○		良
	73	SK20	2	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	褐色 Hue7.5YR4/3	赤褐色 Hue5YR4/6	○	○	○	砂礫	良
	74	SK20	一括	鉢	胴部	外 内 ミガキ様のナデ ナデ	黄褐色 Hue2.5Y5/3	黄褐色 Hue2.5Y5/3	○				良
	75	SK20	一括	鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○			良
	76	SK20	一括	不明	胴部	外 内 ナデ ナデ	にぶい橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○			良 焼成が良好で硬質 内面に工具痕
	77	SK20	一括	鉢	胴部	外 条痕 内 条痕	橙色 Hue7.5YR6/6	黄褐色 Hue2.5YR5/6	○	○	○		良
	78	SK20	一括	鉢	胴部	外 内 ナデ→条痕文 ナデ→条痕文	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	橙色 Hue5YR6/6	○			黒雲母 砂礫	良
	79	SK20	1	深鉢	底部	外 内 ナデ ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	褐色 Hue10YR4/4	○	○	○	白色鉱物	良 摩滅
	80	SK20	一括	脚台付 深鉢	底部	外 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/8	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○	○		良
	81	SK20	一括	浅鉢?	口縁部	外 内 ナデ→刺突文 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○		○		良
	82	SK20	10. 11	浅鉢	胴部	外 内 ナデ・ミガキ→沈線文 ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/4	黄褐色 Hue2.5Y5/4	○	○			良 胴部が屈曲する
	83	SK20	一括	鉢	胴部	外 内 ナデ →沈線文、磨消繩文、(渦巻文?) ナデ→縦位の沈線文	赤褐色 Hue2.5YR4/6	赤褐色 Hue5YR4/6	○	○		黒雲母 白色鉱物	良
	84	SK20	7	台付皿 形土器	脚部	外 内 ナデ→沈線文、刺突文 ミガキ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	○	○		黒雲母 白色鉱物	良 市来式土器

第9表 縄文時代の遺物観察表（3）

挿図番号	掲載番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土		焼成	備考	
							外面	内面	石英	長石	カセン		
33	85	SK44	1B	深鉢	口縁部	外 内 ナデ 一沈線文、縦位の刺突文（二枚貝） ナデ	黒褐色 Hue7.5YR3/2	暗褐色 Hue7.5YR3/4	○	○	○		良 市来式土器
	86	SK44	13	深鉢	口縁部	外 内 ナデ ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	黒褐色 Hue7.5YR3/1	○	○	○	白色鉱物	良 市来式土器
	87	SK44	10	深鉢	胴部～底部	ミガキ ナデ	オリーブ褐色 Hue2.5Y4/6	オリーブ褐色 Hue2.5Y4/4	○	○	○		良 詳細不明
	88	SK44	3	深鉢	口縁部	外 内 ナデ→沈線文 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	暗褐色 Hue10YR3/3	○	○	○	白色鉱物 黒色鉱物	良 市来式土器
	89	SK44	一括	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	橙色 Hue5YR7/6	橙色 Hue5YR7/6	○	○	○	白色鉱物	良
34	94	SK60	4	深鉢	口縁部	外 内 ナデ→刺突文、四線文 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	橙色 Hue5YR6/6	○	○		白色鉱物 滑石	良 阿高式系土器 流れ込み
	95	SK60	7	台付皿形土器	口縁部	外 内 ナデ 一沈線文、刻目状の沈線文（口唇部） ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	明黄褐色 Hue10YR7/6	○	○	○		良 焼成が良好で硬質 松山式土器？
	96	SK60	6	鉢？	胴部	外 内 ミガキ ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	○	○		黒雲母 白色鉱物	良
	97	SK60	2, 3	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	橙色 Hue5YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○			良
	98	SK60	1, 5	深鉢	底部	外 内 ナデ ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR6/6		○		黒雲母 滑石 茶色鉱物	良 阿高式系土器 流れ込み
	99	SK60	9	深鉢	胴部～脚部	外 内 ナデ、ミガキ 指サエ、ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	褐色 Hue7.5YR4/6	○	○		黒雲母 白色鉱物	良
	100	SK60	一括	台付皿形土器	脚部	外 内 ナデ→沈線文、刺突文（二枚貝） ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	○	○	○		良
36	105	SK61	28	鉢	口縁部	外 内 ナデ→四点文、渦巻状の突起 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	○	○	○	滑石	良 阿高式系土器 流れ込み
	106	SK61	1, 2, 3, 5, 7 36, 37	深鉢	口縁部～胴部	外 内 ナデ 一横位の沈線文、「V」字状の沈線文 ナデ	暗赤褐色 Hue5YR3/4	にぶい赤褐色 Hue5YR4/3	○	○	○	白色鉱物	良 北久根山式土器
	107	SK61	32	深鉢	口縁部	外 内 ナデ ナデ	オリーブ褐色 Hue2.5Y4/3	褐色 Hue7.5YR4/4	○	○	○	白色鉱物	良 市来式土器系
	108	SK61	48	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	灰黄褐色 Hue10YR4/2	○	○		輝石	良
	109	SK61	56	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	暗褐色 Hue10YR3/3	褐色 Hue10YR4/4	○	○		滑石	良 阿高式系土器 流れ込み
	110	SK61	42	深鉢	口縁部	外 内 ナデ→擬似縄文（口縁部） 擬似縄文、沈線文（胴部） ミガキ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	黒色 Hue2.5Y2/1	○	○		鉱物	良 北久根山式土器
	111	SK57 SK61	5, 30	鉢	口縁部	外 内 ナデ→刺突文、沈線文（口唇部） 磨消縄文、沈線文（口縁部） ミガキ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/3	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	○	○		黒雲母 白色鉱物	良 初期の縁帶文土器
	112	SK61	6	鉢？	胴部	外 内 ナデ→沈線文、擬似縄文、渦巻文 ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○		白色鉱物	良
	113	SK61	49	鉢？	底部	外 内 ミガキ ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	赤褐色 Hue5YR4/6		○			良
	114	SK61	41, 51, 55	深鉢	底部	外 内 ナデ ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	明褐色 Hue7.5YR5/6	○			白色鉱物	良
37	115	SK49	一括	浅鉢	胴部	外 内 ミガキ→線刻状の沈線？ ミガキ	黒褐色 Hue2.5Y3/1	黒色 Hue5Y2/1	○	○			良 晩期の浅鉢
	116	SK49	3	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	褐色 Hue10YR5/1	○	○	○	茶色鉱物 黒色鉱物	良 焼成が良好で硬質
38	117	SK50	2	深鉢	口縁部	外 内 ナデ→沈線文 ナデ	橙色 Hue2.5YR6/8	黃橙色 Hue7.5YR7/8	○	○	○	黑色鉱物	良 市来式土器
39	120	SK51	2	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	灰黄褐色 Hue10YR5/2	明黄褐色 Hue2.5Y7/6	○	○	○		良
	121	SK51	一括	浅鉢？	胴部	外 内 ナデ→沈線文、磨消縄文 ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	黃橙色 Hue7.5YR7/8		○			良
	122	SK51	3	鉢？	胴部	外 内 ナデ→沈線文、磨消縄文 ナデ	褐灰色 Hue7.5YR4/1	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	○	○		黒雲母 白色鉱物	良
	123	SK51	一括	浅鉢	底部	外 内 ミガキ様のナデ ナデ	黒褐色 Hue2.5Y3/1	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	○	○	○	白色鉱物	良
40	125	SX42	一括	深鉢	胴部	外 内 ナデ ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	明赤褐色 Hue5YR5/6	○	○	○	白色鉱物	良
	126	SX42	1	深鉢	胴部	外 内 ミガキ ミガキ	暗黃灰色 Hue2.5Y5/2	暗黃灰色 Hue2.5Y4/2	○	○	○	白色鉱物	良
44	129	SK46	2	深鉢	胴部～底部	外 内 ミガキ ミガキ	赤褐色 Hue5YR4/6	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○		黒雲母 滑石	良

第10表 繩文時代の遺物観察表(4)

挿図番号	掲載番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考
							外面	内面	石英	長石	カセン		
45	130	SK69	3	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	○	○	○	輝石 茶色鉱物	良 市来式土器系
	131	SK69	一括	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	灰黄褐色 Hue10YR4/2		○	○		良
	132	SK69	一括	鉢?	胴部	外 ナデ→磨消繩文 内 ミガキ	褐灰色 Hue10YR4/1	黒色 Hue7.5YR1.7/1	○	○		白色鉱物 茶色鉱物	良 外面に赤色顔料塗布
	133	SK69	4	深鉢	底部	外 ナデ、一部ミガキ 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR6/6	暗黄灰色 Hue2.5Y4/2	○	○	○	白色鉱物	良
48	136	SX52	7	深鉢	胴部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	にぶい黄褐色 Hue7.5YR5/4	○		○	黒雲母	良
52	140	SK45	7	塊?	底部	外 ミガキ 内 ミガキ	褐色 Hue10YR4/4	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○			古墳時代の丸底状の塊か?
	141	SK45	1	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	褐灰色 Hue7.5YR4/1	○	○	○	白色鉱物	良 外面の摩滅が著しい
	142	SK45	4, 5. 一括	深鉢	口縁部～胴部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	極暗赤褐色 Hue5YR2/4	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○	○		良
	143	SK45	3	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文、擬似繩文 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○				良

第11表 繩文時代の遺物観察表(5)

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考
							外面	内面	石英	長石	カセン		
54	144	P - 24 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→四線文 内 ナデ	赤褐色 Hue2.5YR4/8	暗褐色 Hue5YR3/6	○	○			良 阿高式系土器
	145	O - 27・28区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→縦位の四線文 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR4/3	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4		○		滑石	良 阿高式土器
	146	SD38	下	深鉢	口縁部	外 ナデ→縦位の四線文 内 ナデ	灰黄褐色 Hue10YR4/2	褐色 Hue10YR4/4	○	○	○		良 阿高式系土器
	147	N - 26 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→斜位の四線文 内 ナデ	暗赤褐色 Hue5YR3/2	にぶい赤褐色 Hue5YR4/3	○		○		良 阿高式系土器
	148	SD38	下	深鉢	口縁部	外 ナデ→四線文 内 ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR5/4	にぶい橙色 Hue7.5YR5/4		○	○		良 阿高式系土器
	149	N - 26 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→四線文 内 ナデ	明赤褐色 Hue2.5YR5/8	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	○	○			良 南福寺式土器
	150	P - 24 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→四線文 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	赤褐色 Hue5YR4/8	○	○	○		良 南福寺式土器
	151	O - 24 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→四線文 内 ミガキ	明赤褐色 Hue5YR5/6	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	○	○			良 南福寺式土器, 赤色顔料塗布
	152	O - 26 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→四線文 内 ミガキ	赤灰色 Hue2.5YR4/1	にぶい赤褐色 Hue2.5YR5/3	○	○		滑石	良 阿高式土器
	153	O - 27 区	不明	深鉢	胴部	外 ナデ→横位の四線文 内 ミガキ	橙色 Hue5YR6/6	にぶい黄色 Hue10YR5/4	○		○		良 南福寺式土器
	154	O - 25 区	Ⅲ	深鉢	口縁部～胴部	ナデ→刺突文(突起部) →沈線文, 刻目状の刺突文(口縁部)	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	褐灰色 Hue10YR4/1	○	○	○		良 松山式土器
	155	N - 25 区 O - 27 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ→刻目状の沈線文(口唇部) 横位の沈線文(胴部)	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue10YR3/1	○	○	○		良 市来式土器系
	156	M - 25 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刻目状の沈線文 内 ナデ	にぶい赤褐色 Hue5YR4/4	明赤褐色 Hue5YR5/8	○	○	○		良 市来式土器系
	157	N - 24 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→斜位の沈線文 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	褐灰色 Hue10YR4/1	○	○	○		良 市来式土器系
	158	N - 23 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ→斜位の刺突文(口縁部) 刺突文(口唇部)	黄褐色 Hue10YR5/8	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○	○		良 市来式土器系
	159	N - 26 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ→刻目状の刺突文(口唇部) 内 ナデ→「S」字状の沈線文	暗赤褐色 Hue5YR2/4	赤褐色 Hue5YR4/8	○	○	○		良 市来式土器系
	160	O - 24 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ→刻目文(口唇部) 沈線文(口縁部)	にぶい赤褐色 Hue5YR4/3	橙色 Hue5YR6/6	○	○	○		良 市来式土器系
55	161	N - 27 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue7.5YR5/4	黒褐色 Hue7.5YR3/1	○	○	○		良 市来式土器系
	162	N - 24 区	Ⅲ	深鉢	口縁部～胴部	ナデ→刻目状の刺突文 内 ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	明褐色 Hue7.5YR5/6	○	○	○		良 市来式土器系
	163	O - 25 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ→「S」字状の貼付文 →「S」字状の沈線文 内 ナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	橙色 Hue5YR6/6	○	○	○		良 市来式土器系

第12表 繩文時代の遺物観察表(6)

掲番号	掲載番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考
							外面	内面	石英	長石	かセ		
55	164	N - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→刻目(口唇部) 斜位の沈線文(口縁部) 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	赤褐色 Hue5YR6/6	○	○	○		良 市来式土器系
	165	SP80	埋土	深鉢	口縁部	外 ナデ→刻目(口唇部) 横位と斜位の沈線文(口縁部) 内 ナデ	にぶい橙色 Hue5YR6/3	にぶい橙色 Hue5YR6/3	○				良 市来式土器系
	166	N - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文(口縁部・口唇部) 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR4/6	褐色 Hue7.5YR4/6	○	○	○		良 市来式土器系
	167	SD38	下	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文、貝殻刺突文 内 ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6		○	○		良 市来式土器系 御手洗C式土器の影響
	168	O - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文(口唇部) 沈線文、貝殻刺突文(口縁部) 内 ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	黄褐色 Hue10YR5/6	○	○	○		良 市来式土器系 御手洗C式土器の影響
	169	N - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○			良 市来式土器系
	170	M・N - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文 内 ナデ	暗褐色 Hue10YR3/4	暗褐色 Hue7.5YR3/3	○	○	○		良 市来式土器系
	171	O・P - 25 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→斜位の沈線文 内 ナデ	暗褐色 Hue10YR3/3	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	○	○			良 市来式土器系 脇部に穿孔あり
	172	M - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→貼付文、刻目状の刺突文 内 ナデ	橙色 Hue5YR6/6	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○			良 市来式土器系 北久根山式土器の影響
	173	SP102	埋土	深鉢	口縁部	外 ナデ→刻目状の刺突文 内 ナデ	灰褐色 Hue7.5YR5/2	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	○				良 市来式土器系
	174	O - 25 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR4/3	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○			良 無文
	175	P - 23 区	不明	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○			良 市来式土器系
	176	O - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/8	暗赤灰色 Hue2.5YR3/1	○	○	○		良 市来式土器系
	177	N - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	赤黒色 Hue2.5YR2/1	にぶい黄褐色 Hue10YR6/4	○	○	○		良 市来式土器系
56	178	N - 26 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→「W」字状の貼付文 羽状の沈線文 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	○	○	○		良 北久根山式土器
	179	O - 26 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→「W」字状の貼付文 羽状の沈線文 内 ナデ	明黄褐色 Hue2.5Y7/6	浅黄色 Hue2.5Y7/4	○	○	○		良 北久根山式土器
	180	O - 26 区	I	深鉢	口縁部	外 ナデ→「W」字状の貼付文 押し引き状の擬似繩文 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue2.5YR6/4	にぶい黄褐色 Hue2.5YR6/4	○	○	○	白色鉱物	良 北久根山式土器
	181	O - 26 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→刻目状の沈線文(口唇部) 斜位の沈線文(口縁部) 内 ナデ	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	○	○	○	輝石 白色鉱物	良 北久根山式土器
	182	P - 23 区	不明	深鉢	口縁部	外 ナデ→斜位の沈線文? 内 ナデ	黒褐色 Hue7.5YR3/1	橙色 Hue7.5YR6/6	○	○	○		良 北久根山式土器
	183	M - 25 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	黄褐色 Hue2.5Y5/3	○	○			西平式土器もしくは太郎迫式土器か?
	184	N - 24 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	○	○			底径 13.1cm 底部に圧痕あり
	185	O - 24 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○			底径 11.2cm 底部に圧痕あり
	186	O・P - 28・29 区	不明	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue5YR6/6	黒褐色 Hue7.5YR3/1	○	○			良 底部に圧痕あり
	187	O・P - 25 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○	○		良 底径 11.0cm
	188	M - 24 区	不明	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue2.5YR7/6	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○			良 底径 12.0cm
	189	N - 24 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/8	橙色 Hue7.5YR7/6	○	○	○		良
	190	P - 24 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	○	○			良 底径 12.4cm 底部に圧痕あり
	191	P - 24 区	不明	深鉢	脚部	外 ミガキ 内 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○		黒雲母 白色鉱物		良 底径 12.0cm
	192	N - 25 区 O - 27 区	III	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	黒色 Hue10YR2/1	褐色 Hue7.5YR4/4	○	○			良
	193	Q - 31 区	I	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	明赤褐色 Hue5YR5/8	○	○			良
	194	M - 25 区	III	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○	○			良
	195	O - 24 区	III	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/8	明赤褐色 Hue5YR5/6	○	○			良

第13表 繩文時代の遺物観察表(7)

插図番号	掲載番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土		焼成	備考		
							外面	内面	石英	長石	カセン			
56	196	M - 25 区	III	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	にぶい赤褐色 Hue5YR4/4	○	○	○	良		
	197	N - 24 区	III	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○	○		良		
	198	O - 24 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	橙色 Hue5YR6/6		○	○	良		
57	199	O - 25 区	III	鉢	口縁部～胴部	ミガキ→沈線文、刺突文、 2箇所の穿孔（口唇部） 沈線文、磨消繩文、 鉤手文（胴部） 内 ミガキ	灰黄褐色 Hue10YR6/2	灰黄褐色 Hue10YR6/2	○	○	茶色鉱物	良	口径 34.0cm 鐘崎式土器	
	200	不明	不明	浅鉢？	口縁部	外 ナデ→沈線文、刺突文 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	明黄褐色 Hue10YR7/6		○		良	表面が摩滅する 鐘崎式土器	
	201	N - 26 区	III	浅鉢	口縁部	外 ミガキ→沈線文（口唇部） 磨消繩文（胴部） 内 ナデ	暗灰黄色 Hue2.5Y4/2	暗灰黄色 Hue2.5Y4/2	○	○	○	良	鐘崎式土器	
	202	SD38	中	浅鉢	口縁部	外 ナデ→刺突文、沈線文、 穿孔（口唇部） 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	○	○	○	良	鐘崎式土器	
	203	O - 26 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ→沈線文、竹管状の工具による 刺突文（口唇部） 沈線文、磨消繩文（胴部） 内 ミガキ	暗灰黄色 Hue2.5Y4/2	暗灰黄色 Hue2.5Y4/2	○	○		良	鐘崎式土器	
58	204	N - 25 区	III	鉢	口縁部	外 ナデ→横位の沈線文 磨消繩文（擬似繩文か？） 内 ナデ	黄褐色 Hue10YR5/8	黄褐色 Hue2.5Y5/6	○	○	○	良	北久根山式土器	
	205	N - 25 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ→横位の沈線文 磨消繩文（擬似繩文か？） 内 ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒色 Hue10YR1.7/1	○	○	白色鉱物	良	北久根山式土器	
	206	N - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ナデ→刺突文（口唇部） 沈線文、磨消繩文（胴部） 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○	白色鉱物	良	北久根山式土器
	207	P - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ナデ→磨消繩文 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	○	○	○	良	北久根山式土器	
	208	N - 25 区	III	鉢	口縁部	外 ナデ→磨消繩文 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	にぶい黄色 Hue10YR6/4	○	○	○	良	北久根山式土器	
	209	P - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ナデ→磨消繩文、穿孔 内 ナデ→磨消繩文	灰黄褐色 Hue10YR5/2	灰黄褐色 Hue10YR4/2	○	○	○	良	北久根山式土器	
	210	M - 27 区	I	鉢	口縁部	外 ミガキ→沈線文 内 ミガキ	黒色 Hue2.5Y2/1	黒色 Hue2.5Y2/1	○	○	白色鉱物	良	辛川式土器	
	211	SD38	下	鉢	口縁部	外 ナデ→磨消繩文、沈線文 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	灰黄褐色 Hue10YR5/2	○	○	白色鉱物	良	辛川式土器	
	212	N - 26 区	III	鉢	胴部	外 ミガキ→沈線文 内 ミガキ	黒色 Hue2.5Y2/1	黄灰色 Hue2.5Y4/1	○	○		良	鐘崎式土器	
	213	N - 24 区	III	鉢	胴部	外 ミガキ→沈線文 内 ミガキ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	○	○	○	良	鐘崎式土器	
	214	O - 25 区	不明	鉢	胴部	外 ナデ→竹管状の工具による刺突文、 縦位の沈線文 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○		良	鐘崎式土器	
	215	M - 25 区	III	鉢	胴部	外 ナデ→沈線文、磨消繩文、渦巻文 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	白色鉱物	良	鐘崎式土器	
	216	O - 25 区	III	鉢	胴部	外 ナデ→沈線文、渦巻文 内 ナデ	明赤褐色 Hue2.5YR5/8	橙色 Hue7.5YR6/6	○		黒雲母	良	鐘崎式土器	
	217	N - 24 区	III	鉢	胴部	外 ナデ→沈線文、渦巻文、刺突文 内 ナデ	黒褐色 Hue2.5Y5/3	黒褐色 Hue2.5Y5/3	○	○		良	鐘崎式土器	
	218	N - 26 区	III	鉢	胴部	外 ナデ→沈線文、渦巻文 内 ナデ	黒色 Hue10YR2/1	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○	良	鐘崎式土器	
	219	O - 25 区	I	鉢	胴部	外 ナデ→沈線文、磨消繩文 内 ミガキ	暗オーリーブ褐色 Hue2.5Y3/3	黒褐色 Hue2.5Y3/2	○	○		良	西平式土器	
	220	SD38	下	鉢	胴部	外 ミガキ→窓枠状の沈線文、磨消繩文 内 ミガキ	灰黄褐色 Hue10YR5/2	灰黄褐色 Hue10YR4/2	○			良	太郎迫式土器	
59	221	L - 19 区	III	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	灰黄色 Hue2.5Y6/2	○	○	白色鉱物	良		
	222	N - 30 区	I	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○	良		
	223	不明	I	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○		良	上げ底状になる 底部に圧痕あり	
	224	N - 24 区	III	浅鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	○	○		良	上げ底状になる 底部に圧痕あり	
	225	不明	I	浅鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	黄灰色 Hue2.5Y4/1	浅黄色 Hue2.5Y7/3	○	○	黒雲母 白色鉱物	良		
	226	不明	不明	浅鉢	底部	外 ミガキ 内 ナデ	黄灰色 Hue2.5Y4/1	黄褐色 Hue2.5Y5/4	○	○		良	底部に圧痕あり	

第14表 繩文時代の遺物観察表(8)

掲番号	掲載番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考
							外面	内面	石英	長石	カセ		
59	227	P - 26 区	III	鉢	底部	外 ミガキ 内 ミガキ	赤色 Hue10R5/6	褐色 Hue7.5YR4/1	○	○	○	良	
	228	N - 24 区	III	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○		黒雲母	良 底部に圧痕あり
	229	N - 25 区	III	台付皿形土器	口縁部	外 ナデ→刻目状の沈線文(口唇部) 沈線文(胴部) 内 ナデ→沈線文	暗褐色 Hue7.5YR3/4	褐色 Hue7.5YR4/6	○		○		良 市来式土器系
	230	N - 24 区	III	台付皿形土器	口縁部	外 ナデ→刺突文(口唇部) 貝殻刺突文(口縁部) 内 ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○	○	良	市来式土器系
	231	不明	搅乱	台付皿形土器	突帯部	外 ナデ→刺突文、沈線文(突起部) 内 ナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	暗褐色 Hue7.5YR3/3	○		○	黒雲母	良 磨消繩文土器系
	232	不明	III	台付皿形土器	口縁部	外 ナデ→沈線文(口唇部) 沈線文、刺突文(口縁部) 内 ナデ→(「S」字状の)沈線文	明赤褐色 Hue2.5YR5/8	暗赤褐色 Hue5YR3/3		○	○		良 市来式土器系
	233	M - 26 区	III	台付皿形土器	口縁部	外 ナデ→沈線文(突起部) 磨消繩文(胴部) 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	褐色 Hue7.5YR4/4	○	○	○	黒雲母 白色鉱物	良 磨消繩文土器系
	234	N - 25 区	III	台付皿形土器	口縁部	外 ナデ→刺突文(口唇部) 沈線文(胴部) 内 ナデ→沈線文	黒色 Hue10YR2/1	橙色 Hue7.5YR7/6		○	○		良
	235	N - 26 区	III	皿形土器	口縁部	外 ミガキ→浮線状の文様 内 ミガキ	にぶい赤褐色 Hue5YR5/4	橙色 Hue5YR6/6		○			良
	236	O - 27 区	不明	皿形土器	口縁部	外 ミガキ→浮線状の文様 内 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3		○			良
	237	SD38	上下	台付皿形土器	脚部	外 ナデ→刺突文 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	明赤褐色 Hue5YR5/6		○	○		良 市来式土器系
	238	O - 28 区	III	台付皿形土器	脚部	外 ナデ→刻目状の沈線文 内 ナデ	褐色 Hue10YR4/6	灰黃褐色 Hue10YR5/2		○	○		良 市来式土器系
	239	O - 25 区	I	台付皿形土器	脚部	外 ナデ→竹管状の工具による刺突文 沈線文、渦巻文 内 ナデ	黄灰色 Hue2.5Y4/1	黄灰色 Hue2.5Y4/1		○	○	○	良 磨消繩文土器系
	240	N - 25 区	III	台付皿形土器	脚部	外 ナデ→竹管状の工具による刺突文 沈線文、渦巻文 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4		○	○	○	良 磨消繩文土器系
	241	N - 26 区	III	台付皿形土器	脚部	外 ナデ→刻目状の刺突文 内 ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい赤褐色 Hue5YR5/4		○	○		良 市来式土器系
	242	L - 19 区	III	台付皿形土器	脚部	外 ハケ目状のナデ 内 ハケ目状のナデ	にぶい赤褐色 Hue5YR4/4	にぶい赤褐色 Hue5YR4/4				白色鉱物	良 透かし孔? 土師器甕の可能性あり
60	243	SD38	下	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3		○	○	○	良 上加世田式土器 もしくは御領式土器
	244	SD38	下	深鉢	口縁部	外 条痕 内 条痕	灰褐色 Hue7.5YR4/2	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4		○	○		良 後期末~晚期
	245	P - 24 区	不明	深鉢	口縁部 ~胴部	外 条痕 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	黄灰色 Hue10YR4/1		○	○		良 後期末~晚期
	246	SD38	下	深鉢	口縁部	外 条痕 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		○	○	○	良 後期末~晚期
	247	O - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 条痕 内 ナデ	黒色 Hue10YR1.7/1	黒褐色 Hue10YR2/2		○	○		良 後期末~晚期
	248	N - 26 区	III	深鉢	口縁部	外 条痕 内 条痕	橙色 Hue7.5YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4		○		○	黒雲母 良 後期末~晚期 補修孔あり
	249	N - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 条痕 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR4/3	明褐色 Hue7.5YR5/6		○	○		黒雲母 良 後期末~晚期
	250	M - 25 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3		○	○	○	良 後期末~晚期
	251	J ~ M - 17 ~ 20 区	I	深鉢	口縁部 ~胴部	外 条痕 内 条痕	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3		○	○	○	黒雲母 良 後期末~晚期
	252	O - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 条痕 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	橙色 Hue7.5YR6/6		○	○	○	良 後期末~晚期
	253	N - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3		○	○	○	良 後期末~晚期
	254	SD38	下	深鉢	口縁部	外 条痕 内 ナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4		○	○	○	良 後期末~晚期
	255	SD38	下	深鉢	口縁部	外 条痕 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		○	○	○	良 後期末~晚期
	256	M - 24 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 条痕、ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4		○	○	○	黒雲母 良 後期末~晚期
	257	O - 25 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4		○	○	○	黒雲母 良 後期末~晚期

第15表 繩文時代の遺物観察表(9)

掲番号	掲載番号	出土地点	層位	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考
							外面	内面	石英	長石	カセ		
60	258	SD38	下	深鉢	口縁部	外 条痕 内 条痕	黄灰色 Hue2.5Y4/1	黄灰色 Hue2.5Y4/1	○	○			良 後期末～晩期
	259	SD38	下	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	○	○	○	黒雲母 白色鉱物	良 後期末～晩期
	260	O - 24区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ミガキ様のナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	黒色 Hue10YR2/1	○	○		白色鉱物	良 後期末～晩期
	261	M - 24区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	褐灰色 Hue10YR4/1	○	○			良 後期末～晩期
	262	N - 25区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue5YR6/6	黒褐色 Hue5YR2/1	○	○	○		良 後期末～晩期
	263	O - 26区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	灰黄褐色 Hue10YR4/2	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	○	○			良 後期末～晩期
61	264	K - 20区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	黒色 Hue10YR1.7/1	○	○	○		良 後期末～晩期
	265	M - 25区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ、ミガキ 内 ナデ、ミガキ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	○	○	○		良 後期末～晩期
	266	P - 24区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	灰黄褐色 Hue10YR5/2	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○	白色鉱物	良 後期末～晩期
	267	N - 26区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	黒褐色 Hue2.5Y3/2	黒褐色 Hue2.5Y3/2	○		黒雲母		良 後期末～晩期
	268	N - 24区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue10YR2/1	○	○			良 後期末～晩期
	269	不明	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺突による穿孔(2箇所) 内 ナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	浅黄色 Hue2.5Y7/4	○	○			良 後期末～晩期 孔列文の可能性あり
	270	N - 27区 M - 26区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○			良 入佐式土器新段階
	271	L - 19区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	○		黒雲母		良 入佐式土器新段階
	272	O - 25区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	○				良 後期末～晩期
	273	SD38	下	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	黄色 Hue2.5Y8/6	○				良 後期末～晩期
	274	N - 25区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	灰黄褐色 Hue10YR5/2	○				良 後期末～晩期
	275	L - 20区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ、条痕、リボン状の突起 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	○	○			良 入佐式土器新段階から 黒川式土器
	276	N - 27区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	黒褐色 Hue7.5YR3/1	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○		良 後期末～晩期
	277	N - 28区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	○	○			良 後期末～晩期
	278	J ~ M - 17 ~ 20区	I	深鉢	胴部	外 ナデ、条痕 内 ナデ、条痕	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/3	○				良 後期末～晩期
62	279	O - 23区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 条痕 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR6/3	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	○	○	○		良 後期末～晩期
	280	M - 24区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	○	○	○	白色鉱物	良 後期末～晩期
	281	N - 27区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 条痕 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	○				良 後期末～晩期
	282	N - 24区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ、条痕 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	灰黄色 Hue2.5Y6/2	○	○	○		良 後期末～晩期
	283	M - 24区	Ⅲ	深鉢	胴部	外 ナデ、条痕 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○		○	黒雲母 白色鉱物	良 後期末～晩期
	284	L - 19区	I	深鉢	胴部	外 条痕 内 ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/3	○	○	○		良 後期末～晩期
	285	不明	不明	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5YR6/4	にぶい黄色 Hue2.5YR6/3	○	○	○	白色鉱物	良 後期末～晩期
	286	O - 27区	Ⅲ	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明赤褐色 Hue2.5YR5/6	暗赤褐色 Hue2.5YR3/4	○	○	○		良 後期末～晩期
	287	P - 26区	Ⅲ	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	灰黄褐色 Hue10YR6/2	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	○	○	○	黒雲母	良 後期末～晩期
	288	P - 27区	Ⅲ	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○			良 後期末～晩期
	289	O - 26区	I	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	黄褐色 Hue2.5Y3/3	○	○	○		良 後期末～晩期 底部に圧痕あり
	290	M - 27区	I	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/8	にぶい橙色 Hue7.5YR6/6	○	○	○	黒雲母 白色鉱物	良 後期末～晩期 底部に圧痕あり
	291	O - 26区	I	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	黄灰色 Hue2.5Y3/1	○		黒雲母		良 後期末～晩期 底部に圧痕あり

第16表 縄文時代の遺物観察表(10)

播団番号	掲載番号	出土地点	層位	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考	
							外面	内面	石英	長石	カセツ			
62	292	O - 24 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○		良	後期末～晩期 底部に圧痕あり	
	293	L - 19 区	I	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR6/6	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○	○	良	後期末～晩期 底部に圧痕あり	
	294	O - 24 区 N - 26 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○		良	後期末～晩期 底部に圧痕あり	
	295	P - 24 区	III	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○		黒雲母	良	後期末～晩期 底部に圧痕あり	
	296	SD38	下	深鉢	底部	外 ミガキ→条痕文 内 ミガキ	黄灰色 Hue2.5Y5/7	灰黄色 Hue2.5Y6/2	○	○	○	良	後期末～晩期 底部に圧痕あり	
	297	O - 28・29 区	I	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	浅黄色 Hue2.5Y7/4	○		○	黒雲母	良	後期末～晩期 底部に圧痕あり
	298	M - 27 区	I	深鉢	底部	外 一 内 ナデ	にぶい赤褐色 Hue5YR5/4	にぶい赤褐色 Hue5YR5/4	○			良	後期末～晩期 底部に圧痕あり	
63	299	N - 26 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ→四線状の文様 内 ミガキ	褐灰色 Hue10YR5/1	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	○	○		良	三万田式土器	
	300	N - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ→四線状の文様 内 ミガキ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	○	○	○	白色鉱物	良	三万田式土器
	301	N - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ→四線状の文様 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○	○	白色鉱物	良	三万田式土器
	302	O - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/6	暗灰黃色 Hue2.5Y5/2	○		○	黒雲母	良	入佐式土器～ 黒川式土器
	303	N - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○		良	入佐式土器～ 黒川式土器
	304	O - 24 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ→沈線文 内 ミガキ	黒褐色 Hue2.5Y3/1	オリーブ黒色 Hue5Y3/1	○		○		良	黒川式土器
	305	N - 25 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	灰黃褐色 Hue10YR4/2	灰黃褐色 Hue10YR4/2	○		○	黒雲母	良	黒川式土器
	306	SD38	下	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○		良	入佐式土器～ 黒川式土器	
	307	J - 20 区	III	鉢	口縁部～胴部	外 ナデ 内 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	黃灰色 Hue2.5Y4/1	○	○		良	入佐式土器以前(後期末)	
	308	P - 24 区	搅乱	浅鉢	口縁部～胴部	外 ミガキ, ヒレ状突起(口縁部) 橋状把手(胴部) 内 ミガキ	明黄褐色 Hue10YR6/6	明黄褐色 Hue10YR6/6	○		○		良	入佐式土器
	309	K - 17 区	III	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	灰黄色 Hue2.5Y6/2			○		良	黒川式土器
	310	SD38	下	鉢	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	灰黄色 Hue2.5Y6/2	○	○	○	黒雲母	良	入佐式土器以前(後期末)
	311	J～M～ 17～20 区	I	鉢	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	灰黄色 Hue2.5Y6/2	○		○		良	入佐式土器以前(後期末)
	312	P - 24 区	III	浅鉢	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	黑褐色 Hue2.5Y3/1	黑褐色 Hue2.5Y3/1	○		○	黒雲母	良	入佐式土器以前(後期末)
	313	SD38	中	浅鉢	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	褐色 Hue7.5YR4/6	オリーブ黒色 Hue5Y3/2	○	○	○		良	入佐式土器以前(後期末)
	314	N - 25 区	III	鉢	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	黑色 Hue2.5Y2/1	○		○	黒雲母	良	
	315	I・J～ 17～21 区	III	鉢	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	黒褐色 Hue2.5Y3/1	黃灰色 Hue2.5Y4/1	○	○	○		良	
	316	N - 25 区	III	鉢	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	黑色 Hue10YR2/1	灰黃褐色 Hue10YR5/2	○	○	○		良	
	317	K・L - 18 区	III	浅鉢?	胴部	外 ナデ 内 ナデ	灰黃褐色 Hue10YR5/2	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○	○		良	
64	318	L - 19 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR4/4	にぶい赤褐色 Hue5YR4/4	○	○		良	指宿式土器の影響か?	
	319	O - 25 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	灰黃褐色 Hue10YR4/2	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	○	○		良		
	320	O - 27 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→刻目・突帯、羽状の沈線文 内 ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	橙色 Hue7.5YR6/6	○	○		良	南福寺式土器や出水式 土器の影響	
	321	SD38	II	深鉢	胴部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	○	○	○	良		
	322	N - 25 区	III	深鉢	胴部	外 ナデ→沈線文 内 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	橙色 Hue5YR6/6	○	○	○	白色鉱物	良	
	323	SD38	搅乱	鉢?	口縁部	外 ナデ→2列の押引文(口唇部) 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	○		○		良	
	324	N - 25 区	III	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈線文(口縁部) 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	○	○	○	白色鉱物	良	上加世田式土器以前 (後期末)

第17表 縄文時代の遺物観察表(11)

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土		焼成	備考	
							外面	内面	石英	長石	カセン		
64	325	P - 24 区	III	深鉢	口縁部 外 内	ナデ→沈線文(口唇部・口縁部) ナデ	黄褐色 Hue2.5Y5/3	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	○	○	白色鉱物	良	上加世田式土器以前(後期末)
	326	N - 26 区	III	深鉢	口縁部 外 内	ナデ→沈線文、刺突文 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR6/4	にぶい黄褐色 Hue10YR6/4		○	○	良	北久根山式土器の影響?
	327	N - 25 区	III	不明	口縁部 外 内	ナデ→沈線文、刺突文、磨消繩文 ナデ	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	黒褐色 Hue5Y3/2	○			良	傾き不明 北久根山式土器の影響?
	328	O - 28 区	III	深鉢	口縁部 外 内	ナデ→突帶、刻目 ナデ	暗赤褐色 Hue5YR3/5	暗赤褐色 Hue5YR3/6		○	○	良	
	329	O - 24 区	III	不明	胴部 外 内	ナデ→ハケ目状の沈線 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4			黒雲母	良	
	330	SD38	上	不明	口縁部 外 内	ナデ→沈線 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○		良	
	331	J - 20 区	I	深鉢	胴部 外 内	条痕→突帶・刻目 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/8	褐色 Hue7.5YR4/6	○	○	○	白色鉱物	良
	332	L - 19 区	III	深鉢	胴部 外 内	ミガキ ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	○	○	○	黒雲母	良

第18表 縄文時代の遺物観察表(12)

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土		焼成	備考	
							外面	内面	石英	長石	カセン		
64	333	N - 24 区	III	-	-	外 内 ミガキ ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	浅黄色 Hue2.5Y7/4	○	○	○	白色鉱物	良
	334	N - 24 区	III	-	-	外 内 ミガキ ナデ	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	明黄褐色 Hue10YR7/6	○	○	○	白色鉱物	良
	335	N - 26 区	III	-	-	外 内 ミガキ ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	○	○	○	白色鉱物	良

第19表 縄文時代の遺物観察表(13)

挿図番号	掲載番号	遺構	取上番号	器種1	器種2	石材		長さ (mm)	幅さ (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
						1	2					
11	4	SK4	4	磨石・敲石類	-	砂岩	-	12.1	10.1	3.4	460	被熱による破碎
	5	SK4	3	磨石・敲石類	-	砂岩	-	10.5	(9.6)	4.8	725	
12	6	SK4	1	石皿・台石	-	砂岩	-	(227.0)	(284.0)	50.0	3.600	
	7	SK4	2	石皿・台石	-	安山岩	1	(152.0)	(129.0)	80.0	2.000	
14	8	SK4	11	石皿・台石	-	安山岩	1	299.0	310.0	111.0	14.600	
	13	SK6	5	磨石・敲石類	-	安山岩	1	13.2	11.5	4.8	1.200	
14	14	SK6	9	打製石斧	-	頁岩	-	(114.0)	63.5	17.5	114	
	15	SK6	1	石皿・台石	-	安山岩	1	(384.0)	332.0	71.0	12.800	
17	25	SK8	-	石皿・台石	-	安山岩	1	(405.0)	301.0	85.0	15.600	
	33	SK55	8	磨石・敲石類	-	花崗岩	-	9.5	7.9	2.1	228	
19	34	SK55	7	磨石・敲石類	-	安山岩	1	(10.4)	11.4	4.5	723	使用により表面が大きく剥離
	35	SK55	6	磨石・敲石類	-	安山岩	1	12.2	9.1	4.7	920	風化著しく観察不能
20	36	SK55	9	石皿・台石	-	安山岩	1	420.0	(283.0)	107.0	16.200	
	37	SK78	5	石核	-	黒曜石	5	71.0	69.0	2.9	155	
21	38	SK78	4	石核	-	砂岩	-	69.0	9.6	107.0	752	
	39	SK78	16	石皿・台石	-	安山岩	3	295.0	260.0	102.0	10.400	
22	40	SK78	6	石皿・台石	-	安山岩	1	306.0	(232.0)	69.0	8.400	
	26	46	SK59	1	石皿・台石	-	安山岩	1	(169.0)	(207.0)	61.0	3.200
27	47	SK57	4	石皿・台石	-	安山岩	1	332.0	334.0	56.0	10.000	
	28	48	SK13	35	砥石	-	砂岩	-	118.0	104.0	9.0	144
33	90	SK44	-	石鏃	2	黒曜石	6	17.9	13.0	3.2	1	
	91	SK44	14	石錐	-	安山岩	1	61.0	73.0	23.0	157	
34	92	SK44	4	磨石・敲石類	-	石灰岩	-	(83.0)	73.0	40.0	335	敲打痕顕著
	93	SK60	8	磨石・敲石類	-	砂岩	-	(53.0)	79.0	39.0	263	被熱による破碎
35	101	SK61	57	磨石・敲石類	-	砂岩	-	113.0	112.0	41.0	746	
	102	SK61	29	磨石・敲石類	-	砂岩	-	69.0	52.0	50.0	247	目の粗い砂岩
35	103	SK61	43	磨石・敲石類	-	砂岩	-	94.0	63.0	51.0	372	
	104	SK61	38	磨石・敲石類	-	安山岩	1	(114.0)	126.0	62.0	1.400	欠損
38	118	SK50	1	磨石・敲石類	-	安山岩	1	124.0	96.0	52.0	972	磨面は限定的
	39	119	SK51	1	磨石・敲石類	-	安山岩	1	176.0	168.0	45.0	1.800
40	124	SK42	3	磨石・敲石類	-	花崗岩	-	(91.0)	(68.0)	50.0	327	欠損
	41	127	SK51	2	石皿・台石	-	安山岩	1	390.0	273.0	83.0	8.800
43	128	SK48	1	石皿・台石	-	安山岩	1	162.0	232.0	100.0	4.200	
	134	SK69	2	磨石・敲石類	-	石灰岩	-	73.0	(78.0)	54.0	444	敲打痕顕著
45	135	SK69	1	磨石・敲石類	-	安山岩	1	(91.0)	(116.0)	51.0	753	被熱による破碎
	137	SX52	2.1	石皿・台石	-	安山岩	1	291.0	342.0	65.0	8.800	
48	138	SX52	3	石皿・台石	-	砂岩	-	294.0	224.0	66.0	6.200	
	51	139	SX66	2	磨石・敲石類	-	安山岩	1	119.0	115.0	44.0	976

第20表 縄文時代の遺物観察表(14)

掲図番号	掲載番号	出土地点	層	器種1	器種2	石材		長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
						1	2					
65	336	N - 25 区	III	石鏃		1	安山岩	1	(18.4)	19.0	3.8	0.7
	337	L - 17 区	I	石鏃		1	黒曜石	2	16.4	14.7	5.1	0.8
	338	M - 25 区	I	石鏃		1	黒曜石	6	10.5	11.5	2.5	0.4
	339	O - 33 区	表採	石鏃		1	黒曜石	6	11.5	13.0	2.5	0.2
	340	O - 26 区	III	石鏃		1	黒曜石	4	(10.3)	13.9	3.0	0.3
	341	O - 25 区	III	石鏃		1	チャート	1	15.5	14.5	2.0	0.3
	342	M - 24 区	III	石鏃		1	黒曜石	4	16.8	(13.7)	3.2	0.5
	343	-	表採	石鏃		1	黒曜石	6	(12.9)	16.7	3.0	0.5
	344	P - 32 区	I	石鏃		2	黒曜石	4	(17.3)	14.0	3.6	0.6
	345	O - 24 区	III	石鏃		2	黒曜石	5	(16.3)	13.3	3.8	0.7
	346	P - 33 区	I	石鏃		2	黒曜石	7	25.4	15.8	3.4	0.9
	347	N - 28 区	III	石鏃		2	黒曜石	6	23.9	15.0	3.9	0.8
	348	L - 18 区	III	石鏃		2	安山岩	1	22.6	13.9	4.1	0.7
	349	M - 24 区	III	石鏃		2	黒曜石	5	20.2	16.2	3.0	0.5
	350	O - 26 区	III	石鏃		2	黒曜石	6	19.0	14.9	3.8	0.5
	351	SD38	下	石鏃		2	チャート	1	14.0	12.6	2.9	0.3
	352	O - 24 区	III	石鏃		2	チャート	1	(15.2)	(14.3)	3.3	0.4
	353	SD38	下	石鏃		2	黒曜石	3	(15.8)	(12.8)	4.7	0.6
	354	M - 24 区	III	石鏃		2	黒曜石	6	(16.9)	13.4	2.9	0.5
	355	-	I	石鏃		3	黒曜石	5	(20.1)	14.0	4.2	1.1
	356	N - 26 区	II	石鏃		3	チャート	2	(19.0)	16.5	4.3	1.5
66	357	M - 26 区	III	不明		-	黒曜石	4	14.0	13.0	6.0	0.9
	358	SD38	-	楔形石器		-	黒曜石	4	14.0	26.0	5.0	2.0
	359	N - 25 区	III	楔形石器		-	黒曜石	4	20.0	16.0	6.0	2.4
	360	SD38	-	楔形石器		-	黒曜石	4	40.0	25.0	6.0	5.1
	361	Q - 32 区	I	石匙		-	チャート	1	25.7	21.1	7.6	2.6
	362	Q - 32 区	I	石匙		-	安山岩	2	37.6	66.7	9.9	18.7
	363	N - 24 区	III	スクレイバー		-	黒曜石	1	28.0	45.0	12.0	10.2
	364	N - 24 区	-	スクレイバー		-	黒曜石	1	30.0	45.0	11.0	16.5
67	365	O - 24 区	III	ドリル		-	黒曜石	4	60.0	27.0	9.0	8.0
	366	不明	不明	ドリル		-	黒曜石	4	46.0	20.0	10.0	1.8
	367	L - 24 区	III	石核		-	黒曜石	5	26.0	42.0	20.0	16.5
	368	不明	不明	石核		-	黒曜石	1	37.0	50.0	25.0	41.2
	369	M - 25 区	III	石核		-	黒曜石	1	67.0	56.0	21.0	85.5
68	370	不明	III	磨製石斧		-	安山岩	1	113.0	46.0	23.5	180.2
	371	不明	I	磨製石斧		-	安山岩	1	(122.0)	64.0	43.5	430.0
	372	不明	III	磨製石斧		-	砂岩	-	(81.5)	48.0	27.5	162.3
	373	不明	III	磨製石斧		-	砂岩	-	(107.5)	55.0	35.0	266.5
	374	不明	I	磨製石斧		-	ホルンフェルス	-	(133.5)	63.5	43.0	530.0
	375	SD38	下	磨製石斧		-	砂岩	-	(149.5)	61.0	43.0	470.0
	376	SD38	II	磨製石斧		-	ホルンフェルス	-	(108.0)	61.0	35.5	322.1
	377	不明	III	磨製石斧		-	砂岩	-	(100.5)	51.0	34.5	266.3
	378	不明	I	磨製石斧		-	砂岩	-	(118.0)	62.5	37.0	450.0
	379	不明	III	磨製石斧		-	頁岩	-	(108.0)	70.0	30.0	328.4
69	380	SD38	-	磨製石斧		-	頁岩	-	(67.0)	62.0	20.0	100.8
	381	不明	III	磨製石斧		-	蛇紋岩	-	(66.0)	64.0	19.0	117.3
	382	不明	不明	磨製石斧		-	ホルンフェルス	-	(64.0)	54.0	30.0	103.5
	383	不明	III	磨製石斧		-	頁岩	-	92.0	34.0	19.0	79.7
	384	不明	I	打製石斧		-	頁岩	-	(126.0)	59.5	26.0	198.3
	385	SD38	-	打製石斧		-	蛇紋岩	-	(170.5)	67.0	30.5	390.0
	386	不明	II	打製石斧		-	頁岩	-	(118.0)	67.5	18.0	118.3
	387	不明	表採	打製石斧		-	頁岩	-	(112.5)	71.5	24.0	181.3
	388	SD38	中	打製石斧		-	頁岩	-	(94.0)	66.0	24.0	189.6
	389	M - 25 区	III	石製品		-	砂岩	-	62.0	37.0	11.0	236.0

第21表 縄文時代の遺物観察表(15)

插図番号	掲載番号	出土地点	層	器種1	石材		長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
					1	2					
70	390	SD38	下	石錐	安山岩	1	67.0	96.0	33.0	302	
	391	SD38	下	石錐	安山岩	1	66.0	75.0	31.0	221	
	392	P - 24区	搅乱	磨石・敲石類	砂岩	-	(70.0)	96.0	47.0	427	裏面中央部への垂直打撃により破損
	393	SD38	上	磨石・敲石類	安山岩	1	163.0	97.0	59.0	1,400	
	394	N - 25区	III	磨石・敲石類	安山岩	1	(98.0)	(106.0)	55.0	772	被熱による破碎
	395	R - 31区	表採	磨石・敲石類	安山岩	1	104.0	67.0	55.0	630	
	396	N - 25区	III	磨石・敲石類	石灰岩	-	90.0	86.0	66.0	629	
	397	N - 24区	III	磨石・敲石類	砂岩	-	91.0	65.0	61.0	542	
	398	M - 24区	III	磨石・敲石類	砂岩	-	(121.0)	99.0	45.0	748	欠損
	399	N - 23区	III	磨石・敲石類	砂岩	-	119.0	107.0	48.0	990	
71	400	N - 26区	III	磨石・敲石類	砂岩	-	127.0	95.0	51.0	934	
	401	N - 26・27区	III	磨石・敲石類	安山岩	1	141.0	119.0	62.0	1,600	被熱による破碎
	402	L - 19区	III	磨石・敲石類	安山岩	1	62.0	50.0	22.0	114	
	403	O - 23区	III	磨石・敲石類	砂岩	-	118.0	95.0	43.0	791	
	404	P - 28区	I	磨石・敲石類	安山岩	1	130.0	123.0	48.0	1,200	被熱による破碎
	405	O - 24区	III	磨石・敲石類	安山岩	1	120.0	104.0	43.0	854	
	406	N - 25区	III	磨石・敲石類	安山岩	1	113.0	98.0	53.0	992	
	407	N - 26区	III	磨石・敲石類	砂岩	-	123.0	107.0	46.0	1,004	
	408	O - 24区	III	磨石・敲石類	砂岩	-	154.0	106.0	58.0	1,400	
	72	409	N - 26区	III	石皿・台石	安山岩	1	(368.0)	268.0	111.0	13,800
73	410	M - 25区	III	石皿・台石	安山岩	1	(217.0)	(225.0)	97.0	5,600	
	411	SD38	下	石皿・台石	安山岩	1	300.0	(269.0)	83.0	11,600	
74	412	SD38	上	石皿・台石	安山岩	1	(328.0)	(341.0)	87.0	16,600	
	413	O - 26区	III	石皿・台石	安山岩	1	(327.0)	(241.0)	98.0	7,000	
	414	O - 25区	III	石皿・台石	安山岩	1	(188.0)	(162.0)	92.0	3,200	

第22表 弥生時代・古墳時代の遺物観察表

插図番号	掲載番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成	備考
							外面	内面	石英	長石	ガセシ		
75	415	O - 27区	III	甕	口縁部	外 横ナデ 内 横ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	○	○	○	火山ガラス φ 1.5mm 以下の砂粒	良 黒髪I式土器
	416	N - 33区	I	甕	口縁部	外 横ナデ→丹塗り磨研 内 丹塗り磨研	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○	○	黒雲母 φ 2.5mm 以下の礫	不 黒髪II式土器 丹塗り土器
	417	Q - 32区	I	甕	口縁部	外 横ナデ 内 横ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	○	○	○	黒雲母 φ 3mm 以下の礫	須久I式土器
	418	O - 24区	III	甕	口縁部	外 ミガキ 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	○	○		不 入来II式土器
	419	O - 30区	II	甕	底部	外 ハケメ 内 ナデ	にぶい橙色 Hue5YR6/4	にぶい橙色 Hue5YR6/4	○	○	○	赤褐色の岩片 φ 2.5mm 以下の礫	良 入来II式土器
	420	N - 28区	III	甕	脚部	外 ハケメ 内 ナデ	にぶい橙色 Hue5YR6/4	にぶい橙色 Hue5YR6/4	○	○	○	黒雲母, 赤褐色の岩片 火山ガラス, φ 3mm 以下の礫	良 古墳時代前期
	421	N・O - 28区	II	甕	底部	外 ハケメ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○		良 中津野式土器
	422	不明	I	甕	突帯部	外 丹塗り→ナデ 内 ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	○	○	○	黒雲母, 赤褐色の岩片 φ 1.5mm 以下の砂粒	不 丹塗り土器
	423	SD38	-	壺	口縁部	外 暗文→ハケ目→ナデ 内 ミガキ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	○	○	○	赤褐色の岩片 φ 1mm 以下の砂粒を含む	良 黒髪II式土器
	424	SD38	中	壺	胴部	外 ハケメ→横ナデ 内 工具ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○	○	黒雲母, 赤褐色の岩片 火山ガラス, φ 3mm 以下の礫	良 弥生時代後期～ 古墳時代初頭
76	425	SD38	下	壺	胴部	外 ハケメ→横ナデ 内 工具ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	○	○	○	黒雲母, 赤褐色の岩片 火山ガラス, φ 3mm 以下の礫	良 弥生時代後期～ 古墳時代初頭
	426	N - 25区	III	壺	胴部	外 ハケメ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○		良 中津野式土器
	427	SD38	-	高坏	口縁部～胴部	外 丹塗り→ハケ目→ケズリ 内 丹塗り磨研	明赤褐色 Hue5YR5/8	明赤褐色 Hue5YR5/8	○	○	○	赤褐色の岩片, 火山ガラス φ 2mm 以下の礫	不
	428	SD38	-	高坏	脚部	外 丹塗り→ハケ目→ミガキ 内 ナデ	灰白色 Hue10YR8/2	灰白色 Hue2.5Y8/2	○	○	○	赤褐色の岩片, 火山ガラス φ 2mm 以下の礫	不
	429	SD38	-	高坏	脚中部	外 一 内 一	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue10YR4/2	○	○	○	赤褐色の岩片, 火山ガラス φ 2mm 以下の礫	不
	430	N - 25区	III	高坏	器部	外 ハケメ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	○	○	○		良 中津野式土器
	431	O - 32区	I	不明	不明	外 丹塗り磨研 内 ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	○	○	○	火山ガラス φ 3mm 以下の礫	不 黒髪II式土器 丹塗り土器

第23表 古代の遺物観察表(1) 土師器

插図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考	
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセ		
80	432	SK68	埋土	一括	(塊・坏)	-	外 回転ヘラケズリ、横ナデ 内 横ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	12.5				○	○		良	
	433	SK68	埋土	7	(塊・坏)	-	外 回転ヘラケズリ、横ナデ 内 横ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	12.0				○	○		良	
	434	SK68	埋土	3	(塊・坏)	-	外 横ナデ 内 横ナデ	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	11.9				○	○	○	良	
	435	SK68	埋土	一括	塊	-	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue10YR7/4					○	○		良	
	436	SK68	埋土	一括	塊	-	外 回転ナデ(体部) ヘラ切り(底部) 内 ミガキ	黄褐色 Hue2.5Y5/3	黑色 Hue10Y2/1					○	○		良	内黒土師器
	437	SK68	埋土	4 9 10	甕	-	外 タタキ、ハケ目 内 ハケ目、ケズリ→ナデ(口縁部)	にぶい黄橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	26.0	12.0			○	○	○	良	
81	443	SK70	埋土	1	甕	-	外 ハケ目→ナデ(胴部上半~口縁部) 内 平行タタキ(胴部下半) 内 ハケ目→ナデ(口縁部) 内 ケズリ→ナデ(胴部)	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	25.6				○	○	○	良	
83	446	SK72	埋土	一括	(塊・坏)	-	外 横ナデ→墨書 内 横ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4					○	○		良	墨書土器
	447	SK72	埋土	12	塊	-	外 横ナデ 内 横ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	浅黄色 Hue7.5YR8/3	14.4				○	○		良	
	448	SK72	埋土	11	塊	-	外 横ナデ 内 横ナデ	浅黄色 Hue7.5YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/4					○	○		良	煤付着
	449	SK72	埋土	10	塊	-	外 横ナデ 内 横ナデ	浅黄色 Hue7.5YR8/3	明黄褐色 Hue10YR6/6					○	○		良	
	450	SK72	埋土	4B	塊	1	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ 内 横ナデ、押圧→ナデ(見込み)	浅黄色 Hue2.5Y8/3	浅黄色 Hue2.5Y7/4		7.9	0.8		○	○		良	
	451	SK72	埋土	1	坏	2	外 横ナデ(体部) 内 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4		6.2			○	○		白色鉱物	良
	452	SK72	埋土	8	塊	-	外 横ナデ 内 ミガキ	明黄褐色 Hue10YR7/6	オリーブ黒色 Hue5Y3/1	13.4				○	○		良	内黒土師器
	453	SK72	埋土	一括	塊	-	外 回転ヘラケズリ、ナデ 内 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黑色 Hue7.5Y2/1					○	○		良	内黒土師器
	455	SK72	埋土	9	甕	-	外 横方向ハケ目 内 →ナデ(口縁部~胴部上半) タタキ(胴部下半) 内 横方向ハケ目 内 →ナデ(口縁部~胴部上半) ケズリ→ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	明黄褐色 Hue10YR6/6	25.8	21.3			○	○	○	良	埋土は炭化物と焼土塊を含む
	459	SK73	埋土	5	塊	2	外 横ナデ 内 ミガキ	浅黄色 Hue2.5Y7/4	黑色 Hue7.5YR2/1	13.8				○	○	○	良	内黒土師器 高台欠損部摩滅
84	460	SK73	埋土	1	塊	-	外 横ナデ 内 ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	黑色 Hue10YR2/1	15.0				○	○	○	良	内黒土師器
	461	SK73	埋土	1	坏	-	外 回転ヘラケズリ、横ナデ 内 ミガキ	浅黄色 Hue7.5Y7/3	灰色 Hue7.5Y6/1					○	○	○	良	詳細不明
	462	SK73	埋土	一括	塊	-	外 横ナデ、ケズリ 内 横ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/6	14.4				○	○	○	良	
	463	SK73	埋土	一括	塊	-	外 横ナデ、ケズリ 内 横ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/4	14.4				○	○	○	良	
	464	SK73	埋土	2	塊	-	外 横ナデ 内 横ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黃橙色 Hue10YR8/6					○	○	○	良	
	465	SK73	埋土	一括	皿?	-	外 横ナデ 内 横ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	12.0				○	○	○	良	
	466	SK73	埋土	一括	坏	-	外 回転ヘラケズリ、横ナデ 内 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/4	淡黄色 Hue2.5Y8/4		6.4			○	○	○	良	
	467	SK73	埋土	一括	甕	-	外 ハケ目 内 ケズリ	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	浅黄橙色 Hue2.5YR8/3					○	○	○	白色鉱物	良 焼成後に穿孔
	468	SK73	埋土	一括	甕	-	外 横方向ハケ目 内 ケズリ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/2					○	○	○	良	
	471	SK74	埋土	一括	(塊・坏)	-	外 横ナデ 内 ミガキ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	黑色 HueN2/0					○	○	○	良	内黒土師器
85	472	SK74	埋土	1	塊	4	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	6.6				○	○	○	良	
	474	SK74	埋土	11	甕	-	外 ナデ(口縁部~胴部上半) 内 格子目タタキ ナデ(口縁部~胴部上半) 内 ケズリ(胴部下半)	橙色 Hue7.5YR7/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	24.5				○	○	○	良	

第24表 古代の遺物観察表(2) 土師器

插図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考		
								外面	内面	口径	底径	器高	高台	石英	長石	カセツ			
86	482	SK77	埋土	2.35 8.9.10 11.12 16.17	甕	-	縦方向のハケ目(口縁部~胴部上半) →ナデ(口縁部のみ) 不特定方向のハケ目(胴部下半) ハケ目(口縁部), ケズリ(胴部) ナデ(底部)	明黄褐色 Hue10YR6/6	明黄褐色 Hue2.5Y6/6	24.0		23.1		○	○	○	白色鉱物 砂礫	良	炭化物と焼土塊が付着 器壁厚手
	483	SK77	埋土	6.8.19 20.21 22.23 24.26	甕	-	外 内 ナデ(口縁部) 横方向のハケ目, 一部縦方向(胴部) 横方向のハケ目→一部にナデ(口縁部) ケズリ(胴部)	灰白色 Hue10YR7/1	褐灰色 Hue10YR6/1	25.5			○	○	○	白色鉱物	良		
	484	SK77	埋土	一括	甕	外 内 ナデ(口縁部), 横方向のハケ目(胴部) 横方向のハケ目(口縁部), ケズリ(胴部)	橙色 Hue7.5YR7/6	黄橙色 Hue10YR8/6				○	○	○			良		
	487	SK70 SK77	埋土	一括 1	塊	2	外 内 反時計回りの回転ナデ→墨書き ヘラ切り→高台→ナデ 回転ナデ, ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	13.8	6.9	6.7	0.5	○	○	○		良	墨書き土器 SK70とSK77間で接合 回転台時計回り
	488	SK77	埋土	一括	塊	2	外 内 横ナデ 横ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	11.8			○	○	○		良		
	489	SK77	埋土	一括	塊	2	外 内 横ナデ 横ナデ	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	橙色 Hue7.5YR7/6				○	○	○		良		
	490	SK77	埋土	一括	坏	2	外 内 横ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) 横ナデ, 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	14.4	7.4	3.6		○	○	○		良	
	491	SK77	埋土	一括	坏	2	外 内 横ナデ 横ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	黄橙色 Hue10YR8/6	13.0			○	○	○		良		
	492	SK77	埋土	一括	(塊・坏)	-	外 内 横ナデ→線刻 横ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	11.9			○	○	○		良	焼成後線刻	
	493	SK77	埋土	一括	坏	2?	外 内 横ナデ 横ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	明黄褐色 Hue10YR6/6		5.6		○	○	○		良		
	494	SK77	埋土	一括	塊	2	外 内 横ナデ, ヘラ切り→高台→ナデ 横ナデ, ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		6.8	0.5	○	○	○		良		
	495	SK77	埋土	一括	塊	-	外 内 横ナデ ミガキ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	黑色 Hue5Y2/1				○	○			良	内黒土器	
87	497	SB67 (SP71)	埋土	1	坏	1	外 内 回転ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) 回転ナデ, 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	橙色 Hue7.5YR7/6	12.5	5.0	4.2		○	○	○		良	回転台時計回り
	498	SB67 (SP71)	埋土	一括	(塊・坏)	-	外 内 ナデ ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	黑色 Hue5Y2/1				○	○	○		良	内黒土器 傾き不明	
	500	SB67 - P1	埋土	一括	坏	-	外 内 ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4		6.0		○	○	○		良		
	501	SB67 - P7	埋土	一括	塊	-	外 内 ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) ナデ	にぶい黄橙色 Hue2.5YR7/3	浅黄橙色 Hue10YR8/4		7.0		○	○	○		良		
	502	SB67 - P7	埋土	一括	塊	-	外 内 ナデ ミガキ	明黄褐色 Hue10YR7/6	黑色 HueN2/0				○	○	○		良	内黒土器	
	503	SB67 - P7	埋土	一括	甕	-	外 内 ナデ(口縁部), 縦方向のハケ目(胴部) 横方向のハケ目→ナデ(口縁部) ケズリ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	明黄褐色 Hue10YR7/6	22.2			○	○	○		良	ハケの目が細かい	
88	509	SP106	埋土	一括	塊	2	横ナデ(口縁部~体部上半) 回転ヘラケズリ(体部下半) ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 回転ナデ, 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	13.5	6.3	5.7	0.7	○	○	○		良	角高台
	511	SP116	埋土	一括	塊	-	外 内 横ナデ 横ナデ	黄灰色 Hue2.5Y6/2	暗灰黄色 Hue2.5Y4/2	13.2			○	○	○		良	黒色土器?	
	512	SP116	埋土	一括	塊	-	外 内 横ナデ 横ナデ, ナデ(底部)	にぶい褐色 Hue7.5YR6/3	灰黄褐色 Hue10YR5/2		6.3	0.5	○	○	○		良	黒色土器? 高台貼付部に刻み	
	513	SP107	埋土	一括	塊	-	外 内 横方向のハケ目(頸部), ナデ(胴部) ケズリ	橙色 Hue7.5YR7/6	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3				○	○	○		良	器壁厚手	
92	514	SD38	下	181 141	坏	1	外 内 横ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) 横ナデ, ナデ(底部)	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	14.2	7.3	4.3		○	○	○		良	底部外面に渦巻痕
	515	SD38	下	142	坏	1	外 内 横ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) 横ナデ, ナデ(底部)	橙色 Hue5YR6/8	橙色 Hue5YR6/8	13.1	6.2	3.9		○	○	○		良	
	516	SD38	下	213	坏	1	外 内 横ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) 横ナデ, 押圧→ナデ(底部)	橙色 Hue5YR6/8	橙色 Hue5YR6/8		5.0			○	○	○	白色鉱物	良	回転台時計回り
	517	SD38	下	142	坏	1	外 内 横ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) 横ナデ, 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6		6.4			○	○	○		良	回転台時計回り
	518	SD38	下	153	坏	1	横ナデ(胴部) 回転ヘラケズリ(胴部下端) ヘラ切り→ナデ(底部) 横ナデ, 押圧→ナデ(底部)	にぶい黄褐色 Hue10YR7/4	にぶい黄褐色 Hue10YR7/4		5.4			○	○	○		良	
	519	SD38	下	221 233	坏	2	外 内 横ナデ, ヘラ切り→ナデ(底部) 横ナデ, 押圧→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	11.0	5.2	3.9		○	○	○		良	

第25表 古代の遺物観察表(3) 土師器

插図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考	
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセイ		
92	520	SD38	下	3	坏	2	外 横ナデ(口縁部~体部上半) 回転ヘラケズリ(体部下半) ヘラ切り→ナデ(底部) 内 回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	10.5	5.3	3.4		○	○	○		良 回転台時計回り
	521	SD38	下	34 37 40	坏	2	外 横ナデ(口縁部~体部上半) 回転ヘラケズリ(体部下半) ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	11.4	6.7	3.3		○	○	○		良
	522	SD38	下	114	坏	2	外 横ナデ(口縁部~体部上半) 回転ヘラケズリ(体部下半) ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	10.4	6.0	3.3		○	○	○		良 回転台時計回り
	523	SD38	下	7 216	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	11.2	5.0	4.1		○	○	○		良 底部外面に棒状工具痕 回転台時計回り
	524	SD38	下	4,9 152	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	10.4	5.0	4.7		○	○	○		良 回転台時計回り
	525	SD38	下	26	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/4	淡黄色 Hue2.5Y8/3	10.6	6.0	3.9		○	○	○		良 回転台時計回り
	526	SD38	下	216	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/3	10.2	5.3	3.9		○	○	○		良 回転台時計回り
	527	SD38	下	140	坏	3	外 横ナデ(口縁部~体部上半) 回転ヘラケズリ(体部下半) ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	明黄褐色 Hue10YR7/6	浅黄橙色 Hue10YR8/4	10.8	5.0	3.5		○	○			良 回転台時計回り
	528	SD38	下	215	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	10.0	5.0	3.6		○	○	○		良 回転台時計回り
	529	SD38	下	90	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	灰黄色 Hue2.5Y6/2	10.4	4.4	3.7		○	○	○		良
	530	SD38	下	22	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	10.6	5.4	3.4		○	○	○		良
	531	SD38	下	131	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 回転ナデ(渦巻状の痕跡が残る)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/3	浅黄橙色 Hue7.5YR8/3	11.2	5.3	3.5		○	○	○	黑色鉱物	良 回転台時計回り
	532	SD38	下	16	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	10.0	5.0	2.8		○	○	○	黒雲母 茶色鉱物	良 回転台時計回り
	533	SD38	下	38	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→回転ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	11.0	5.2	2.8		○	○	○		良 回転台時計回り
	534	SD38	下	202	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	灰黄色 Hue2.5Y6/2	10.8	5.0	3.3		○	○	○		良
	535	SD38	下	95	皿	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	淡黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3	9.5	5.2	2.5		○	○	○	茶色鉱物	良 回転台時計回り
	536	SD38	下	198	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	灰黄色 Hue2.5Y7/2	浅黄橙色 Hue10YR7/3	10.5	5.4	2.4		○	○	○		良 回転台時計回り
	537	SD38	下	17	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/4	9.6	5.0	2.7		○	○	○	茶色鉱物	良 回転台時計回り
	538	SD38	下	113 166	坏	3	外 横ナデ(体部) 回転ヘラケズリ(体部下端) ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3		6.4			○	○	○	茶色鉱物	良 回転台時計回り 角閃石を多く含む
	539	SD38	下	121 130	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5YR8/3	淡黄色 Hue2.5YR8/3		5.2			○	○	○	黑色鉱物	良 回転台時計回り
	540	SD38	下	15	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		5.5			○	○	○		良 回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕?
	541	SD38	下	60	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り(底部) 内 回転ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/4		5.3			○	○	○		良 回転台時計回り
	542	SD38	下	164	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、同心円状のナデ(底部)	浅黄橙色 Hue2.5Y7/3	灰白色 Hue2.5Y8/2		5.1			○	○	○	茶色鉱物	良
	543	SD38	下	104	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3		5.1			○	○	○	茶色鉱物	良 回転台時計回り
	544	SD38	下	132	坏	3	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄橙色 Hue10YR8/4		4.8			○	○	○	茶色鉱物	良 回転台時計回り
93	545	SD38	下	184	坏	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	灰白色 Hue2.5Y8/2	灰白色 Hue2.5Y8/2	12.6	6.6	4.6		○	○	○	白色鉱物	良
	546	SD38	下	37	坏	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/4	11.9	6.4	4.5		○	○	○	茶色鉱物 黒色鉱物	良 回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕?
	547	SD38	下	25	坏	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	11.5	6.0	4.3		○	○	○	茶色鉱物 黒色鉱物	良 回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕?
	548	SD38	下	94 192	坏	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	11.0	6.2	4.2		○	○	○	黒雲母 茶色鉱物	良 回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕?
	549	SD38	下	211 234	坏	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	10.4	5.8	3.8		○	○	○	茶色鉱物	良
	550	SD38	下	121	坏	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/4	11.0	6.0	5.1		○	○	○	黒雲母 黑色鉱物	良 回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕?

第26表 古代の遺物観察表(4) 土師器

捕団番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセ	
93	551	SD38	下	59	壺	4	外 横ナデ(体部下端に粘土付着) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	6.4			○ ○ ○	黒雲母 茶色鉱物	良	回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕	
	552	SD38	下	62	壺	4	外 横ナデ(体部下端に粘土付着) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3	6.8			○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	553	SD38	下	133	壺	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/4	6.4			○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	554	SD38	下	102	壺	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	6.0			○ ○ ○	茶色鉱物	良	回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕	
	555	SD38	下	119	壺	4	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	6.1			○ ○ ○	黒雲母 茶色鉱物	良	回転台時計回り	
	556	SD38	下	50 51	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	橙色 Hue5YR7/8	橙色 Hue5YR7/6	11.2	6.2	5.1	○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	557	SD38	下	231	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	8.8	6.4	4.2	○ ○ ○	黑色鉱物	良	回転台時計回り 底部不安定	
	558	SD38	下	155 201	壺	5	外 回転ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 ナデ	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	9.4	5.8	3.7	○ ○		良	回転台時計回り	
	559	SD38	下	112 168	壺	5	外 横ナデ(体部下端は未調整) 内 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3		6.0		○ ○ ○	黒雲母 黑色鉱物	良	回転台時計回り	
	560	SD38	下	8	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→回転ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	明黄褐色 Hue10YR7/6		6.0		○ ○ ○		良	回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕	
	561	SD38	下	124	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4		7.0		○ ○ ○	茶色鉱物	良	回転台時計回り	
	562	SD38	下	9	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→回転ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	灰白色 Hue2.5Y8/2		5.9		○ ○ ○		良	回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕?	
	563	SD38	下	一括	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6		5.7		○ ○ ○	黒雲母	良	回転台時計回り	
	564	SD38	下	208	壺	5	外 横ナデ(体部下端は未調整) 内 ヘラ切り→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		5.8		○ ○ ○	黒雲母	良	回転台時計回り 底部外面に工具痕?	
	565	SD38	下	57	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→回転ナデ(底部)	灰白色 Hue2.5Y8/2	灰白色 Hue2.5Y8/2		6.7		○ ○ ○	黑色鉱物	良	回転台時計回り	
	566	SD38	下	24	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	灰黄色 Hue2.5Y7/2		6.0		○ ○ ○	黒雲母	良		
	567	SD38	下	45	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		5.6		○ ○ ○	黒雲母	良		
	568	SD38	下	94	壺	5	外 横ナデ(体部下端は未調整) 内 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4		5.4		○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	569	SD38	下	41 217	壺	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6		5.9		○ ○ ○	茶色鉱物	良		
94	570	SD38	下	一括	壺	6	外 回転ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3		6.0		○ ○ ○	黑色鉱物	良	回転台時計回り	
	571	SD38	下	20	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		6.2		○ ○		良	回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕	
	572	SD38	下	1	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		6.0		○ ○ ○		良	回転台時計回り 底部外面に棒状工具痕	
	573	SD38	下	118	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	灰黄褐色 Hue10YR6/2	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3		6.0		○ ○ ○	白色鉱物	良	回転台時計回り	
	574	SD38	下	83	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	浅黄橙色 Hue10YR8/4		7.0		○ ○ ○		良		
	575	SD38	下	一括	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	黄橙色 Hue10YR8/4	黄橙色 Hue10YR8/4		6.2		○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	576	SD38	下	191	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3		6.4		○ ○		良		
	577	SD38	下	39	壺	6	外 回転ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3		6.0		○ ○ ○		良		
	578	SD38	下	172 194	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue7.5YR7/3		6.0		○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	579	SD38	下	一括	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6		6.0		○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	580	SD38	下	52	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	橙色 Hue2.5Y6/8	橙色 Hue2.5Y6/8		6.4		○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	581	SD38	下	一括	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/4		5.8		○ ○ ○	黒雲母	良		
	582	SD38	下	48	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR7/6		5.4		○ ○ ○		良	回転台時計回り	
	583	SD38	下	63	壺	6	外 横ナデ(体部下端に粘土付着) 内 ハラ切り→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		6.0		○ ○ ○		良	回転台時計回り	

第27表 古代の遺物観察表(5) 土師器

掲番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考		
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセツ			
94	584	SD38	下	213	壺	6	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	5.4			○	○	○		良	回転台時計回り	
	585	SD38	下	35	壺	6	外 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 中央から強いナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	6.2			○	○	○		良	回転台時計回り	
	586	SD38	下	76	壺	6	外 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	灰黄色 Hue2.5Y7/2	灰黄色 Hue2.5Y7/2	6.0			○	○	○	白色鉱物 黒色鉱物	良		
	587	SD38	下	96	壺	6	外 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 -	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/4	6.2			○	○	○	黒雲母	良		
	588	SD38	下	86	壺	-	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	灰白色 Hue10YR8/2	灰白色 Hue2.5Y8/2	5.6			○	○	○		良	底部外面のヘラ切り痕が深い	
	589	SD38	下	-括	壺	-	外 横ナデ、ヘラ切り→工具痕?(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	6.0			○	○	○		良	回転台時計回り	
	590	SD38	下	224	壺	-	外 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	12.2	3.6	○	○	○		良	高台付壺 回転台時計回り		
95	591	SD38	下上	185 -括	碗	1	外 回転ナデ→赤色顔料塗布 内 横ナデ→赤色顔料塗布、ナデ(底部)	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	9.2	0.7	○	○	○		良	外面に赤色顔料塗布 回転台時計回り		
	592	SD38	下中	-括	碗	1	外 回転ナデ→赤色顔料塗布 内 横ナデ→赤色顔料塗布、ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	10.0	0.7	○	○	○		良	内外面に赤色顔料塗布 回転台時計回り		
	593	SD38	下	-括	碗	2	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/4	灰黄色 Hue2.5Y6/2	7.4	0.6	○	○	○	黑色鉱物	良			
	594	SD38	下	106 107 108	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3	14.0	7.5	5.3	1.3	○	○	○	黒雲母 白色鉱物 茶色鉱物	不	回転台時計回り
	595	SD38	下	109	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	13.0	7.5	5.2	1.2	○	○	○	黒雲母 白色鉱物 茶色鉱物	不	回転台時計回り
	596	SD38	下	105	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	12.4	8.6	4.9	0.8	○	○	○	黒雲母 黑色鉱物	良	回転台時計回り
	597	SD38	下	163	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	8.0	1.3	○	○	○		良	見込みに布目压痕 回転台時計回り		
	598	SD38	下	12	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	8.3	1.5	○	○	○	白色鉱物	良	回転台反時計回り		
	599	SD38	下	215	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	6.8	0.8	○	○	○	黒雲母 白色鉱物	良			
	600	SD38	下	99 103	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	8.7	1.1	○	○	○	黒雲母	良	回転台時計回り		
	601	SD38	下	27	碗	3	外 横ナデ、ハケ目(高台)? 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/4	6.5	1.1	○	○	○		良	回転台時計回り ハケ目状工具痕		
	602	SD38	下	46	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3				○	○	○	茶色鉱物	良		
	603	SD38	下	49	碗	3	外 横ナデ 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4				○	○	○	茶色鉱物	良	回転台時計回り	
	604	SD38	下	120	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3				○	○	○	黑色鉱物 茶色鉱物	良	回転台時計回り	
	605	SD38	下	43	碗	3	外 横ナデ 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3				○	○	○	茶色鉱物	良		
	606	SD38	下	167	碗	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3				○	○	○	黒雲母 黑色鉱物 茶色鉱物	良	回転台時計回り	
	607	SD38	下	128	碗	4	外 横ナデ 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	8.6	1.8	○	○	○	白色鉱物	良	回転台反時計回り		
	608	SD38	下	159	碗	4	外 横ナデ 内 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	7.0	1.4	○	○	○	砂粒	良	回転台時計回り		
	609	SD38	下	219 222	碗	4	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	7.4	1.5	○	○	○	白色鉱物 茶色鉱物	良			
	610	SD38	下	165	碗	4	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	灰白色 Hue2.5Y8/2	灰白色 Hue2.5Y8/2	7.6	1.6	○	○	○	茶色鉱物	良	回転台時計回り		

第28表 古代の遺物観察表(6) 土師器

掲番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)		胎土			焼成	備考			
								外面	内面	口径	底径	器高	高台	石英	長石	カセ			
95	611	SD38	下	220	碗	4	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/4	淡黄色 Hue2.5Y8/4		6.4	1.1	○	○	黒雲母	良	回転台時計回り		
	612	SD38	下	68 69 162	碗	4	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4		7.2	1.2	○	○	○	黑色鉱物	良	回転台時計回り	
	613	SD38	下	71	碗	4	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 強いナデ(底部)	にぶい黄褐色 Hue10YR7/4	にぶい黄褐色 Hue10YR7/4		6.1	1.0	○	○	○	黑色鉱物 茶色鉱物	良	回転台時計回り	
	614	SD38	下	160	碗	4	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4		7.8	1.0	○	○	○		良	回転台時計回り	
	615	SD38	下	161	碗	4	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4			1.2	○	○	○	黒雲母 黑色鉱物	良		
96	616	SD38	下	53	碗	5A	外 回転ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	14.2	9.5	7.1	2.2	○	○	○	黑色鉱物	良	回転台時計回り
	617	SD38	下	44	碗	5A	外 回転ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	13.0	8.2	7.0	1.6	○	○	○	茶色鉱物	良	回転台時計回り
	618	SD38	下	100 214	碗	5A	外 回転ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	14.6	9.2	6.6	1.9	○	○	○	黒雲母 白色鉱物 黑色鉱物	良	回転台時計回り
	619	SD38	下	188	碗	5A	外 横ナデ、回転ヘラケズリ(体部下端) ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3					○	○	○		良	回転台時計回り
	620	SD38	下	157	碗	5A	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/4		9.1	2.0	○	○	○	白色鉱物	良	赤色顔料?	
	621	SD38	下	101	碗	5A	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい橙色 Hue5YR6/3	橙色 Hue5YR6/6		9.0	2.0	○	○	○	白色鉱物 黑色鉱物	良	高台内面に刺突痕	
	622	SD38	下	206	碗	5A	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	橙色 Hue5YR6/6		8.4	1.6	○	○	○		良	赤色顔料?	
	623	SD38	下	28	碗	5A	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、木葉痕(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3		8.7	1.9	○	○	○	白色鉱物	良	内面に木葉痕	
	624	SD38	下	89	碗	5A	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		9.0	1.8	○	○	○		良	回転台時計回り	
	625	SD38	下	72	碗	5A	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	浅黄橙色 Hue7.5YR8/3		7.4	1.1	○	○	○		良	赤色顔料?	
	626	SD38	下	30	碗	5A	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	浅黄橙色 Hue10YR8/3				○	○	○		良		
	627	SD38	下	178	碗	5A	外 ナデ(高台) 内 -	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6		8.3		○	○	○		良		
	628	SD38	下	2	碗	5B	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/2	14.2	9.6	7.6	2.2	○	○	○	茶色鉱物 黑色鉱物	良	回転台時計回り
	629	SD38	下	10	碗	5B	外 回転ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	15.2	9.8	7.2	2.1	○	○	○	白色鉱物	良	回転台時計回り
	630	SD38	下	97 100 212 227	碗	5B	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	橙色 Hue5YR7/8	橙色 Hue5YR7/8	13.7	7.8	6.5	1.7	○	○	○	黒雲母 白色鉱物 黑色鉱物 茶色鉱物	良	回転台反時計回り
	631	SD38	下	156	碗	5B	外 回転ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 回転ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/3	14.0	8.6	6.7	1.7	○	○	○	白色鉱物 茶色鉱物	良	回転台反時計回り
	632	SD38	下	111	碗	5B	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3		8.6		1.7	○	○	○	茶色鉱物	良	回転台時計回り
	633	SD38	下	225	碗	5B	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	14.0				○	○	○		良	回転台反時計回り
	634	SD38	下	55	碗	5B	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3		9.0		1.8	○	○	○		良	回転台時計回り
	635	SD38	下	127	碗	5B	外 回転ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	灰白色 Hue2.5Y8/2					○	○	○		良	回転台時計回り
	636	SD38	下	5	碗	5B	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4					○	○	○		良	
	637	SD38	下	154	碗	5B	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	浅黄色 Hue2.5Y7/3					○	○	○		良	回転台時計回り 二次加工品?
	638	SD38	下	190	碗	5B	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/2	にぶい黄橙色 Hue10YR7/2					○	○	○	黒雲母 白色鉱物	良	回転台時計回り
	639	SD38	下	36	碗	5B	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3					○	○	○		良	回転台時計回り

第29表 古代の遺物観察表(7) 土師器

掲番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考		
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセ			
97	640	SD38	下	一括	碗	6	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4		7.6	1.0	○	○	○		良		
	641	SD38	下	228	碗	6	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR3/8	浅黄橙色 Hue10YR3/8		6.2	1.1	○	○	○	黒雲母	良		
	642	SD38	下	77	碗	6	(横ナデ) ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ケズリ→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3					○			良		
	643	SD38	下	139	碗	6	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ケズリ→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3				○	○	○		良		
	644	SD38	下	145 146	碗	7	外 ケズリ、ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ、ケズリ→ナデ(底部)	灰白色 Hue10YR8/2	灰白色 Hue10YR8/2	14.6	8.0	5.2	1.0	○	○	○		良	
	645	SD38	下	一括	碗	8	外 ヘラ切り→高台→刺突→ナデ(底部) 内	浅黄色 Hue2.5Y7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/4				○	○	○		良	高台内面に刺突痕	
	646	SD38	下	172	碗	8	外 横ナデ ヘラ切り→高台→刺突→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい橙色 Hue7.5YR6/6		7.4	1.3	○	○	○	黒雲母 白色鉱物	良	高台内面に刺突痕	
	647	SD38	下	116	碗	-	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4		6.6	0.8	○	○	○	白色鉱物	良		
	648	SD38	下	78	碗	-	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	黄灰色 Hue2.5Y5/1	浅黄色 Hue2.5Y7/3		8.0	0.9	○	○	○		良		
	649	SD38	下	126 129	碗	-	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4		7.5	1.2	○	○	○	茶色鉱物	良	底部薄い	
	650	SD38	下	122	碗	-	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4				○	○	○		良	底部薄い	
	651	SD38	下	98	碗	-	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 押圧→ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6				○	○	○		良	底部薄い	
	652	SD38	下	181	碗	2	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ミガキ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	黑色 Hue2.5Y2/1	14.2	7.4	5.6	0.6	○	○	○		良	内黒土師器
	653	SD38	下	一括	碗	2	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ミガキ	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	黑色 HueN2/0		8.0	0.4	○	○	○		良	内黒土師器	
	654	SD38	下	一括	碗	-	外 横ナデ ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ミガキ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	黑色 Hue10Y2/1		7.4	0.7	○	○	○		良	内黒土師器	
	655	SD38	下	一括	皿	1	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	橙色 Hue5YR6/8	橙色 Hue5YR6/8	14.6	11.0	1.5		○	○	○		良	
	656	SD38	下	197	皿	1	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	14.0	9.6	1.5		○	○	○	茶色鉱物	良	
	657	SD38	下	198	皿	1	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に強いナデ(底部)	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	12.9	9.0	1.5		○	○	○	白色鉱物 茶色鉱物	良	
	658	SD38	下	32 158	皿	2	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	11.0	6.8	3.3	1.1	○	○	○	黑色鉱物 茶色鉱物	良	高台付皿
	659	SD38	下	79	皿	3	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3	10.9	5.3	2.5		○	○	○		良	「充実高台」付皿
	660	SD38	下	42	皿	3	外 回転ナデ、高台部下端に粘土付着 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	11.8	6.0	2.8		○	○	○		良	「充実高台」付皿
	661	SD38	下	56	皿	4	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	10.8	5.8	2.5		○	○	○		良	回転台時計回り
	662	SD38	下	61	皿	4	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	黑色 Hue7.5YR1.7/1	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		5.7			○	○	○	白色鉱物 茶色鉱物	良	底部外面は黒色
	663	SD38	下	117	皿	4	外 横ナデ ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		5.6			○	○	○		良	回転台時計回り

第30表 古代の遺物観察表(8) 墨書土器

掲団番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考	
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセ		
97	664	SD38	下	33	壺	6	外 横ナデ→墨書 内 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	5.4			○ ○ ○				良	墨書土器 回転台時計回り

第31表 古代の遺物観察表(9) 土師器

掲団番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考	
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセ		
98	667	SD38	下	一括	甕	-	外 ナデ(口縁部)、横方向のハケ目(胴部) 内 ナデ(口縁部)、ケズリ(胴部)	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	19.8			○ ○ ○				良	
	668	SD38	下	一括	甕	-	外 ナデ(口縁部~胴部上半) 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3				○ ○ ○				良	
	669	SD38	下	一括	甕	-	外 ナデ(口縁部)、横方向のケズリ(胴部) 内 ナデ(口縁部)	褐灰色 Hue10YR4/1	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	24.8			○ ○ ○				良	煤付着 器壁厚手
	670	SD38	下	144 189	甕	-	外 横方向のナデ 内 横方向のナデ(口縁部)、ケズリ(胴部)	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	29.3			○ ○ ○		小礫	良	煤付着 器壁厚手	
	671	SD38	下	一括	甕	-	外 ナデ 内 ナデ(口縁部)、ケズリ(胴部)	にぶい黄橙色 Hue10YR5/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4				○ ○ ○			良	煤付着 鉢形?	
	672	SD38	下	一括	甕	-	外 ハケ目 内 ケズリ	黒色 Hue10YR2/1	黒色 Hue2.5Y2/1				○ ○		白色鉱物	良		

第32表 古代の遺物観察表(10) 土師器・二次加工品

掲団番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考	
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセ		
98	673	SD38	下	一括	壺 紡錘車	6?	外 ヘラ切り→ナデ→穿孔 内 外縁に強いナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	5.8			○ ○ ○				良	二次加工
	674	SD38	下	174	甕	-	外 ナデ、破損→剥離 内 ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3				○ ○ ○				良	二次加工
	675	SD38	下	207	甕	-	外 ナデ、破損→剥離 内 ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3				○ ○ ○				良	二次加工
	676	SD38	下	14 538	甕	5A	外 ナデ、破損→剥離 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	14.5			○ ○ ○		黑色鉱物	良	二次加工 回転台時計回り	

第33表 古代の遺物観察表(11) 土師器

掲団番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考	
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセ		
100	686	SD38	中	一括	甕	2?	外 ヘラ切り→ナデ→ヘラ記号 内 ミガキ→破損→剥離	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	黒色 Hue7.5Y2/1	6.0		1.1	○ ○ ○				良	二次加工 内黒土師器、ヘラ記号
	687	SD38	上	一括	甕	8	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→刺突→ナデ(底部) 内 横ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3				○ ○ ○		茶色鉱物	良	高台内面に刺突痕 回転台時計回り	
	688	SD38	上	一括	甕	2	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	7.0		0.9	○ ○ ○		白色鉱物	良		
	689	SD38	中	一括	甕	2	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 ミガキ→赤色顔料塗布	淡橙色 Hue5YR8/4	橙色 Hue5YR6/6	8.4		0.9	○ ○ ○			良	内面に赤色顔料塗布	
	690	SD38	上	一括	壺	3	外 回転ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	橙色 Hue5YR6/8	黃橙色 Hue7.5YR7/8	10.0	5.2	3.3	○ ○ ○		白色鉱物 茶色鉱物	良	回転台時計回り	
	691	SD38	中	一括	甕	5	外 横ナデ、体部下端は未調整 内 横ナデ、押圧→ナデ(底部)	淡黄色 Hue2.5Y8/3	灰白色 Hue2.5Y8/2	5.5			○ ○ ○			良		
	692	SD38	上	一括	壺皿?	-	外 ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 ナデ 中心と外縁に同心円状のナデ(底部)	浅黄色 Hue2.5Y7/3	灰黄色 Hue2.5Y7/2	7.8			○ ○ ○		白色鉱物	良		
	693	SD38	上	一括	大盤? 鉢?	-	外 ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	12.8			○ ○ ○			良	底部外面に棒状の圧痕	
	694	SD38	上	一括	壺	-	外 ナデ、糸切り(底部) 内 ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3	16.8	12.8	3.3	○ ○ ○			良		
	695	SD38	上	一括	壺	-	外 ナデ、糸切り(底部) 内 ナデ	褐灰色 Hue5YR4/1	橙色 Hue5YR6/6	14.2	9.8	3.5	○ ○ ○			良	体部が屈曲する	
	696	SD38	上	一括	壺	-	外 ナデ、糸切り(底部) 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	11.5	7.4	2.9	○ ○ ○			良		
	697	SD38	中	一括	壺	-	外 ナデ、糸切り(底部) 内 ナデ	橙色 Hue2.5YR6/8	橙色 Hue5YR6/6	9.8			○ ○		白色鉱物	良		

第34表 古代の遺物観察表(12) 土師器

掲載番号	掲載番号	出土遺構	層位	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考	
								外面	内面	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	カセイ		
101	706	SD38	-	一括	塊	2	外 横ナデ(体部), ヘラケズリ(体部下端) 内 横ナデ, 押圧→ナデ(底部)	黄橙色 Hue7.5YR8/8	黄橙色 Hue7.5YR8/8		7.0		0.4	○	○	○	白色鉱物	良 回転台時計回り
	707	K-19区	搅乱	一括	塊	-	外 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) 内 内ミガキ	明黃褐色 Hue10YR7/6	黑色 HueN15.0/0		7.6		0.5	○	○	○		良 内黒土師器 底部薄い
	708	SD38	II	一括	坏	6	外 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ, 押圧→ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4		6.6			○	○	○		良 底部薄い
	709	SD38	-	一括	坏	3	外 横ナデ(口縁部~体部) 内 ケズリ(体部下端) ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ, ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	10.0	5.8	3.0		○	○	○		良
	710	SD38	-	一括	皿	-	外 ヘラミガキ 内 ヘラ切り→ナデ(底部) 内 ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6		8.0			○	○	○	茶色鉱物	良
	711	SD38	-	一括	坏	-	外 横ナデ, 糸切り(底部) 内 横ナデ, ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/7	15.2	11.2	3.4		○	○	○		良 体部が屈曲する
	712	SD38	-	一括	蓋	-	外 ナデ 内 ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	黄橙色 Hue10YR8/6	14.0				○	○	○		良

第35表 古代の遺物観察表(13) 須恵器

掲載番号	掲載番号	出土遺構	層位	取上番号	器種	部位	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			備考		
								外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	カセイ			
80	438	SK68	埋土1	6	甕	頭部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕	灰色 Hue5Y4/1	灰オリーブ色 Hue5Y5/2					○	○	黒雲母		
	439	SK68	埋土1	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4				○	○	○			
	440	SK68	埋土1	8	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 平行タタキ	灰オリーブ色 Hue5Y5/3	灰オリーブ色 Hue5Y5/3				○	○	○			
	441	SK68	埋土1	5	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕	灰黄色 Hue2.5Y6/2	灰黄褐色 Hue10YR6/2				○	○	○			
81	444	SK70	埋土1	2	壺	胴部	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue7.5Y5/1				○	○	○			
	445	SK70	埋土	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕	灰色 Hue5Y6/1	灰オリーブ色 Hue5Y6/2				○	○	○			
83	454	SK72	埋土1	2	壺	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue10Y6/1	灰色 Hue10Y6/1	10.7				○				
84	469	SK73	埋土	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 平行タタキ→ナデ	にぶい橙色 Hue2.5YR6/3	灰オリーブ色 Hue5Y5/2				○	○	○			
	470	SK73	埋土	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 平行タタキ→ナデ	にぶい橙色 Hue2.5YR6/3	灰オリーブ色 Hue5Y5/2				○	○	○			
85	473	SK74	埋土	一括	碗	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3				○	○	○			
	475	SK74	埋土4	3	甕	口縁部～胴部	外 平行タタキ 内 青海波当具痕	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y6/1				○	○	○	黒雲母	外面～口縁部内面に自然釉	
	476	SK74	埋土4	6	甕	口縁部～胴部	外 平行タタキ 内 ケズリ→ナデ(頭部) 青海波当具痕(胴部)	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y5/1				○	○	○		外面～口縁部内面に自然釉	
	477	SK74	埋土	一括	壺	胴部	外 ナデ 内 ナデ	褐色 Hue10YR4/4	赤褐色 Hue2.5YR4/6				○	○	○	黒雲母	器面全体に自然釉	
	478	SK74	埋土5	10	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕	灰色 Hue5Y5/1	灰オリーブ色 Hue5Y6/2				○	○	○		外面全体に自然釉	
	479	SK74	埋土5	8	甕	胴部	外 平行タタキ 内 青海波当具痕→ナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y5/1				○	○	○	黒雲母		
	480	SK74	埋土5	9	甕	胴部	外 平行タタキ 内 青海波当具痕	灰色 Hue5Y4/1	灰オリーブ色 Hue5Y6/2				○	○	○	黒雲母	外面全体に自然釉	
	481	SK74	埋土4	4	甕	胴部	外 平行タタキ 内 青海波・平行当具痕→ナデ	黄灰色 Hue2.5Y4/1	黄灰色 Hue2.5Y4/1				○	○	○	黒雲母		
86	485	SK77	埋土	一括	壺	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕→ナデ	灰色 Hue10Y5/1	灰色 Hue10Y5/1				○	○	○			
	486	SK77	埋土	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 平行タタキ→ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	黄褐色 Hue2.5Y5/3				○	○	○			
	496	SK77	埋土	一括	坏	胴部～底部	外 ナデ 内 ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	9.2			○	○	○			

第36表 古代の遺物観察表(14) 須恵器

挿図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	部位	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			備考
								外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	カセ	
87	499	SB67 (SP71)	埋土	2	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕	赤灰色 Hue2.5YR4/1	灰赤色 Hue2.5YR4/2			○	○	○	黒雲母	SB67 - P9
	504	SB67 - P8	埋土	一括	壺	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	黒色 Hue10YR2/1	オリーブ黒色 Hue5Y3/1				○			
	505	SB67 - P8	埋土	一括	甕	頸部	外 格子目タタキ 内 ケズリ→ナデ、青海波当具痕	灰黄褐色 Hue10YR5/2	灰黄褐色 Hue10YR5/2				○			
	506	SB67 - P8	埋土	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 平行タタキ→ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	黄灰色 Hue2.5Y4/1						黒雲母	
	507	SB67 - P8	埋土	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	黒褐色 Hue2.5Y3/1				○			
	508	SB67 - P8	埋土	一括	甕	胴部	外 平行タタキ 内 平行タタキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3				○			
88	510	SP107	埋土	一括	坏	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	灰黄色 Hue2.5Y7/2			○	○	○		
99	677	SD38	下	一括	坏	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	灰色 HueN5/0	灰色 HueN5/0			○	○			
	678	SD38	下	一括	坏	底部	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue10Y4/1	灰色 Hue7.5Y4/1	11.0	○	○	○			
	679	SD38	下	一括	壺	胴部～底部	外 回転ナデ 内 回転ナデ	灰色 HueN6/0	灰色 HueN6/0	6.6	○				備前系 回転台時計回り	
	680	SD38	下	一括	壺	頸部	外 ナデ 内 ケズリ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	灰褐色 Hue7.5YR4/3			○	○	○	備前系	
	681	SD38	下	186 235	甕	胴部	外 平行タタキ 内 青海波当具痕	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y5/1			○	○	○	備前系 外面に自然釉	
	682	SD38	下	193	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 青海波当具痕→ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	灰白色 Hue2.5Y7/1			○	○	○		
	683	SD38	下	93	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 平行タタキ	黒褐色 Hue10YR3/2	黄灰色 Hue2.5Y5/1			○	○	○	備前系 外面に茶褐色の釉薬	
	684	SD38	下	一括	甕	胴部	外 平行タタキ 内 平行タタキ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y6/1			○	○	○		
	685	SD38	上 下	一括	—	胴部	外 平行タタキ 内 ナデ	灰色 HueN6/0	灰黄褐色 Hue10YR5/2			○	○			
100	698	SD38	上	一括	—	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y6/1			○	○		東播系(篠原)	
	699	SD38	上	一括	碗	口縁部～底部	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue7.5Y5/1	灰色 Hue7.5Y6/1	14.0	9.2	5.0	○	○	白色鉱物	
	700	SD38	中	一括	鉢	胴部～底部	外 回転ナデ 内 ナデ	灰色 Hue7.5Y6/1	灰色 Hue7.5Y6/1	10.5	○	○	○	○	白色鉱物	
101	715	SD38	中	一括	坏	胴部	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰黄色 Hue2.5Y6/2			○	○	○		
	716	SD38	—	一括	坏	底部	外 ナデ 内 ナデ	オリーブ黒色 Hue7.5Y3/1	灰白色 Hue5Y7/1	9.2	○				外面に自然釉	
	717	SD38	—	一括	鉢	口縁部	外 回転ナデ 内 回転ナデ	黄灰色 Hue2.5Y6/1	黄灰色 Hue2.5Y6/1	30.4	○	○			白色鉱物	
	718	SD38	下	一括	壺	胴部	外 平行タタキ→回転カキメ→櫛描文 内 青海波当具痕	黄灰色 Hue2.5Y4/1	灰黄色 Hue2.5Y6/2			○	○	○		
	719	SD38	下	一括	甕	胴部	外 格子目タタキ 内 平行タタキ	にぶい赤褐色 Hue5YR5/4	にぶい橙色 Hue5YR6/4			○	○	○	外面に釉薬	

第37表 古代の遺物観察表(15) 焼塩土器

挿図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考
					外面	内面	口径	器高	器厚	石英	長石	カセ		
100	705	SD38	上	—	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6				○	○	○	良	口縁部内外面に布目の圧痕

第38表 古代の遺物観察表(16) 緑釉陶器

挿図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	種別	器種	部位	産地	法量(cm)			胎土色調	釉薬			備考
									口径	底径	器高		種類	色調	部位	
97	665	SD38	下	—	緑釉陶器	輪花皿	口縁部	京都産?				浅黄色 Hue5Y7/3	緑釉	オリーブ黄色 Hue7.5Y6/3	全面施釉	内外面に割花文 越州窯系青磁の模倣品

第39表 古代の遺物観察表(17) 不明

挿図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	種別	分類	部位	産地	法量(cm)			胎土色調	釉薬			備考
									口径	底径	器高		種類	色調	部位	
97	666	SD38	下	—	不明品	—	胴部	—				にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	鉄釉?	黒色 Hue10Y2/1	全面全面施釉?	詳細不明

第40表 古代の遺物観察表(18) 陶磁器

插図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	種別	分類	法量(cm)			胎土色調	釉薬			備考
							口径	底径	器高		種類	色調	部位	
100	701	SD38	上	一括	同安窯系青磁・碗	碗 I				灰白色 Hue5Y7/1	青磁釉	灰白色 Hue5Y7/2	残存部全面施釉	外面櫛目文
	702	SD38	上	一括	龍泉窯系青磁・碗	碗 I				灰白色 Hue5Y7/2	青磁釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/3	残存部全面施釉	外面連弁文
	703	SD38	中	一括	龍泉窯系青磁・碗	碗 I		6.7		灰色 Hue5Y6/1	青磁釉	オリーブ色 Hue5Y5/4	置付釉剥ぎ	見込みに目跡有り

第41表 古代の遺物観察表(19) 陶磁器

插図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	種別	分類	法量(cm)			胎土色調	釉薬			備考
							口径	底径	器高		種類	色調	部位	
101	713	SD38	II	一括	龍泉窯系青磁・碗	碗 I	16.8			灰色 Hue5Y6/1	青磁釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/3	残存部全面施釉	内面方彫り
	714	SD38	II	一括	龍泉窯系青磁・碗	碗 I				灰色 Hue5Y6/1	青磁釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/3	残存部全面施釉	内面方彫り

第42表 古代の遺物観察表(20) 滑石製品

插図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	部位	把手		石材	色調		備考		
							口径	底径		色調	部位			
100	704	SD38	上	一括	石鍋	口縁部	縦方向		滑石	灰色 Hue5Y6/1		外側に煤付着		

第43表 古代の遺物観察表(21) 金属製品

插図番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備考								
										外	内	口 径	底 径	器 高	高 台 高	石 英	長 石	か セ ン
81	442	SK70	埋土2	2, 3, 4, 5	刀子	鉄	136.0	11.0	3.7	基部に木材が付着する								
83	456	SK72	埋土2	5	装飾品?	青銅	8.0	5.0	1.0	銀が付着する「へ」の字型に曲がる								
	457	SK72	埋土2	7	装飾品?	青銅	8.0	5.0	2.0	銀が付着する								
	458a	SK72	埋土2	6	装飾品?	青銅	2.3	5.0	2.0	銀が付着する								
	458b	SK72	埋土2	6	装飾品?	青銅	1.2	5.0	2.5	銀が付着する「コ」の字型に曲がる								

第44表 古代の遺物観察表(22) 土師器

插図番号	掲載番号	出土地点	層	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土			焼成	備考
							外	内	口径	底径	器高	高台高	石英	長石	かセン	
	720	P - 28 区	I	蓋	-	外 ヘラケズリ、ナデ 内 ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4				○	○	○		良
	721	P・Q - 33 区	搅乱	坏	5	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3	12.0	6.0	4.0	○	○	○	黑色鉱物 茶色鉱物	良
	722	P - 33 区	I	塊	5	外 横ナデ 内 押圧→ナデ ヘラ切り→ナデ→ヘラ記号(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	5.6			○	○	○		良
	723	R - 31 区	I	坏	6	外 横ナデ 内 外縁に強いナデ(底部) ヘラ切り→ナデ→ヘラ記号(底部)	黄橙色 Hue7.5YR7/8	黄橙色 Hue7.5YR7/8	5.8			○	○	○	白色鉱物	良
	724	L - 19 区	I	皿	-	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	橙色 Hue7.5YR7/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	15.9	10.8	2.4	○	○	○		良
102	725	P - 28 区	I	皿	-	外 回転ヘラケズリ→ヘラミガキ 内 ヘラ切り→ナデ(底部) ヘラミガキ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	13.8	7.0	2.5	○	○	○	茶色鉱物	回転台時計回り
	726	O - 25 区	III	皿	-	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	浅黄橙色 Hue10YR8/4	6.8			○	○	○		良
	727	M - 24 区	III	塊	1	外 横ナデ、ヘラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	10.4		0.5	○	○	○		良
	728	O - 27 区	III	塊	3	外 横ナデ 内 ヘラ切り→高台→ナデ(底部) ナデ、ナデ(底部)	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/6	6.7		1.0	○	○	○		良
	729	J ~ M - 17 ~ 20 区	I	甕	-	外 ナデ 内 ナデ(口縁部)、ケズリ(胴部)	橙色 Hue7.5YR7/6	黄橙色 Hue10YR7/4	15.6			○	○	○		良
	730	J - 20 区	I	甕	-	外 (ハケ目→) ナデ 内 (ハケ目→) ナデ(口縁部)ケズリ(胴部)	にぶい橙色 Hue5YR6/4	橙色 Hue7.5YR6/6	16.4			○	○	○	白色鉱物	良